

墨田区次世代育成支援行動計画 策定のための調査報告書

平成21(2009)年3月

墨 田 区

目 次

I. 調査の構成と概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 各調査の構成と概要	3
3. 報告書を読むにあたっての注意	4
4. 標本誤差	6
II. 調査結果報告①・② ―乳幼児及び小学生保護者調査―	7
1. 基本属性	9
(1) 調査回答者(乳幼児・小学生:問1)	9
(2) 子どもの年齢(乳幼児:問2)	10
(3) 子どもの学年(小学生:問2)	10
2. 家族の状況	11
(1) 家族形態(乳幼児・小学生:問4)	11
(2) 家族数(乳幼児・小学生:問5)	13
(3) 子どもの人数と末子の年齢(乳幼児・小学生:問3)	14
(4) 祖父母等の親族との近居の状況(乳幼児・小学生:問6)	15
(5) 子どもの預け先の状況(乳幼児・小学生:問7～問7-2)	18
(6) 居住地域(乳幼児・小学生:問9)	21
(7) 住宅形態(乳幼児・小学生:問10)	22
3. 父と母の状況	23
(1) 子どもの主たる養育者(乳幼児・小学生:問8)	23
(2) 父親の就労状況(乳幼児・小学生:問11～問11-2)	24
(3) 母親の就労状況(乳幼児・小学生:問12～問12-2)	27
(4) 就労していない母親の就労意向(乳幼児・小学生:問13～問13-4)	30
(5) 両親の就労形態	35
(6) 育児休業制度の利用状況(乳幼児:問28～問28-3)	38
4. 乳幼児の日常生活と保育サービス等の利用状況・利用意向	41
(1) 保育サービスの利用状況(乳幼児:問14)	41
(2) 保育サービスの利用日数(乳幼児:問15)	43
(3) 今後の保育サービス利用意向(乳幼児:問17～問17-2)	44
(4) 病気等で保育サービスを利用できなかった経験と対応(乳幼児:問16～問16-2)	53
(5) 短期間の支援が必要となった経験(乳幼児:問18・問19)	55
(6) 数日間の支援が必要となった経験と対応(乳幼児:問20～問20-2)	58
(7) 学童クラブの利用意向と希望設置場所(乳幼児:問21・問21-1)	60
(8) ファミリーサポートセンターの利用状況と利用意向(乳幼児:問22・問23)	61
(9) 子育てひろばの利用状況と利用意向(乳幼児:問24・問25)	63
(10) 希望する子育て支援の場や活動(乳幼児:問26)	66
(11) 利用したい保育サービス(乳幼児:問27)	67

5. 小学生の日常生活と学童クラブ等の利用状況・利用意向	68
(1) かかりつけ医の有無(小学生:問14)	68
(2) 食事のとり方(小学生:問15・16)	69
(3) 平日の起床時間と就寝時間(小学生:問17・問18)	71
(4) 平日の放課後の過ごし方と土曜日の過ごし方(小学生:問19)	74
(5) 学校の教育環境に対する意見(小学生:問20)	76
(6) 学校生活(小学生:問21・問21-1)	77
(7) 学童クラブの利用状況と利用意向(小学生:問22～問23-1)	79
(8) 病気やケガで学校を休んだ経験と対応(小学生:問24～問24-2)	90
(9) 数日間の支援が必要となった経験と対応(小学生:問25～問25-2)	92
(10) ファミリーサポートセンターの利用状況と利用意向(小学生:問26～問27)	94
6. 仕事と子育ての関係	96
(1) 仕事と子育ての優先度(乳幼児:問29、小学生:問28)	96
(2) 企業に望む子育て支援策(乳幼児:問30、小学生:問29)	97
7. 子育てに関する悩みやストレス	98
(1) 子育ての喜び・良かったこと(乳幼児:問31、小学生:問30)	98
(2) 子育てに対する感じ方(乳幼児:問32、小学生:問31)	104
(3) 子育てに関する悩みや心配ごと(乳幼児:問33、小学生:問32)	107
(4) 子育てに関する相談先の有無(乳幼児:問34、小学生:問33)	108
(5) 子育てに自信がもてないと感じることの有無(乳幼児:問35、小学生:問34)	109
(6) 子育てに対する不安や孤独感(乳幼児:問36、小学生:問35)	112
8. 墨田区の子育て支援サービス・環境	115
(1) 墨田区次世代育成支援行動計画の認知度(乳幼児:問37、小学生:問36)	115
(2) 子育て支援サービス等の認知・利用状況と利用意向(乳幼児:問38、小学生:問37)	116
(3) 子育てに役立つ情報(乳幼児:問39、小学生:問38)	122
(4) 墨田区の子育て環境に対する評価(乳幼児:問40、小学生:問39)	123
(5) 充実すべき子育て支援策(乳幼児:問41、小学生:問40)	126
9. 自由回答	128
(1) 乳幼児保護者の意見・要望	128
(2) 小学生保護者の意見・要望	134
III. 調査結果報告③ 一青少年の生活等に関する調査一	139
1. 基本属性	141
(1) 回答者の年齢(問1)	141
(2) 回答者の就学状況(問2)	142
(3) 兄弟姉妹の人数(問3)	143
2. ふだんの過ごし方	144
(1) 平日の放課後の過ごし方(問4)	144
(2) 土曜日の昼間の過ごし方(問5)	145
(3) 友だちとのでかけ先(問6)	146
(4) 遊び場・施設に対する要望(問7)	147
(5) まちで危険な目にあった・あいそうになった経験(問8)	148

(6)朝食の摂取状況(問9)	149
(7)夕食のとり方(問10)	150
3. 友だちとのつきあいについて	151
(1)友だち関係(問11)	151
(2)友だちつきあいの評価(問12)	152
(3)携帯電話やPHSの所持と利用状況(問13～問13-2)	153
4. 学校生活について	158
(1)学校生活の評価(問14)	158
(2)先生や学校に対する要望(問15)	159
(3)学校に行きたくないと思った経験と理由(問16・問16-1)	160
5. アルバイトや仕事について	162
(1)アルバイトや仕事の状況と仕事をする理由(問17・問17-1)	162
(2)将来つきたい仕事(問18)	163
6. 地域での活動について	164
(1)赤ちゃんを世話した経験(問19)	164
(2)高齢者等を手助けした経験(問20)	165
(3)地域活動・ボランティア活動意向(問21)	166
(4)近所や地域の大人に対する要望(問22)	167
7. 不安や悩みについて	168
(1)不安や悩みの内容(問23)	168
(2)悩みや心配ごとの相談先(問24)	169
8. 健康やからだについて	170
(1)からだについて知りたいこと(問25)	170
(2)飲酒経験(問26)	171
(3)喫煙経験(問27)	172
(4)飲酒や喫煙の害の認知度(問28)	173
9. 家族について	174
(1)家族との関係(問29)	174
(2)家族に対する評価(問30)	175
10. 結婚・子育てについて	176
(1)結婚・子育て観(問31)	176
(2)結婚についての希望(問32)	177
(3)将来ほしい子どもの人数(問33)	178
(4)将来つくりたい家庭像(問34)	179
11. 自由回答	180
(1)中学生の意見・要望	180
(2)高校生等の意見・要望	181
IV. 調査結果報告④ 一区内事業所調査一	183
1. 基本属性	185
(1)事業所の従業員数(問1)	185

(2)事業所の業種区分(問2)	185
(3)事業所の性格(問3)	186
(4)墨田区次世代育成支援行動計画の認知度(問4)	187
(5)一般事業主行動計画の策定状況(問5)	188
(6)労務管理上の悩み(問6)	189
2. 仕事と家庭の両立支援について	190
(1)仕事と家庭の両立支援と対応(問7～問7-2)	190
(2)育児休業制度の実施状況と取得状況(問8～問8-2)	193
(3)看護休暇制度の実施状況と取得状況(問9～問9-3)	196
(4)育児休業や看護休暇によるメリット(問10)	200
(5)拡充が必要と思う区の保育サービス等(問11)	202
(6)仕事と生活の両立のため取り組んでいる支援(問12)	204
(7)仕事と生活の両立のために必要な行政支援(問13)	206
3. 自由意見	207
 V. 資 料	 211
1. 乳幼児保護者調査 調査票	213
2. 小学生保護者調査 調査票	221
3. 青少年の生活等に関する調査 調査票	229
4. 区内事業所調査 調査票	235

I. 調査の構成と概要

1. 調査実施の目的

本調査は、次代を担う子どもたちの育成をさらに支援するための施策等について、区民の意見を把握し、平成 21 年度に策定する墨田区次世代育成支援行動計画（後期計画期間：平成 22 年～26 年度）の基礎資料を得ることを目的に実施したものである。

2. 各調査の構成と概要

図表 I-1 各調査の構成と概要

調 査 名	① 乳幼児保護者調査	② 小学生保護者調査
調査対象者	・ 0～6 歳の就学前の子どものいる保護者 ・ 抽出元：住民基本台帳 （平成 21 年 1 月 1 日現在）	・ 小学生の子どものいる保護者 ・ 抽出元：住民基本台帳 （平成 21 年 1 月 1 日現在）
調査方法	・ 郵送配布・郵送回収 ・ ハガキによる督促 1 回	・ 郵送配布・郵送回収 ・ ハガキによる督促 1 回
調査期間	・ 平成 21 年 1 月 14 日～2 月 6 日	・ 平成 21 年 1 月 14 日～2 月 6 日
対象者数 及び 回収結果	・ A：対象者数：2,000 票 ・ B：有効回収数：1,310 票 ・ C：有効回収率：65.5% ※ $C = B / A \times 100$	・ A：対象者数：1,200 票 ・ B：有効回収数：734 票 ・ C：有効回収率：61.2% ※ $C = B / A \times 100$
本報告書に おける掲載	・ II（7 頁～）	

調 査 名	③ 青少年の生活等に関する調査	
	③-1 中学生調査	③-2 高校生等調査
調査対象者	・ 区内の公立学校に通う中学校 2 年生 （区内全 12 校の公立中学校 2 年生のうち、各学校 1 クラス）	・ 中学卒業～19 歳の区民 ・ 抽出元：住民基本台帳 （平成 21 年 1 月 1 日現在）
調査方法	・ 学校配布・学校回収	・ 郵送配布・郵送回収 ・ ハガキによる督促 1 回
調査期間	・ 平成 21 年 1 月 14 日～2 月 5 日	・ 平成 21 年 1 月 14 日～2 月 6 日
対象者数 及び 回収結果	・ A：対象者数：394 票 ・ B：有効回収数：354 票 ・ C：有効回収率：89.8% ※ $C = B / A \times 100$	・ A：対象者数：600 票 ・ B：有効回収数：217 票 ・ C：有効回収率：36.2% ※ $C = B / A \times 100$
本報告書に おける掲載	・ III（139 頁～）	

調 査 名	④ 区内事業所調査
調査対象者	・区内事業所 ・抽出元：平成 18 年事業所・企業統計調査台帳
調 査 方 法	・郵送配布・郵送回収 ・ハガキによる督促 1 回
調 査 期 間	・平成 21 年 1 月 14 日～2 月 6 日
対 象 者 数 及 び 回 収 結 果	・ A：対 象 者 数： 1,600 票 ・ B：有効回収数： 662 票 ・ C：有効回収率： 41.4% ※ $C = B / A \times 100$
本報告書に おける掲載	・ IV（183 頁～）

3. 報告書を読むにあたっての注意

・「総回答者数」について

図表中の「総回答者数」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（％）の母数をあらわしている。

・図表の単位について

本報告書に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り「％」（回答率）をあらわしている。回答率は小数点第 2 位を四捨五入して掲載しているため、合計が 100％にならないことがある。

・図表における選択肢等の記載について

図表の記載にあたっては、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

・単純集計のグラフについて

回答結果の全体の傾向を捉えるため、単純集計を行い、その特徴等を記述している。

単純集計のグラフにおいては、傾向をよりわかりやすくするために、選択肢を回答率（％）の大きなものから少ないものへと並び換えて表示している場合がある。

・クロス集計について

クロス集計表の記載にあたり、これら分析の柱となる項目（例えば、年齢別など）の「不明」は掲載を省略している。

・ 集計及び分析結果の掲載順序について

集計及び分析結果の掲載順序は目次のとおりであり、調査票の間番号の順序とは一致しない。

・ 子どもの年齢の分類(①乳幼児保護者調査)

「①乳幼児保護者調査」については、調査で把握した子どもの誕生日をもとに、平成 20 年 4 月 1 日年齢として、以下のとおり表記し、集計・分析を行っている。

報告書での表記	子どもの誕生日
満 0 歳	平成 20 年 4 月 2 日以降
0 歳児	平成 19 年 4 月 2 日 ～ 20 年 4 月 1 日
1 歳児	平成 18 年 4 月 2 日 ～ 19 年 4 月 1 日
2 歳児	平成 17 年 4 月 2 日 ～ 18 年 4 月 1 日
3 歳児	平成 16 年 4 月 2 日 ～ 17 年 4 月 1 日
4 歳児	平成 15 年 4 月 2 日 ～ 16 年 4 月 1 日
5 歳児	平成 14 年 4 月 2 日 ～ 15 年 4 月 1 日

・ 居住地域の分類について(①乳幼児保護者調査・②小学生保護者調査)

「①乳幼児保護者調査」「②小学生保護者調査」については、居住地域を以下のとおり表記し、集計・分析を行っている。

報告書での表記	居住地域
Aブロック	墨田、堤通 2 丁目、東向島 4・5 丁目
Bブロック	八広、東向島 6 丁目
Cブロック	東墨田、立花
Dブロック	東向島 1～3 丁目、堤通 1 丁目、向島
Eブロック	京島、文花、押上
Fブロック	吾妻橋、東駒形、本所、石原、亀沢、横網
Gブロック	業平、横川、太平、錦糸
Hブロック	両国、千歳、緑、立川、菊川、江東橋

4. 標本誤差

対象となる母集団の中から、無作為に選ばれた一部の人（標本）について調査を行う「標本調査」では、標本から母集団における数値を推定する際に誤差がともなう。

「①乳幼児保護者調査」「②小学生保護者調査」で生じた標本誤差（b）はおおよそ下表のとおりである。標本誤差（b）の値は、母集団数（N）、比率算出の基数（n）、及び回答の比率（P）によって異なる。

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

図表 I-2 標本誤差

① 乳幼児保護者調査

回答 比率 基数	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,310	±1.5%	±2.0%	±2.3%	±2.5%	±2.6%
1000	±1.8%	±2.4%	±2.7%	±2.9%	±3.0%
800	±2.0%	±2.7%	±3.1%	±3.3%	±3.3%
600	±2.3%	±3.1%	±3.6%	±3.8%	±3.9%
400	±2.9%	±3.9%	±4.4%	±4.7%	±4.8%

② 小学生保護者調査

回答 比率 基数	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
734	±2.1%	±2.8%	±3.2%	±3.4%	±3.5%
500	±2.6%	±3.4%	±3.9%	±4.2%	±4.3%
400	±2.9%	±3.8%	±4.4%	±4.7%	±4.8%
300	±3.3%	±4.5%	±5.1%	±5.5%	±5.6%
200	±4.1%	±5.5%	±6.3%	±6.7%	±6.9%

※この表の見方は次のとおりとなる。

例:ある設問の回答者が1,310人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、誤差は最高でも±2.5%である。

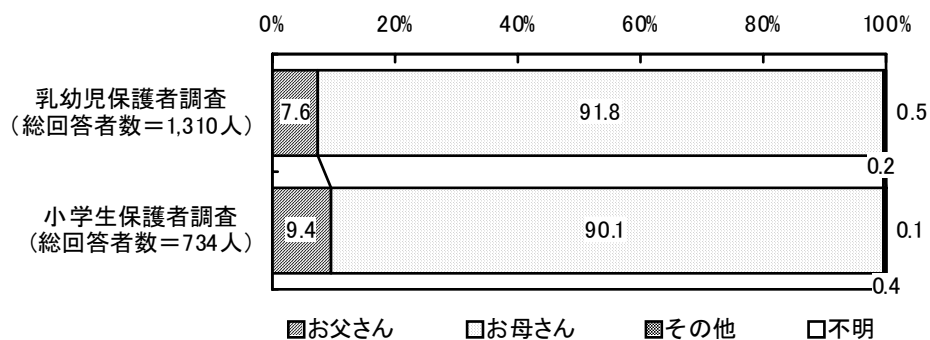
Ⅱ. 調査結果報告①・②
－乳幼児及び小学生保護者調査－

1. 基本属性

(1) 調査回答者(乳幼児・小学生:問1)

この調査に回答いただく方は、あて名のお子さんからみて、どなたですか。(1つに○)

図表Ⅱ-1 調査回答者(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

0歳～6歳の就学前の子どもを持つ保護者を対象とする「乳幼児保護者調査」の回答者は、「お母さん」が91.8%を占め、「お父さん」は7.6%となっている。

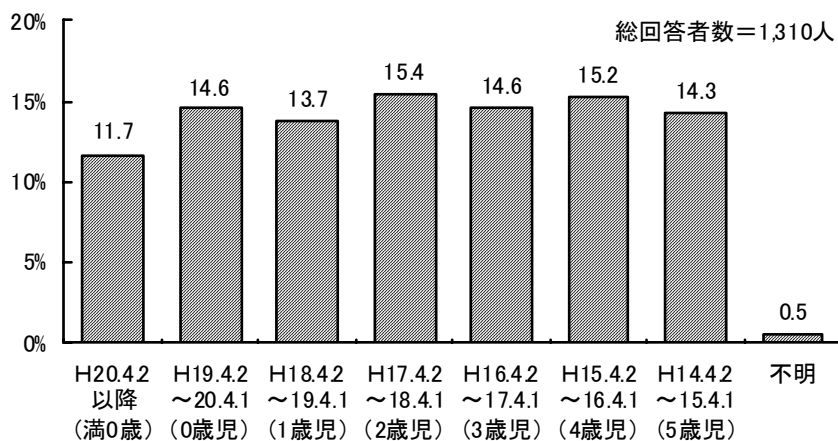
[小学生保護者調査]

小学校1年生～6年生の子どもを持つ保護者を対象とする「小学生保護者調査」の回答者は、乳幼児保護者調査の回答者と同様に、「お母さん」が約9割を占める。「お父さん」は9.4%であった。

(2)子どもの年齢(乳幼児:問2)

あて名のお子さんの生年月日は、次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

図表Ⅱ-2 子どもの誕生日(単数回答)



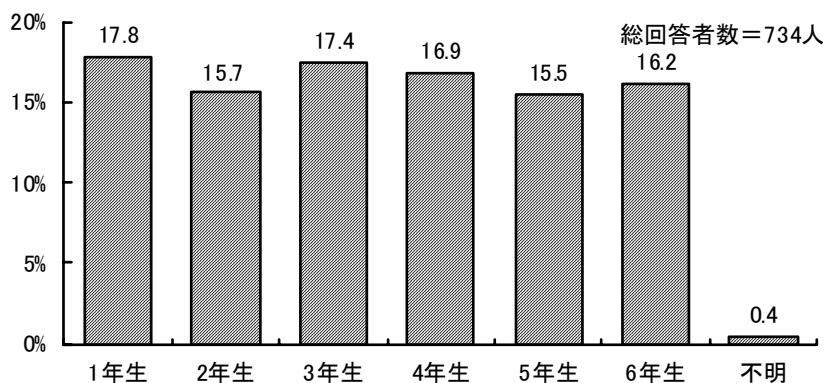
[乳幼児保護者調査]

乳幼児保護者調査回答者の子どもの誕生日から平成20年4月1日年齢をみると、満0歳から5歳児まで各1割台となっている。

(3)子どもの学年(小学生:問2)

あて名のお子さんは、現在何年生ですか。(1つに○)

図表Ⅱ-3 子どもの学年(単数回答)



[小学生保護者調査]

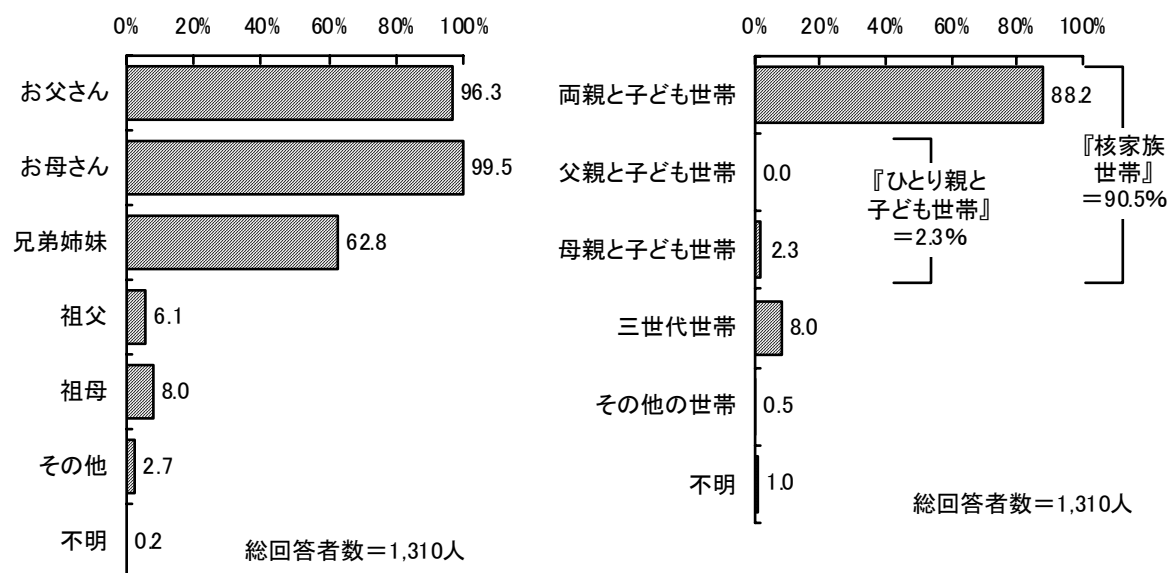
小学生保護者調査回答者の子どもの学年は、「1年生」から「6年生」まで各1割台となっている。

2. 家族の状況

(1) 家族形態(乳幼児・小学生:問4)

あて名のお子さんといっしょに暮らしているご家族は、あて名のお子さんからみた続柄でどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-4 同居者(複数回答)・家族形態(単数回答)

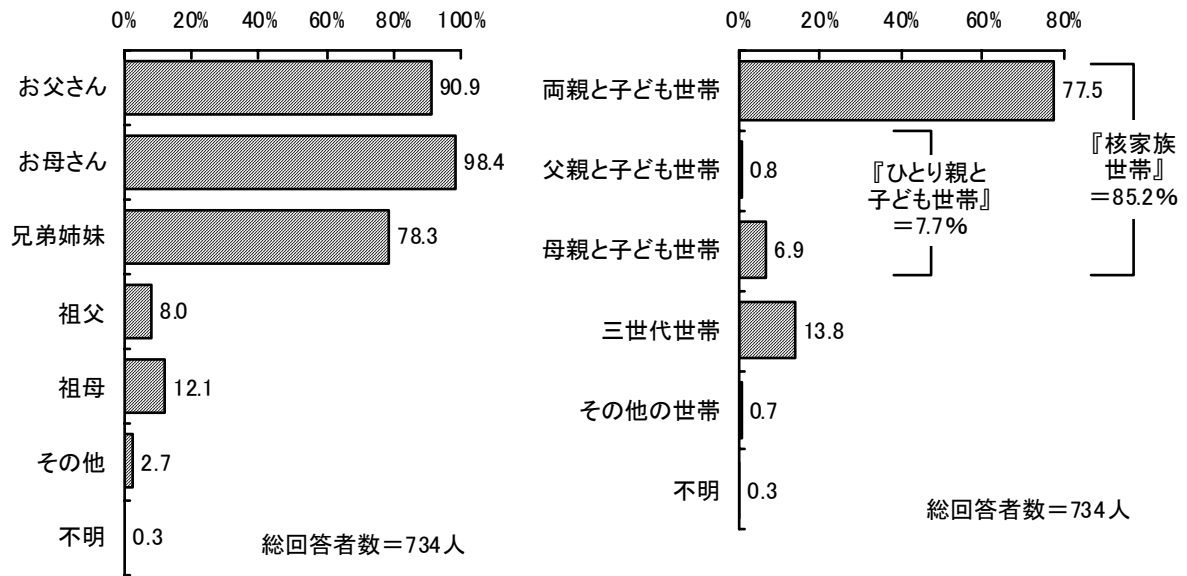


[乳幼児保護者調査]

乳幼児保護者調査回答者の子どもからみた同居者は、「お母さん」は 99.5%、「お父さん」は 96.3%であり、このほか「兄弟姉妹」62.8%、「祖母」8.0%、「祖父」6.1%などとなっている。

家族形態は、88.2%が「両親と子ども世帯」である。『ひとり親と子ども世帯』である「母親と子ども世帯」は 2.3%であり、これに「両親と子ども世帯」を合わせた『核家族世帯』が全体の約 9 割を占める。「三世代世帯」は 8.0%であった。

図表Ⅱ-5 同居者(複数回答)・家族形態(単数回答)



[小学生保護者調査]

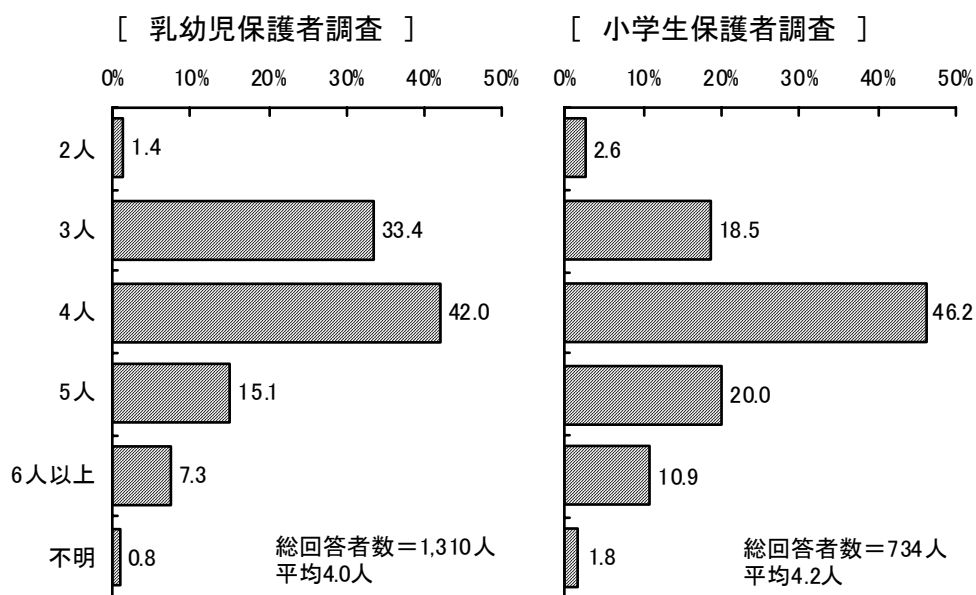
小学生保護者調査回答者の子どもからみた同居者は、「お母さん」98.4%、「お父さん」90.9%と、乳幼児保護者調査結果に比べて父母が同居している割合は少なくなるが、「兄弟姉妹」「祖母」「祖父」の割合は、いずれも乳幼児保護者調査の結果を上回っている。

家族形態は、「両親と子ども世帯」が77.5%、「父親と子ども世帯」0.8%、「母親と子ども世帯」6.9%を合わせた『ひとり親と子ども世帯』が7.7%であり、『核家族世帯』は85.2%となっている。「三世代世帯」は13.8%であり、乳幼児保護者調査結果に比べると、「両親と子ども世帯」の割合が低く、『ひとり親と子ども世帯』と「三世代世帯」の割合が高くなっている。

(2) 家族数(乳幼児・小学生:問5)

あて名のお子さんといっしょに暮らしているご家族は、あて名のお子さんも含めて全員で何人ですか。(数字を記入)

図表Ⅱ-6 家族数(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児保護者調査回答者の家族数は、「4 人」42.0%がもっとも高く、次いで「3 人」33.4%、「5 人」15.1%の順であり、平均家族数は4.0 人となっている。

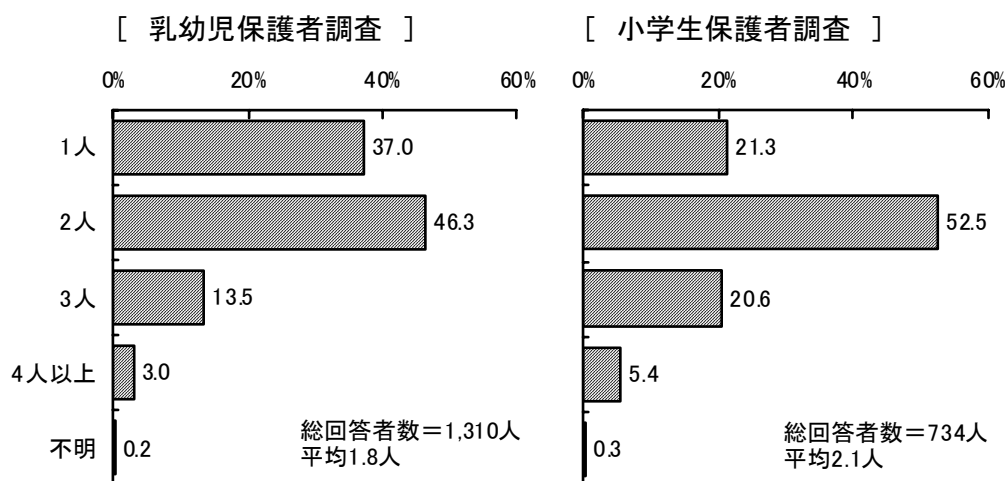
[小学生保護者調査]

小学生保護者調査回答者の家族数は、「4 人」46.2%に次いで、「5 人」20.0%の割合が高く、平均家族数は4.2 人と、乳幼児保護者調査結果に比べて0.2 人多くなっている。

(3)子どもの人数と末子の年齢(乳幼児・小学生:問3)

あて名のお子さんを含め、お子さんは全部で何人いらっしゃいますか。(数字を記入)
2人以上の場合は、末子の年齢(平成20年4月1日現在の年齢)も記入してください。

図表Ⅱ-7 子どもの人数(単数回答)



図表Ⅱ-8 子どもが2人以上の場合の末子の平均年齢

	総回答者数	末子の 平均年齢
乳幼児保護者調査	823 人	2.0 歳
小学生保護者調査	576 人	6.5 歳

[乳幼児保護者調査]

乳幼児保護者調査回答者の子どもの人数は、「2 人」が 46.3%と半数近くを占め、次いで「1 人」37.0%と、これらを合わせた『1～2 人』である割合が 83.3%を占める。平均子ども数は 1.8 人であり、子どもが 2 人以上いる場合の末子の年齢は平均 2.0 歳となっている。

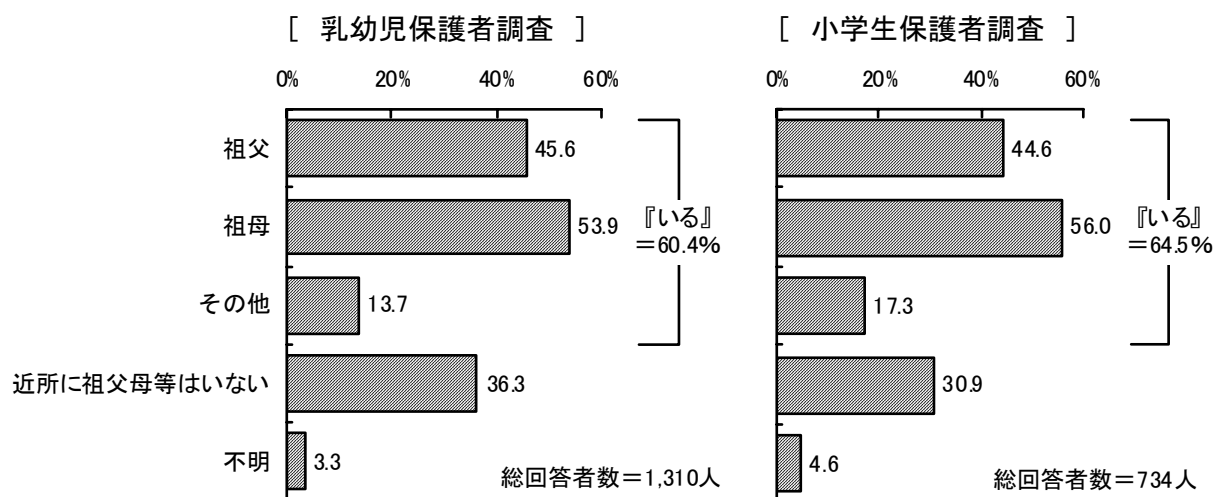
[小学生保護者調査]

小学生保護者調査回答者の子どもの人数は、「2 人」が 52.5%と半数強を占め、次いで「1 人」が 21.3%となっている。『1～2 人』は 73.8%と、乳幼児保護者調査結果に比べて 3 人以上いる割合が高い。平均子ども数は 2.1 人であり、子どもが 2 人以上いる場合の末子の年齢は平均 6.5 歳となっている。

(4) 祖父母等の親族との近居の状況(乳幼児・小学生:問6)

おおむね 30 分以内程度に行き来できる範囲(近所)に、祖父母等の親族の方はいらっしゃいますか。あて名のお子さんからみた続柄でお答えください。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-9 祖父母等の親族との近居の状況(複数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児保護者調査回答者の祖父母等の親族との近居の状況は、「近所に祖父母等はいない」は36.3%であり、60.4%が近所に祖父母等が『いる』(100%から「近所に祖父母等はいない」と「不明」を除いた割合)と回答している。近所に住んでいる親族は、「祖母」53.9%、「祖父」45.6%、「その他」13.7%となっている。「その他」は、「おじ・おば」などとなっている。

[小学生保護者調査]

小学生保護者調査回答者の祖父母等との近居の状況は、「近所に祖父母等はいない」は30.9%であり、近所に祖父母等が『いる』は64.5%と、乳幼児保護者調査に比べて4.1ポイント高くなっている。

図表Ⅱ-10 祖父母等の親族との近居の状況

		総回答者数(人)	祖父	祖母	その他	近所に祖父母等はいない	不明	『いる』
乳幼児保護者調査	全 体	1,310	45.6	53.9	13.7	36.3	3.3	60.4
	居住地域別	Aブロック	143	49.7	62.2	13.3	2.8	67.1
		Bブロック	155	52.9	60.6	14.2	3.9	67.1
		Cブロック	119	49.6	63.0	22.7	3.4	73.1
		Dブロック	164	39.6	48.2	11.0	5.5	53.6
		Eブロック	172	50.6	58.1	12.8	3.5	66.3
		Fブロック	178	44.9	51.1	13.5	1.1	55.6
		Gブロック	168	45.8	51.8	13.1	0.0	58.3
		Hブロック	202	37.6	44.6	12.9	2.5	51.5

※:『いる』=100%-「近所に祖父母等はいない」-「不明」

[乳幼児保護者調査]

居住地域別にみると、近所に祖父母等の親族が『いる』割合は、Cブロック居住者の7割台、A・B・Eブロック居住者では7割弱を占める。一方で、Dブロック及び南部のF・G・Hブロック居住者においては5割台となっている。

図表Ⅱ-11 祖父母等の親族との近居の状況

			総回答者数(人)	祖父	祖母	その他	近所に祖父母等はいない	不明	『いる』
小学生保護者調査	全 体		734	44.6	56.0	17.3	30.9	4.6	64.5
	居住地域別	Aブロック	92	42.4	60.9	19.6	26.1	2.2	71.7
		Bブロック	86	44.2	53.5	18.6	26.7	5.8	67.5
		Cブロック	67	52.2	65.7	17.9	23.9	7.5	68.6
		Dブロック	80	43.8	55.0	13.8	32.5	8.8	58.7
		Eブロック	103	53.4	65.0	20.4	22.3	2.9	74.8
		Fブロック	111	43.2	57.7	23.4	28.8	2.7	68.5
		Gブロック	92	34.8	48.9	16.3	43.5	3.3	53.2
		Hブロック	99	45.5	45.5	8.1	43.4	2.0	54.6

※:『いる』=100%-「近所に祖父母等はいない」-「不明」

[小学生保護者調査]

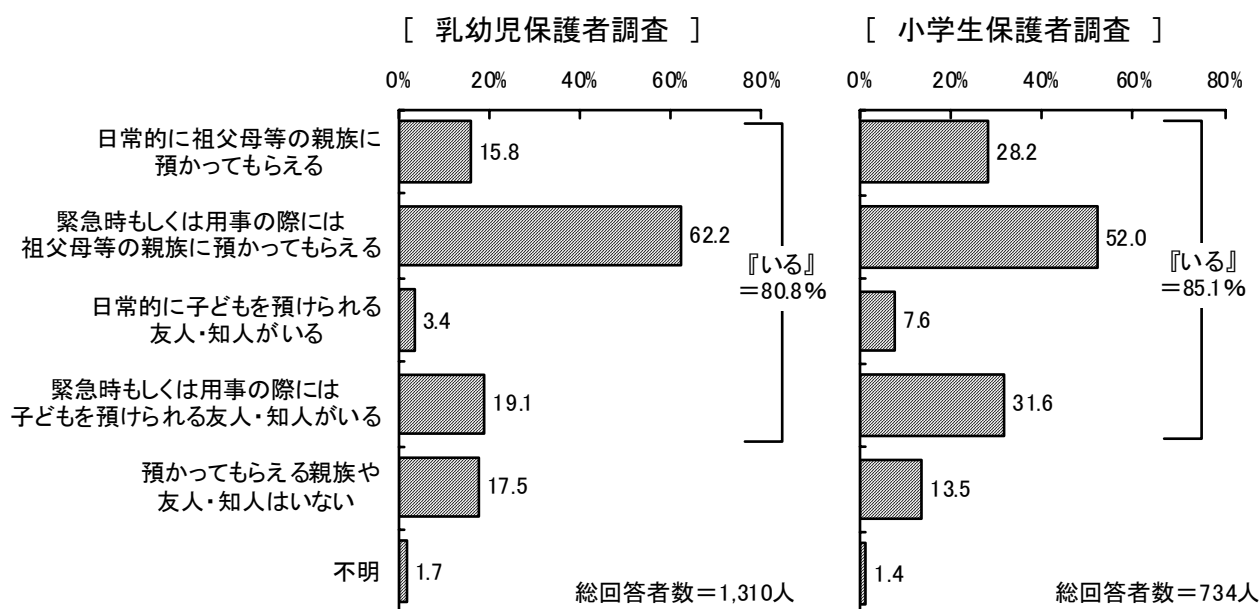
居住地域別の近所に祖父母等の親族が『いる』割合は、A・Eブロック居住者において7割を超え、他の地域居住者に比べて高い割合となっている。反対に、D・G・Hブロック居住者においては5割台と、他に比べて低い割合である。

(5) 子どもの預け先の状況(乳幼児・小学生:問7～問7-2)

①子どもを預かってもらえる人の有無

日頃、お子さんを預かってもらえる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-12 子どもを預かってもらえる人の有無(複数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児保護者調査回答者における子どもを預かってもらえる親族や友人の有無をみると、「預かってもらえる親族や友人・知人はいない」は17.5%であり、預かってもらえる親族や友人・知人が『いる』(100%から「預かってもらえる親族や友人・知人はいない」と「不明」を除いた割合)が約8割を占める。

祖父母等の親族に関しては、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」が62.2%であり、「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」は15.8%となっている。友人・知人に関しては、「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」が19.1%であり、「日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる」は3.4%であった。

[小学生保護者調査]

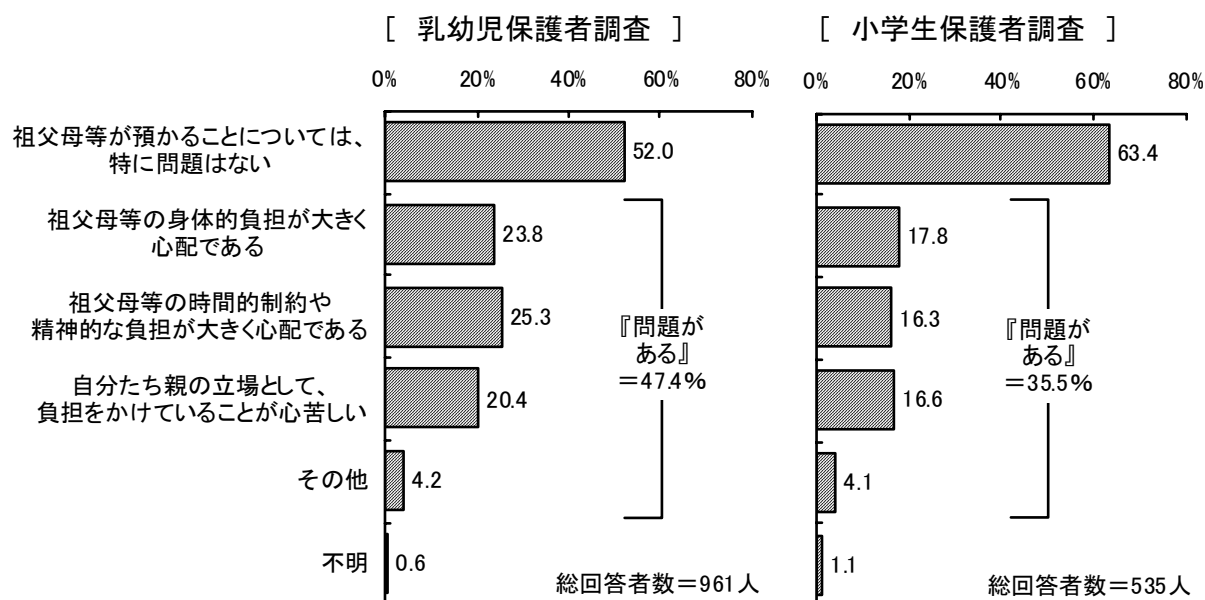
小学生保護者調査回答者における子どもを預かってもらえる親族や友人の有無をみると、「預かってもらえる親族や友人・知人はいない」は13.5%であり、預かってもらえる親族や友人・知人が『いる』が85.1%と、乳幼児保護者調査の結果に比べて高い割合となっている。

祖父母等の親族に関しては、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」52.0%、「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」28.2%となっている。友人・知人に関しては、「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」31.6%、「日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる」7.6%となっている。

②祖父母等に預かってもらうことに対する意識

「1」または「2」に○をした方にうかがいます。
 祖父母等に預かってもらう状況について、あてはまるものすべてに○をしてください。

図表Ⅱ-13 祖父母等に預かってもらうことに対する意識(複数回答)



「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」と回答した人に、祖父母等の親族に預かってもらうことに対する意識をたずねた。

[乳幼児保護者調査]

乳幼児保護者調査回答者の意識をみると、「祖父母等が預かることについては、特に問題はない」が52.0%と半数強を占め、『問題がある』(100%から「祖父母等が預かることについては、特に問題はない」と「不明」を除いた割合)と回答した人の割合は47.4%となっている。

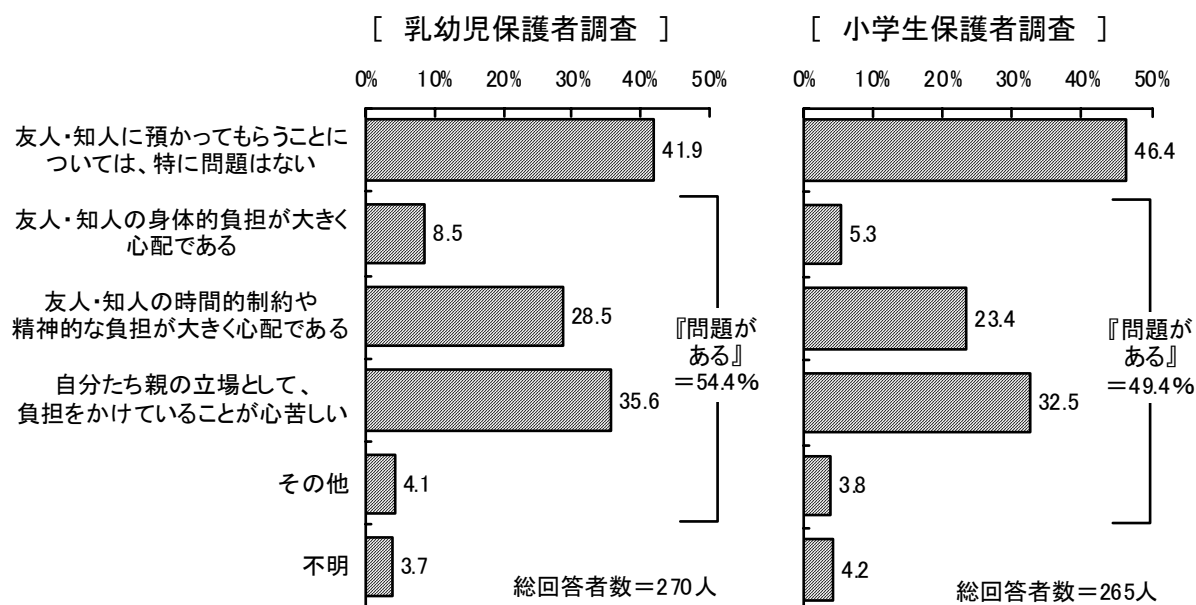
[小学生保護者調査]

小学生保護者調査回答者の意識をみると、「祖父母等が預かることについては、特に問題はない」が63.4%を占め、『問題がある』は35.5%となっている。

③友人等に預かってもらうことに対する意識

「3」または「4」に○をした方にうかがいます。
友人や知人に預かってもらう状況について、あてはまるものすべてに○をしてください。

図表Ⅱ-14 友人等に預かってもらうことに対する意識(複数回答)



「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」「日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる」と回答した人に、友人・知人に預かってもらうことに対する意識をたずねた。

[乳幼児保護者調査]

乳幼児保護者調査回答者の意識をみると、「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」は41.9%であり、54.4%が『問題がある』(100%から「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」と「不明」を除いた割合)と回答している。

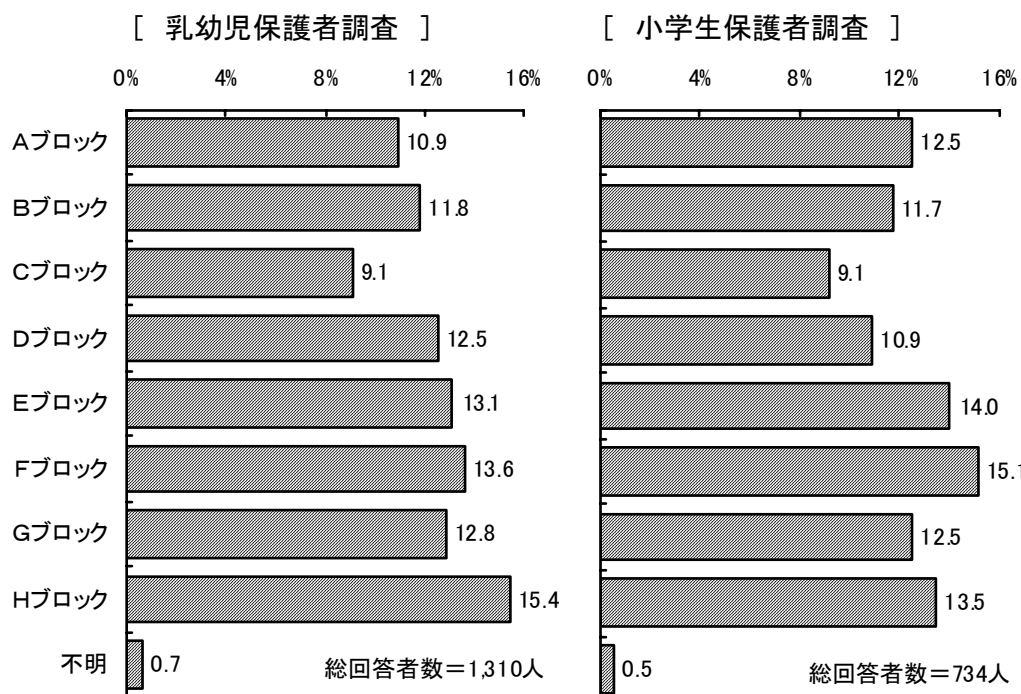
[小学生保護者調査]

小学生保護者調査回答者の意識をみると、「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」は46.4%であり、『問題がある』は49.4%、約半数となっている。

(6) 居住地域(乳幼児・小学生:問9)

あなたは、墨田区のどの地域に住んでいますか。(1つに○)

図表Ⅱ-15 居住地域(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児保護者調査回答者の居住地域は、「Hブロック」15.4%がもっとも高く、「Fブロック」13.6%、「Gブロック」12.8%と、これらを合わせた南部地域居住者が41.8%を占める。

北部地域居住者では、「Eブロック」が13.1%、「Dブロック」12.5%、「Bブロック」11.8%、「Aブロック」10.9%、「Cブロック」9.1%となっている。

[小学生保護者調査]

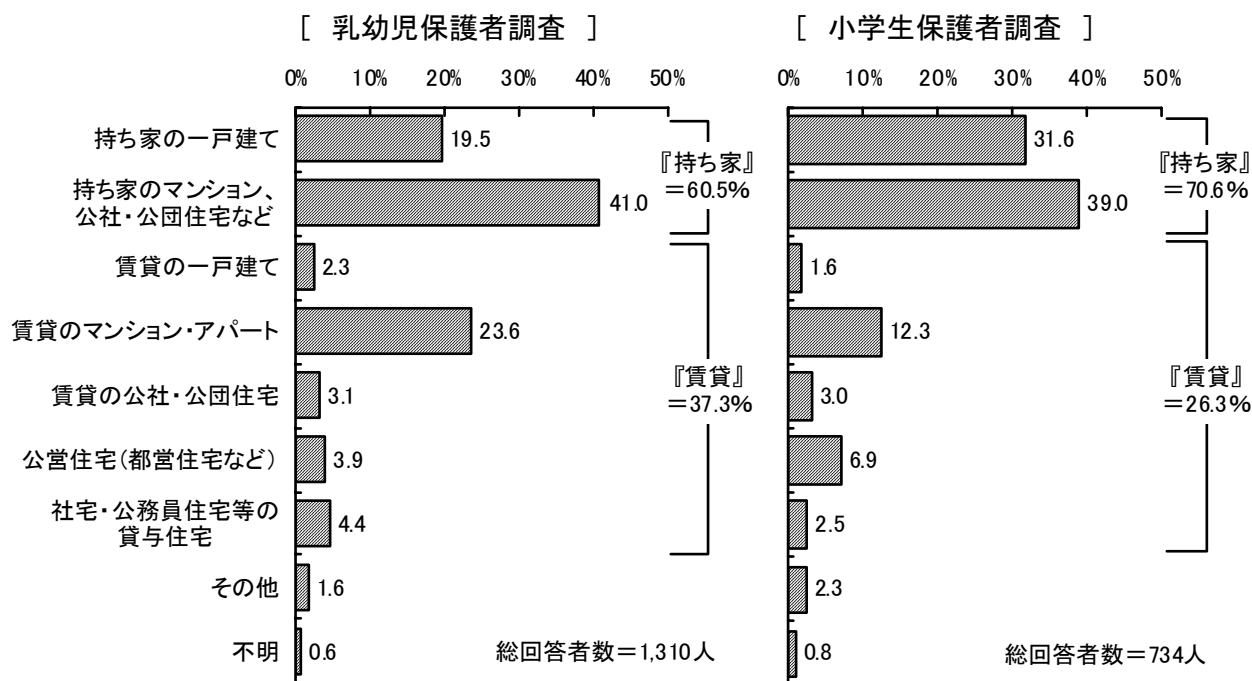
小学生保護者調査回答者の居住地域は、「Fブロック」がもっとも高い15.1%、次いで「Eブロック」14.0%、「Hブロック」13.5%、「Aブロック」「Gブロック」各12.5%の順となっている。

F～Hブロックの南部地域居住者の割合は41.1%、A～Eブロックの北部地域居住者の割合は58.2%となっている。

(7)住宅形態(乳幼児・小学生:問10)

現在のお住まいは、次のどれですか。(1つに○)

図表Ⅱ-16 住宅形態(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児保護者調査回答者の住宅形態は、「持ち家のマンション、公社・公団住宅など」41.0%がもっとも高く、次いで「賃貸のマンション・アパート」23.6%、「持ち家の一戸建て」19.5%の順となっている。「持ち家のマンション、公社・公団住宅など」と「持ち家の一戸建て」を合わせた『持ち家』は60.5%を占め、『賃貸』37.3%を23.2ポイント上回っている。

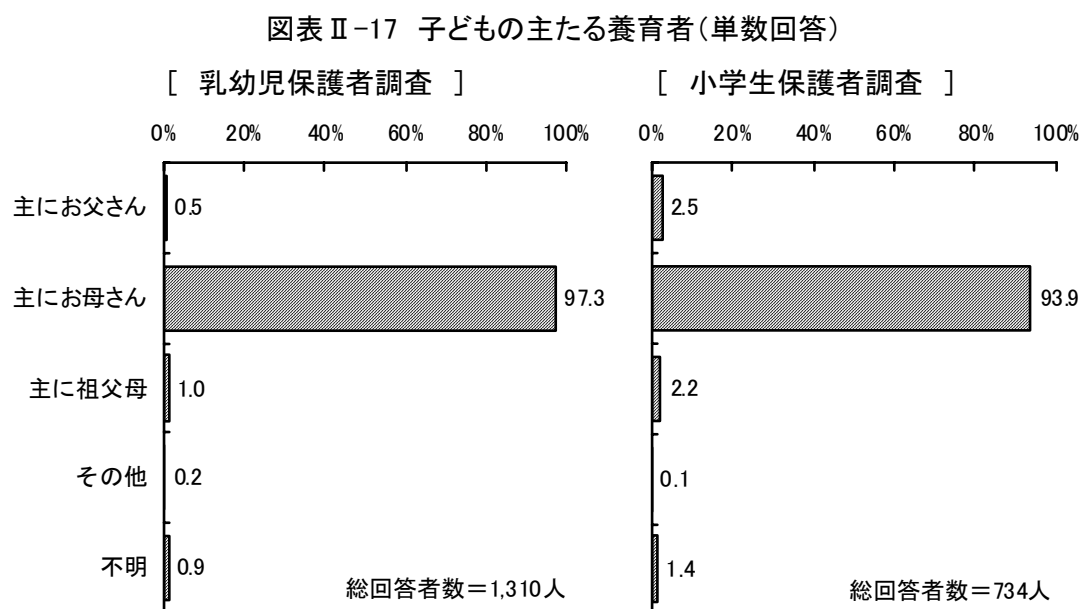
[小学生保護者調査]

小学生保護者調査回答者の住宅形態は、「持ち家のマンション、公社・公団住宅など」39.0%がもっとも高く、次いで「持ち家の一戸建て」31.6%、「賃貸のマンション・アパート」12.3%となっている。『持ち家』は70.6%であり、乳幼児保護者調査結果に比べて10.1ポイント高い。

3. 父と母の状況

(1) 子どもの主たる養育者(乳幼児・小学生:問8)

あて名のお子さんの身の回りの世話などを主にしているのは、あて名のお子さんからみた続柄でどなたですか。(1つに○)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児保護者調査回答者における子どもの主たる養育者は、「主にお母さん」が97.3%と圧倒的多数を占める。次いで、「主に祖父母」1.0%、「主にお父さん」0.5%となっている。

[小学生保護者調査]

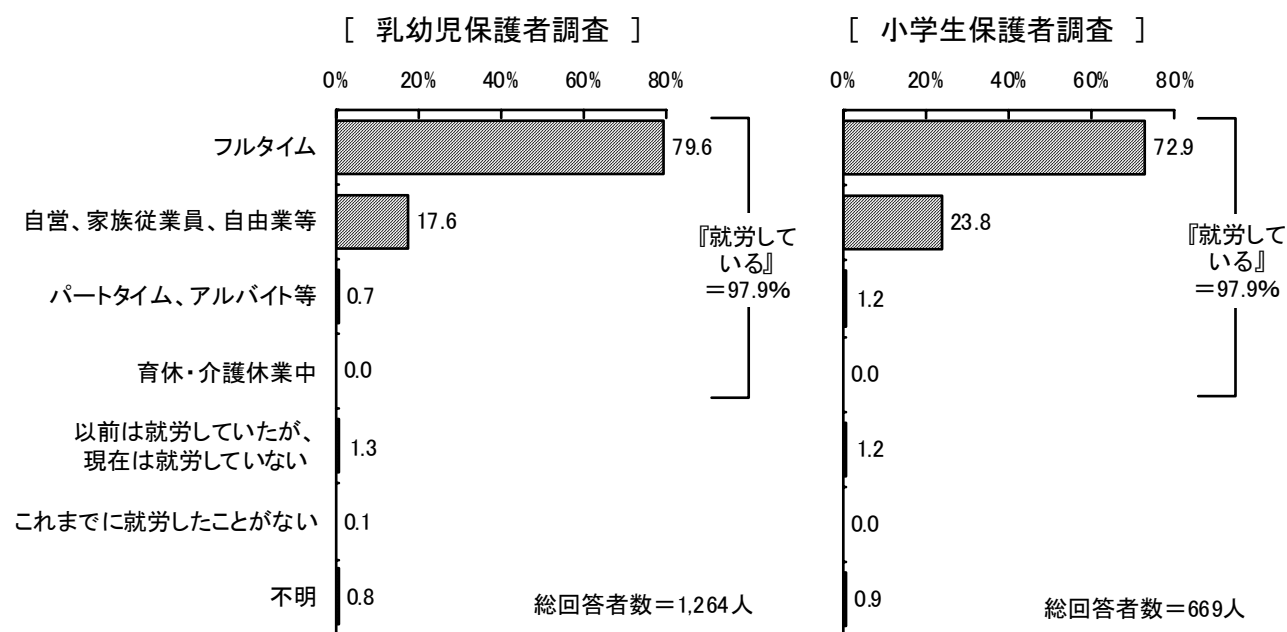
小学生保護者調査回答者における子どもの主たる養育者は、「主にお母さん」が93.9%を占め、次いで、「主にお父さん」2.5%、「主に祖父母」2.2%となっている。

(2) 父親の就労状況(乳幼児・小学生:問11～問11-2)

① 父親の就労形態

あて名のお子さんのお父さんについて、現在の就労状況をお答えください。(1つに○)

図表Ⅱ-18 父親の就労形態(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児の父親の就労形態は、「フルタイム」79.6%に次いで、「自営、家族従業員、自由業等」17.6%となっている。「パートタイム、アルバイト等」は0.7%、「育休・介護休業中」0.0%であり、これらを合わせた『就労している』割合は97.9%となっている。

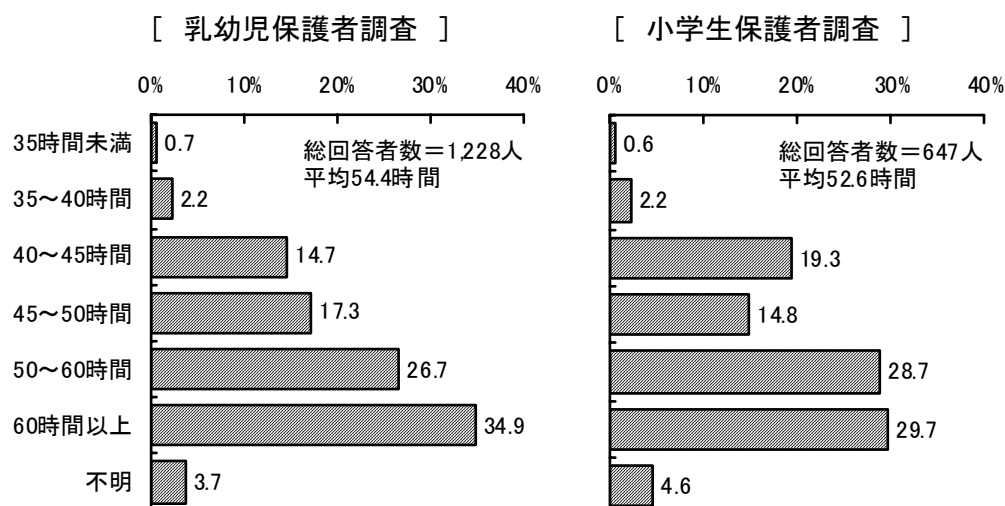
[小学生保護者調査]

小学生の父親の就労形態は、「フルタイム」72.9%、「自営、家族従業員、自由業等」23.8%となっている。これに、「パートタイム、アルバイト等」1.2%を加えた『就労している』は、乳幼児保護者調査と同様に97.9%となっている。

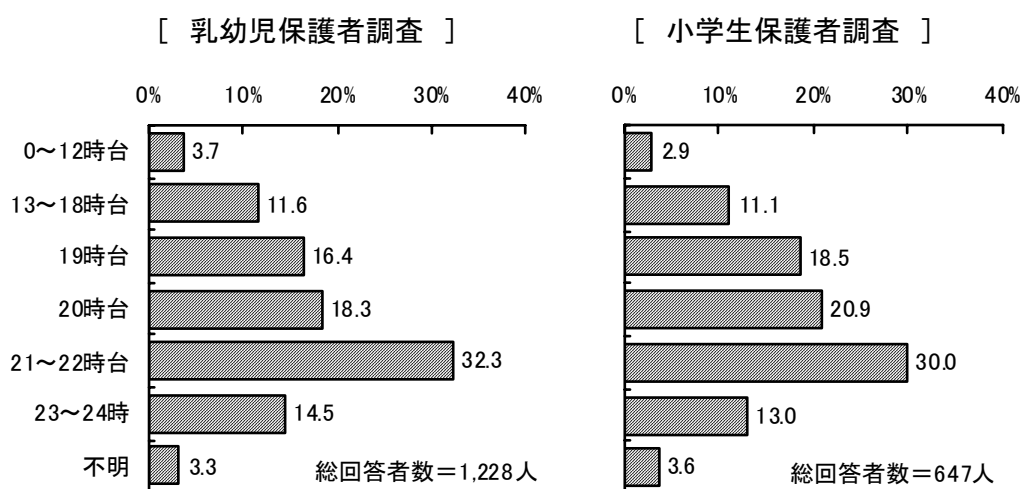
②フルタイム就労者の就労状況

「1」または「2」に○をした方にうかがいます。①1 週間あたりの平均就労時間、②働いている日の平均的な帰宅時間をご記入ください。(数字を記入)

図表Ⅱ-19 フルタイム就労者の平均就労時間(単数回答)



図表Ⅱ-20 フルタイム就労者の平均帰宅時間(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

「フルタイム」「自営、家族従業員、自由業等」と回答した乳幼児の父親の週の就労時間は、約6割が『50時間以上』であり、平均54.4時間となっている。

帰宅時間は、「21～22時台」32.3%がもっとも高い割合を占める。

[小学生保護者調査]

「フルタイム」「自営、家族従業員、自由業等」と回答した小学生の父親の週の就労時間は、58.4%が『50時間以上』であり、平均52.6時間となっている。

帰宅時間は、「21～22時台」30.0%に次いで、「20時台」が20.9%で続いている。

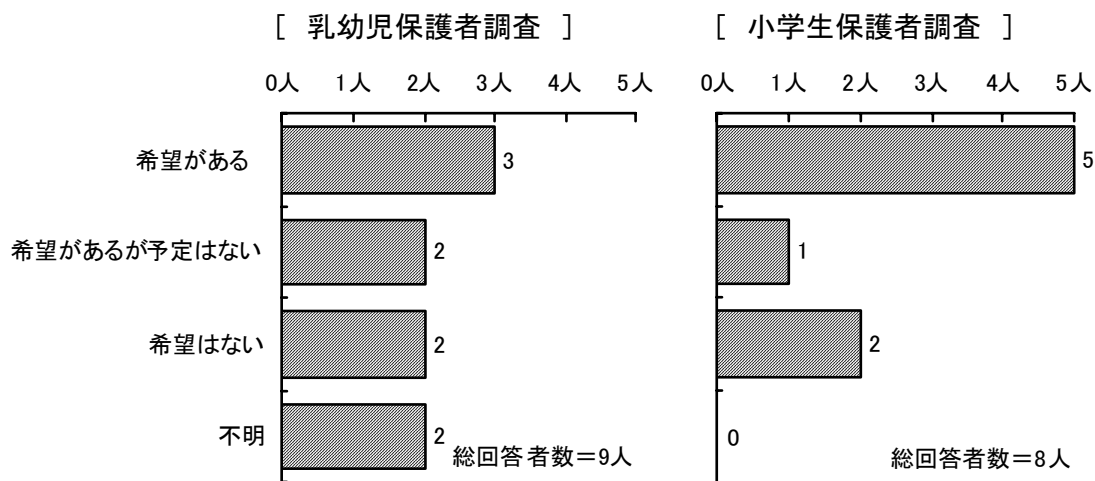
③パートタイム就労者の就労状況およびフルタイムへの転換意向

「3」に○をした方にうかがいます。
 1週間あたり就労日数・1日あたり就労時間をご記入ください。(数字を記入)
 フルタイムへの転換希望がありますか。(1つに○)

図表Ⅱ-21 パートタイム就労者の就労状況

	総回答者数	1週間あたり 平均就労日数	1日あたり 平均就労時間
乳幼児保護者調査	9人	5.1日	9.3時間
小学生保護者調査	8人	4.9日	7.2時間

図表Ⅱ-22 パートタイム就労者のフルタイムへの転換希望(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

「パートタイム、アルバイト等」と回答した乳幼児の父親の週の就労日数は平均 5.1 日、1 日の就労時間は平均 9.3 時間となっている。

フルタイムへの転換希望については、「希望がある」が 3 人、「希望があるが予定はない」2 人、「希望はない」2 人となっている。

[小学生保護者調査]

「パートタイム、アルバイト等」と回答した小学生の父親の週の就労日数は平均 4.9 日、1 日の就労時間は平均 7.2 時間となっている。

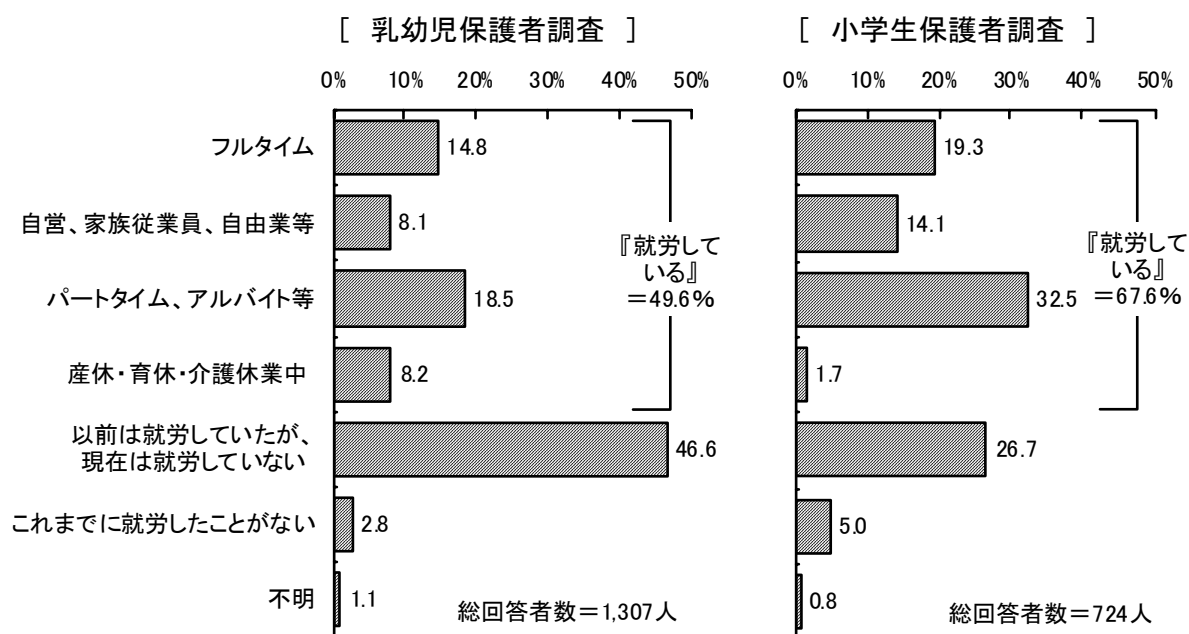
フルタイムへの転換希望については、「希望がある」が 5 人、「希望があるが予定はない」1 人、「希望はない」2 人となっている。

(3) 母親の就労状況(乳幼児・小学生:問12～問12-2)

① 母親の就労形態

あて名のお子さんのお母さんについて、現在の就労状況をお答えください。(1つに○)

図表Ⅱ-23 母親の就労形態(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児の母親の就労形態をみると、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が46.6%を占め、『就労している』は49.6%、約半数である。

就労形態としては、「パートタイム、アルバイト等」18.5%がもっとも高く、「フルタイム」14.8%、「産休・育休・介護休業中」8.2%、「自営、家族従業員、自由業等」8.1%となっている。

[小学生保護者調査]

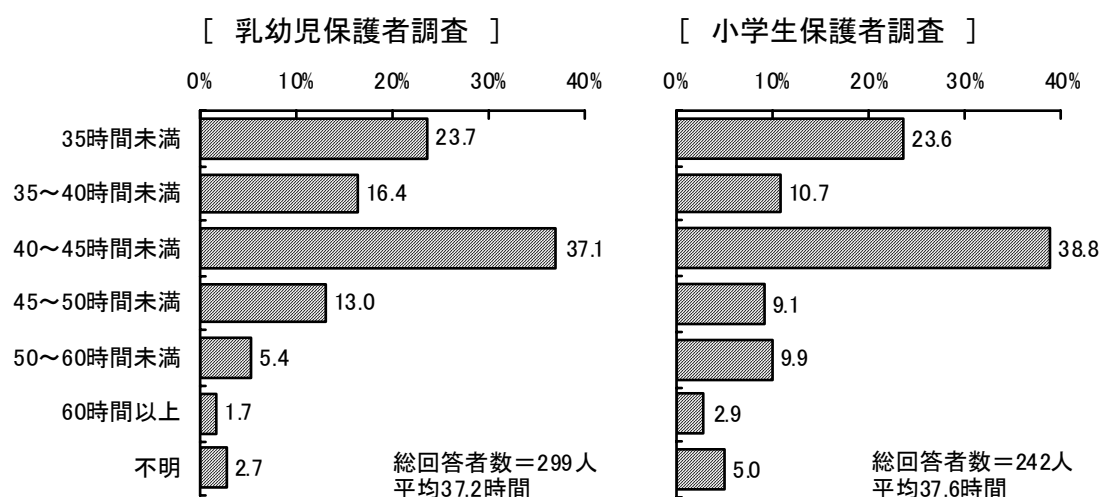
小学生の母親の就労形態は、「パートタイム、アルバイト等」32.5%がもっとも高く、『就労している』は67.6%と、乳幼児保護者調査結果に比べて18.0ポイント高くなっている。

「フルタイム」の割合は19.3%、「自営、家族従業員、自由業等」は14.1%、「産休・育休・介護休業中」は1.7%であった。

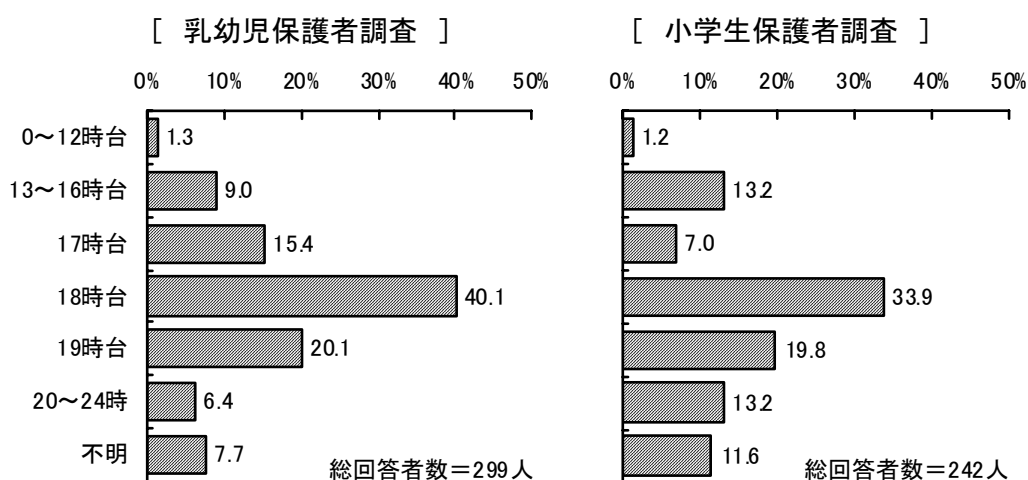
②フルタイム就労者の就労状況

「1」または「2」に○をした方にうかがいます。①1 週間あたりの平均就労時間、②働いている日の平均的な帰宅時間をご記入ください。(数字を記入)

図表Ⅱ-24 フルタイム就労者の平均就労時間(単数回答)



図表Ⅱ-25 フルタイム就労者の平均帰宅時間(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

「フルタイム」「自営、家族従業員、自由業等」と回答した乳幼児の母親の週の就労時間は、「40～45 時間未満」が 37.1%を占め、平均 37.2 時間となっている。

帰宅時間は、「18 時台」40.1%がもっとも高い割合を占める。

[小学生保護者調査]

「フルタイム」「自営、家族従業員、自由業等」と回答した小学生の母親の週の就労時間は、「40～45 時間未満」が 38.8%を占め、平均 37.6 時間となっている。

帰宅時間は、「18 時台」33.9%、次いで「19 時台」19.8%、「20～24 時」13.2%となっている。

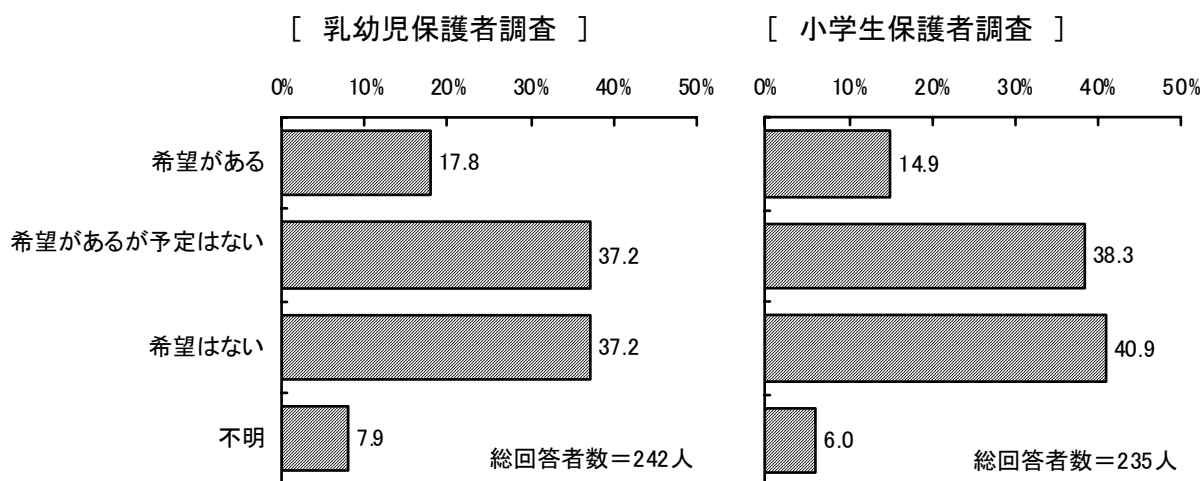
③パートタイム就労者の就労状況およびフルタイムへの転換意向

「3」に○をした方にうかがいます。
 1週間あたり就労日数・1日あたり就労時間をご記入ください。(数字を記入)
 フルタイムへの転換希望がありますか。(1つに○)

図表Ⅱ-26 パートタイム就労者の就労状況

	総回答者数	1週間あたり 平均就労日数	1日あたり 平均就労時間
乳幼児保護者調査	242人	4.2日	5.3時間
小学生保護者調査	235人	4.2日	5.2時間

図表Ⅱ-27 パートタイム就労者のフルタイムへの転換希望(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

「パートタイム、アルバイト等」と回答した乳幼児の母親の週の就労日数は平均 4.2 日、1 日の就労時間は平均 5.3 時間となっている。

フルタイムへの転換希望については、「希望があるが予定はない」「希望はない」が各 37.2% であり、「希望がある」は 17.8%、2 割弱となっている。

[小学生保護者調査]

「パートタイム、アルバイト等」と回答した小学生の母親の週の就労日数は平均 4.2 日、1 日の就労時間は平均 5.2 時間と、乳幼児保護者調査とほぼ同様の結果となっている。

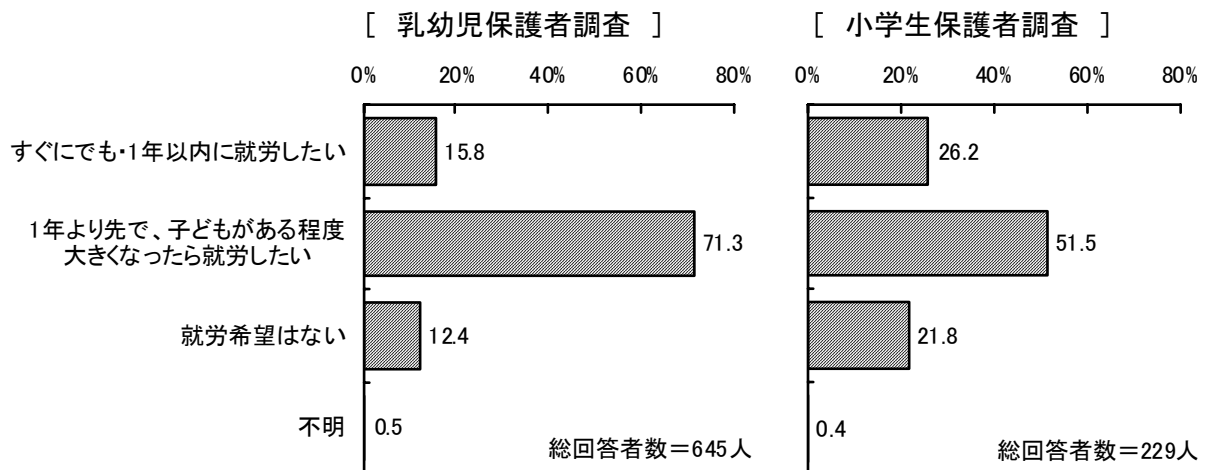
フルタイムへの転換希望については、「希望はない」が 40.9% を占め、次いで「希望があるが予定はない」38.3%、「希望がある」14.9% となっている。

(4)就労していない母親の就労意向(乳幼児・小学生:問13～問13-4)

①就労していない母親の就労意向

現在就労していない方(問12で「5」または「6」に○)にうかがいます。
現在、就労したいという希望はありますか。(1つに○)

図表Ⅱ-28 就労していない母親の就労意向(単数回答)



「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまでに就労したことがない」と回答した母親に、就労希望をたずねた。

[乳幼児保護者調査]

乳幼児の母親の就労希望は、「1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい」が71.3%、「すぐにでも・1年以内に就労したい」が15.8%と、これらを合わせた87.1%が就労希望を示す結果となった。

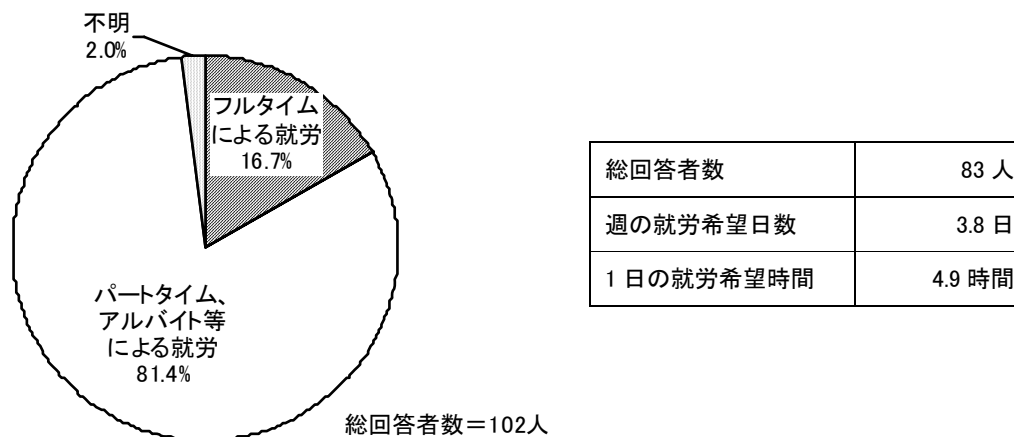
[小学生保護者調査]

小学生の母親の就労希望は、「1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい」51.5%、「すぐにでも・1年以内に就労したい」が26.2%と、これらを合わせた77.7%が就労希望を示す結果となった。

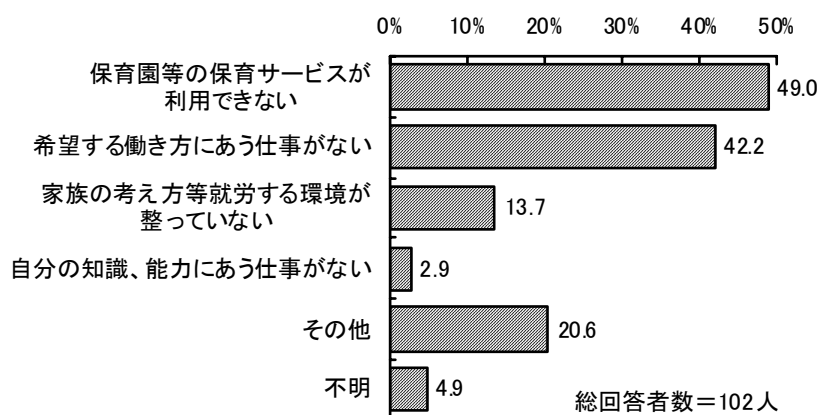
②すぐにでも就労したい場合の希望就労形態

どのような就労形態を希望しますか。(1つに○)
 パート、アルバイト等を希望の方は、就労希望日数・時間も記入してください。
 就労希望がありながら、現在働いていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-29 希望就労形態(単数回答)・パート、アルバイト等希望者の就労希望日数・時間



図表Ⅱ-30 現在働いていない理由(複数回答)



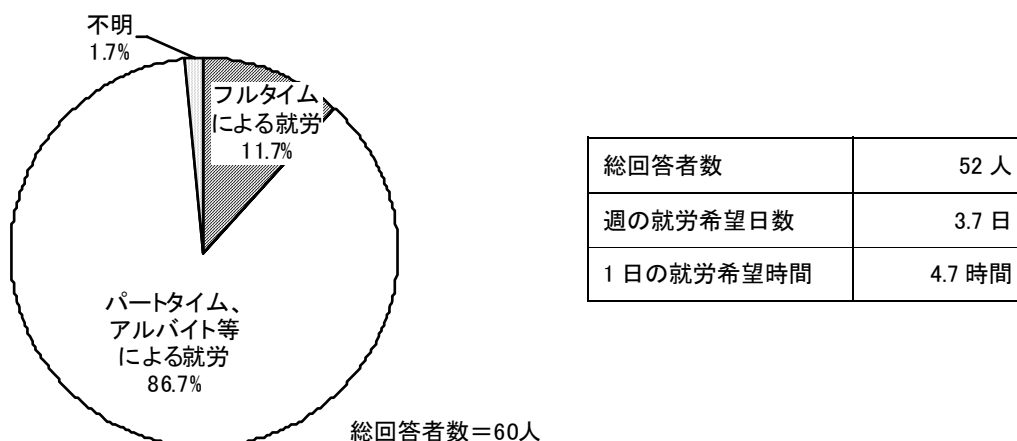
[乳幼児保護者調査]

「すぐにでも・1年以内に就労したい」と回答した乳幼児の母親の希望就労形態は、「パートタイム、アルバイト等による就労」が8割強を占め、「フルタイムによる就労」は16.7%となっている。

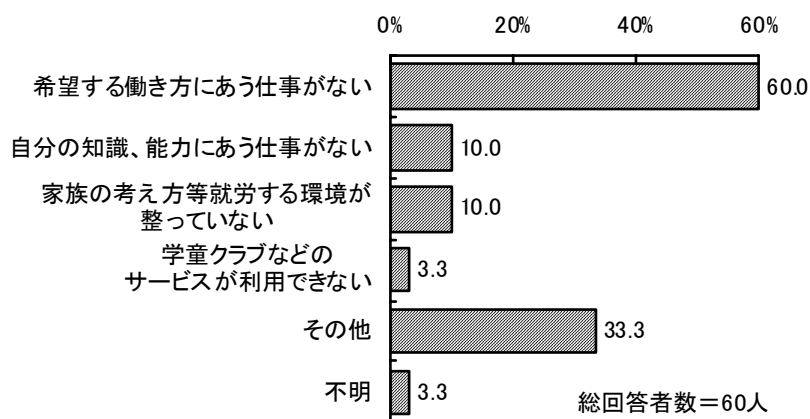
「パートタイム、アルバイト等による就労」を希望する人の、週の就労希望日数は平均3.8日、1日の就労希望時間は平均4.9時間となっている。

就労希望があるにも関わらず現在働いていない理由としては、「保育園等の保育サービスが利用できない」49.0%、「希望する働き方にあう仕事がない」42.2%と、保育サービスの問題、働き方の問題がともに4割台からあげられている。「その他」は、「子どもを預けるのに不安がある」「子どもが小さい」「不況で仕事がない」などとなっている。

図表Ⅱ-31 希望就労形態(単数回答)・パート、アルバイト等希望者の就労希望日数・時間



図表Ⅱ-32 現在働いていない理由(複数回答)



[小学生保護者調査]

「すぐにでも・1年以内に就労したい」と回答した小学生の母親の希望就労形態は、「パートタイム、アルバイト等による就労」が86.7%を占め、「フルタイムによる就労」は11.7%となっている。

「パートタイム、アルバイト等による就労」を希望する人の、週の就労希望日数は平均3.7日、1日の就労希望時間は平均4.7時間となっている。

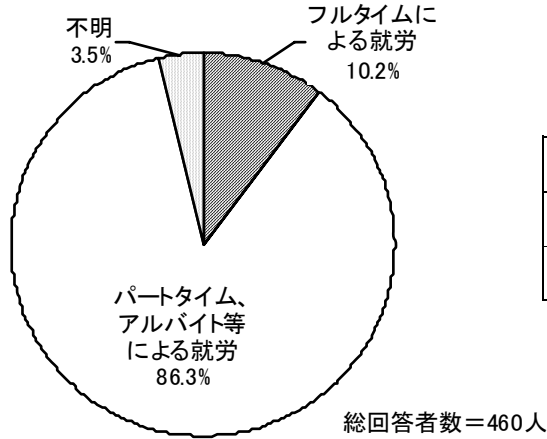
就労希望があるにも関わらず現在働いていない理由としては、「希望する働き方にあう仕事がない」60.0%、「その他」33.3%、「自分の知識、能力にあう仕事がない」「家族の考え方等就労する環境が整っていない」各10.0%の順であり、「学童クラブなどのサービスが利用できない」は3.3%であった。

「その他」は、「下の子が保育園に入れない」「病気のため」「ブランクがあり働く自信がない」などとなっている。

③1年より先に就労したい場合の希望就労形態

どのような就労形態を希望しますか。(1つに○)
パート、アルバイト等を希望の方は、就労希望日数・時間も記入してください。
あて名のお子さんも含めて、一番小さい子が何歳になったときに就労したいですか。

図表Ⅱ-33 希望就労形態(単数回答)・パート、アルバイト等希望者の就労希望日数・時間



総回答者数	397 人
週の就労希望日数	3.6 日
1 日の就労希望時間	4.8 時間

図表Ⅱ-34 就労希望時期の末子の平均年齢

総回答者数	460 人
末子の平均年齢	6.1 歳

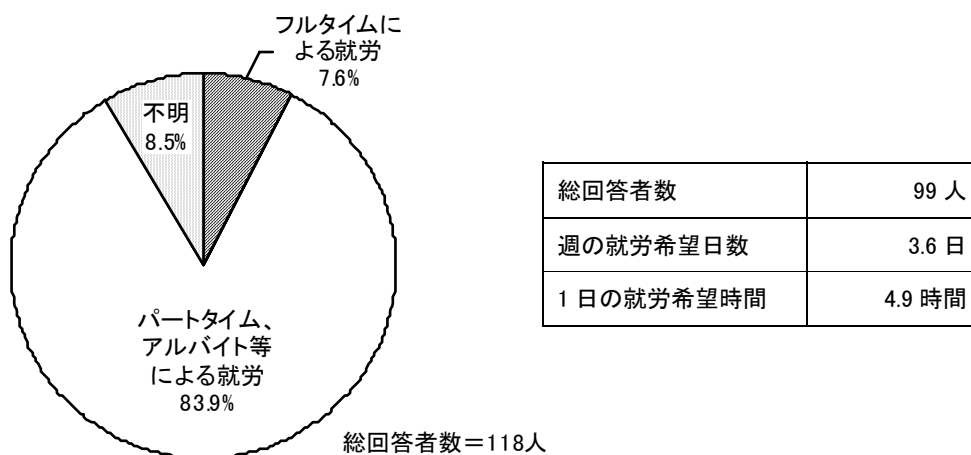
[乳幼児保護者調査]

「1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい」と回答した乳幼児の母親の希望就労形態は、「パートタイム、アルバイト等による就労」が86.3%を占め、「フルタイムによる就労」は約1割であった。

「パートタイム、アルバイト等による就労」を希望する人の、週の就労希望日数は平均3.6日、1日の就労希望時間は平均4.8時間となっている。

就労を希望する時期の末子の年齢は、平均6.1歳となっている。

図表Ⅱ-35 希望就労形態(単数回答)・パート、アルバイト等希望者の就労希望日数・時間



図表Ⅱ-36 就労希望時期の末子の平均年齢

総回答者数	118 人
末子の平均年齢	9.3 歳

[小学生保護者調査]

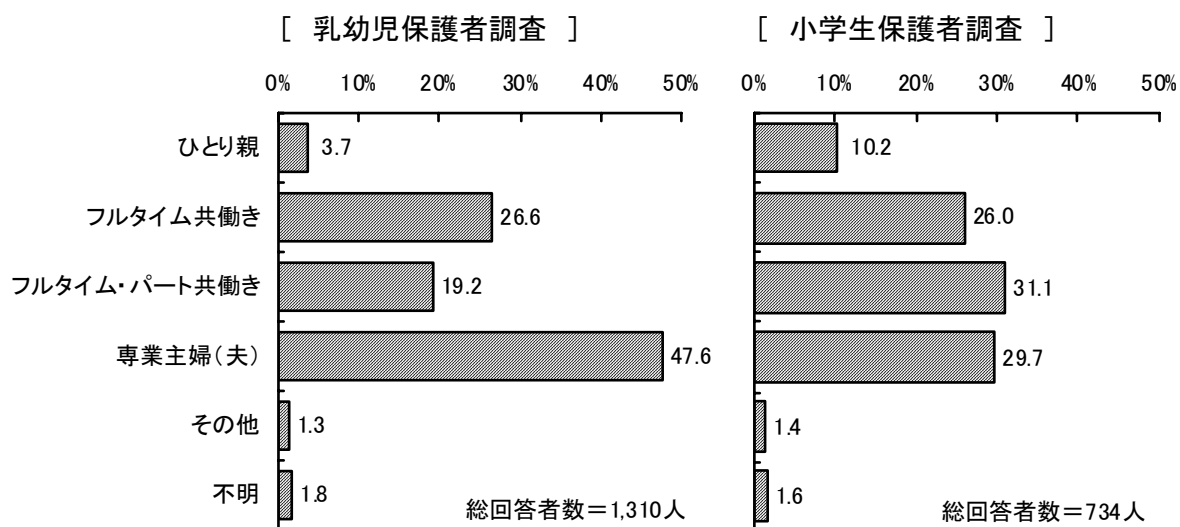
「1 年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい」と回答した小学生の母親の希望就労形態は、「パートタイム、アルバイト等による就労」が 83.9%を占め、「フルタイムによる就労」は 7.6%であった。

「パートタイム、アルバイト等による就労」を希望する人の、週の就労希望日数は平均 3.6 日、1 日の就労希望時間は平均 4.9 時間となっている。

就労を希望する時期の末子の年齢は、平均 9.3 歳となっている。

(5) 両親の就労形態

図表Ⅱ-37 両親の就労形態(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児の両親の就労形態は、「専業主婦（夫）」家庭が47.6%と半数近くを占め、次いで「フルタイム共働き」26.6%、「フルタイム・パート共働き」19.2%の順に割合が高い。「ひとり親」家庭は3.7%となっている。

[小学生保護者調査]

小学生の両親の就労形態は、「フルタイム・パート共働き」家庭がもっとも高い31.1%、次いで「専業主婦（夫）」家庭が約3割、「フルタイム共働き」家庭が2割台となっている。「ひとり親」家庭は10.2%と、乳幼児保護者調査の結果に比べて6.5ポイント高い。

図表Ⅱ-38 両親の就労形態

			総 回 答 者 数 (人)	ひとり親	フル タイム 共 働 き	フル タイム・パート 共 働 き	専 業 主 婦 (夫)	その他	不明
乳 幼 児 保 護 者 調 査	全 体		1,310	3.7	26.6	19.2	47.6	1.3	1.8
	子どもの年 齢 別	満 0 歳	153	2.0	30.7	5.2	58.8	3.3	0.0
		0 歳児	191	1.6	30.9	9.4	55.5	1.0	1.6
		1 歳児	180	4.4	28.3	12.2	52.8	1.7	0.6
		2 歳児	202	3.0	28.2	17.8	47.0	1.5	2.5
		3 歳児	191	3.1	23.0	30.4	40.8	1.0	1.6
		4 歳児	199	6.0	24.1	29.1	37.7	0.5	2.5
		5 歳児	187	5.3	21.4	26.7	43.3	0.5	2.7
	居住地域 別	Aブロック	143	7.0	22.4	23.8	44.1	0.7	2.1
		Bブロック	155	4.5	20.0	26.5	47.1	1.9	0.0
		Cブロック	119	3.4	27.7	20.2	45.4	1.7	1.7
		Dブロック	164	2.4	28.7	18.3	48.8	0.6	1.2
		Eブロック	172	4.1	35.5	19.8	37.8	0.6	2.3
		Fブロック	178	0.0	33.1	14.6	48.3	2.2	1.7
		Gブロック	168	6.0	23.8	17.3	51.8	0.6	0.6
Hブロック		202	2.5	22.3	15.8	56.9	2.0	0.5	

〔 乳幼児保護者調査 〕

子どもの年齢別にみると、子どもが満0歳～1歳児の場合には5割台と過半数が「専業主婦(夫)」家庭であるが、2歳児以上になるとその割合は減少する。共働き家庭の割合をみると、満0歳・0歳児では「フルタイム共働き」が約3割で、「フルタイム・パート共働き」は1割を下回るが、1歳児以上になると「フルタイム共働き」の割合は減少し、3・4歳児では約3割、5歳児では2割台が「フルタイム・パート共働き」となっている。

居住地域別にみると、G・Hブロックは「専業主婦(夫)」家庭が5割を超え、他に比べて割合が高い。また、A・B・Cブロックは「フルタイム・パート共働き」、E・Fブロックは「フルタイム共働き」の割合が、それぞれ他の地域に比べて高くなっている。

図表Ⅱ-39 両親の就労形態

		総 回 答 者 数 (人)	ひ と り 親	フル タイム 共 働 き	フル タイム・パ ート共 働 き	専 業 主 婦 (夫)	そ の 他	不 明
小学生保護者調査	全 体	734	10.2	26.0	31.1	29.7	1.4	1.6
	子どもの学年別	1 年生	131	6.1	31.3	29.0	33.6	0.0
		2 年生	115	6.1	26.1	33.0	33.9	0.0
		3 年生	128	6.3	21.1	29.7	38.3	2.3
		4 年生	124	12.9	25.8	33.9	22.6	3.2
		5 年生	114	19.3	28.9	25.4	21.9	3.5
		6 年生	119	11.8	23.5	34.5	26.9	0.0
	居住地域別	Aブロック	92	16.3	19.6	37.0	22.8	2.2
		Bブロック	86	2.3	20.9	43.0	29.1	2.3
		Cブロック	67	17.9	35.8	25.4	19.4	1.5
		Dブロック	80	12.5	30.0	33.8	22.5	1.3
		Eブロック	103	8.7	35.0	22.3	33.0	1.0
		Fブロック	111	9.9	26.1	30.6	32.4	0.0
		Gブロック	92	9.8	21.7	29.3	37.0	1.1
		Hブロック	99	7.1	22.2	29.3	37.4	3.0

〔 小学生保護者調査 〕

子どもの学年別にみると、子どもが1～3年生の場合は「専業主婦（夫）」家庭が3割台でもっとも高い割合を占める。4・6年生では「フルタイム・パート共働き」、5年生では「フルタイム共働き」世帯がもっとも高い。また、1～3年生では1割を下回るが、4年生以上になると1割台が「ひとり親」家庭となっている。

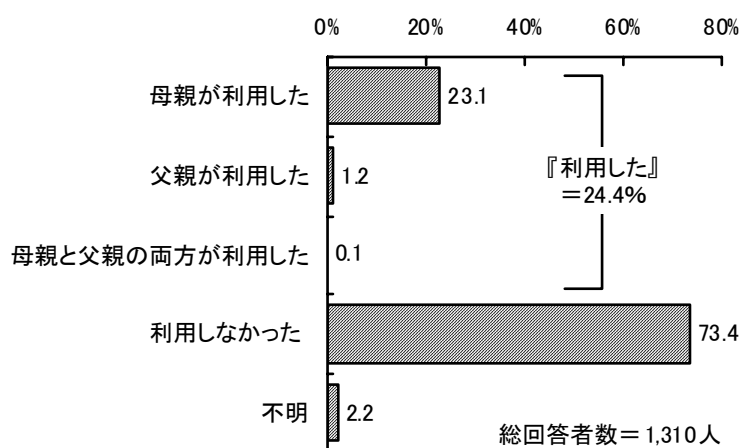
居住地域別にみると、A・B・Dブロックは「フルタイム・パート共働き」、C・Eブロックは「フルタイム共働き」、F・G・Hブロックの南部地域は「専業主婦（夫）」家庭が、それぞれもっとも高い割合を占める。また、「ひとり親」家庭の割合は、他に比べてA・C・Dブロックにおいて高くなっている。

(6) 育児休業制度の利用状況(乳幼児:問28～問28-3)

① 育児休業制度の利用状況

あて名のお子さんについて、母親または父親が育児休業制度を利用しましたか。(1つに○)

図表Ⅱ-40 育児休業制度の利用状況(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児の保護者の育児休業制度の利用状況をみると、「利用しなかった」が 73.4%を占め、『利用した』(100%から「利用しなかった」と「不明」を除いた割合)は 24.4%、およそ 4 分の 1 となっている。利用者は、「母親が利用した」が 23.1%、「父親が利用した」が 1.2%、「母親と父親の両方が利用した」が 0.1%であった。

図表Ⅱ-41 育児休業制度の利用状況

		総回答者数(人)	母親が利用した	父親が利用した	母親と父親の両方が利用した	利用しなかった	不明	『利用した』
乳幼児保護者調査	全 体	1,310	23.1	1.2	0.1	73.4	2.2	24.4
	満 0 歳	153	30.7	1.3	0.0	64.7	3.3	32.0
	0 歳児	191	26.7	1.6	0.5	70.2	1.0	28.8
	1 歳児	180	25.0	0.6	0.0	71.7	2.8	25.5
	2 歳児	202	24.3	1.0	0.0	74.3	0.5	25.2
	3 歳児	191	22.0	3.1	0.0	73.3	1.6	25.1
	4 歳児	199	17.1	1.0	0.0	79.9	2.0	18.1
	5 歳児	187	16.6	0.0	0.0	79.1	4.3	16.6

※:『利用した』=100%−「利用しなかった」−「不明」

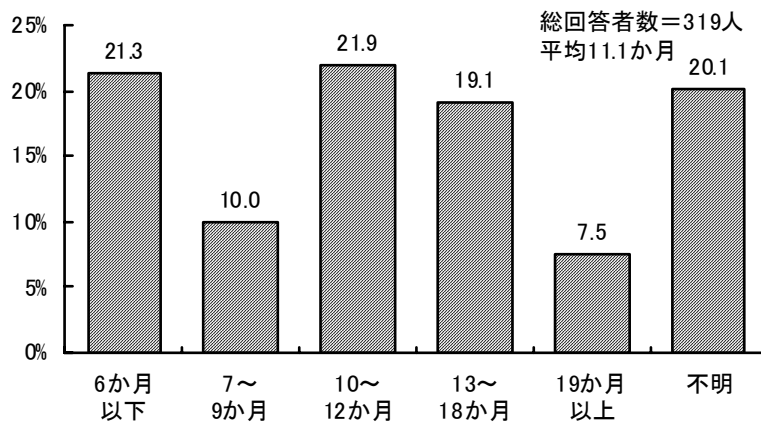
[乳幼児保護者調査]

子どもの年齢別にみると、育児休業制度を『利用した』割合は、子どもの年齢が低いほど高く、満 0 歳の場合では 3 割台、0～3 歳児では 2 割台、4・5 歳児では 1 割台となっている。

②育児休業復帰時の子どもの月齢

育児休業から復帰なさったとき、お子さんの月齢は何ヶ月でしたか。(数字を記入)

図表Ⅱ-42 育児休業復帰時の子どもの月齢(単数回答)



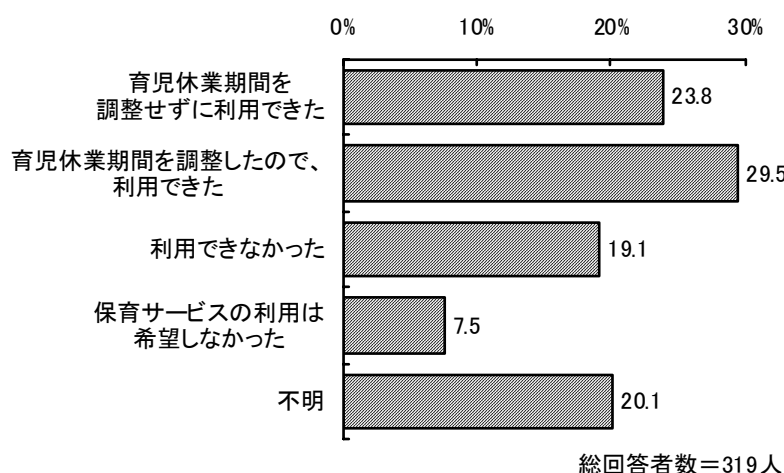
[乳幼児保護者調査]

育児休業制度を『利用した』と回答した人に、育児休業復帰時の子どもの月齢をたずねたところ、平均 11.1 か月であった。

③育児休業復帰時の保育サービス利便性

育児休業明けに、希望する保育サービスをすぐ利用できましたか。(1つに○)

図表Ⅱ-43 育児休業復帰時の保育サービス利便性(単数回答)



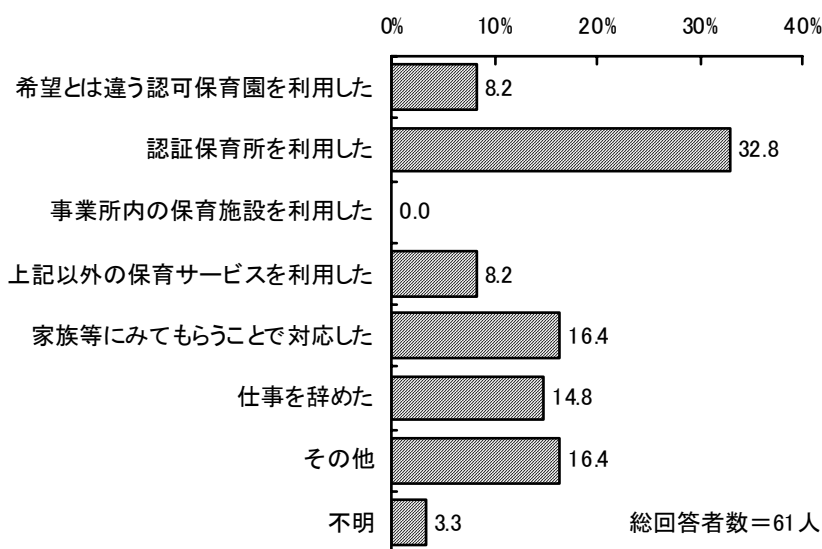
[乳幼児保護者調査]

育児休業制度を『利用した』人に育児休業復帰時の保育サービス利便性をたずねたところ、「育児休業期間を調整したので、利用できた」がもっとも高く 29.5%と約3割を占め、次いで「育児休業期間を調整せずに利用できた」23.8%となっている。また、19.1%が「利用できなかった」と回答している。

④希望する保育サービスを利用できなかった際の対応

「3. 利用できなかった」に○をした方にうかがいます。どのように対応しましたか。(1つに○)

図表Ⅱ-44 希望する保育サービスを利用できなかった際の対応(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

希望するサービスを「利用できなかった」際の対応は、「認証保育所を利用した」がもっとも高い 32.8%、次いで「家族等にみてもらうことで対応した」16.4%、「その他」16.4%、「仕事を辞めた」14.8%の順となっている。

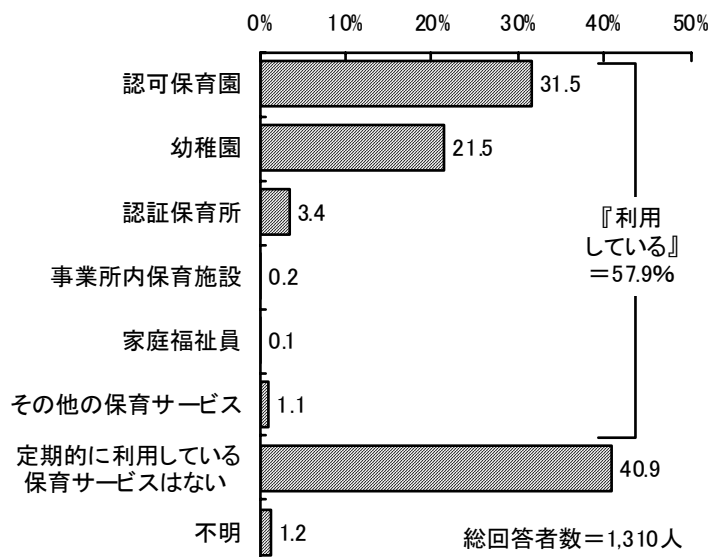
「その他」は、「職場に連れて行った」「仕事を休業した」などとなっている。

4. 乳幼児の日常生活と保育サービス等の利用状況・利用意向

(1) 保育サービスの利用状況(乳幼児:問14)

日ごろ、あて名のお子さんは定期的に保育サービス等を利用していますか。
(主なもの1つだけに○)

図表Ⅱ-45 保育サービスの利用状況(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

定期的な保育サービスの利用状況については、「定期的にご利用している保育サービスはない」が約4割を占め、保育サービスを定期的に『利用している』(100%から「定期的にご利用している保育サービスはない」と「不明」を除いた割合)は、57.9%となっている。

具体的には、「認可保育園」31.5%、「幼稚園」21.5%、「認証保育所」3.4%の順となっている。

子どもの年齢別にみると、「定期的にご利用している保育サービスはない」割合は、満0歳の9割台から2歳児では約半数となる。保育サービスの利用状況をみると、0歳児の約2割、1歳児の約3割、2歳児の4割弱が「認可保育園」を利用していると回答している。3歳児以上では「幼稚園」がもっとも高い割合を占め、3・4歳児では4割台、5歳児では5割台となっている。

居住地域別にみると、「認可保育園」を利用している割合は、A・B・C・Eブロック、「定期的にご利用している保育サービスはない」は、D・F・Hブロックが、それぞれ、他の地域に比べて高い割合となっている。

両親の就労形態別にみると、フルタイム共働き家庭の6割台、ひとり親及びフルタイム・パート共働き家庭の5割台が「認可保育園」を利用していると回答している。専業主婦(夫)家庭では「定期的にご利用している保育サービスはない」が6割台、次いで「幼稚園」が3割強となっている。

図表Ⅱ-46 保育サービスの利用状況

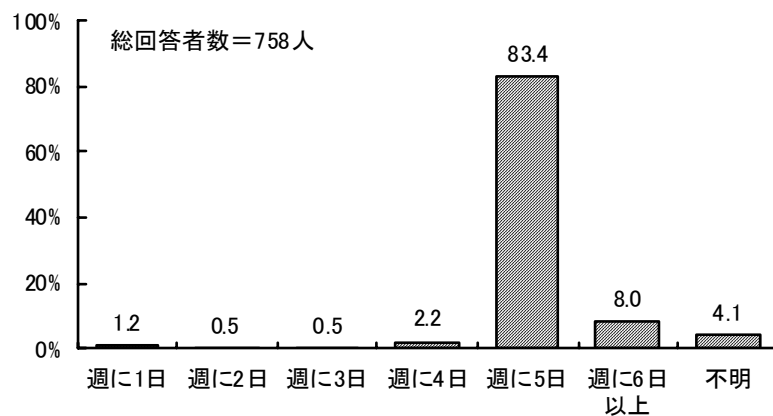
			総 回 答 者 数 (人)	認 可 保 育 園	幼 稚 園	認 証 保 育 所	事 業 所 内 保 育 施 設	家 庭 福 祉 員	そ の 他 の 保 育 サ ー ビ ス	定 期 的 に 利 用 し て い る 保 育 サ ー ビ ス は な い	不 明	『利 用 し て い る』
乳 幼 児 保 護 者 調 査	全 体		1,310	31.5	21.5	3.4	0.2	0.1	1.1	40.9	1.2	57.9
	子 ど も の 年 齢 別	満 0 歳	153	3.9	0.0	2.0	0.0	0.0	1.3	91.5	1.3	7.2
		0 歳児	191	19.9	0.0	5.8	0.0	0.0	0.0	73.3	1.0	25.7
		1 歳児	180	30.6	0.0	5.6	0.0	0.0	2.8	59.4	1.7	38.9
		2 歳児	202	37.6	3.0	6.4	1.0	0.5	1.5	49.5	0.5	50.0
		3 歳児	191	40.3	40.3	3.7	0.0	0.0	1.0	13.1	1.6	85.3
		4 歳児	199	44.7	47.2	0.5	0.0	0.0	1.5	5.0	1.0	94.0
		5 歳児	187	37.4	55.1	0.0	0.0	0.0	0.0	6.4	1.1	92.5
	居 住 地 域 別	Aブロック	143	44.8	16.8	1.4	0.0	0.0	1.4	35.7	0.0	64.3
		Bブロック	155	36.8	21.3	0.6	0.6	0.6	0.0	38.1	1.9	60.0
		Cブロック	119	35.3	24.4	1.7	0.0	0.0	0.0	37.0	1.7	61.3
		Dブロック	164	25.6	20.7	6.1	0.6	0.0	0.6	45.7	0.6	53.7
		Eブロック	172	34.9	24.4	2.9	0.0	0.0	0.0	37.8	0.0	62.2
		Fブロック	178	24.2	20.8	5.1	0.0	0.0	2.8	45.5	1.7	52.8
		Gブロック	168	28.0	27.4	5.4	0.0	0.0	1.8	36.3	1.2	62.5
		Hブロック	202	27.2	17.3	3.5	0.0	0.0	2.0	48.0	2.0	50.0
	両 親 の 就 労 形 態 別	ひとり親	48	56.3	12.5	2.1	0.0	0.0	4.2	22.9	2.1	75.0
		フルタイム共働き	348	64.9	3.2	5.7	0.3	0.0	1.7	24.1	0.0	75.9
		フルタイム・パート共働き	251	54.2	24.3	6.4	0.4	0.4	0.4	13.1	0.8	86.1
		専業主婦(夫)	623	2.4	31.8	0.8	0.0	0.0	1.0	62.6	1.4	36.0
		その他	17	17.6	5.9	11.8	0.0	0.0	0.0	52.9	11.8	35.3

※:『利用している』=100%-「定期的に利用している保育サービスはない」-「不明」

(2) 保育サービスの利用日数(乳幼児:問15)

問 14 で○をした保育サービスは、1 週間あたり何日利用していますか。(1つに○)

図表Ⅱ-47 保育サービスの利用日数(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

保育サービスを定期的に『利用している』と回答した人の利用頻度は、「週に5日」が83.4%を占める。また、「週に6日以上」という回答が8.0%みられた。

図表Ⅱ-48 保育サービスの利用日数

		総回答者数(人)	週に1日	週に2日	週に3日	週に4日	週に5日	週に6日以上	不明
乳幼児保護者調査	全 体	758	1.2	0.5	0.5	2.2	83.4	8.0	4.1
	認可保育園	413	0.7	0.0	0.0	2.7	82.8	11.4	2.4
	認証保育所	45	4.4	4.4	2.2	11.1	62.2	11.1	4.4
	家庭福祉員	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	事業所内保育施設	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	幼稚園	282	0.7	0.0	0.4	0.0	91.5	1.4	6.0
	その他の保育サービス	15	13.3	13.3	13.3	0.0	26.7	20.0	13.3

[乳幼児保護者調査]

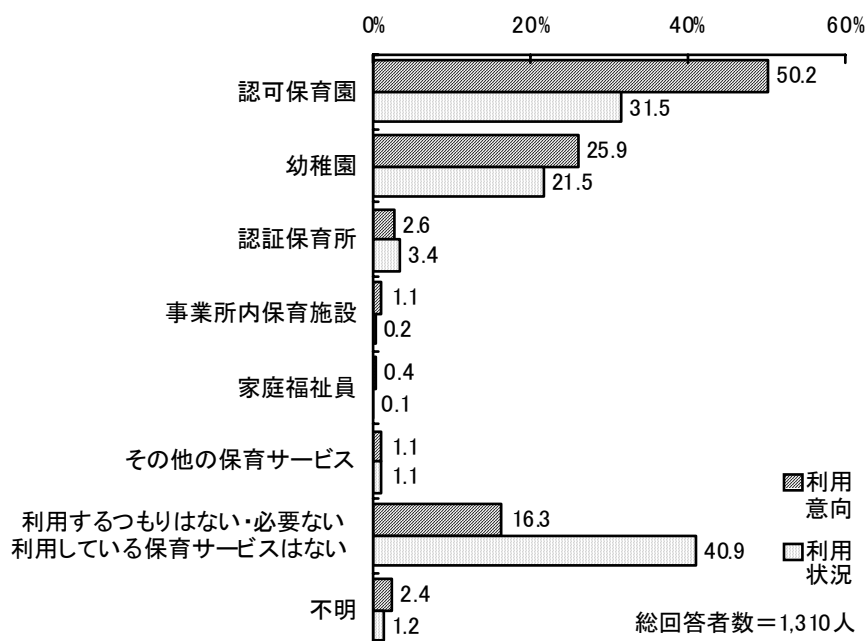
保育サービスの利用状況別にみると、認可保育園利用者は「週に5日」が8割台であり、また、11.4%が「週に6日以上」と回答している。幼稚園利用者は91.5%が「週に5日」となっている。

(3) 今後の保育サービス利用意向(乳幼児:問17～問17-2)

① 保育サービスの利用意向

あて名のお子さんの、定期的な保育サービスの利用について、実際にはどのようにしたいと考えていますか。現在の状況を続けたい場合は現在と同じ番号に○、今は預けていないができれば預けたい、預け先を変更したい場合は、主な希望1つだけを選び○をしてください。

図表Ⅱ-49 保育サービスの利用意向(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

定期的な保育サービスの利用意向をみると、50.2%と約半数が「認可保育園」を希望しているのに次いで、「幼稚園」が25.9%、「認証保育所」が2.6%となっている。

定期的な保育サービスを「利用するつもりはない・必要ない」は16.3%であり、実際の利用状況に比べて、認可保育園をはじめとする保育サービスの利用意向が高いことがわかる。

子どもの年齢別にみると、満0歳・0歳児では「認可保育園」を5割台が希望しており、定期的な保育サービスを「利用するつもりはない・必要ない」は3割台となっている。1歳児では6割が「認可保育園」を希望している。2～4歳児では「認可保育園」希望者の割合は4割台、「幼稚園」希望者の割合が3～4割台となる。5歳児では「幼稚園」を5割強、「認可保育園」を4割弱が希望している。

居住地域別にみると、「認可保育園」希望者は、A・B・C・E・Hブロックで5割台を占め、他の地域に比べて高い割合となっている。「幼稚園」希望者は、Gブロックがもっとも高く3割台を占める。

両親の就労形態別にみると、フルタイム共働き家庭の8割台、ひとり親家庭の7割台、フルタイム・パート共働き家庭の6割台が「認可保育園」の利用を希望している。専業主婦（夫）家庭では「幼稚園」を約4割が希望しているのに次いで、「利用するつもりはない・必要ない」が約3割となっている。

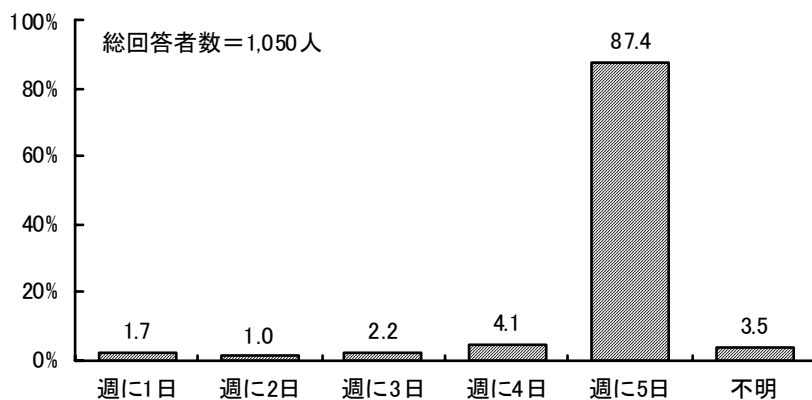
図表Ⅱ-50 保育サービスの利用意向

		総回答者数(人)	認可保育園	幼稚園	認証保育所	事業所内保育施設	家庭福祉員	その他の保育サービス	利用するつもりはない・必要ない	不明
乳幼児保護者調査	全 体	1,310	50.2	25.9	2.6	1.1	0.4	1.1	16.3	2.4
	子どもの年齢別	満0歳	153	56.2	0.7	2.6	0.0	0.0	0.7	1.3
		0歳児	191	56.0	1.0	4.2	2.6	0.5	2.1	1.6
		1歳児	180	60.0	0.6	5.6	0.0	0.6	1.7	3.3
		2歳児	202	48.0	32.7	3.0	1.5	0.5	1.5	2.0
		3歳児	191	46.1	41.4	2.1	1.6	1.0	4.2	2.6
		4歳児	199	48.7	45.7	0.5	1.0	0.0	0.5	1.0
		5歳児	187	38.0	52.4	0.5	1.1	0.0	0.5	3.7
	居住地域別	Aブロック	143	53.8	23.8	1.4	1.4	0.0	1.4	2.1
		Bブロック	155	53.5	21.3	1.3	1.3	0.6	1.3	2.6
		Cブロック	119	51.3	28.6	1.7	1.7	0.0	0.8	4.2
		Dブロック	164	44.5	28.0	4.3	0.6	0.0	20.1	2.4
		Eブロック	172	52.3	26.2	1.7	1.2	0.0	14.5	4.1
		Fブロック	178	49.4	28.1	3.4	0.6	0.6	16.3	1.1
		Gブロック	168	42.9	32.1	3.6	1.2	0.0	17.3	0.0
		Hブロック	202	54.0	19.8	3.0	1.5	1.5	15.8	2.5
	両親の就労形態別	ひとり親	48	77.1	10.4	2.1	0.0	0.0	4.2	4.2
		フルタイム共働き	348	84.8	4.0	3.2	1.4	0.3	4.3	1.4
		フルタイム・パート共働き	251	64.5	23.9	2.8	1.2	0.0	4.4	2.8
		専業主婦(夫)	623	23.4	39.8	2.2	1.0	0.6	29.1	2.1
		その他	17	52.9	23.5	5.9	0.0	0.0	11.8	5.9

②保育サービス等の利用希望頻度と時間帯

預け(続け)たいと思う日数・時間帯はいつですか。現在利用できる(している)状況にかかわらず、①～③それぞれについて希望をお答えください。

図表Ⅱ-51 ①平日利用希望頻度(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

保育サービスの定期的な利用意向を示した人の平日の利用希望頻度は、「週に5日」が87.4%を占める。

図表Ⅱ-52 ①平日利用希望頻度

		総回答者数(人)	週に1日	週に2日	週に3日	週に4日	週に5日	不明
乳幼児保護者調査	全 体	1,050	1.7	1.0	2.2	4.1	87.4	3.5
	認可保育園	657	1.4	1.2	2.1	5.3	87.7	2.3
	認証保育所	34	11.8	2.9	11.8	8.8	58.8	5.9
	家庭福祉員	5	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0
	事業所内保育施設	15	6.7	0.0	13.3	6.7	73.3	0.0
	幼稚園	339	0.9	0.6	0.9	1.2	90.6	5.9

[乳幼児保護者調査]

保育サービスの利用意向別にみると、認可保育園希望者では9割弱、幼稚園希望者では約9割が、「週に5日」の利用を希望している。

図表Ⅱ-53 平日希望開始時間

			総 回 答 者 数 (人)	7 時 以 前	7 時 台	8 時 台	9 時 台	10 時 台	11 時 以 降	不 明
乳 幼 児 保 護 者 調 査	全 体		1,013	0.3	12.0	35.0	47.1	2.9	1.1	1.6
	保 育 サ ー ビ ス の 利 用 意 向 別	認可保育園	642	0.5	17.3	44.7	34.0	1.7	0.6	1.2
		認証保育所	32	0.0	12.5	34.4	37.5	12.5	3.1	0.0
		家庭福祉員	5	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0
		事業所内保育施設	15	0.0	26.7	20.0	33.3	13.3	0.0	6.7
		幼稚園	319	0.0	0.9	16.0	75.5	3.8	1.6	2.2

〔 乳幼児保護者調査 〕

平日の希望開始時間を保育サービスの利用意向別にみると、認可保育園希望者は「8 時台」「9 時台」の順に割合が高い。また、2 割弱が『8 時以前』（「7 時以前」と「7 時台」を合わせた割合）を希望している。幼稚園希望者は7 割台が「9 時台」を希望している。

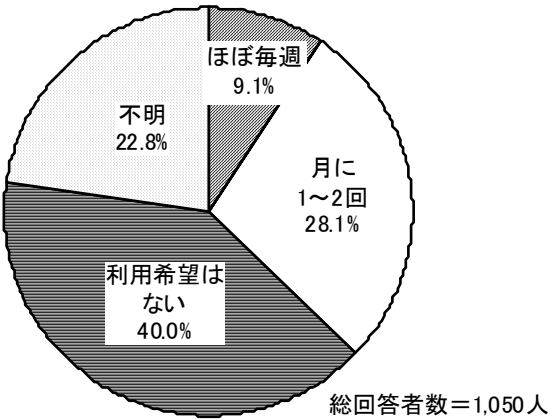
図表Ⅱ-54 平日希望終了時間

			総 回 答 者 数 (人)	15 時 以 前	15 時 台	16 時 台	17 時 台	18 時 台	19 時 以 降	不 明
乳 幼 児 保 護 者 調 査	全 体		1,013	10.2	15.1	13.6	22.1	22.6	14.7	1.7
	保 育 サ ー ビ ス の 利 用 意 向 別	認可保育園	642	1.7	2.8	11.8	28.2	33.2	21.0	1.2
		認証保育所	32	6.3	3.1	25.0	18.8	21.9	25.0	0.0
		家庭福祉員	5	20.0	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0
		事業所内保育施設	15	0.0	20.0	6.7	13.3	20.0	33.3	6.7
		幼稚園	319	27.9	40.8	16.6	10.0	1.9	0.3	2.5

〔 乳幼児保護者調査 〕

平日の希望終了時間を保育サービスの利用意向別にみると、認可保育園希望者は「18 時台」「17 時台」の順に割合が高く、また、「19 時以降」を2 割強が希望している。幼稚園希望者は「15 時台」が4 割を占め、次いで「15 時以前」が続いている。

図表Ⅱ-55 ②土曜日利用希望頻度(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

保育サービスの定期的な利用意向を示した人の土曜日の利用希望は、「利用希望はない」が4割を占め、「月に1~2回」28.1%、「ほぼ毎週」9.1%を合わせた37.2%が利用意向を示している。

図表Ⅱ-56 ②土曜日利用希望頻度

			総回答者数(人)	ほぼ毎週	月に1~2回	利用希望はない	不明
乳幼児保護者調査	全 体		1,050	9.1	28.1	40.0	22.8
	保育サービスの利用意向別	認可保育園	657	11.6	30.4	36.5	21.5
		認証保育所	34	11.8	17.6	35.3	35.3
		家庭福祉員	5	0.0	40.0	40.0	20.0
		事業所内保育施設	15	13.3	33.3	46.7	6.7
		幼稚園	339	4.1	24.2	46.9	24.8

[乳幼児保護者調査]

保育サービスの利用意向別にみると、認可保育園希望者の42.0%、幼稚園希望者では28.3%が土曜日の利用を希望している。

図表Ⅱ-57 土曜日希望開始時間

			総 回 答 者 数 (人)	7 時 以 前	7 時 台	8 時 台	9 時 台	10 時 台	11 時 以 降	不 明
乳 幼 児 保 護 者 調 査	全 体		391	0.3	9.7	31.2	48.1	4.9	1.0	4.9
	保 育 サ ー ビ ス の 利 用 意 向 別	認可保育園	276	0.4	12.7	37.3	42.0	3.3	0.7	3.6
		認証保育所	10	0.0	10.0	10.0	20.0	20.0	10.0	30.0
		家庭福祉員	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		事業所内保育施設	7	0.0	28.6	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0
		幼稚園	96	0.0	0.0	15.6	69.8	7.3	1.0	6.3

〔 乳幼児保護者調査 〕

土曜日の希望開始時間を保育サービスの利用意向別にみると、認可保育園希望者は「9 時台」「8 時台」の順に割合が高い。『8 時以前』（「7 時以前」と「7 時台」を合わせた割合）の希望は1割強である。幼稚園希望者は約7割が「9 時台」を希望している。

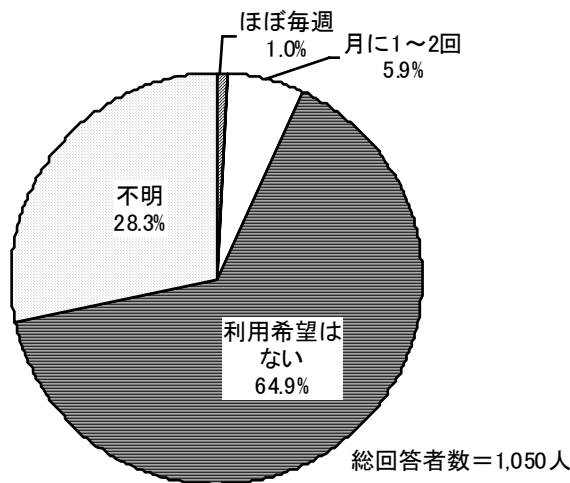
図表Ⅱ-58 土曜日希望終了時間

			総 回 答 者 数 (人)	15 時 以 前	15 時 台	16 時 台	17 時 台	18 時 台	19 時 以 降	不 明
乳 幼 児 保 護 者 調 査	全 体		391	17.6	9.2	14.1	24.0	19.2	11.0	4.9
	保 育 サ ー ビ ス の 利 用 意 向 別	認可保育園	276	5.1	5.8	15.2	30.1	25.4	14.9	3.6
		認証保育所	10	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	10.0	30.0
		家庭福祉員	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		事業所内保育施設	7	14.3	28.6	0.0	14.3	28.6	14.3	0.0
		幼稚園	96	56.3	18.8	9.4	8.3	1.0	0.0	6.3

〔 乳幼児保護者調査 〕

土曜日の希望終了時間を保育サービスの利用意向別にみると、認可保育園希望者は「17 時台」「18 時台」の順に割合が高い。また、「19 時以降」の希望は14.9%である。幼稚園希望者は過半数が「15 時以前」となっている。

図表Ⅱ-59 ③日曜日利用希望頻度(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

保育サービスの定期的な利用意向を示した人の日曜日の利用希望は、「利用希望はない」が 64.9%を占め、利用意向を示した人の割合は「月に1~2回」5.9%、「ほぼ毎週」1.0%を合わせた 6.9%となっている。

図表Ⅱ-60 ③日曜日利用希望頻度

			総回答者数(人)	ほぼ毎週	月に1~2回	利用希望はない	不明
乳幼児保護者調査	全 体		1,050	1.0	5.9	64.9	28.3
	保育サービスの利用意向別	認可保育園	657	1.4	8.1	62.1	28.5
		認証保育所	34	0.0	2.9	52.9	44.1
		家庭福祉員	5	0.0	0.0	60.0	40.0
		事業所内保育施設	15	0.0	20.0	60.0	20.0
		幼稚園	339	0.3	1.5	71.7	26.5

[乳幼児保護者調査]

保育サービスの利用意向別にみると、認可保育園希望者の 9.5%、幼稚園希望者においても 1.8%が日曜日の利用を希望している。

図表Ⅱ-61 日曜日希望開始時間

			総 回 答 者 数 (人)	7 時 以 前	7 時 台	8 時 台	9 時 台	10 時 台	11 時 以 降	不 明
乳 幼 児 保 護 者 調 査	全 体		72	0.0	15.3	29.2	38.9	9.7	2.8	4.2
	保 育 サ ー ビ ス の 利 用 意 向 別	認可保育園	62	0.0	16.1	32.3	38.7	8.1	1.6	3.2
		認証保育所	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		家庭福祉員	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		事業所内保育施設	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
		幼稚園	6	0.0	0.0	0.0	50.0	33.3	16.7	0.0

〔 乳幼児保護者調査 〕

日曜日の希望開始時間を保育サービスの利用意向別にみると、認可保育園希望者は「9 時台」「8 時台」の順に割合が高い。『8 時以前』（「7 時以前」と「7 時台」を合わせた割合）の希望は 16.1%である。

図表Ⅱ-62 日曜日希望終了時間

			総 回 答 者 数 (人)	15 時 以 前	15 時 台	16 時 台	17 時 台	18 時 台	19 時 以 降	不 明
乳 幼 児 保 護 者 調 査	全 体		72	9.7	4.2	11.1	25.0	25.0	20.8	4.2
	保 育 サ ー ビ ス の 利 用 意 向 別	認可保育園	62	8.1	4.8	8.1	27.4	25.8	22.6	3.2
		認証保育所	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		家庭福祉員	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		事業所内保育施設	3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0
		幼稚園	6	33.3	0.0	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0

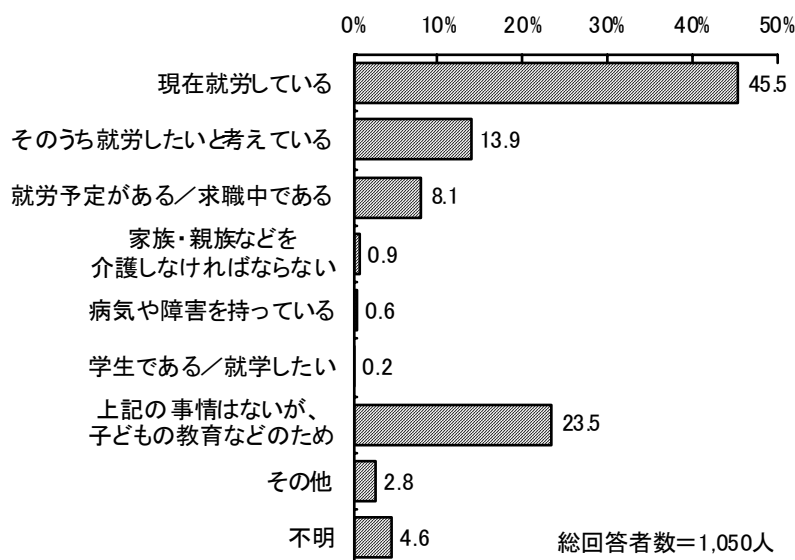
〔 乳幼児保護者調査 〕

日曜日の希望終了時間を保育サービスの利用意向別にみると、認可保育園希望者は「17 時台」「18 時台」の順に割合が高い。また、「19 時以降」の希望が 2 割台となっている。

③保育サービスを利用したい理由

保育サービスを利用し(続け)たい理由は何ですか。(主な理由1つだけに○)

図表Ⅱ-63 保育サービスを利用したい理由(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

保育サービスの定期的な利用意向を示した人の、利用したい理由は、「現在就労している」45.5%、「上記の事情はないが、子どもの教育などのため」23.5%、「そのうち就労したいと考えている」13.9%、「就労予定がある／求職中である」8.1%の順となっている。

図表Ⅱ-64 保育サービスを利用したい理由

		総回答者数(人)	現在就労している	そのうち就労したいと考えている	就労予定がある／求職中である	家族・親族などを介護しなければならない	病気や障害を持っている	学生である／就学したい	左記の事情はないが、子どもの教育などのため	その他	不明
乳幼児保護者調査	全体	1,050	45.5	13.9	8.1	0.9	0.6	0.2	23.5	2.8	4.6
	認可保育園	657	64.8	12.5	11.4	1.1	0.9	0.0	2.9	2.1	4.3
	認証保育所	34	47.1	23.5	2.9	0.0	0.0	2.9	8.8	8.8	5.9
	家庭福祉員	5	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	事業所内保育施設	15	26.7	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0
	幼稚園	339	9.1	13.6	1.8	0.6	0.0	0.3	66.4	2.9	5.3

[乳幼児保護者調査]

保育サービスの利用意向別にみると、認可保育園希望者においては「現在就労している」が64.8%を占めるのに次いで、「そのうち就労したいと考えている」「就労予定がある／求職中である」もそれぞれ1割台となっている。幼稚園希望者においては「左記の事情はないが、子どもの教育などのため」が66.4%を占めるのに次いで、「そのうち就労したいと考えている」が1割台からあげられている。

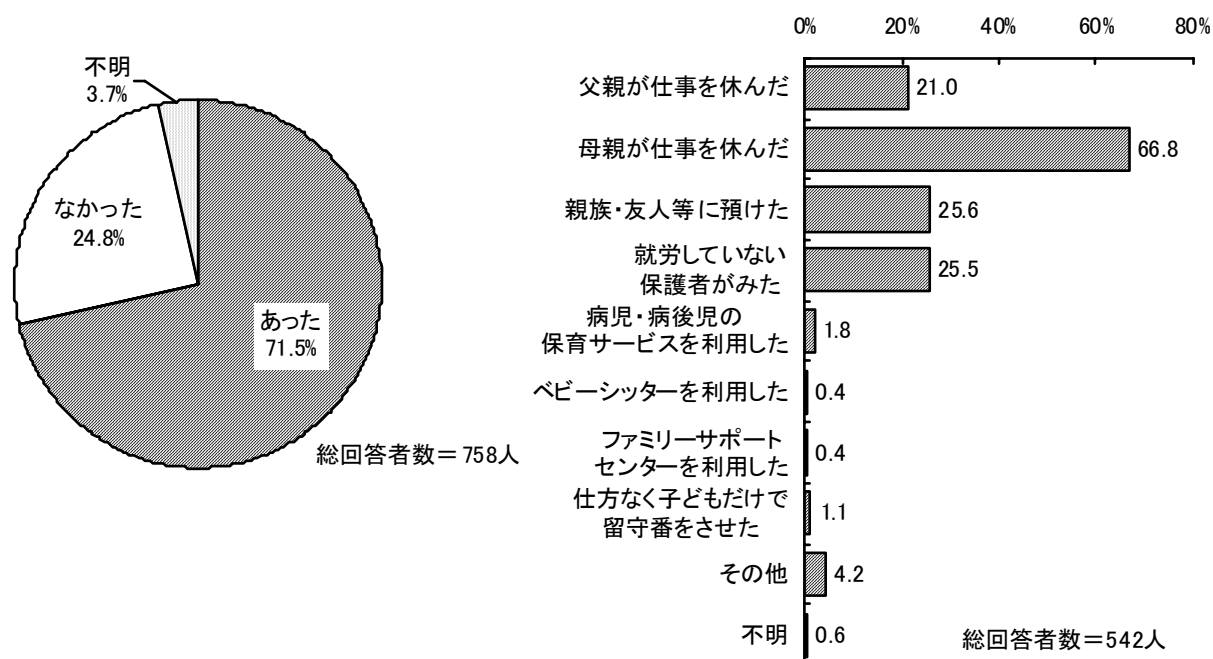
(4) 病気等で保育サービスを利用できなかった経験と対応(乳幼児:問16～問16-2)

この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで、問14で○をした保育サービスを利用できなかったことはありますか。(1つに○)

「1. あった」に○をした方にうかがいます。この1年間の対処方法すべてに○をし、それぞれのおおむねの日数をご記入ください。(半日程度も1日とカウントしてください)

「1～3」に○をした方にうかがいます。そのうち、できれば病児・病後児を預かってくれる保育サービスを利用したいと思われた日数は、どれくらいありますか。(数字を記入)

図表Ⅱ-65 病気等で保育サービスを利用できなかった経験(単数回答)・その際の対応(複数回答)



図表Ⅱ-66 病気等で保育サービスを利用できなかった際の対応ごとの日数(年間)

	総回答者数	平均日数	最長日数	最短日数
父親が仕事を休んだ	114 人	4.3 日	20 日	1 日
母親が仕事を休んだ	362 人	11.5 日	90 日	1 日
親族・友人等に預けた	139 人	10.0 日	150 日	1 日
就労していない保護者がみた	138 人	9.5 日	40 日	1 日
病児・病後児の保育サービスを利用した	10 人	8.8 日	30 日	1 日
ベビーシッターを利用した	2 人	2.0 日	3 日	1 日
ファミリーサポートセンターを利用した	2 人	4.0 日	7 日	1 日
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	6 人	2.0 日	5 日	1 日
その他	23 人	6.0 日	20 日	1 日

〔 乳幼児保護者調査 〕

保育サービスを定期的に『利用している』と回答した人の 71.5%が、病気やケガで保育サービスを利用できない経験が「あった」と回答している。

「あった」と回答した人の対処方法は、「母親が仕事を休んだ」66.8%がもっとも高く、「親族・友人等に預けた」25.6%、「就労していない保護者がみた」25.5%、「父親が仕事を休んだ」21.0%の順となっている。

図表Ⅱ-67 病気等で保育サービスを利用できなかった経験

		総回答者数(人)	あった	なかった	不明
乳幼児保護者調査	全 体	758	71.5	24.8	3.7
	満 0 歳	11	27.3	54.5	18.2
	0 歳児	49	87.8	8.2	4.1
	1 歳児	70	84.3	11.4	4.3
	2 歳児	101	79.2	18.8	2.0
	3 歳児	163	70.6	25.8	3.7
	4 歳児	187	69.0	29.4	1.6
	5 歳児	173	63.6	30.6	5.8

〔 乳幼児保護者調査 〕

子どもの年齢別にみると、病気やケガで保育サービスを利用できない経験が「あった」割合は、子どもが 0・1 歳児の場合に 8 割台を占め、他の年齢層に比べて高くなっている。

図表Ⅱ-68 病児・病後児保育サービスの利用希望日数(年間)

総回答者数	389 人
平均日数	6.8 日
最長日数	53 日
最短日数	0 日

〔 乳幼児保護者調査 〕

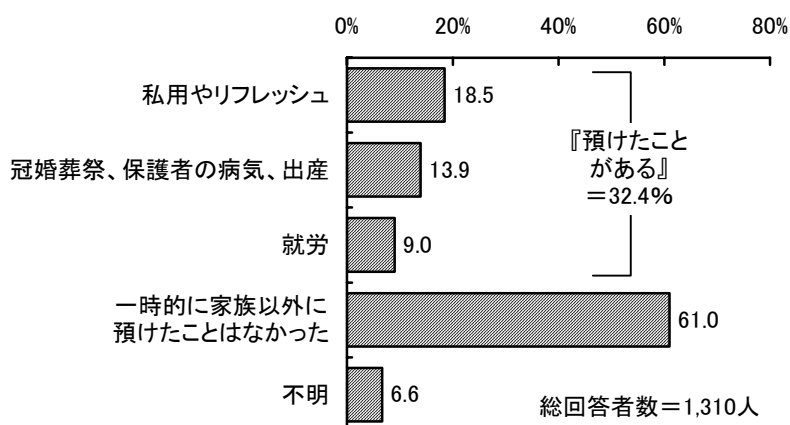
「母親が仕事を休んだ」「父親が仕事を休んだ」「親族・友人等に預けた」と回答した人に、そのうち病児・病後児保育サービスを利用したいと思った日数をたずねたところ、平均 6.8 日となっている。

(5) 短期間の支援が必要となった経験(乳幼児:問18・問19)

① 短期間の支援が必要となった経験

この1年間に、1～3 のような事情により、あて名のお子さんを一時的に家族以外に預けたことはありましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-69 短期間の支援が必要となった経験(複数回答)



図表Ⅱ-70 短期間の支援が必要となった日数(年間)

	総回答者数	平均日数	最長日数	最短日数
私用やリフレッシュ	242 人	8.4 日	70 日	1 日
冠婚葬祭、保護者の病気、出産	182 人	10.1 日	150 日	1 日
就労	118 人	13.0 日	165 日	1 日

[乳幼児保護者調査]

子どもを一時的に家族以外に預けた経験については、32.4%が『預けたことがある』(100%から「一時的に家族以外に預けたことはなかった」と「不明」を除いた割合)と回答している。

一時的に家族以外に預けた理由として、「私用やリフレッシュ」は18.5%、「冠婚葬祭、保護者の病気、出産」は13.9%、「就労」は9.0%となっている。

図表Ⅱ-71 短期間の支援が必要となった経験

			総回答者数(人)	私用やリフレッシュ	冠婚葬祭、保護者の病気、出産	就労	一時的に家族以外に預けたことはなかった	不明	『預けたことがある』
乳幼児保護者調査	全 体		1,310	18.5	13.9	9.0	61.0	6.6	32.4
	子どもの年齢別	満0歳	153	12.4	7.2	4.6	77.1	3.3	19.6
		0歳児	191	18.3	13.6	8.4	62.8	6.8	30.4
		1歳児	180	18.3	13.3	6.7	62.8	7.8	29.4
		2歳児	202	19.3	20.8	7.4	59.9	3.0	37.1
		3歳児	191	16.8	17.3	14.1	56.0	7.3	36.7
		4歳児	199	16.6	11.1	9.0	61.3	8.5	30.2
		5歳児	187	27.3	12.3	11.8	50.8	8.6	40.6

※:『預けたことがある』=100%-「一時的に家族以外に預けたことはなかった」-「不明」

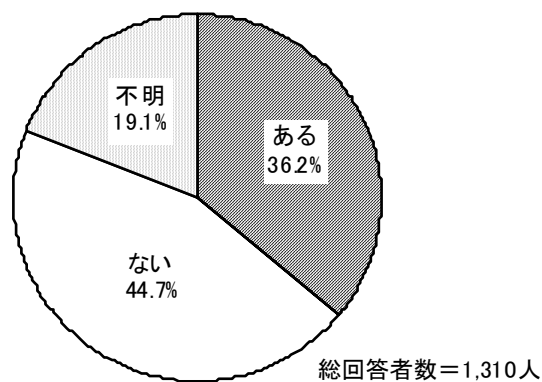
[乳幼児保護者調査]

子どもの年齢別にみると、子どもを一時的に家族以外に『預けたことがある』割合は、5歳児の場合がもっとも高く約4割を占めている。

②一時保育サービスの利用意向

問 18 で記入した日数以外に、一時的に預かってくれる保育サービスを利用できればよかったと思われる日数は、どのくらいありますか。

図表Ⅱ-72 一時保育サービスの利用意向(単数回答) ・ 一時保育サービスの利用希望日数



総回答者数	474 人
平均日数	12.6 日
最長日数	100 日
最短日数	0 日

[乳幼児保護者調査]

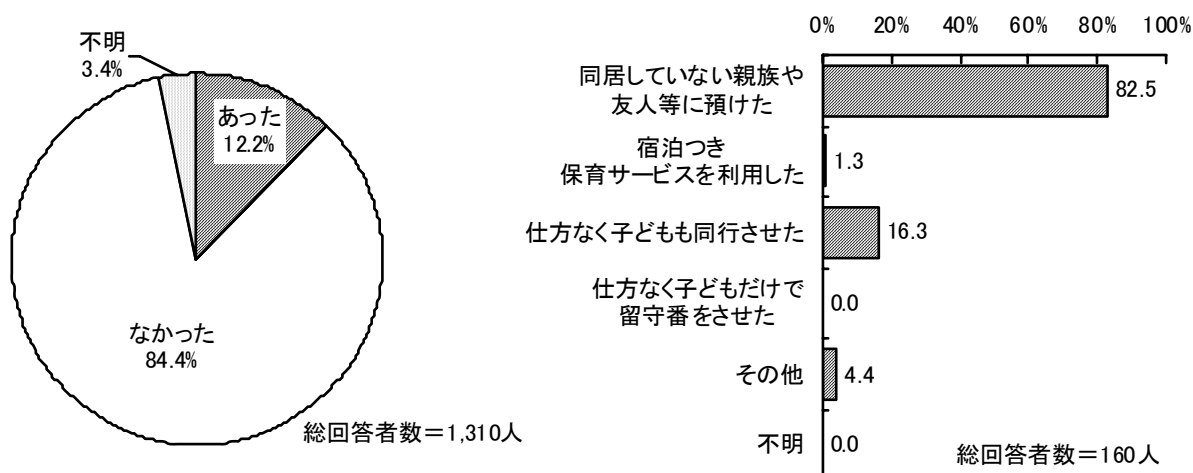
問 18 で記入した日数以外に、一時保育サービスを利用できればよかったと思う日数が「ある」は 36.2%であり、その日数は年間平均 12.6 日となっている。

(6)数日間の支援が必要となった経験と対応(乳幼児:問20～問20-2)

①数日間の支援が必要となった経験と対応

この1年間に、保護者の用事などにより、あて名のお子さんを泊まりがけで家族以外に預けなければならなかったことはありましたか。(1つに○)
 「1. あった」に○をした方にうかがいます。
 この1年間の対処方法すべてに○をし、それぞれのおおむねの日数をご記入ください。

図表Ⅱ-73 数日間の支援が必要となった経験(単数回答)・その際の対応(複数回答)



図表Ⅱ-74 数日間の支援が必要となった際の対応ごとの日数(年間)

	総回答者数	平均日数	最長日数	最短日数
同居していない親族や友人等に預けた	132 人	9.5 日	100 日	1 日
宿泊つき保育サービスを利用した	2 人	18.5 日	35 日	2 日
仕方なく子どもも同行させた	26 人	3.3 日	10 日	1 日
その他	7 人	4.5 日	7 日	2 日

[乳幼児保護者調査]

子どもを泊まりがけで家族以外に預けた経験について、「あった」は12.2%となっている。

「あった」と回答した人の対処方法は、「同居していない親族や友人等に預けた」が82.5%であり、そのほか、「仕方なく子どもも同行させた」16.3%などとなっている。

図表Ⅱ-75 数日間の支援が必要となった経験

			総回答者数（人）	あった	なかった	不明
乳幼児保護者調査	全 体		1,310	12.2	84.4	3.4
	子どもの年齢別	満 0 歳	153	6.5	88.2	5.2
		0 歳児	191	6.8	90.6	2.6
		1 歳児	180	11.7	86.1	2.2
		2 歳児	202	17.8	80.2	2.0
		3 歳児	191	18.3	77.5	4.2
		4 歳児	199	10.6	86.4	3.0
		5 歳児	187	12.8	84.0	3.2

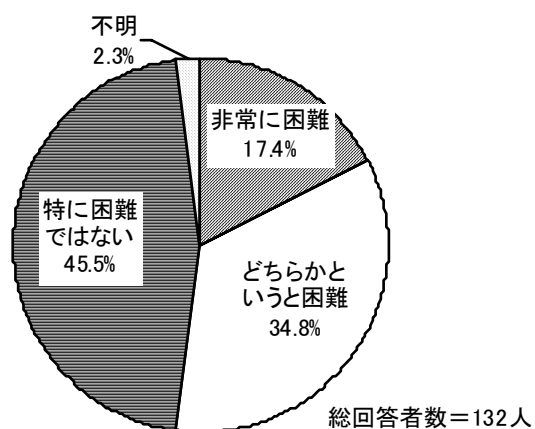
〔乳幼児保護者調査〕

子どもの年齢別にみると、子どもを泊まりがけで家族以外に預けた経験が「あった」割合は、2・3歳児の場合に2割弱を占め、他に比べて高くあらわれている。

②同居していない親族や友人等に預ける場合の困難度

「1. 同居していない親族や友人等に預けた」に○をした方にうかがいます。
その場合の困難度はどの程度でしたか。(1つに○)

図表Ⅱ-76 同居していない親族や友人等に預ける場合の困難度(単数回答)



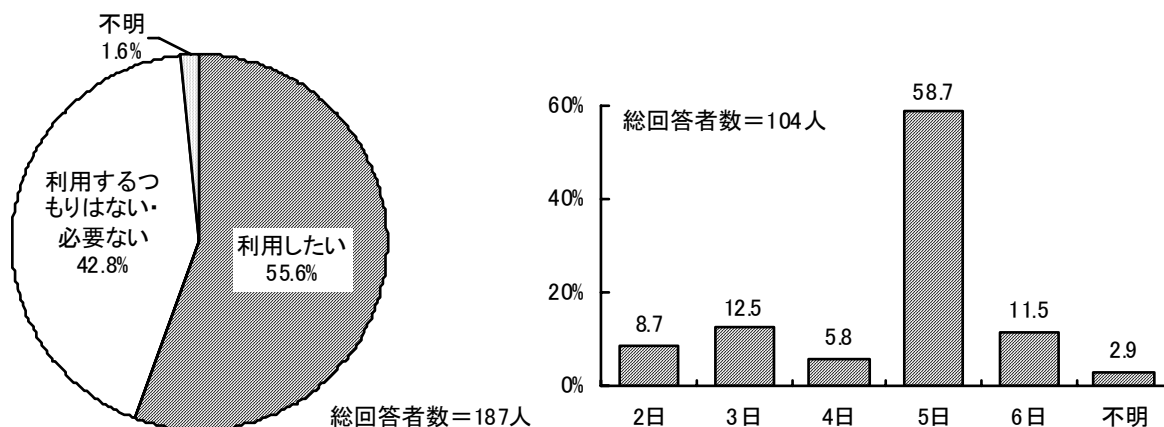
〔乳幼児保護者調査〕

「同居していない親族や友人等に預けた」と回答した人について、その場合の困難度をたずねたところ、「特に困難ではない」が45.5%を占める一方、「どちらかという困難」が34.8%、「非常に困難」が17.4%となっている。

(7)学童クラブの利用意向と希望設置場所(乳幼児:問21・問21-1)

あて名のお子さんについて、小学校入学以降、放課後に学童クラブを利用したいですか。
(1つに○)
「1. 利用したい」に○をした方にうかがいます。学童クラブは、どのような場所にあるとよいと思いますか。(1つに○)

図表Ⅱ-77 学童クラブの利用意向(単数回答)・学童クラブの利用希望日数(単数回答)

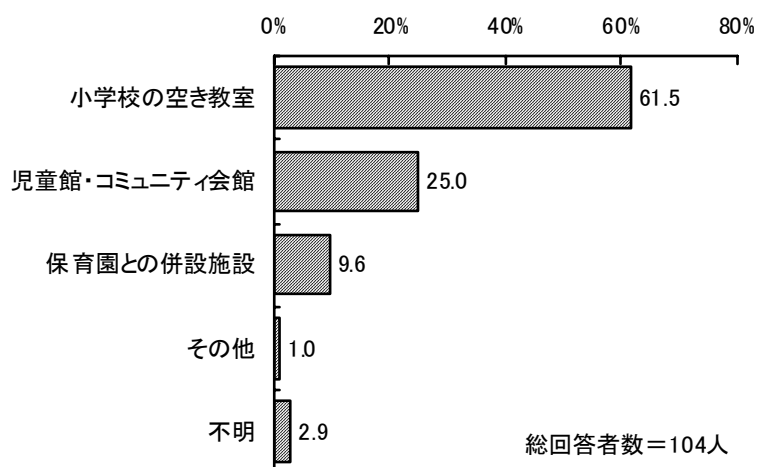


[乳幼児保護者調査]

来年度就学予定の子どもがいる場合に、学童クラブの利用意向をたずねたところ、「利用したい」は55.6%、半数強となっている。

「利用したい」場合の利用希望日数は「5日」が58.7%、次いで「3日」12.5%であり、「6日」を希望する割合も11.5%と1割強を占める。

図表Ⅱ-78 学童クラブの希望設置場所(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

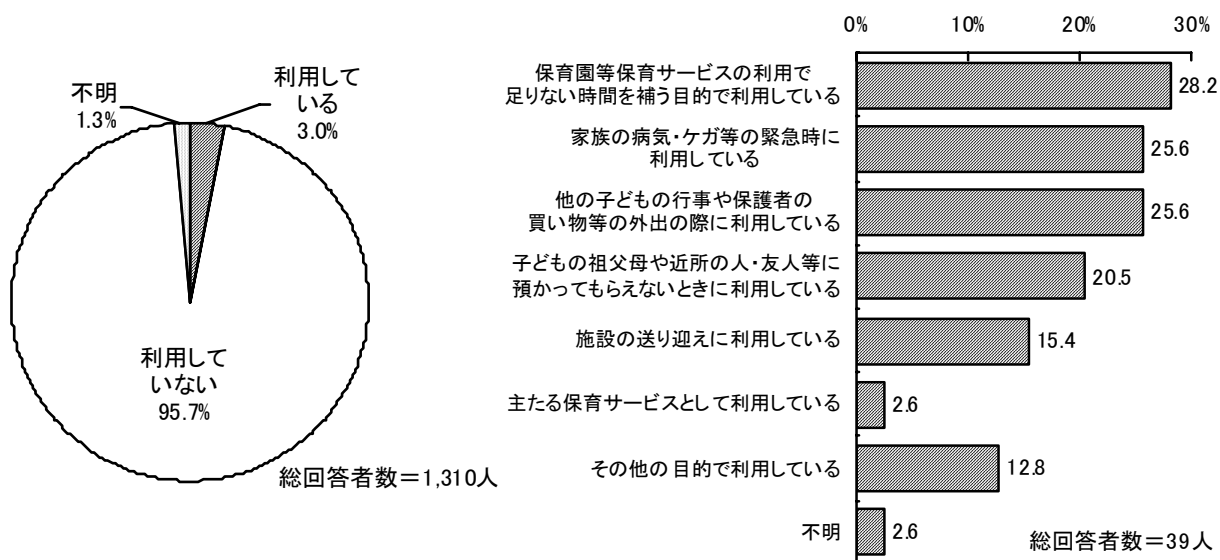
学童クラブを「利用したい」と回答した人に希望設置場所をたずねたところ、「小学校の空き教室」がもっとも高く61.5%を占める。次いで、「児童館・コミュニティ会館」が25.0%で続いている。

(8)ファミリーサポートセンターの利用状況と利用意向(乳幼児:問22・問23)

①ファミリーサポートセンターの利用状況と利用目的

あて名のお子さんについて、現在、ファミリーサポートセンターを利用していますか。(1つに○)
 「1. 利用している」に○をした方にうかがいます。
 どのような目的で利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-79 ファミリーサポートセンターの利用状況(単数回答)・その利用目的(複数回答)



[乳幼児保護者調査]

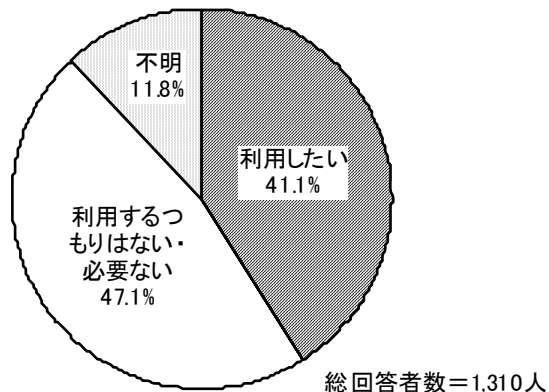
ファミリーサポートセンターの利用状況をみると、「利用していない」が9割以上を占め、「利用している」は3.0%であった。

「利用している」人の利用目的としては、「保育園等保育サービスの利用で足りない時間を補う目的で利用している」28.2%、「家族の病気・ケガ等の緊急時に利用している」「他の子どもの行事や保護者の買い物等の外出の際に利用している」各25.6%、「子どもの祖父母や近所の人・友人等に預かってもらえないときに利用している」20.5%の順に割合が高くなっている。

②ファミリーサポートセンターの利用意向

あて名のお子さんについて、ファミリーサポートセンターを利用し(続け)たいですか。(1つに○)

図表Ⅱ-80 ファミリーサポートセンターの利用意向(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

ファミリーサポートセンターの利用意向については、41.1%が「利用したい」と回答しており、現在の利用率を大きく上回る結果となった。

図表Ⅱ-81 ファミリーサポートセンターの利用意向

			総回答者数（人）	利用したい	利用するつもりはない・必要ない	不明
乳幼児保護者調査	全 体		1,310	41.1	47.1	11.8
	子どもの年齢別	満 0 歳	153	47.7	45.1	7.2
		0 歳児	191	49.7	42.4	7.9
		1 歳児	180	42.2	45.0	12.8
		2 歳児	202	41.1	47.0	11.9
		3 歳児	191	38.7	46.1	15.2
		4 歳児	199	35.7	52.3	12.1
		5 歳児	187	33.2	52.4	14.4
	居住地域別	Aブロック	143	39.9	46.9	13.3
		Bブロック	155	34.2	56.8	9.0
		Cブロック	119	36.1	50.4	13.4
		Dブロック	164	38.4	48.2	13.4
		Eブロック	172	40.1	50.0	9.9
		Fブロック	178	50.0	41.0	9.0
		Gブロック	168	44.6	41.1	14.3
Hブロック		202	41.6	46.5	11.9	

[乳幼児保護者調査]

子どもの年齢別にみると、「利用したい」割合は、子どもが満0歳～2歳児の場合には4割台、3歳児以上の場合には3割台となっている。

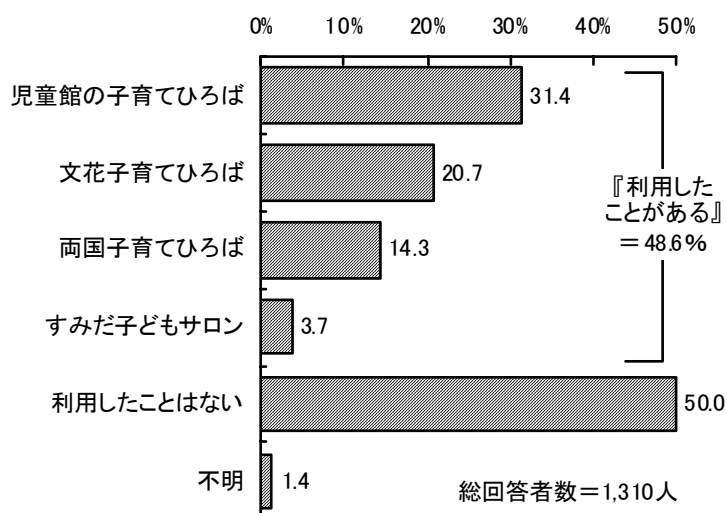
居住地域別にみると、「利用したい」は、Fブロック居住者で5割、E・G・Hブロック居住者で4割台であり、A～Dブロック居住者に比べて高い割合となっている。

(9)子育てひろばの利用状況と利用意向(乳幼児:問24・問25)

①子育てひろばの利用状況

この1年間に、子育てひろばを利用したことはありますか。次の中から利用したことのある子育てひろばすべてに○をしてください。

図表Ⅱ-82 子育てひろばの利用状況(複数回答)



[乳幼児保護者調査]

子育てひろばの利用経験をみると、50.0%が「利用したことはない」と回答しており、『利用したことがある』(100%から「利用したことはない」と「不明」を除いた割合)は、48.6%となっている。

利用したことのある子育てひろばは、「児童館の子育てひろば」が31.4%、「文花子育てひろば」が20.7%、「両国子育てひろば」が14.3%、「すみだ子どもサロン」は3.7%となっている。

図表Ⅱ-83 子育てひろばの利用状況

		総回答者数(人)	児童館の子育てひろば	文花子育てひろば	両国子育てひろば	すみだ子どもサロン	利用したことはない	不明	『利用したことがある』
乳幼児保護者調査	全 体	1,310	31.4	20.7	14.3	3.7	50.0	1.4	48.6
	子どもの年齢別	満0歳	153	22.9	11.8	11.8	2.0	60.8	2.0
		0歳児	191	40.3	23.6	23.6	5.8	37.2	0.5
		1歳児	180	37.8	26.7	13.9	10.6	39.4	1.7
		2歳児	202	43.1	26.7	12.9	3.5	41.6	0.0
		3歳児	191	34.6	24.1	14.7	1.6	46.6	1.0
		4歳児	199	20.1	16.6	12.6	2.5	62.8	0.5
		5歳児	187	18.7	14.4	10.7	0.5	63.6	3.7
	居住地域別	Aブロック	143	32.2	11.9	0.7	0.7	62.9	0.7
		Bブロック	155	43.2	27.1	1.3	1.3	49.0	0.0
		Cブロック	119	31.9	33.6	0.0	0.0	47.9	3.4
		Dブロック	164	32.9	23.2	3.0	1.2	53.0	1.8
		Eブロック	172	24.4	48.3	1.7	1.2	44.2	1.2
		Fブロック	178	34.3	6.7	34.8	10.1	47.8	0.6
		Gブロック	168	26.2	22.0	15.5	6.5	53.6	1.8
		Hブロック	202	28.7	1.0	42.1	6.4	44.1	1.5

※:『利用したことがある』=100%-「利用したことはない」-「不明」

[乳幼児保護者調査]

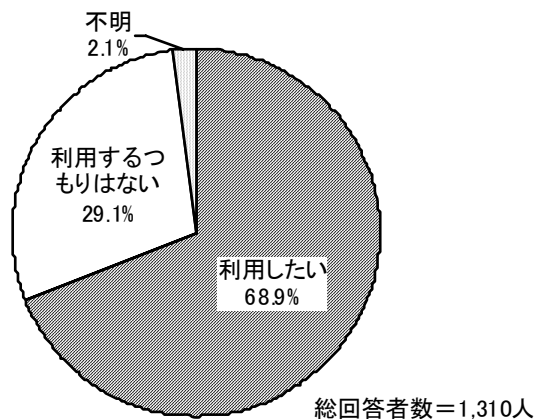
子どもの年齢別にみると、子育てひろばを『利用したことがある』割合は、子どもが0歳児である場合がもっとも高い62.3%、また、1～3歳児の場合にも5割台と半数以上が利用経験があると回答している。

居住地域別にみると、「両国子育てひろば」は、ひろばのあるFブロックの居住者の3割台、Hブロック居住者の4割台が利用したことがあると回答している。「文花子育てひろば」は、ひろばのあるEブロックの居住者で5割弱となっているほか、Cブロック居住者で3割台となっている。「すみだ子どもサロン」は、サロンのあるFブロック居住者で約1割となっている。「児童館の子育てひろば」は、Bブロック居住者において4割台ともっとも高い。いずれかの子育てひろばを『利用したことがある』割合は、B・E・F・Hブロック居住者で5割を超える一方、Aブロック居住者はもっとも低い36.4%となっている。

②子育てひろばの利用意向

今後、子育てひろばを利用したいと思いますか。(1つに○)

図表Ⅱ-84 子育てひろばの利用意向(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

子育てひろばの利用意向については、68.9%と7割近くが「利用したい」と回答している。

図表Ⅱ-85 子育てひろばの利用意向

			総回答者数（人）	利用したい	利用するつもりはない	不明
乳幼児保護者調査	全 体		1,310	68.9	29.1	2.1
	子どもの年齢別	満 0 歳	153	84.3	13.7	2.0
		0 歳児	191	85.3	14.1	0.5
		1 歳児	180	76.1	22.2	1.7
		2 歳児	202	74.3	24.8	1.0
		3 歳児	191	66.5	30.4	3.1
		4 歳児	199	52.3	46.2	1.5
		5 歳児	187	46.0	49.7	4.3
	居住地域別	Aブロック	143	62.9	37.1	0.0
		Bブロック	155	69.7	28.4	1.9
		Cブロック	119	65.5	30.3	4.2
		Dブロック	164	68.3	29.9	1.8
		Eブロック	172	72.1	26.2	1.7
		Fブロック	178	69.7	28.1	2.2
		Gブロック	168	66.1	31.5	2.4
Hブロック		202	73.8	24.3	2.0	

[乳幼児保護者調査]

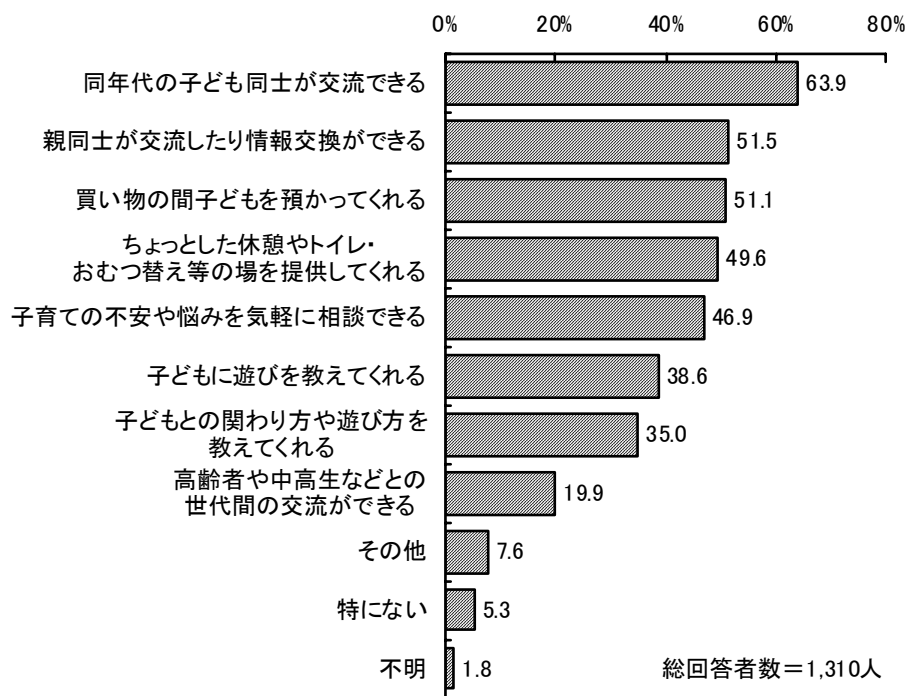
子どもの年齢別にみると、子どもの年齢が低いほど利用意向が高く、満0歳・0歳児の場合の8割台、1・2歳児の場合の7割台が「利用したい」と回答している。

居住地域別にみると、E・Hブロック居住者において「利用したい」が7割台であり、他の地域居住者に比べて高い割合となっている。

(10)希望する子育て支援の場や活動(乳幼児:問26)

身近な地域に、どのような子育て支援の場や活動があるとよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-86 希望する子育て支援の場や活動(複数回答)



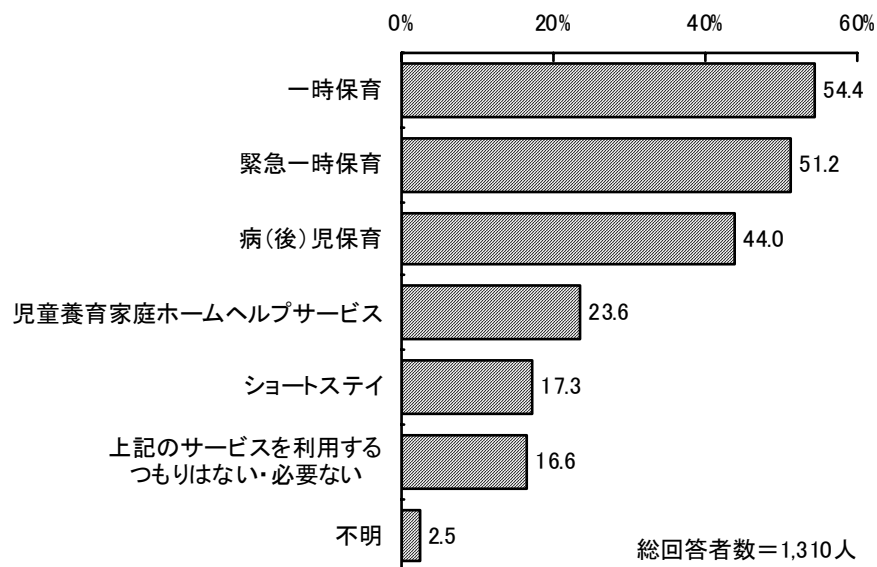
[乳幼児保護者調査]

身近な地域にあるとよいと思う子育て支援の場や活動としては、「同年代の子ども同士が交流できる」「親子が交流したり情報交換ができる」「買い物の間子どもを預かってくれる」が上位3位であり、これらは半数以上が希望を示す子育て支援の場・活動となっている。次いで、「ちょっとした休憩やトイレ・おむつ替え等の場を提供してくれる」「子育ての不安や悩みを気軽に相談できる」が4割台で続いている。

(11) 利用したい保育サービス(乳幼児:問27)

次の保育サービスのうち、利用したいと思うものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-87 利用したい保育サービス(複数回答)



[乳幼児保護者調査]

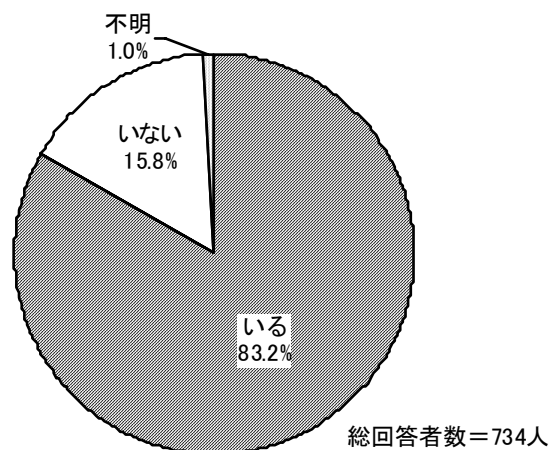
利用したい保育サービスをみると、「一時保育」「緊急一時保育」を半数以上が希望しているのに次いで、「病(後)児保育」が4割台、「児童養育家庭ホームヘルプサービス」が2割台となっている。

5. 小学生の日常生活と学童クラブ等の利用状況・利用意向

(1) かかりつけ医の有無(小学生:問14)

あて名のお子さんにはかかりつけ医がいますか。(1つに○)

図表Ⅱ-88 かかりつけ医の有無(単数回答)



[小学生保護者調査]

小学生のかかりつけ医の有無は、「いる」は83.2%であり、「いない」は15.8%であった。

図表Ⅱ-89 かかりつけ医の有無

		総回答者数(人)	いる	いない	不明
小学生保護者調査	全 体	734	83.2	15.8	1.0
	子どもの学年別				
	1年生	131	86.3	13.7	0.0
	2年生	115	83.5	16.5	0.0
	3年生	128	85.9	13.3	0.8
	4年生	124	80.6	18.5	0.8
	5年生	114	83.3	14.9	1.8
	6年生	119	79.8	17.6	2.5

[小学生保護者調査]

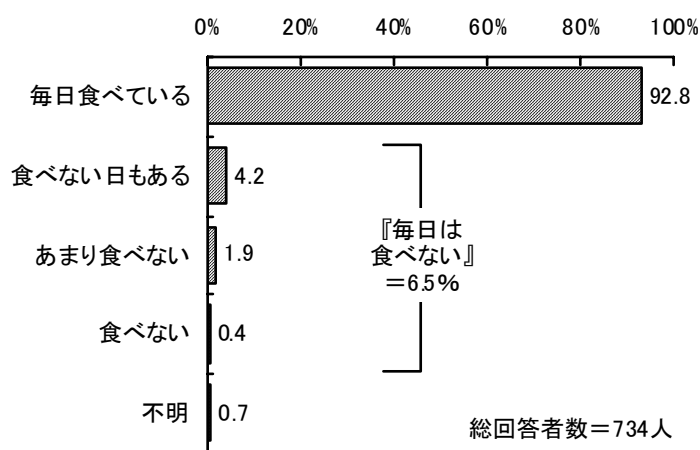
子どもの学年別にみると、かかりつけ医が「いる」割合は、4・6年生では約8割であり、他の学年の子どもに比べて「いない」割合が高くなっている。

(2) 食事のとり方(小学生:問15・16)

①朝食の摂取状況

あて名のお子さんは、毎日朝ごはんを食べていますか。(1つに○)

図表Ⅱ-90 朝食の摂取状況(単数回答)



[小学生保護者調査]

小学生の朝食の摂取状況は、「毎日食べている」が92.8%を占める。「食べない日もある」4.2%、「あまり食べない」1.9%、「食べない」0.4%を合わせた『毎日食べない』割合は6.5%となっている。

図表Ⅱ-91 朝食の摂取状況

		総回答者数(人)	毎日食べている	食べない日もある	あまり食べない	食べない	不明	『毎日食べない』
小学生保護者調査	全 体	734	92.8	4.2	1.9	0.4	0.7	6.5
	1年生	131	92.4	4.6	2.3	0.8	0.0	7.7
	2年生	115	96.5	2.6	0.9	0.0	0.0	3.5
	3年生	128	91.4	5.5	2.3	0.0	0.8	7.8
	4年生	124	94.4	2.4	1.6	0.8	0.8	4.8
	5年生	114	96.5	1.8	0.9	0.0	0.9	2.7
	6年生	119	85.7	8.4	3.4	0.8	1.7	12.6

※:『毎日食べない』=「食べない日もある」+「あまり食べない」+「食べない」

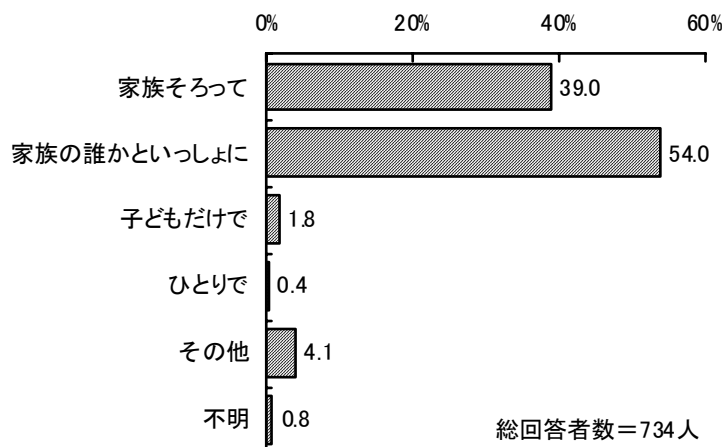
[小学生保護者調査]

子どもの学年別にみると、朝食を「毎日食べている」割合は、1～5年生では9割を超える一方、6年生では8割台となり、『毎日食べない』割合が1割強となっている。

②夕食のとり方

あて名のお子さんは、夕ごはんをどのように食べることが多いですか。(1つに○)

図表Ⅱ-92 夕食のとり方(単数回答)



[小学生保護者調査]

小学生の夕食のとり方は、「家族の誰かといっしょに」が 54.0%と過半数を占め、「家族そろって」は 39.0%であった。また、「子どもだけで」は 1.8%、「ひとりで」は 0.4%となっている。

図表Ⅱ-93 夕食のとり方

		総回答者数(人)	家族そろって	家族の誰かといっしょに	子どもだけで	ひとりで	その他	不明
小学生保護者調査	全 体	734	39.0	54.0	1.8	0.4	4.1	0.8
	子どもの学年別	1 年生	131	37.4	57.3	1.5	0.8	1.5
		2 年生	115	40.0	55.7	0.9	0.9	0.0
		3 年生	128	31.3	61.7	1.6	0.8	0.8
		4 年生	124	38.7	53.2	1.6	0.0	2.4
		5 年生	114	42.1	49.1	1.8	0.0	0.0
		6 年生	119	45.4	45.4	3.4	0.0	0.0

[小学生保護者調査]

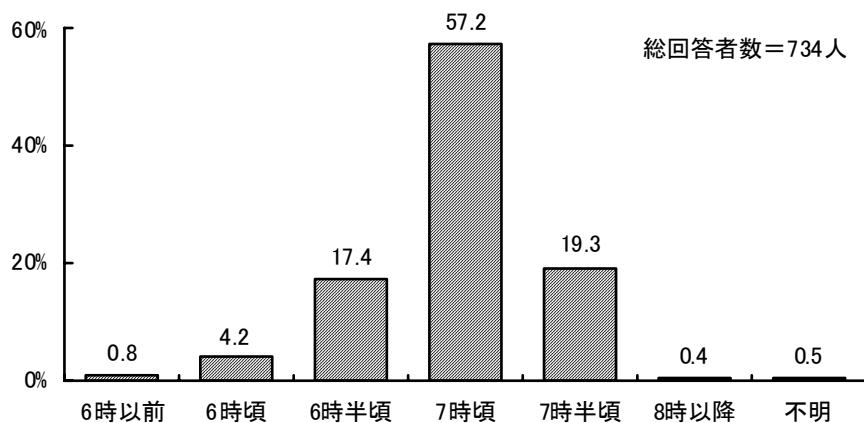
子どもの学年別にみると、「家族そろって」食べている割合は、他に比べて5・6年生に高くあらわれている。

(3) 平日の起床時間と就寝時間(小学生:問17・問18)

① 平日の起床時間

平日、あて名のお子さんは何時頃に起きますか。(1つに○)

図表Ⅱ-94 平日の起床時間(単数回答)



[小学生保護者調査]

小学生の平日の起床時間は、「7時頃」が57.2%と6割近くを占める。次いで、「7時半頃」19.3%、「6時半頃」17.4%となっている。

図表Ⅱ-95 平日の起床時間

		総回答者数(人)	6時以前	6時頃	6時半頃	7時頃	7時半頃	8時以降	不明
小学生保護者調査	全 体	734	0.8	4.2	17.4	57.2	19.3	0.4	0.5
	子どもの学年別								
	1年生	131	1.5	4.6	19.8	64.1	8.4	0.0	1.5
	2年生	115	0.0	5.2	13.0	60.0	21.7	0.0	0.0
	3年生	128	0.8	3.9	18.0	55.5	20.3	0.8	0.8
	4年生	124	0.8	4.0	17.7	58.1	18.5	0.0	0.8
	5年生	114	1.8	3.5	18.4	55.3	21.1	0.0	0.0
	6年生	119	0.0	4.2	17.6	48.7	27.7	1.7	0.0

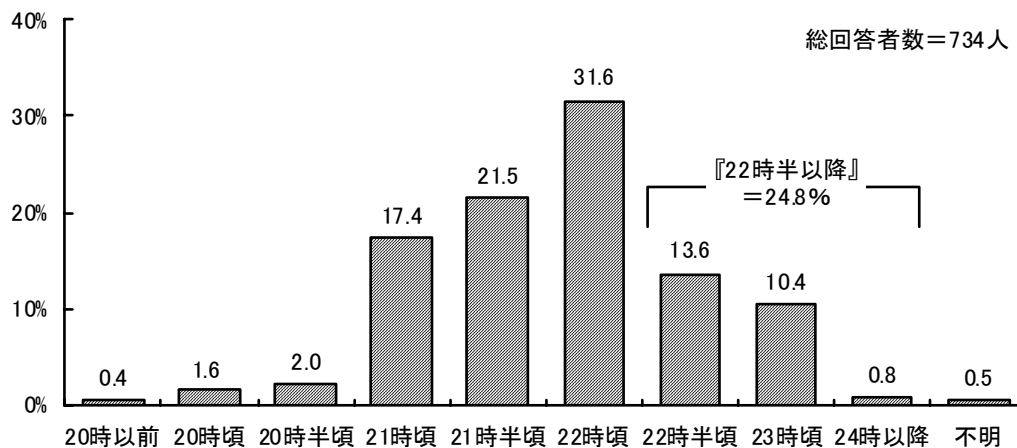
[小学生保護者調査]

子どもの学年別にみると、どの学年の子どもにおいても「7時頃」に起床している割合がもっとも高いものの、1年生の64.1%から、2年生では6割、3～5年生では5割台となり、「7時半頃」の割合が高くなる。6年生では「7時頃」は5割弱であり3割弱が「7時半頃」となっている。

②平日の就寝時間

平日、あて名のお子さんは何時頃に寝ますか。(1つに○)

図表Ⅱ-96 平日の就寝時間(単数回答)



[小学生保護者調査]

小学生の平日の就寝時間は、「22 時頃」31.6%、「21 時半頃」21.5%、「21 時頃」17.4%の順であり、これらを合わせた『21 時頃～22 時頃』に就寝している割合が約 7 割を占める。

一方で、24.8%と約 4 人に 1 人は、『22 時半以降』と回答している。

図表Ⅱ-97 平日の就寝時間

			総回答者数(人)	20時以前	20時頃	20時半頃	21時頃	21時半頃	22時頃	22時半頃	23時頃	24時以降	不明	『22時半以降』
小学生保護者調査	全 体		734	0.4	1.6	2.0	17.4	21.5	31.6	13.6	10.4	0.8	0.5	24.8
	子どもの学年別	1年生	131	1.5	3.8	3.1	32.1	30.5	20.6	6.1	0.8	0.8	0.8	7.7
		2年生	115	0.0	1.7	4.3	31.3	24.3	31.3	2.6	3.5	0.0	0.9	6.1
		3年生	128	0.0	0.8	0.8	15.6	26.6	34.4	16.4	4.7	0.0	0.8	21.1
		4年生	124	0.0	1.6	2.4	14.5	21.0	33.9	16.1	9.7	0.0	0.8	25.8
		5年生	114	0.0	0.9	1.8	9.6	14.0	40.4	15.8	16.7	0.9	0.0	33.4
		6年生	119	0.8	0.8	0.0	0.8	10.9	30.3	25.2	27.7	3.4	0.0	56.3

※:『22時半以降』=「22時半頃」+「23時頃」+「24時以降」

[小学生保護者調査]

子どもの学年別にみると、1・2年生の就寝時間は「21時頃」、3年生以上では「22時頃」の割合がそれぞれもっとも高い。学年が高くなるほど就寝時間が遅い割合が増加し、『22時半以降』の割合は、3・4年生で2割台、5年生では3割台となる。6年生においては、「23時以降」27.7%、「22時半頃」25.2%であり、『22時半以降』が5割台を占める結果となっている。

(4) 平日の放課後の過ごし方と土曜日の過ごし方(小学生:問19)

あて名のお子さんは、①月曜日から金曜日の放課後、②学校がお休みの土曜日に、どのように過ごすことが多いですか。各時間ごとに下表の選択肢の中から主な過ごし方を1つずつ選んで、回答欄に番号を記入してください。

図表Ⅱ-98 平日の放課後の過ごし方(各単数回答)

		総回答者数(人)	学校にいる (部活動やクラブ活動を含む)	学童クラブに行く	塾や習い事に行く	友達と公園や広場など 外で遊ぶ	児童館に行つて遊ぶ	図書館、コミュニティ会館など 地域の施設に行く	友達の家に行く	自分の家で友達と過ごす	ゲームセンター・ファーストフ ード店等	地域のクラブ活動(スポーツ活 動等)をする	子ども会活動・ボランティア活 動等をする	家族と過ごす	自分の家でひとりで過ごす	その他	不明
小学生保護者調査	14～16時	734	44.8	14.7	4.0	16.9	1.5	0.7	2.3	1.5	0.0	0.3	0.0	7.1	1.9	1.2	3.1
	16～18時	734	0.8	11.2	37.6	15.7	3.0	0.4	3.7	3.3	0.0	1.0	0.0	17.3	2.7	2.0	1.4
	18～20時	734	0.0	0.3	14.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	1.6	0.0	78.3	0.8	2.2	2.0
	20時以降	734	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.1	0.0	93.6	0.3	1.1	2.2

[小学生保護者調査]

小学生の平日の過ごし方は、14～16時は「学校にいる(部活動やクラブ活動を含む)」44.8%、「友達と公園や広場など外で遊ぶ」16.9%、「学童クラブに行く」14.7%、16～18時は「塾や習い事に行く」37.6%、「家族と過ごす」17.3%などが主な過ごし方となっている。

18時以降は、「家族と過ごす」が大半を占めるが、18～20時では「塾や習い事に行く」が14.2%と1割台みられる。

図表Ⅱ-99 土曜日の過ごし方(各単数回答)

		総回答者数(人)	学校にいる (部活動やクラブ活動を含む)	学童クラブに行く	塾や習い事に行く	友達と公園や広場など 外で遊ぶ	児童館に行つて遊ぶ	図書館、コミュニティ会館など 地域の施設に行く	友達の家に行く	自分の家で友達と過ごす	ゲームセンター・ファーストフ ード店等	地域のクラブ活動(スポーツ活 動等)をする	子ども会活動・ボランティア活 動等をする	家族と過ごす	自分の家でひとりで過ごす	その他	不明
小学生保護者調査	14～16時	734	0.5	0.4	14.9	20.2	2.5	2.2	1.9	1.6	0.1	9.4	0.3	40.6	1.1	2.6	1.8
	16～18時	734	0.4	0.3	10.2	11.3	2.2	1.0	2.0	2.0	0.1	5.3	0.0	59.0	1.0	2.9	2.3
	18～20時	734	0.0	0.1	2.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	0.1	0.4	0.0	91.8	0.1	1.6	2.5
	20時以降	734	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.1	0.0	94.7	0.3	1.6	2.5

〔小学生保護者調査〕

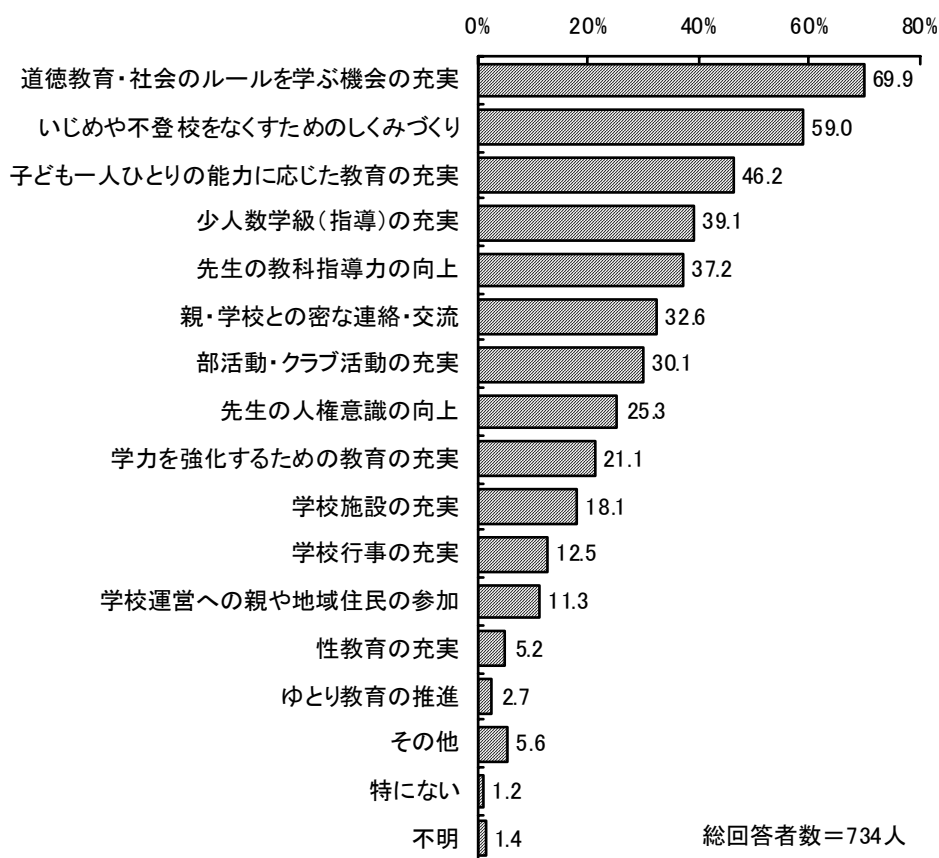
小学生の土曜日の過ごし方は、14～16時は「家族と過ごす」40.6%に次いで、20.2%が「友達と公園や広場など外で遊ぶ」、14.9%が「塾や習い事に行く」となっている。また、約1割が「地域のクラブ活動(スポーツ活動等)をする」と回答している。

「16～18時は「家族と過ごす」が約6割となり、「友達と公園や広場など外で遊ぶ」「塾や習い事に行く」はそれぞれ約1割となっている。18時以降は平日同様、「家族と過ごす」が大半を占めている。

(5)学校の教育環境に対する意見(小学生:問20)

学校の教育環境をよりよくするために、力を入れるべきと思うことは何ですか。
(あてはまるもの5つまでに○)

図表Ⅱ-100 学校の教育環境に対する意見(複数回答)



[小学生保護者調査]

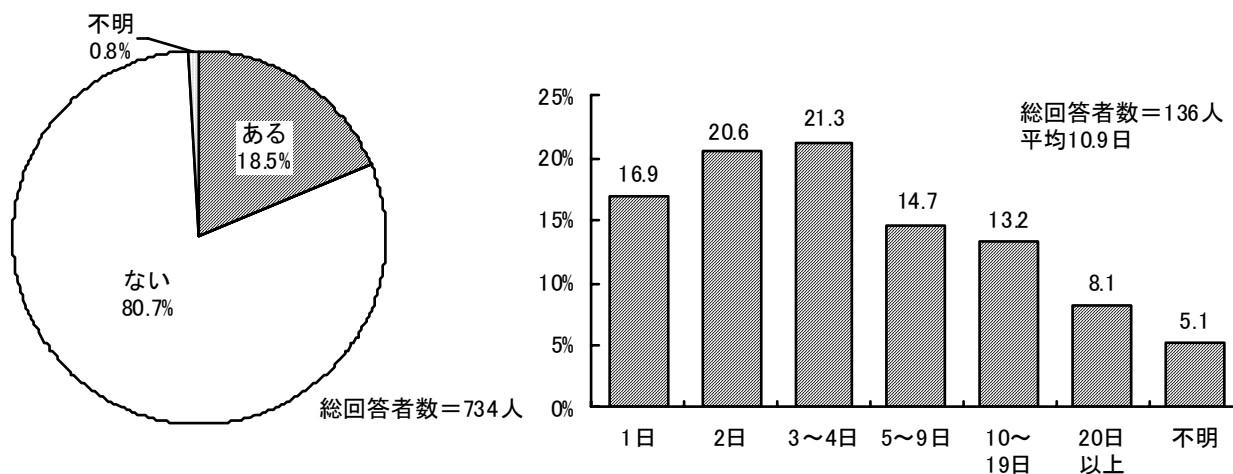
学校の教育環境に対する意見の第1位は、「道徳教育・社会のルールを学ぶ機会の充実」であり、69.9%と約7割からあげられている。次いで、「いじめや不登校をなくすためのしくみづくり」59.0%、「子ども一人ひとりの能力に応じた教育の充実」46.2%、「少人数学級(指導)の充実」39.1%、「先生の教科指導力の向上」37.2%の順で続いている。

(6)学校生活(小学生:問21・問21-1)

①学校に行きたがらなかった経験とその日数

この1年の間に、あて名のお子さんが学校に行きたがらなかったことはありますか。(1つに○)

図表Ⅱ-101 学校に行きたがらなかった経験(単数回答)・その日数(単数回答)



[小学生保護者調査]

子どもが学校に行きたがらなかったことが「ある」割合は18.5%、2割弱となっている。

学校に行きたがらなかった日数は、『4日未満』が58.8%と6割弱を占める一方、「20日以上」という回答も1割弱みられる。平均日数は10.9日となっている。

図表Ⅱ-102 学校に行きたがらなかった経験

		総回答者数(人)	ある	ない	不明
小学生保護者調査	全 体	734	18.5	80.7	0.8
	1年生	131	28.2	71.0	0.8
	2年生	115	20.0	80.0	0.0
	3年生	128	14.1	85.2	0.8
	4年生	124	16.1	82.3	1.6
	5年生	114	10.5	88.6	0.9
	6年生	119	21.0	78.2	0.8

[小学生保護者調査]

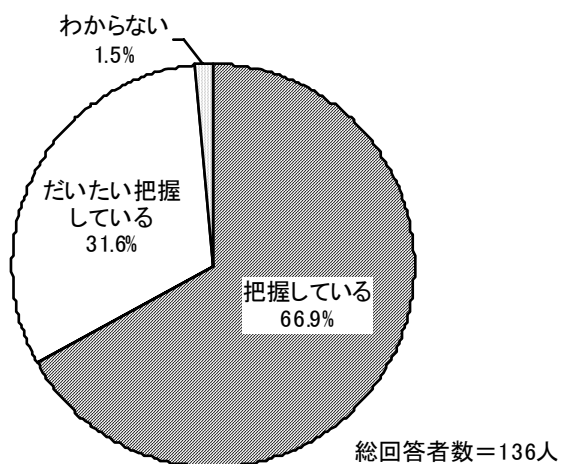
子どもの学年別にみると、行きたがらなかった経験が「ある」割合は、1年生で28.2%と3割弱を占め、他の学年の子どもに比べて高い割合となっている。

②学校に行きたがらなかった理由の把握状況

「1. ある」に○をした方にうかがいます。

あなたは、お子さんが学校に行きたがらなかった理由を把握していますか。(1つに○)

図表Ⅱ-103 学校に行きたがらなかった理由の把握状況(単数回答)



[小学生保護者調査]

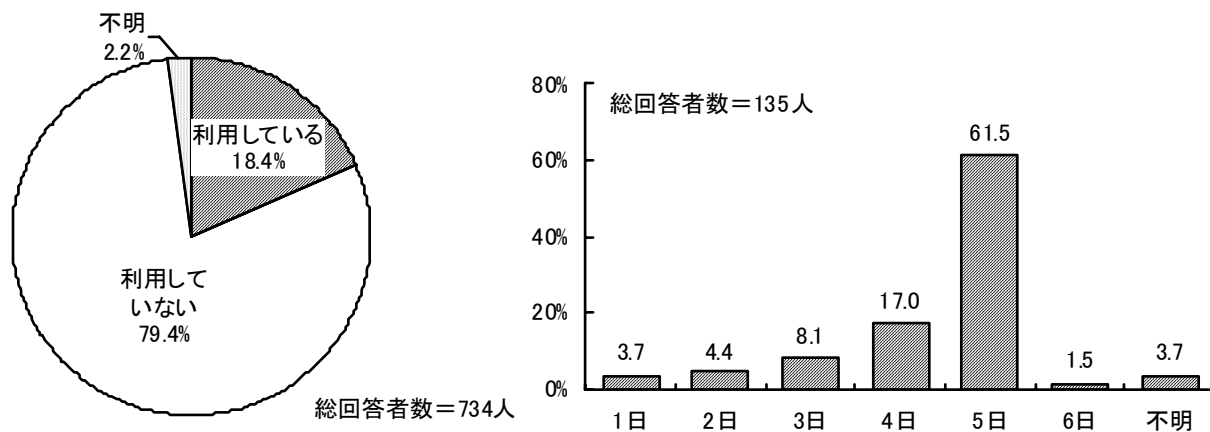
子どもが学校に行きたがらなかったことが「ある」と回答した人に、その理由の把握状況をたずねたところ、「把握している」が66.9%、「だいたい把握している」31.6%であり、「わからない」は1.5%であった。

(7)学童クラブの利用状況と利用意向(小学生:問22～問23-1)

①学童クラブの利用状況

あて名のお子さんについて、現在、学童クラブを利用していますか。(1つに○)

図表Ⅱ-104 学童クラブの利用状況(単数回答)・学童クラブの利用日数(単数回答)



[小学生保護者調査]

小学生の学童クラブの利用状況は、「利用していない」が約 8 割を占め、「利用している」は 18.4%となっている。

「利用している」場合の利用日数は、「5 日」が 61.5%、「4 日」17.0%、「3 日」8.1%などとなっている。

図表Ⅱ-105 学童クラブの利用状況

			総回答者数(人)	利用している	利用していない	不明
小学生保護者調査	全 体		734	18.4	79.4	2.2
	子どもの学年別	1 年生	131	37.4	61.1	1.5
		2 年生	115	33.0	63.5	3.5
		3 年生	128	26.6	72.7	0.8
		4 年生	124	4.8	91.1	4.0
		5 年生	114	2.6	94.7	2.6
		6 年生	119	4.2	95.0	0.8
	居住地域別	Aブロック	92	19.6	79.3	1.1
		Bブロック	86	15.1	82.6	2.3
		Cブロック	67	26.9	70.1	3.0
		Dブロック	80	15.0	78.8	6.3
		Eブロック	103	25.2	73.8	1.0
		Fブロック	111	15.3	82.0	2.7
		Gブロック	92	19.6	79.3	1.1
		Hブロック	99	13.1	85.9	1.0
	両親の就労形態別	ひとり親	75	18.7	78.7	2.7
		フルタイム共働き	191	40.8	58.1	1.0
		フルタイム・パート共働き	228	17.5	80.3	2.2
		専業主婦(夫)	218	1.4	95.9	2.8
		その他	10	0.0	90.0	10.0

〔 小学生保護者調査 〕

子どもの学年別にみると、学童クラブを「利用している」割合は、1年生がもっとも高い37.4%、2年生が33.0%、3年生が26.6%、4年生以上では5%未満となっている。

居住地域別にみると、C・Eブロックは、「利用している」が25%を超え、他の地域に比べて学童クラブの利用率が高い地域となっている。反対に、もっとも利用率が低いのはHブロックの13.1%であった。

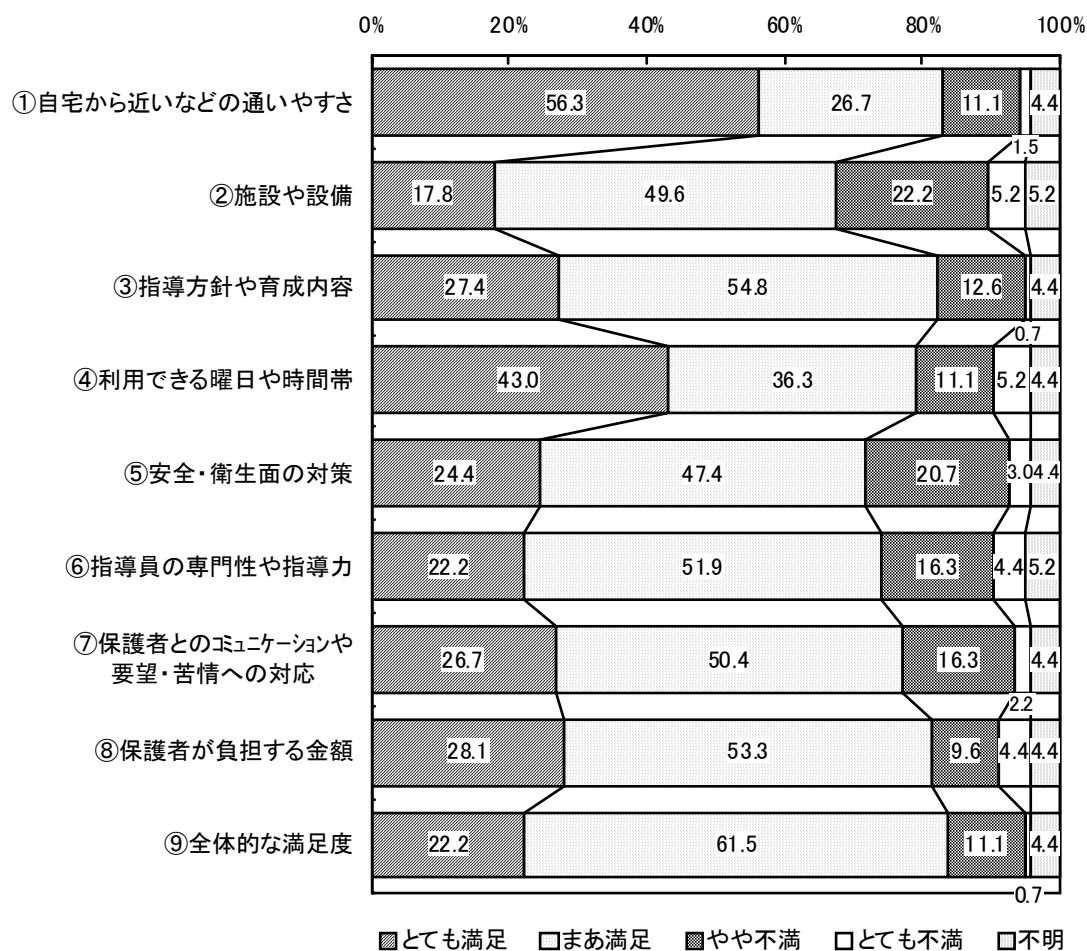
両親の就労形態別にみると、「利用している」割合は、フルタイム共働き家庭の約4割、ひとり親及びフルタイム・パート共働き家庭では2割弱となっている。

②学童クラブに対する評価

現在利用している学童クラブについて、どのように感じていますか。

(①～⑨について、それぞれ1つに○)

図表Ⅱ-106 学童クラブに対する評価(各単数回答)



総回答者数＝135人

[小学生保護者調査]

子どもが利用している学童クラブに対する評価について『満足』（「とても満足」と「まあ満足」を合わせた割合）が高い順にみると、“①自宅から近いなどの通いやすさ”“③指導方針や育成内容”“⑧保護者が負担する金額”が上位3位であり、これらはいずれも8割以上が『満足』と回答している。次いで、“④利用できる曜日や時間帯”“⑦保護者とのコミュニケーションや要望・苦情への対応”“⑥指導員の専門性や指導力”“⑤安全・衛生面の対策”が7割台で続いている。もっとも評価が低いのは“②施設や設備”であり、『満足』は67.4%、『不満足』（「やや不満」と「とても不満」を合わせた割合）は27.4%となっている。

“⑨全体的な満足度”は、『満足』が83.7%、『不満足』が11.8%であった。

図表Ⅱ-107 学童クラブに対する評価

			総 回 答 者 数 (人)	と と も 満 足	ま あ 満 足	や や 不 満	と と も 不 満	『満 足』	『不 満 足』
小 学 生 保 護 者 調 査	①自宅から近い などの通いやすさ	Aブロック	18	61.1	16.7	16.7	0.0	77.8	16.7
		Bブロック	13	53.8	38.5	0.0	7.7	92.3	7.7
		Cブロック	18	50.0	33.3	11.1	5.6	83.3	16.7
		Dブロック	12	25.0	66.7	8.3	0.0	91.7	8.3
		Eブロック	26	61.5	23.1	11.5	0.0	84.6	11.5
		Fブロック	17	70.6	0.0	17.6	0.0	70.6	17.6
		Gブロック	18	44.4	38.9	5.6	0.0	83.3	5.6
		Hブロック	13	76.9	7.7	15.4	0.0	84.6	15.4
	②施設や設備	Aブロック	18	22.2	55.6	16.7	0.0	77.8	16.7
		Bブロック	13	15.4	69.2	15.4	0.0	84.6	15.4
		Cブロック	18	11.1	55.6	16.7	16.7	66.7	33.4
		Dブロック	12	8.3	66.7	16.7	8.3	75.0	25.0
		Eブロック	26	23.1	38.5	30.8	3.8	61.6	34.6
		Fブロック	17	29.4	29.4	29.4	0.0	58.8	29.4
		Gブロック	18	16.7	44.4	16.7	5.6	61.1	22.3
		Hブロック	13	7.7	53.8	30.8	7.7	61.5	38.5
	③指導方針や 育成内容	Aブロック	18	33.3	50.0	11.1	0.0	83.3	11.1
		Bブロック	13	23.1	69.2	7.7	0.0	92.3	7.7
		Cブロック	18	22.2	66.7	11.1	0.0	88.9	11.1
		Dブロック	12	16.7	58.3	25.0	0.0	75.0	25.0
		Eブロック	26	34.6	38.5	23.1	0.0	73.1	23.1
		Fブロック	17	29.4	52.9	5.9	0.0	82.3	5.9
		Gブロック	18	27.8	50.0	5.6	5.6	77.8	11.2
		Hブロック	13	23.1	69.2	7.7	0.0	92.3	7.7
	④利用できる 曜日や時間帯	Aブロック	18	50.0	16.7	27.8	0.0	66.7	27.8
		Bブロック	13	61.5	23.1	15.4	0.0	84.6	15.4
		Cブロック	18	22.2	55.6	11.1	11.1	77.8	22.2
		Dブロック	12	25.0	58.3	8.3	8.3	83.3	16.6
		Eブロック	26	50.0	38.5	7.7	0.0	88.5	7.7
		Fブロック	17	47.1	35.3	0.0	5.9	82.4	5.9
		Gブロック	18	33.3	38.9	11.1	5.6	72.2	16.7
		Hブロック	13	53.8	23.1	7.7	15.4	76.9	23.1
	⑤安全・衛生 面の対策	Aブロック	18	33.3	50.0	11.1	0.0	83.3	11.1
		Bブロック	13	30.8	38.5	30.8	0.0	69.3	30.8
		Cブロック	18	11.1	55.6	22.2	11.1	66.7	33.3
		Dブロック	12	16.7	58.3	25.0	0.0	75.0	25.0
		Eブロック	26	30.8	38.5	26.9	0.0	69.3	26.9
		Fブロック	17	23.5	47.1	11.8	5.9	70.6	17.7
		Gブロック	18	22.2	50.0	11.1	5.6	72.2	16.7
		Hブロック	13	23.1	46.2	30.8	0.0	69.3	30.8

			総 回 答 者 数 (人)	と と も 満 足	ま あ 満 足	やや 不 満	と と も 不 満	『満 足』	『不 満 足』
小 学 生 保 護 者 調 査	⑥指導員の 専門性や指導力	Aブロック	18	33.3	50.0	11.1	0.0	83.3	11.1
		Bブロック	13	7.7	84.6	7.7	0.0	92.3	7.7
		Cブロック	18	16.7	61.1	16.7	5.6	77.8	22.3
		Dブロック	12	16.7	58.3	16.7	8.3	75.0	25.0
		Eブロック	26	30.8	34.6	30.8	0.0	65.4	30.8
		Fブロック	17	29.4	47.1	5.9	5.9	76.5	11.8
		Gブロック	18	11.1	44.4	16.7	11.1	55.5	27.8
		Hブロック	13	23.1	53.8	15.4	7.7	76.9	23.1
	⑦保護者との コミュニケーションや 要望・苦情 への対応	Aブロック	18	27.8	50.0	16.7	0.0	77.8	16.7
		Bブロック	13	23.1	69.2	7.7	0.0	92.3	7.7
		Cブロック	18	27.8	55.6	11.1	5.6	83.4	16.7
		Dブロック	12	16.7	58.3	16.7	8.3	75.0	25.0
		Eブロック	26	38.5	34.6	23.1	0.0	73.1	23.1
		Fブロック	17	23.5	52.9	11.8	0.0	76.4	11.8
		Gブロック	18	22.2	44.4	22.2	0.0	66.6	22.2
		Hブロック	13	23.1	53.8	15.4	7.7	76.9	23.1
	⑧保護者が 負担する金額	Aブロック	18	44.4	44.4	5.6	0.0	88.8	5.6
		Bブロック	13	23.1	53.8	15.4	7.7	76.9	23.1
		Cブロック	18	16.7	72.2	11.1	0.0	88.9	11.1
		Dブロック	12	25.0	50.0	8.3	16.7	75.0	25.0
		Eブロック	26	23.1	50.0	15.4	7.7	73.1	23.1
		Fブロック	17	23.5	58.8	5.9	0.0	82.3	5.9
		Gブロック	18	38.9	38.9	5.6	5.6	77.8	11.2
		Hブロック	13	30.8	61.5	7.7	0.0	92.3	7.7
	⑨全体的な 満足度	Aブロック	18	27.8	66.7	0.0	0.0	94.5	0.0
		Bブロック	13	30.8	61.5	7.7	0.0	92.3	7.7
		Cブロック	18	5.6	83.3	5.6	5.6	88.9	11.2
		Dブロック	12	25.0	58.3	16.7	0.0	83.3	16.7
		Eブロック	26	26.9	57.7	11.5	0.0	84.6	11.5
		Fブロック	17	23.5	58.8	5.9	0.0	82.3	5.9
		Gブロック	18	22.2	44.4	22.2	0.0	66.6	22.2
		Hブロック	13	15.4	61.5	23.1	0.0	76.9	23.1

※:「不明」は掲載を省略

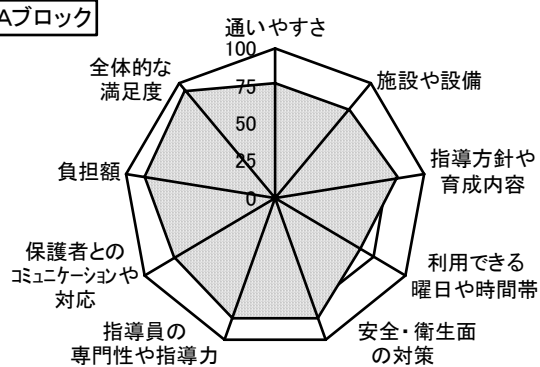
※:『満足』=「とても満足」+「まあ満足」

※:『不満足』=「やや不満」+「とても不満」

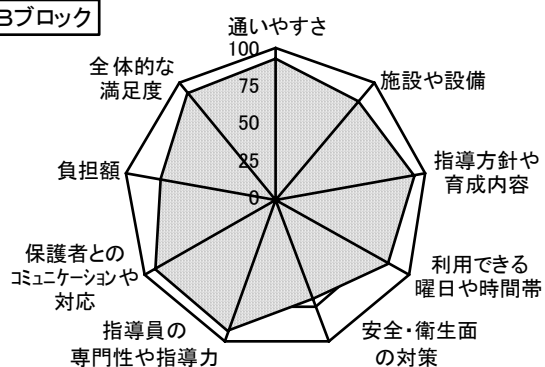
※:網掛けは、①～⑨それぞれにおいて、『満足』『不満足』が最も高い数値

図表Ⅱ-108 学童クラブに対する評価－『満足』の割合

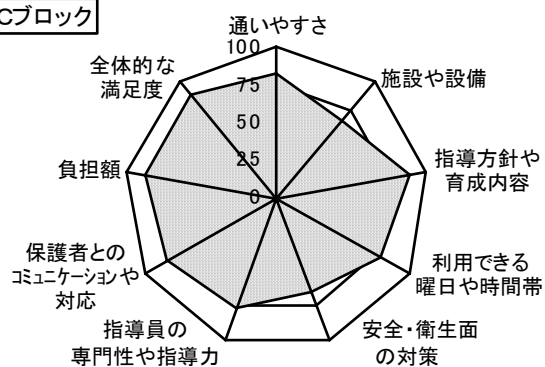
Aブロック



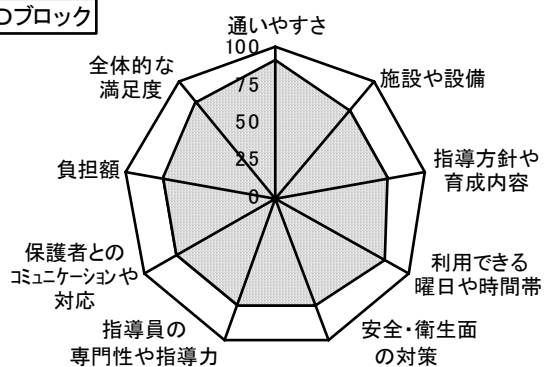
Bブロック



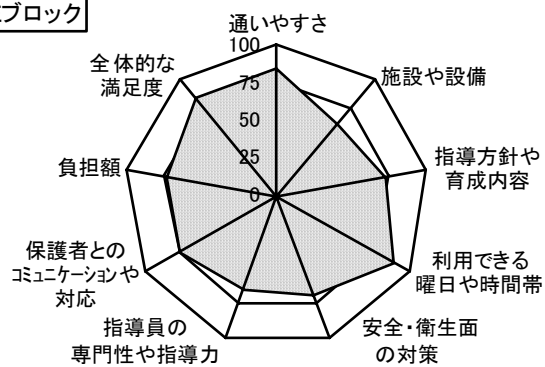
Cブロック



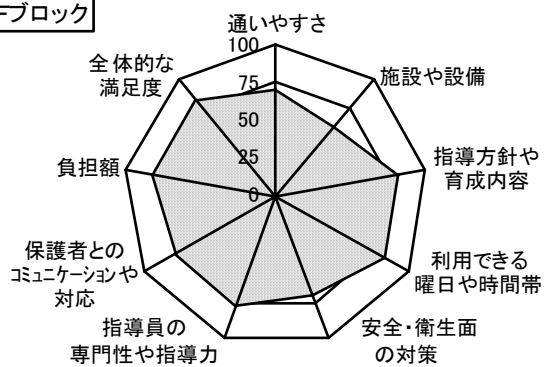
Dブロック



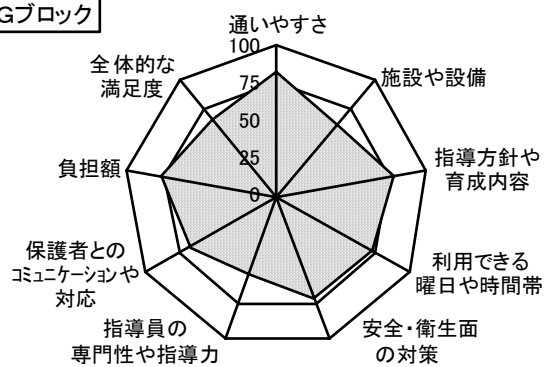
Eブロック



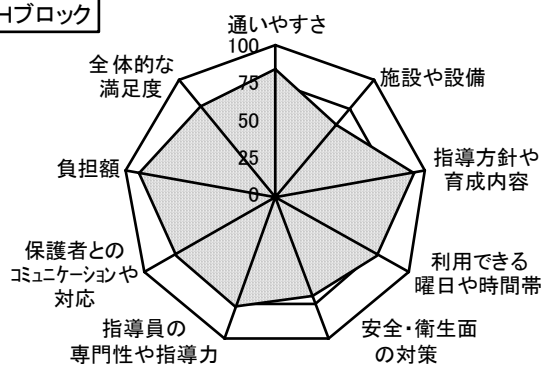
Fブロック



Gブロック



Hブロック



[小学生保護者調査]

学童クラブに対する評価を居住地域別にみると、Aブロックは“④利用できる曜日や時間帯”の『満足』は6割台であるものの、他の項目は7～9割台であり、“⑨全体的な満足度”は9割台となっている。

Bブロックは、ほとんどの項目を8～9割台が『満足』と評価しており、Aブロック同様、“⑨全体的な満足度”は9割を超える。

Cブロックは、“②施設や設備”“⑤安全・衛生面の対策”の『満足』が6割台、他の項目は7～8割となっており、“⑨全体的な満足度”は88.9%である。

Dブロックは、すべての項目に7割以上が『満足』と回答しており、“⑨全体的な満足度”は83.3%である。

Eブロックは、“②施設や設備”“⑤安全・衛生面の対策”“⑥指導員の専門性や指導力”の『満足』が6割台、他の項目は7～8割であり、“⑨全体的な満足度”は84.6%である。

Fブロックは、“②施設や設備”に『満足』が5割台、他の項目は7～8割台であり、“⑨全体的な満足度”は82.3%である。

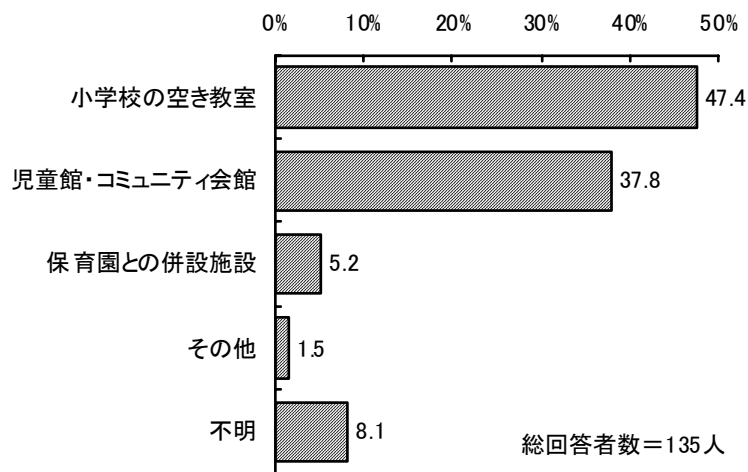
Gブロックは、“⑥指導員の専門性や指導力”の『満足』が5割台、“②施設や設備”“⑦保護者とのコミュニケーションや要望・苦情への対応”が6割台であり、“⑨全体的な満足度”は6割台と、他の地域に比べてもっとも低い。

Hブロックは、“②施設や設備”“⑤安全・衛生面の対策”の『満足』が6割台である一方、“③指導方針や育成内容”“⑧保護者が負担する金額”は9割台であり、“⑨全体的な満足度”は7割台となっている。

③学童クラブの希望設置場所

学童クラブは、どのような場所にあるとよいと思いますか。(1つに○)

図表Ⅱ-109 学童クラブの希望設置場所(単数回答)



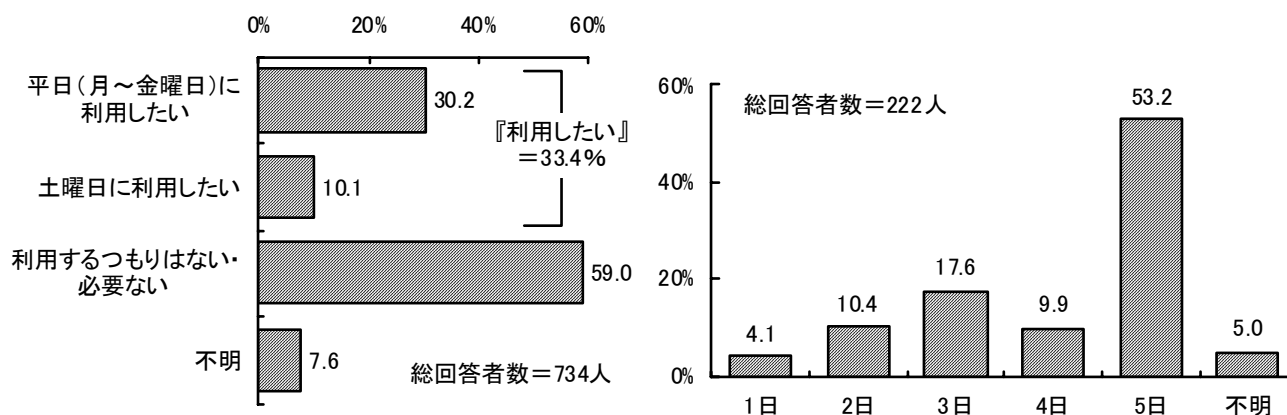
[小学生保護者調査]

学童クラブの利用者が希望する学童クラブ設置場所は、「小学校の空き教室」47.4%がもっとも高く、次いで「児童館・コミュニティ会館」37.8%となっている。

④学童クラブの利用意向と平日の利用希望日数

あて名のお子さんの、学童クラブの利用について、実際にはどのようにしたいと考えていますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-110 学童クラブの利用意向(複数回答)・学童クラブの平日利用希望日数(単数回答)



[小学生保護者調査]

学童クラブの利用意向について、「利用するつもりはない・必要ない」は59.0%であり、33.4%が『利用したい』(100%から「利用するつもりはない・必要ない」と「不明」を除いた割合)と回答している。

「平日(月～金曜日)に利用したい」は30.2%、「土曜日に利用したい」は10.1%となっている。

平日の利用を希望した場合の利用希望日数は、「5日」が53.2%、次いで「3日」17.6%、「2日」10.4%となっている。

図表Ⅱ-111 学童クラブの利用意向

			総回答者数(人)	平日(月～金曜日)に 利用したい	土曜日に利用したい	利用するつもりはない・ 必要ない	不明	『利用したい』
小学生保護者調査	全 体		734	30.2	10.1	59.0	7.6	33.4
	子どもの学年別	1 年生	131	51.1	12.2	41.2	6.1	52.7
		2 年生	115	39.1	13.0	47.8	10.4	41.8
		3 年生	128	35.9	9.4	57.0	3.9	39.1
		4 年生	124	18.5	8.1	67.7	8.9	23.4
		5 年生	114	16.7	8.8	74.6	5.3	20.1
		6 年生	119	17.6	9.2	67.2	11.8	21.0
	居住地域別	Aブロック	92	38.0	8.7	54.3	5.4	40.3
		Bブロック	86	31.4	5.8	58.1	7.0	34.9
		Cブロック	67	32.8	16.4	49.3	10.4	40.3
		Dブロック	80	26.3	10.0	61.3	11.3	27.4
		Eブロック	103	31.1	10.7	51.5	10.7	37.8
		Fブロック	111	24.3	6.3	65.8	7.2	27.0
		Gブロック	92	30.4	10.9	65.2	3.3	31.5
		Hブロック	99	30.3	14.1	61.6	7.1	31.3
	両親の就労形態別	ひとり親	75	34.7	17.3	46.7	10.7	42.6
		フルタイム共働き	191	48.2	15.7	39.8	7.9	52.3
		フルタイム・パート共働き	228	30.7	9.6	59.6	7.0	33.4
		専業主婦(夫)	218	14.2	3.7	78.0	6.9	15.1
		その他	10	10.0	10.0	60.0	20.0	20.0

※:『利用したい』=100%-「利用するつもりはない・必要ない」-「不明」

[小学生保護者調査]

子どもの学年別にみると、「平日（月～金曜日）に利用したい」割合は、1年生の51.1%と約半数、2・3年生は3割台、4年生以上では1割台であり、いずれも現在利用している割合に比べて高くなっている。「土曜日に利用したい」は、1・2年生の1割強、3年生の約1割を占める。

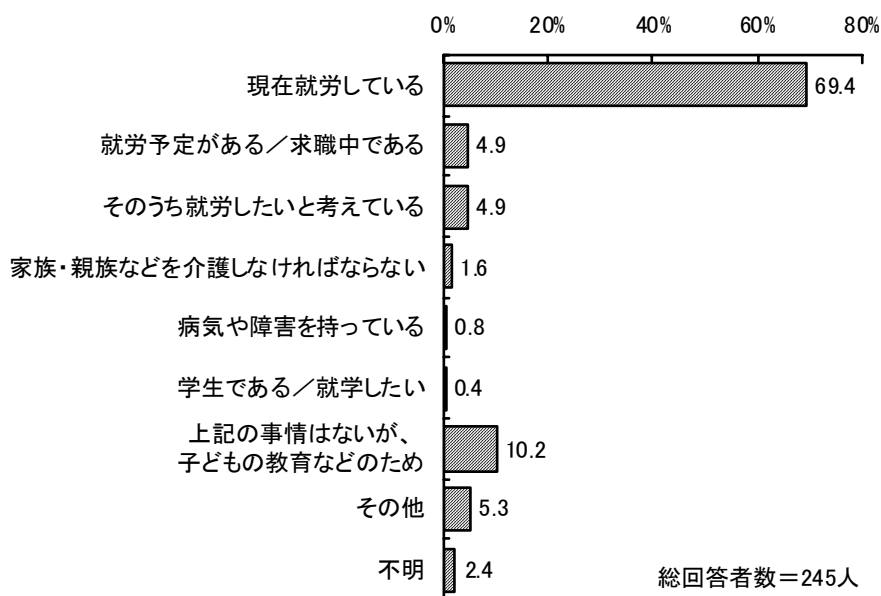
居住地域別にみると、「平日（月～金曜日）に利用したい」割合がもっとも高いのはAブロック居住者の38.0%、次いでCブロック32.8%、Bブロック31.4%の順となっている。また、「土曜日に利用したい」は、C・Hブロック居住者において15%前後を占め、他の地域に比べて利用意向が高くあらわれている。

両親の就労形態別にみると、フルタイム共働き家庭の48.2%、ひとり親家庭の34.7%が「平日（月～金曜日）に利用したい」と回答しており、他に比べて高い割合となっている。

⑤学童クラブを利用したい理由

「1」または「2」に○をした方にうかがいます。
学童クラブを利用し(続け)たい理由は何ですか。(主な理由1つだけに○)

図表Ⅱ-112 学童クラブを利用したい理由(単数回答)



[小学生保護者調査]

学童クラブを『利用したい』と回答した人の、利用したい理由は、「現在就労している」が 69.4%と約 7 割を占める。次いで、「上記の事情はないが、子どもの教育などのため」10.2%、「就労予定がある／求職中である」「そのうち就労したいと考えている」各 4.9%の順で続いている。

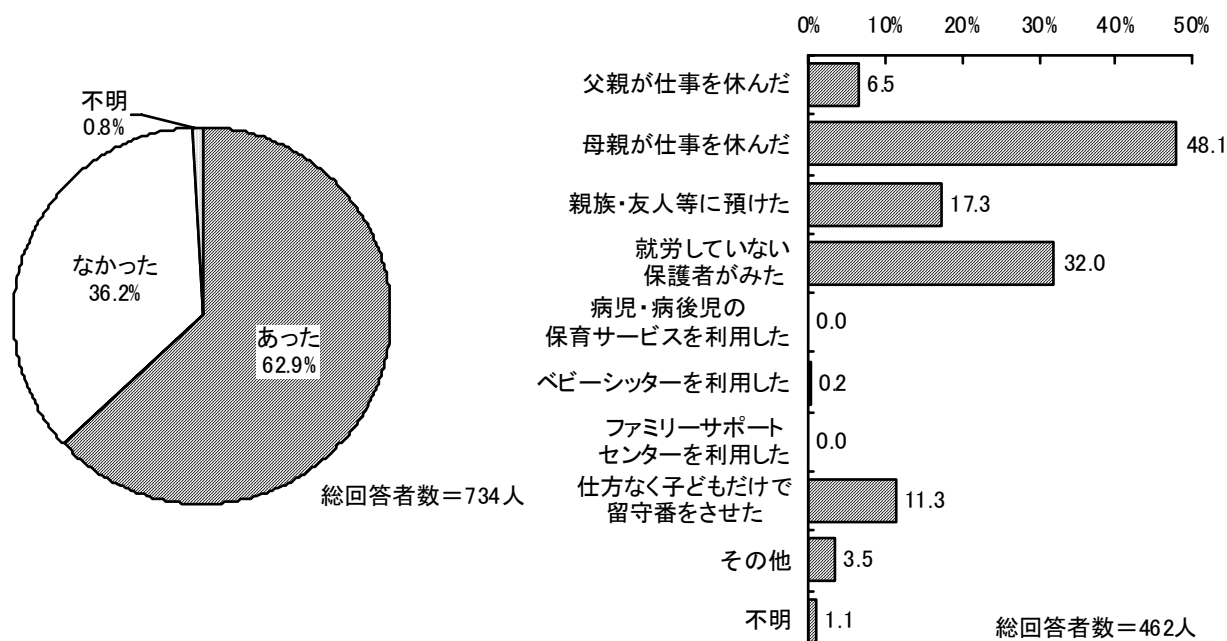
(8) 病気やケガで学校を休んだ経験と対応(小学生:問24～問24-2)

この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで学校を休まなければならなかったことはありましたか。(1つに○)

「1. あった」に○をした方にうかがいます。この1年間の対処方法すべてに○をし、それぞれのおおむねの日数をご記入ください。(半日程度も1日とカウントしてください)

「1～3」に○をした方にうかがいます。そのうち、できれば病児・病後児を預かってくれる保育サービスを利用したいと思われた日数は、どれくらいありますか。(数字を記入)

図表Ⅱ-113 病気やケガで学校を休んだ経験(単数回答)・その際の対応(複数回答)



図表Ⅱ-114 病気やケガで学校を休んだ際の対応ごとの日数(年間)

	総回答者数	平均日数	最長日数	最短日数
父親が仕事を休んだ	30 人	3.0 日	20 日	1 日
母親が仕事を休んだ	222 人	3.6 日	30 日	1 日
親族・友人等に預けた	80 人	3.6 日	10 日	1 日
就労していない保護者がみた	148 人	3.9 日	20 日	1 日
ベビーシッターを利用した	1 人	1.0 日	1 日	1 日
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	52 人	2.5 日	10 日	1 日
その他	16 人	3.6 日	10 日	1 日

[小学生保護者調査]

病気やケガで学校を休んだ経験については、62.9%が「あった」と回答している。

「あった」と回答した人の対処方法としては、「母親が仕事を休んだ」がもっとも高い48.1%、「就労していない保護者がみた」32.0%、「親族・友人等に預けた」17.3%、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」11.3%の順となっている。

図表Ⅱ-115 病気やケガで学校を休んだ経験

			総回答者数(人)	あった	なかった	不明
小学生保護者調査	全 体		734	62.9	36.2	0.8
	子どもの学年別	1 年生	131	61.1	38.9	0.0
		2 年生	115	67.8	29.6	2.6
		3 年生	128	70.3	29.7	0.0
		4 年生	124	58.9	39.5	1.6
		5 年生	114	55.3	43.9	0.9
		6 年生	119	63.0	37.0	0.0

[小学生保護者調査]

子どもの学年別にみると、病気やケガで学校を休んだ経験が「あった」割合は、他に比べて2・3・6年生において高くあらわれている。

図表Ⅱ-116 病児・病後児保育サービスの利用希望日数(年間)

総回答者数	274 人
平均日数	1.5 日
最長日数	12 日
最短日数	0 日

[小学生保護者調査]

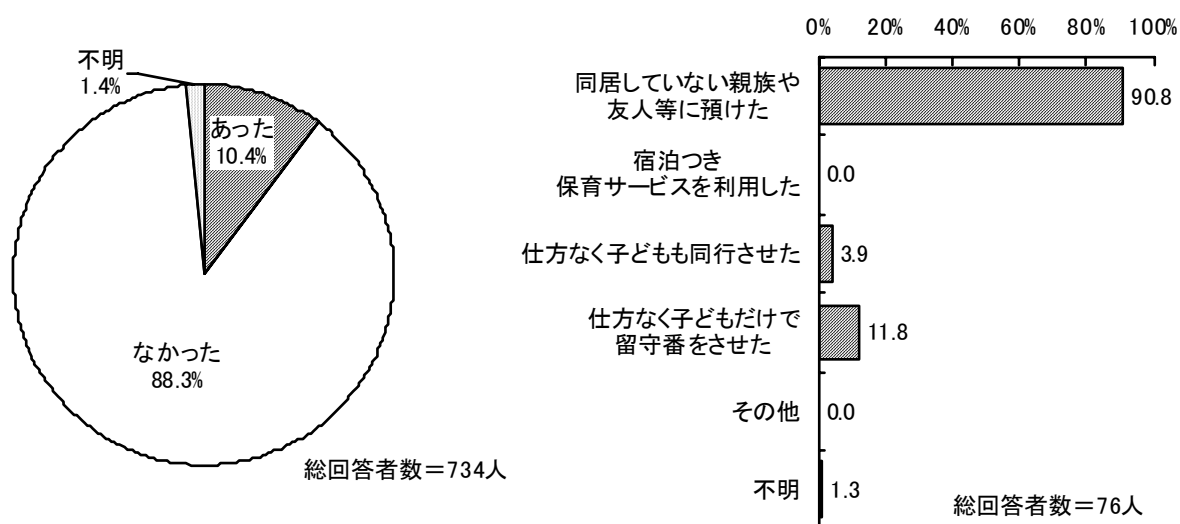
「母親が仕事を休んだ」「父親が仕事を休んだ」「親族・友人等に預けた」と回答した人に、そのうち病児・病後児保育サービスを利用したいと思った日数をたずねたところ、平均1.5日となっている。

(9)数日間の支援が必要となった経験と対応(小学生:問25～問25-2)

①数日間の支援が必要となった経験と対応

この1年間に、保護者の用事などにより、あて名のお子さんを泊まりがけで家族以外に預けなければならなかったことはありましたか。(1つに○)
「1. あった」に○をした方にうかがいます。
この1年間の対処方法すべてに○をし、それぞれのおおむねの日数をご記入ください。

図表Ⅱ-117 数日間の支援が必要となった経験(単数回答)・その際の対応(複数回答)



図表Ⅱ-118 数日間の支援が必要となった際の対応ごとの日数(年間)

	総回答者数	平均日数	最長日数	最短日数
同居していない親族や友人等に預けた	69 人	9.6 日	100 日	1 日
仕方なく子どもも同行させた	3 人	3.0 日	4 日	2 日
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	9 人	2.8 日	10 日	1 日

[小学生保護者調査]

子どもを泊まりがけで家族以外に預けた経験について、「あった」は10.4%となっている。

「あった」と回答した人の対処方法は、「同居していない親族や友人等に預けた」が90.8%であり、そのほか、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」11.8%などとなっている。

図表Ⅱ-119 数日間の支援が必要となった経験

			総回答者数(人)	あった	なかった	不明
小学生保護者調査	全 体		734	10.4	88.3	1.4
	子どもの学年別	1 年 生	131	13.7	85.5	0.8
		2 年 生	115	10.4	89.6	0.0
		3 年 生	128	14.1	83.6	2.3
		4 年 生	124	5.6	91.9	2.4
		5 年 生	114	7.9	90.4	1.8
		6 年 生	119	10.1	89.1	0.8

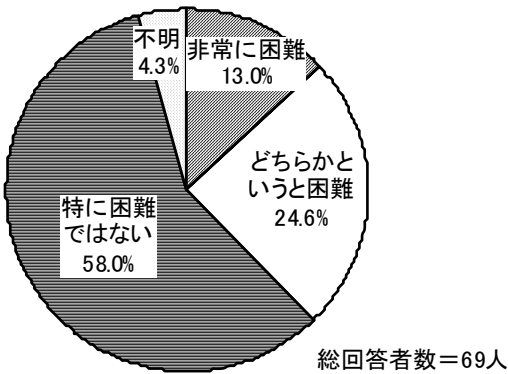
[小学生保護者調査]

子どもの学年別にみると、子どもを泊まりがけで家族以外に預けた経験が「あった」割合は、他に比べて1・3年生において高くあらわれている。

②同居していない親族や友人等に預ける場合の困難度

「1. 同居していない親族や友人等に預けた」に○をした方にうかがいます。
その場合の困難度はどの程度でしたか。(1つに○)

図表Ⅱ-120 同居していない親族や友人等に預ける場合の困難度(単数回答)



[小学生保護者調査]

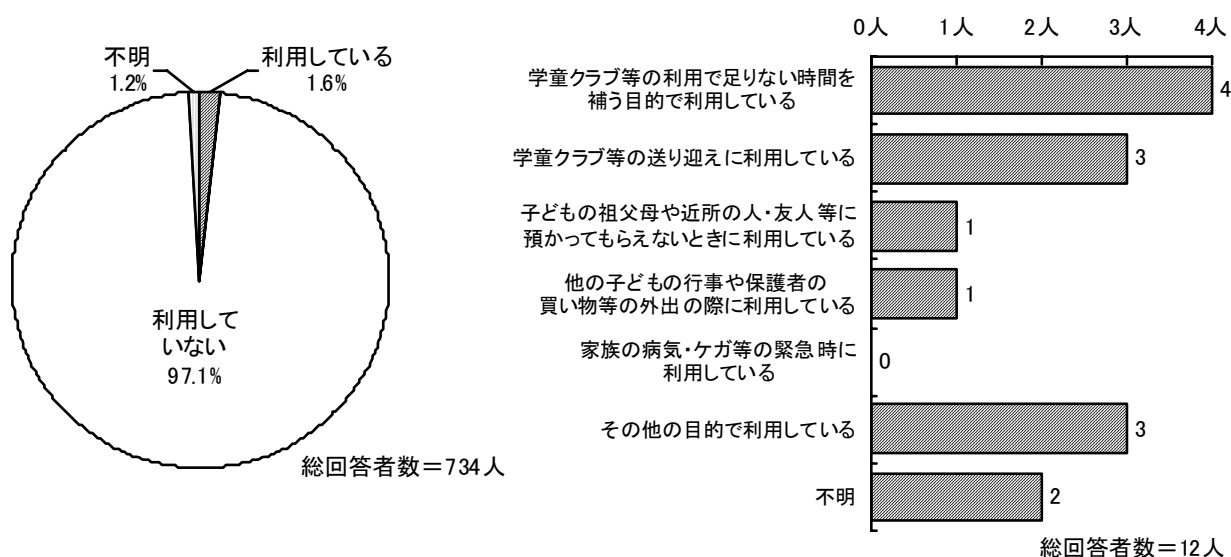
「同居していない親族や友人等に預けた」と回答した人について、その場合の困難度をたずねたところ、「特に困難ではない」が58.0%を占める。「どちらかという困難」は24.6%、「非常に困難」は13.0%となっている。

(10)ファミリーサポートセンターの利用状況と利用意向(小学生:問26～問27)

①ファミリーサポートセンターの利用状況と利用目的

あて名のお子さんについて、現在、ファミリーサポートセンターを利用していますか。(1つに○)
 「1. 利用している」に○をした方にうかがいます。
 どのような目的で利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-121 ファミリーサポートセンターの利用状況(単数回答)・その利用目的(複数回答)



[小学生保護者調査]

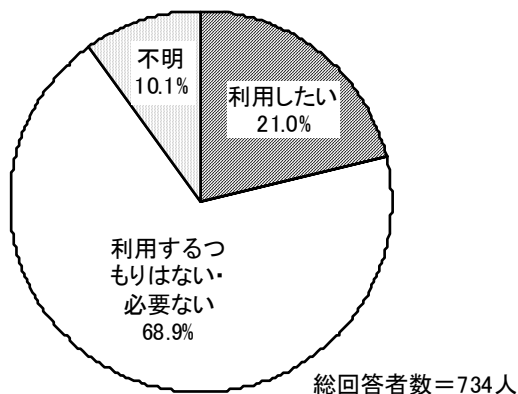
ファミリーサポートセンターの利用状況を見ると、97.1%が「利用していない」と回答しており、「利用している」は1.6%であった。

「利用している」人の利用目的は、「学童クラブ等の利用で足りない時間を補う目的で利用している」がもっとも多い4人、次いで「学童クラブ等の送り迎えに利用している」「その他の目的で利用している」各3人などとなっている。

②ファミリーサポートセンターの利用意向

あて名のお子さんについて、ファミリーサポートセンターを利用し(続け)たいですか。(1つに○)

図表Ⅱ-122 ファミリーサポートセンターの利用意向(単数回答)



[小学生保護者調査]

ファミリーサポートセンターの利用意向については、21.0%が「利用したい」と回答する結果となった。

図表Ⅱ-123 ファミリーサポートセンターの利用意向

			総回答者数(人)	利用したい	利用するつもりはない・必要ない	不明
小学生保護者調査	全 体		734	21.0	68.9	10.1
	子どもの学年別	1 年 生	131	26.7	62.6	10.7
		2 年 生	115	20.0	72.2	7.8
		3 年 生	128	25.0	64.1	10.9
		4 年 生	124	23.4	67.7	8.9
		5 年 生	114	14.0	74.6	11.4
		6 年 生	119	15.1	73.9	10.9
	居住地地域別	Aブロック	92	17.4	71.7	10.9
		Bブロック	86	19.8	64.0	16.3
		Cブロック	67	20.9	68.7	10.4
		Dブロック	80	17.5	70.0	12.5
		Eブロック	103	22.3	66.0	11.7
		Fブロック	111	22.5	73.0	4.5
		Gブロック	92	21.7	67.4	10.9
Hブロック		99	25.3	69.7	5.1	

[小学生保護者調査]

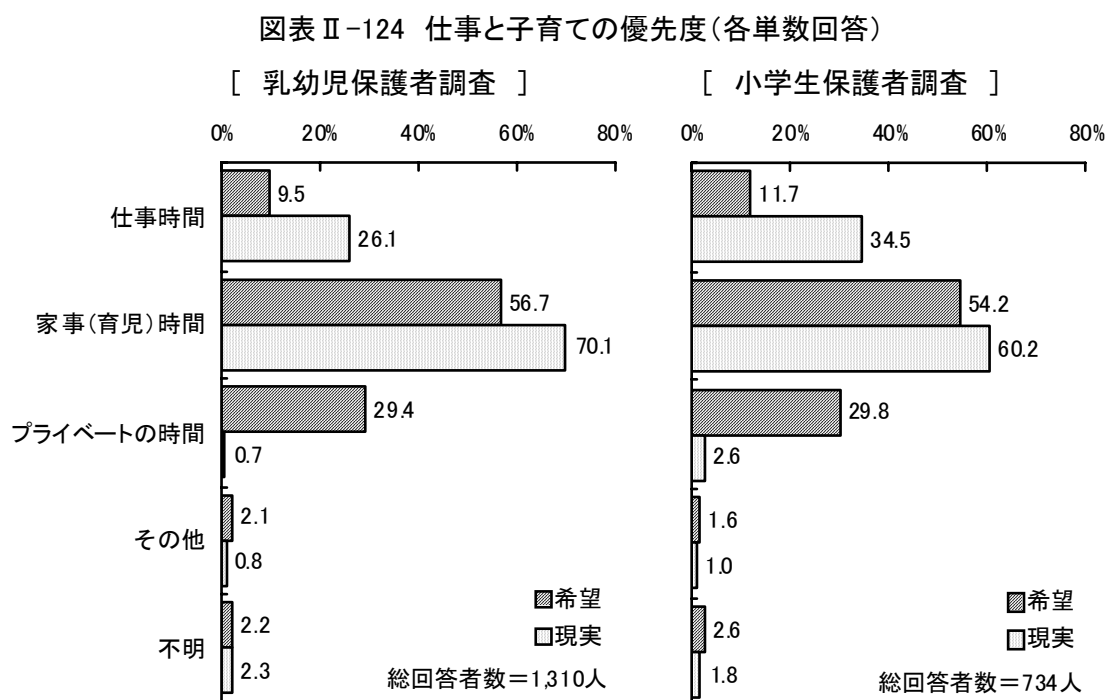
子どもの学年別にみると、1～4年生の2割台、5・6年生の1割台が「利用したい」と回答している。

居住地域別にみると、Eブロック及びF・G・Hブロックの南部地域居住者において、他に比べて利用意向が高くあらわれている。

6. 仕事と子育ての関係

(1) 仕事と子育ての優先度(乳幼児:問29、小学生:問28)

あなたの生活の中での、「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度についてうかがいます。①希望と②現実、それぞれについてお答えください。(1つに○)



[乳幼児保護者調査]

「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度について、①希望は、「家事(育児)時間」が56.7%、次いで「プライベートの時間」29.4%であり、「仕事時間」は9.5%と1割を下回っている。

一方、②現実には、「家事(育児)時間」が約7割を占め、次いで「仕事時間」26.1%となっており、「プライベートの時間」は0.7%であった。

[小学生保護者調査]

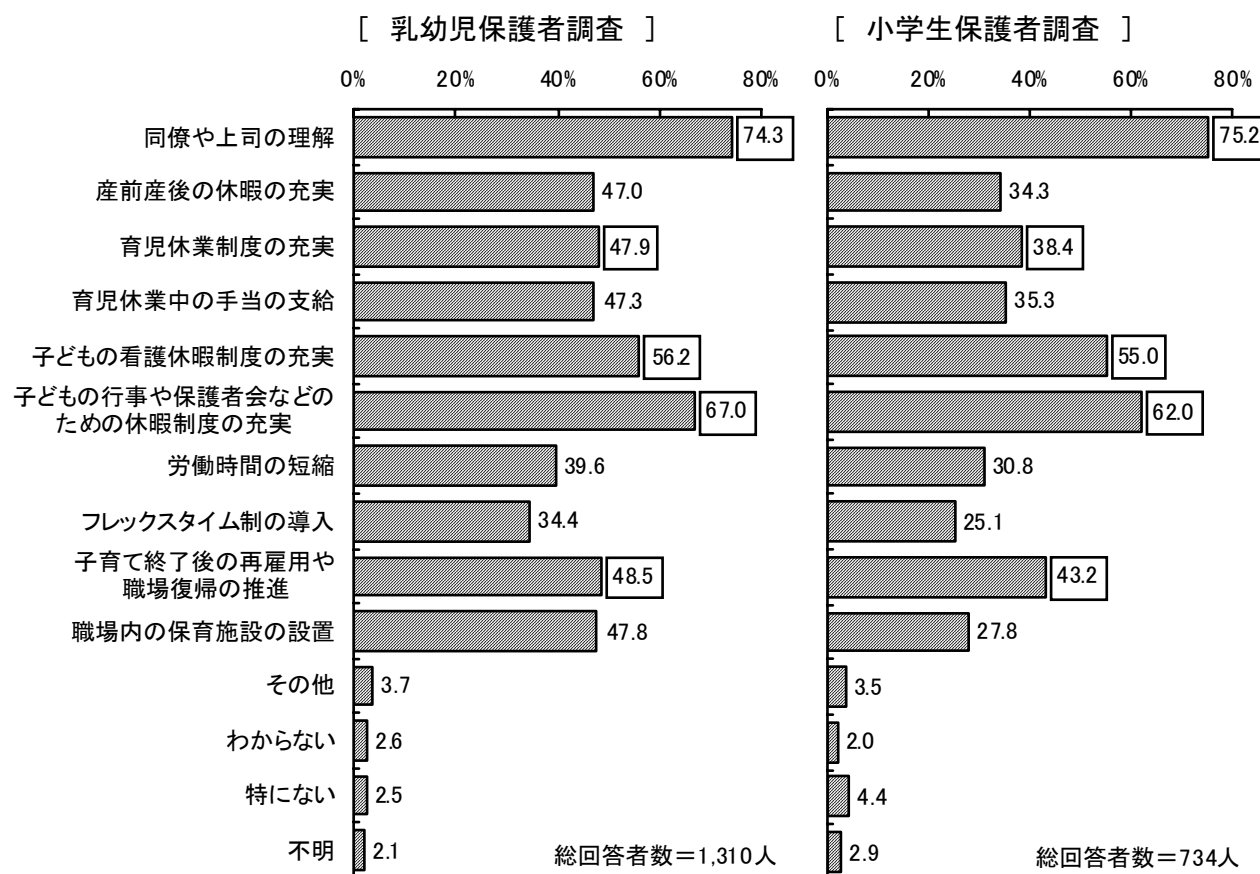
「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度について、①希望は、「家事(育児)時間」54.2%、「プライベートの時間」29.8%の順となっている。

②現実に関しては、「家事(育児)時間」60.2%に次いで、「仕事時間」が34.5%で続いており、「プライベートの時間」は2.6%であった。

(2)企業に望む子育て支援策(乳幼児:問30、小学生:問29)

仕事をしながら安心して子育てをするために、企業などに望むことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-125 企業に望む子育て支援策(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位5位の値

[乳幼児保護者調査]

乳幼児の保護者が企業に望む子育て支援策は、「同僚や上司の理解」「子どもの行事や保護者会などのための休暇制度の充実」「子どもの看護休暇制度の充実」「子育て終了後の再雇用や職場復帰の推進」「育児休業制度の充実」が上位5位となっている。

[小学生保護者調査]

小学生の保護者が企業に望む子育て支援策は、乳幼児保護者調査の結果と同様に、「同僚や上司の理解」「子どもの行事や保護者会などのための休暇制度の充実」「子どもの看護休暇制度の充実」「子育て終了後の再雇用や職場復帰の推進」「育児休業制度の充実」が上位5位となっている。

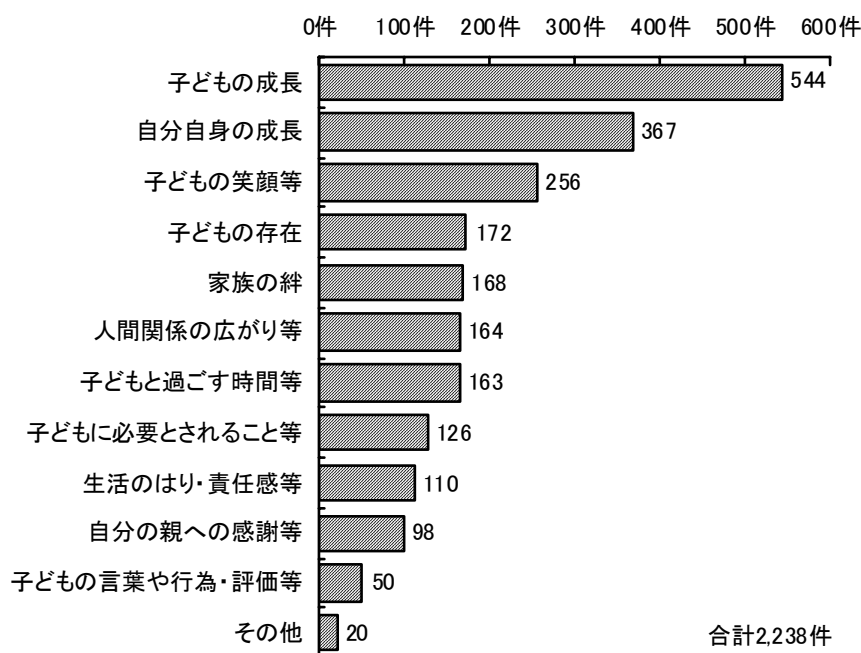
7. 子育てに関する悩みやストレス

(1) 子育ての喜び・良かったこと(乳幼児:問31、小学生:問30)

子育ての喜び、子育てをして良かったことは、何ですか。(箇条書き等で自由にご記入ください)

① 乳幼児の保護者の子育ての喜び・良かったこと

図表Ⅱ-126 乳幼児の保護者の子育ての喜び・良かったこと



以下は、乳幼児の保護者が記入した回答の抜粋である。

■子どもの成長(544 件)

- 日々成長を見守れることが幸せだと感じる。
- 子どもが一つずつできることが増えていく、その些細なことに感動できること。
- とにかく子どもがかわいい。一つひとつできることが増えてくると成長したのだなと嬉しくなる。
- いつの間にか出来ることが増え、人間の強さ・たくましさを教えてくれる。
- 元気にすくすくと明るく育っている様子を見ているとき。

■自分自身の成長(367 件)

- 子どもの成長とともに自身を見つめなおす機会が与えられる。
- 毎日が新鮮。子どもだから気付くことなど、子どもから教えられることがある。
- 子どもを持っている人、妊婦などの気持ちを、生む前ではわからなかった立場になって考えられる。
- 今まで見たことのないこと、思ったことのないことなどを、子どもを通して貴重な体験ができる。自分も成長させてもらっている。

■子どもの笑顔等(256 件)

- にっこり笑ってくれるとホッ！とする。
- 子どもの笑顔や寝顔を見ると幸せな気持ちになれる。
- 日常生活の中でふとした笑顔を見た時や、楽しそうな笑い声を聞いたとき。
- 満面の笑顔を見ると疲れが吹っ飛び、子育ての幸せを感じる。
- 仕事などで辛い時、疲れている時でも子どもの笑顔、おしゃべりを聞くと自分も笑顔になれる。

■子どもの存在(172 件)

- かわいい。産んでよかったと思う。
- 「自分の子ども」という存在自体が喜びである。
- 何気ないことが、子どもといると何倍も楽しく感じられる。
- 子どもがいるだけで癒される。
- 毎晩2人の子どもに挟まれて眠るとき「生まれてきてくれてありがとう」と喜びを感じる。

■家族の絆(168 件)

- 家族や大切な人たちと楽しい時間を共有できる。
- 家族の結束を感じる。
- 子どもを通して親族の間が近くなった。
- 家族に笑顔がふえた。
- 子育てを通じて、家族や祖父母が楽しく過ごせる。生きがいの一つにもなっている。

■人間関係の広がり等(164 件)

- 子どもがいなければ知り合えなかった人々との出会い。
- 子どもを通じて親戚や友人と再会する機会が増えた。
- 独身のときよりも地域を身近に感じ、人と人とのつながりを実感できる。
- 子どもを通じて親同士が友達になれた。
- 地域とのつながり、異世代とのつながりができる。

■子どもと過ごす時間等(163 件)

- 挨拶をする、友達と仲良くするなど、人生の基本的なことを一緒に見直すことができる。
- 笑う回数が増えて健康的になった。
- 子どもの目線、感動などを共有できる。
- 初めて行うことがいろいろあり、新鮮である。
- 子どもと一緒にいろいろな場所へ出かけ、多くのことをともに体験し共有することができ、毎日がわくわくする。楽しさが何倍にもなる。

■子どもに必要とされること等(126 件)

- 無条件で自分を必要としてくれる存在と日々過ごせること。
- 自分の存在価値が仕事以外で見出せた。
- 愛することと愛されることの喜びを味わえる。
- 子どもに必要とされているので、自分が強くなった。
- 自分がなくてならない存在だと実感させてもらえることがある。

■生活のはり・責任感等(110 件)

- 子どもとの生活によって、自分自身の生活が充実している。
- 人間を育てるという責任感と親自らの成長。
- 日々の中に笑いや癒しが増えた。
- 生活にメリハリができる。
- 自分自身が強くなれた。

■自分の親への感謝等(98 件)

- 自分で子育てをしてみて親の大変さがわかった。
- 自分の親への感謝の気持ちが強くなった。
- 自分の両親が必死に自分を育ててくれたんだと実感できる。子ども 1 人を育てることがどんなに大変かがわかった。
- 自分の親、祖父母、夫の家族など、多くの人に対する感謝の気持ちを知った。
- 育児中の親の気持ちがわかった。

■子どもの言葉や行為・評価等(50 件)

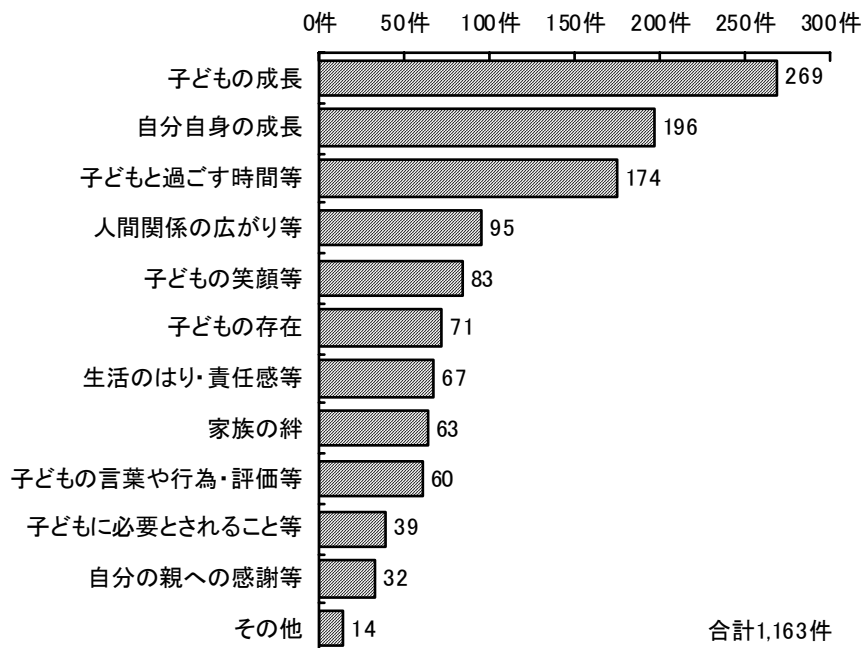
- 自分が辛い時、子どもが励ましてくれた。
- 子どもに優しい言葉や手紙をもらったとき。
- 病気の時など、子どもたちが協力して手伝ってくれる。
- 泣いている時、子どもがいい子いい子と頭をなでてくれた。
- 「僕たちが、ママを守ってあげる」と言ってくれたとき。

■その他(20 件)

- 小さい時、もっとたくさん一緒に時間がほしかった。
- 子育てをして良かったと思えるほど、まだ余裕はないが、過去を振り返ったときに良かったと思えると思う。

②小学生の保護者の子育ての喜び・良かったこと

図表Ⅱ-127 小学生の保護者の子育ての喜び・良かったこと



以下は、小学生の保護者が記入した回答の抜粋である。

■子どもの成長(269 件)

- 日々の成長が楽しい。
- 知らない間にどんどん成長していて、頼もしく思うことがある。
- 子どもの内面的な成長を感じることができたとき。
- 学校生活での成長を感じたとき。
- 健やかに育っていく姿を見たとき、人に対して思いやりのある優しい言動を見たときに喜びを感じる。

■自分自身の成長(196 件)

- 子どもがいることで新しい世界が見られるようになった。人間として成長できた。
- 慈愛の心を持てるようになった。
- 子育ての経験をして、自分の視野が広がった。
- 子どもを通じて世界が広がった。つらいときもあるが、楽しく喜ぶことのほうが多い。
- 弱い立場の人に優しくなれた。

■子どもと過ごす時間等(174 件)

- 小さいうちは大変だが、今は話し相手になる。
- 子どもの体験すること、発見することを聞いたり話したりすると、自分の昔を思い出し一緒に成長している感じがする。
- 家の中に笑いが絶えず、毎日が充実している。
- つらいことがあっても、後でやっぱり育てて良かったと思う。
- 子どもがいなければできない体験ができ、楽しいことが増えた。

■人間関係の広がり等(95 件)

- 子どもを通して地域の方と関わりを持てた。
- いろいろな世代の方々と交流することができ、日々楽しい。
- 地域のイベントに参加するようになった。
- 子どもを通して人間関係の幅が広がった。地域に知人が増えた。
- 転勤で誰も知らない土地に引っ越してきたが、子どもたちがいるおかげで知り合いや友達が増えた。そこにいたるまでは、子どもたちが淋しさを紛らわせてくれた。

■子どもの笑顔等(83 件)

- 子どもの笑顔を見るだけで自分も元気になる。
- 毎日に変化していく子どもたちで楽しい。イライラすることもあるが、子どもの笑顔で怒ったことが馬鹿らしく思えて笑ってしまう。
- 子どもの笑顔や優しさに癒される。
- すやすや寝ている寝顔を見た時、子どもを産んでよかったと喜びを感じる。
- いろいろ不自由なこともあるが、子どもたちの笑顔に支えられている。

■子どもの存在(71 件)

- 子どもが自分にとってかけがえのないものと感じることができた。
- 子どもを抱くと、ホッと幸せを感じる。
- 愛する者が増えた。
- 自分以外に心から愛する存在ができ、生まれてきてよかったと全てに感謝するようになった。
- 楽しいことも辛いことも、子どもを授かったからこそその経験は、他のどんな事とも比較にならない学びだと思う。

■生活のはり・責任感等(67 件)

- 大人として、より責任を持って将来を考えて生きたいと思うようになった。
- 人を育てる大変さや苦勞とともに、幸福を感じる。
- 行事やイベント、季節を大切にできる。
- 親として人間としての自覚や責任感がいっそう明確になった。
- 家族のために仕事を頑張れる。

■家族の絆(63 件)

- 家族のコミュニケーションが向上した。
- 休みの日に、家族みんなで過ごしているとき幸せを感じる。
- 子どものことで夫婦の会話が増えた。
- 困難がある時、家族で支えあえる、協力し合える。
- 双方の両親に、元気な子どもたちの姿を見せてあげることができた。

■子どもの言葉や行為・評価等(60 件)

- やさしい子どもの気持ちに接したとき。
- 私を守ってくれる存在になってきた。
- 感謝の気持ちを言ってくれたとき。
- 良き話し相手、理解者になった。
- 優しい気持ちが子どもの中に育っていることを感じたとき。

■子どもに必要とされること等(39 件)

- 自分を必要としてくれるので自分が生きている意味を感じることができる。
- 愛を実感できる。
- 自分を必要としている存在がいること。
- 子どもを通して、自分を肯定できること。

■自分の親への感謝等(32 件)

- 親のありがたさがわかった。
- 自分の親の苦勞を知ることができた。

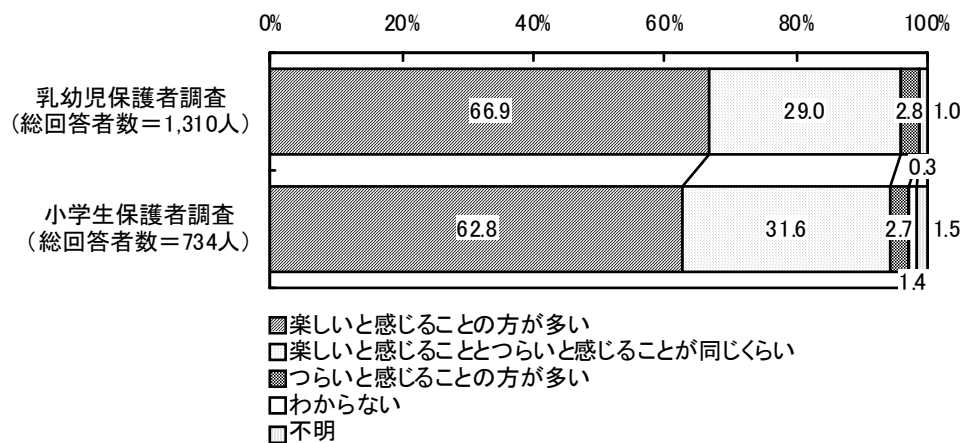
■その他(14 件)

- 子育て途中で毎日が忙しい。その事に喜びを感じている。

(2)子育てに対する感じ方(乳幼児:問32、小学生:問31)

あなたは、子育てをどのように感じていますか。(1つに○)

図表Ⅱ-128 子育てに対する感じ方(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児の保護者の子育てに対する感じ方は、「楽しいと感じることの方が多い」がもっとも高く 66.9%を占める。次いで、「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」が 29.0%であり、「つらいと感じることの方が多い」は 2.8%であった。

[小学生保護者調査]

小学生の保護者の子育てに対する感じ方は、「楽しいと感じることの方が多い」が 62.8%と最も高く、次いで「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」 31.6%であり、「つらいと感じることの方が多い」は 2.7%であった。

乳幼児保護者調査の結果と比べると、「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」と回答した人の割合が高くなっている。

図表Ⅱ-129 子育てに対する感じ方

				総回答者数(人)	楽しいと感じることの方が 多い	楽しいと感じることとつらい と感じることが同じくらい	楽しいと感じることの方が 多い	つらいと感じることの方が 多い	わからない	不明
乳幼児保護者調査	全 体		1,310	66.9	29.0	2.8	0.3	1.0		
	子どもの年齢別	満 0 歳	153	72.5	22.2	2.6	0.7	2.0		
		0 歳児	191	72.3	25.7	1.0	0.0	1.0		
		1 歳児	180	66.7	28.9	3.9	0.6	0.0		
		2 歳児	202	65.3	29.7	3.5	0.0	1.5		
		3 歳児	191	67.5	28.3	4.2	0.0	0.0		
		4 歳児	199	60.8	34.7	3.5	0.5	0.5		
		5 歳児	187	64.7	31.6	1.1	0.5	2.1		
	家族形態別	両親と子ども世帯	1,155	67.0	28.7	3.0	0.3	1.0		
		父親と子ども世帯	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		母親と子ども世帯	30	53.3	46.7	0.0	0.0	0.0		
		三世代世帯	105	67.6	29.5	1.9	0.0	1.0		
		その他の世帯	7	71.4	14.3	0.0	14.3	0.0		
	両親の就労形態別	ひとり親	48	60.4	37.5	2.1	0.0	0.0		
		フルタイム共働き	348	74.1	22.7	1.7	0.0	1.4		
		フルタイム・パート共働き	251	61.4	33.5	4.0	0.4	0.8		
		専業主婦(夫)	623	65.7	30.0	2.9	0.5	1.0		
		その他	17	64.7	29.4	5.9	0.0	0.0		

〔 乳幼児保護者調査 〕

子育ては「楽しいと感じることの方が多い」は、子どもの年齢が満0歳・0歳児の場合、両親の就労形態がフルタイム共働き家庭の場合に7割を超え、それぞれ他に比べて高い割合となっている。

図表Ⅱ-130 子育てに対する感じ方

				総回答者数(人)	楽しいと感じることの方が 多い	楽しいと感じることが同じくらい と感じることが同じくらい 多い	楽しいと感じることの方が 多い	つらいと感じることの方が 多い	わからない	不明
小学生保護者調査	全 体		734	62.8	31.6	2.7	1.4	1.5		
	子どもの学年別	1 年生	131	58.8	36.6	2.3	0.8	1.5		
		2 年生	115	63.5	32.2	1.7	1.7	0.9		
		3 年生	128	65.6	29.7	1.6	1.6	1.6		
		4 年生	124	61.3	31.5	2.4	2.4	2.4		
		5 年生	114	60.5	35.1	1.8	1.8	0.9		
		6 年生	119	66.4	25.2	6.7	0.0	1.7		
	家族形態別	両親と子ども世帯	569	64.5	30.8	2.1	1.4	1.2		
		父親と子ども世帯	6	33.3	16.7	33.3	16.7	0.0		
		母親と子ども世帯	51	51.0	37.3	7.8	0.0	3.9		
		三世代世帯	101	60.4	34.7	2.0	1.0	2.0		
		その他の世帯	5	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0		
	両親の就労形態別	ひとり親	75	50.7	37.3	8.0	1.3	2.7		
		フルタイム共働き	191	67.0	27.2	2.1	1.0	2.6		
		フルタイム・パート共働き	228	58.3	37.7	1.3	1.8	0.9		
		専業主婦(夫)	218	67.4	28.4	2.3	1.4	0.5		
		その他	10	50.0	30.0	10.0	0.0	10.0		

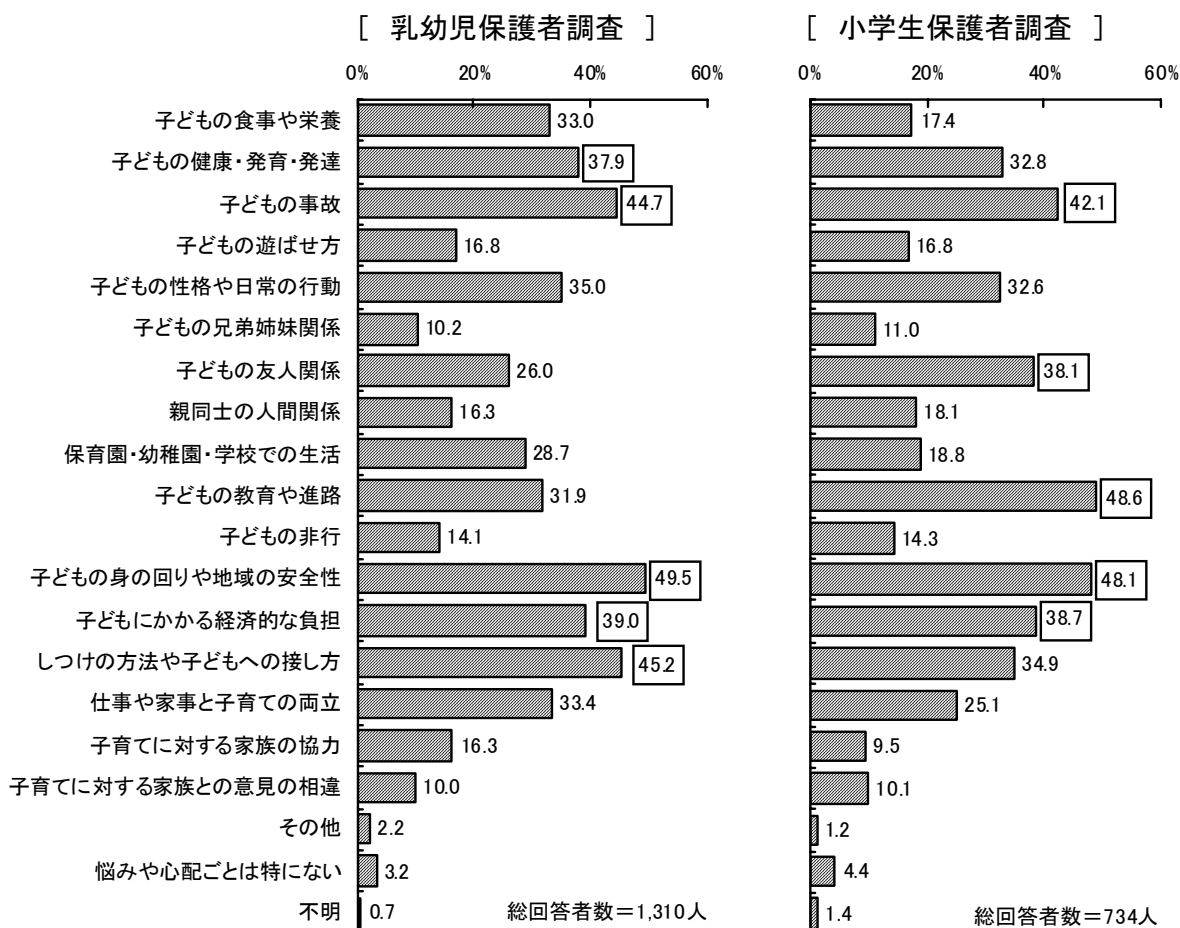
[小学生保護者調査]

子育ては「楽しいと感じることの方が多い」は、家族形態が両親と子ども世帯、両親の就労形態がフルタイム共働きや専業主婦（夫）家庭の場合に、それぞれ他に比べて高い割合となっている。

(3)子育てに関する悩みや心配ごと(乳幼児:問33、小学生:問32)

あなたは子育てについてどのような悩みや心配ごとがありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-131 子育てに関する悩みや心配ごと(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位 5 位の値

[乳幼児保護者調査]

乳幼児の保護者の子育てに関する悩みや心配ごととしては、「子どもの身の回りや地域の安全性」49.5%が第1位にあげられている。次いで、「しつけの方法や子どもへの接し方」45.2%、「子どもの事故」44.7%、「子どもにかかる経済的な負担」39.0%、「子どもの健康・発育・発達」37.9%の順で続いている。

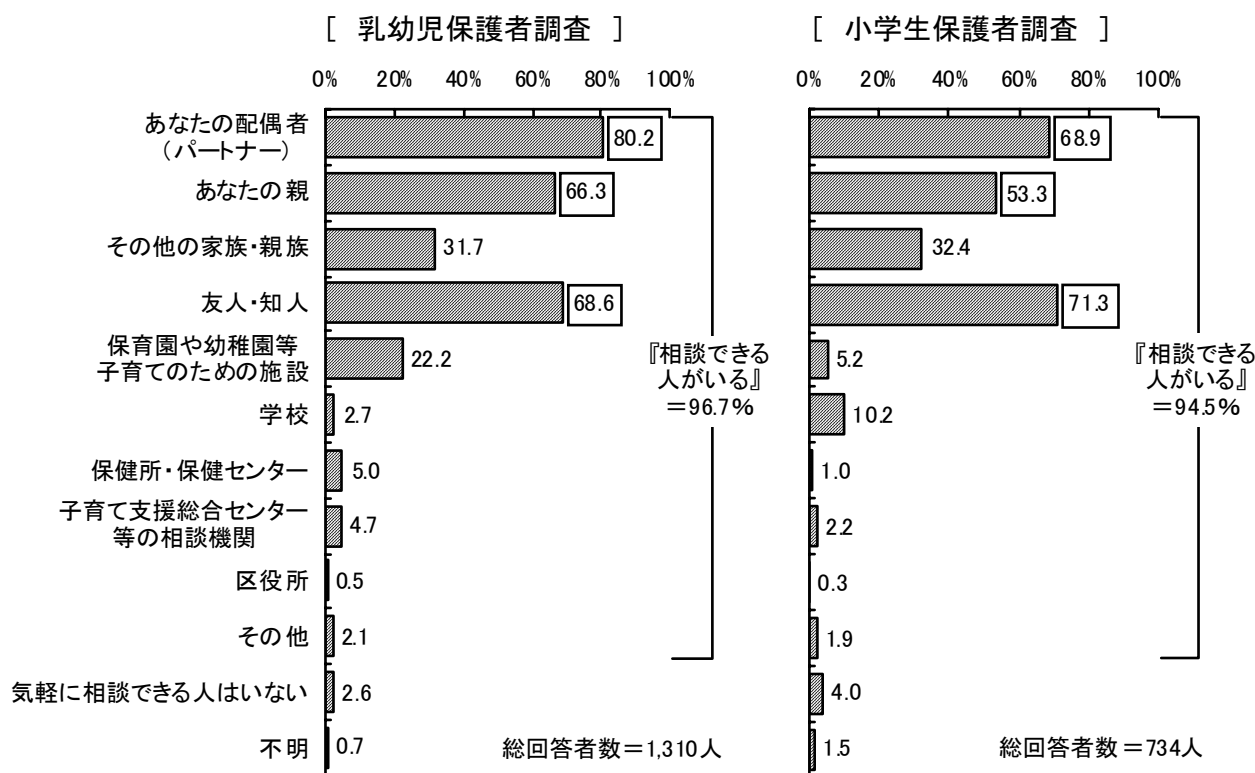
[小学生保護者調査]

小学生の保護者の子育てに関する悩みや心配ごととしては、「子どもの教育や進路」がもっとも高い割合となっている。次いで、「子どもの身の回りや地域の安全性」「子どもの事故」が続いており、これらは小学生の保護者の4割台があげた悩みや心配ごととなっている。これに、「子どもにかかる経済的な負担」「子どもの友人関係」「しつけの方法や子どもへの接し方」「子どもの健康・発育・発達」「子どもの性格や日常の行動」が3割台で続いている。

(4)子育てに関する相談先の有無(乳幼児:問34、小学生:問33)

あなたには、子育てについて気軽に相談できる人(場所)がいますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-132 子育てに関する相談先の有無(複数回答)



※: ☐ 囲みは、各調査の上位3位の値

[乳幼児保護者調査]

乳幼児の保護者の子育てに関する相談先については、『相談できる人がある』(100%から「気軽に相談できる人はいない」と「不明」を除いた割合)が96.7%を占める。相談者は、「あなたの配偶者(パートナー)」80.2%、「友人・知人」68.6%、「あなたの親」66.3%、「その他の家族・親族」31.7%の順となっている。また、「保育園や幼稚園等子育てのための施設」は2割台が相談先としてあげている。

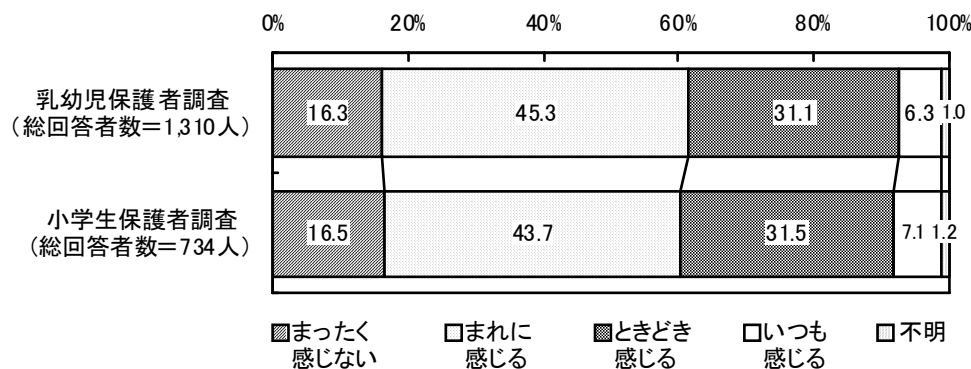
[小学生保護者調査]

小学生の保護者の子育てに関する相談先については、『相談できる人がある』が94.5%となっている。相談者は、「友人・知人」が71.3%と最も高く、「あなたの配偶者(パートナー)」68.9%、「あなたの親」53.3%、「その他の家族・親族」32.4%の順で続いている。

(5)子育てに自信がもてないと感じることの有無(乳幼児:問35、小学生:問34)

あなたは、ご自分の子育てに自信がもてないと感じることがありますか。(1つに○)

図表Ⅱ-133 子育てに自信がもてないと感じることの有無(単数回答)



〔 乳幼児保護者調査 〕

乳幼児の保護者が子育てに対して自信がもてないと感じることについては、「まれに感じる」が45.3%と最も高く、次いで「ときどき感じる」31.1%となっている。「いつも感じる」は6.3%であり、16.3%は「まったく感じない」と回答している。

〔 小学生保護者調査 〕

小学生の保護者が子育てに対して自信がもてないと感じることについては、「まれに感じる」43.7%、「ときどき感じる」31.5%の順となっている。「いつも感じる」は7.1%であり、16.5%は「まったく感じない」と回答している。

図表Ⅱ-134 子育てに自信がもてないと感じることの有無

		総回答者数(人)	まったく感じない	まれに感じる	ときどき感じる	いつも感じる	不明	『ときどき・いつも感じる』
乳幼児保護者調査	全 体	1,310	16.3	45.3	31.1	6.3	1.0	37.4
	子どもの年齢別	満0歳	153	22.9	52.9	19.6	3.3	22.9
		0歳児	191	16.2	52.4	26.7	3.1	29.8
		1歳児	180	17.2	41.7	32.8	8.3	41.1
		2歳児	202	15.8	46.5	30.2	6.9	37.1
		3歳児	191	9.4	48.7	32.5	9.4	41.9
		4歳児	199	18.1	40.2	35.2	6.5	41.7
		5歳児	187	16.0	36.4	38.5	5.9	44.4
	家族形態別	両親と子ども世帯	1,155	15.4	46.1	31.3	6.4	37.7
		父親と子ども世帯	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		母親と子ども世帯	30	33.3	30.0	30.0	6.7	36.7
		三世帯世帯	105	19.0	42.9	32.4	4.8	37.2
		その他の世帯	7	14.3	57.1	14.3	14.3	28.6
	両親の就労形態別	ひとり親	48	22.9	45.8	25.0	6.3	31.3
		フルタイム共働き	348	17.5	48.6	27.6	5.5	33.1
		フルタイム・パート共働き	251	15.9	41.0	37.5	4.8	42.3
		専業主婦(夫)	623	15.4	44.1	32.1	7.4	39.5
		その他	17	5.9	70.6	17.6	5.9	23.5

※:『ときどき・いつも感じる』=「ときどき感じる」+「いつも感じる」

[乳幼児保護者調査]

子育てに自信がもてない『ときどき・いつも感じる』は、子どもの年齢が1歳児及び3歳児以上、両親の就労形態がフルタイム・パート共働き家庭の場合に4割台を占め、それぞれ他に比べて高い割合となっている。

図表Ⅱ-135 子育てに自信がもてないと感じることの有無

			総回答者数(人)	まったく感じない	まれに感じる	ときどき感じる	いつも感じる	不明	『ときどき・いつも感じる』
小学生保護者調査	全 体		734	16.5	43.7	31.5	7.1	1.2	38.6
	子どもの学年別	1 年生	131	12.2	36.6	42.7	7.6	0.8	50.3
		2 年生	115	13.9	50.4	27.8	7.0	0.9	34.8
		3 年生	128	16.4	50.0	26.6	6.3	0.8	32.9
		4 年生	124	16.9	40.3	33.1	8.1	1.6	41.2
		5 年生	114	17.5	43.9	30.7	5.3	2.6	36.0
		6 年生	119	21.8	42.0	26.9	8.4	0.8	35.3
	家族形態別	両親と子ども世帯	569	17.4	44.3	31.5	6.0	0.9	37.5
		父親と子ども世帯	6	0.0	16.7	66.7	16.7	0.0	83.4
		母親と子ども世帯	51	7.8	35.3	35.3	17.6	3.9	52.9
		三世代世帯	101	14.9	48.5	27.7	6.9	2.0	34.6
		その他の世帯	5	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	60.0
	両親の就労形態別	ひとり親	75	10.7	36.0	36.0	14.7	2.7	50.7
		フルタイム共働き	191	20.4	42.4	29.8	5.2	2.1	35.0
		フルタイム・パート共働き	228	14.5	44.3	34.2	6.6	0.4	40.8
		専業主婦(夫)	218	17.4	47.7	28.4	6.0	0.5	34.4
		その他	10	0.0	40.0	30.0	20.0	10.0	50.0

※:『ときどき・いつも感じる』=「ときどき感じる」+「いつも感じる」

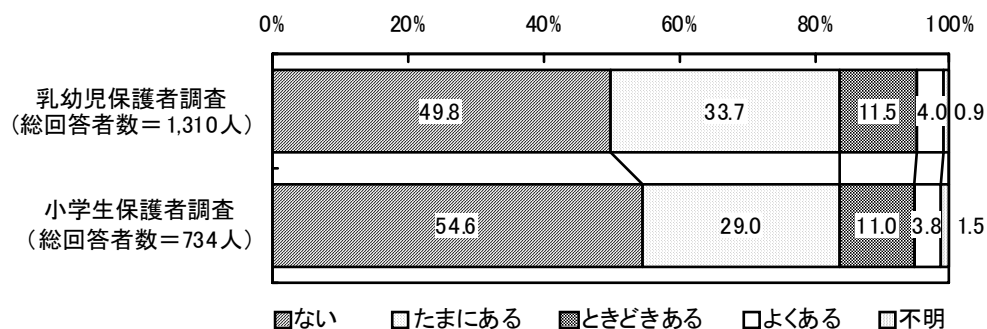
[小学生保護者調査]

子育てに自信がもてないと『ときどき・いつも感じる』は、子どもの学年が1年生、家族形態が母親と子ども世帯、両親の就労形態がひとり親家庭の場合に5割台を占め、それぞれ他に比べて高い割合となっている。

(6)子育てに対する不安や孤独感(乳幼児:問36、小学生:問35)

あなたは、家族や周囲の理解・協力が得られなくて、子育てに不安や孤独を感じることがありますか。(1つに○)

図表Ⅱ-136 子育てに対する不安や孤独感(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児の保護者が子育てに不安や孤独を感じることは「ない」が49.8%と約半数を占める。次いで、「たまにある」33.7%、「ときどきある」11.5%、「よくある」4.0%の順となっている。

[小学生保護者調査]

小学生の保護者が子育てに不安や孤独を感じることは、54.6%と半数強が「ない」と回答している。次いで、「たまにある」29.0%、「ときどきある」11.0%、「よくある」3.8%の順となっている。

図表Ⅱ-137 子育てに対する不安や孤独感

			総 回 答 者 数 (人)	な い	た ま に あ る	と き ど き あ る	よ く あ る	不 明	『ときどき・よくある』
乳幼児保護者調査	全 体		1,310	49.8	33.7	11.5	4.0	0.9	15.5
	子どもの年齢別	満0歳	153	49.7	36.6	9.8	2.0	2.0	11.8
		0歳児	191	50.3	37.7	10.5	0.5	1.0	11.0
		1歳児	180	48.3	34.4	13.3	3.9	0.0	17.2
		2歳児	202	52.5	33.2	8.4	5.4	0.5	13.8
		3歳児	191	45.5	35.6	12.0	6.3	0.5	18.3
		4歳児	199	56.3	27.6	12.1	4.0	0.0	16.1
		5歳児	187	47.1	30.5	13.9	5.9	2.7	19.8
	家族形態別	両親と子ども世帯	1,155	49.4	34.2	11.9	3.8	0.8	15.7
		父親と子ども世帯	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		母親と子ども世帯	30	46.7	30.0	6.7	16.7	0.0	23.4
		三世代世帯	105	52.4	34.3	8.6	2.9	1.9	11.5
		その他の世帯	7	57.1	14.3	14.3	14.3	0.0	28.6
	両親の就労形態別	ひとり親	48	50.0	33.3	6.3	10.4	0.0	16.7
		フルタイム共働き	348	52.3	33.3	10.6	2.9	0.9	13.5
		フルタイム・パート共働き	251	50.2	31.1	12.7	5.2	0.8	17.9
		専業主婦(夫)	623	48.0	35.0	12.0	3.9	1.1	15.9
		その他	17	52.9	41.2	5.9	0.0	0.0	5.9

※:『ときどき・よくある』=「ときどきある」+「よくある」

[乳幼児保護者調査]

子育てに不安や孤独を感じるものが『ときどき・よくある』割合は、子どもの年齢が5歳児の場合、両親の就労形態がフルタイム・パート共働き家庭の場合にもっとも高くなっている。

図表Ⅱ-138 子育てに対する不安や孤独感

			総 回 答 者 数 (人)	な い	た ま に あ る	と き ど き あ る	よ く あ る	不 明	『ときどき・よくある』
小学生保護者調査	全 体		734	54.6	29.0	11.0	3.8	1.5	14.8
	子どもの学年別	1年生	131	58.0	25.2	12.2	3.8	0.8	16.0
		2年生	115	52.2	33.0	11.3	2.6	0.9	13.9
		3年生	128	60.2	26.6	7.0	5.5	0.8	12.5
		4年生	124	51.6	29.8	13.7	3.2	1.6	16.9
		5年生	114	48.2	32.5	11.4	4.4	3.5	15.8
		6年生	119	57.1	26.9	10.9	3.4	1.7	14.3
	家族形態別	両親と子ども世帯	569	55.0	31.1	9.5	3.3	1.1	12.8
		父親と子ども世帯	6	66.7	0.0	16.7	16.7	0.0	33.4
		母親と子ども世帯	51	31.4	35.3	19.6	9.8	3.9	29.4
		三世帯世帯	101	62.4	17.8	13.9	3.0	3.0	16.9
		その他の世帯	5	60.0	0.0	40.0	0.0	0.0	40.0
	両親の就労形態別	ひとり親	75	40.0	29.3	20.0	8.0	2.7	28.0
		フルタイム共働き	191	62.8	25.7	8.9	0.5	2.1	9.4
		フルタイム・パート共働き	228	49.6	30.3	15.4	3.9	0.9	19.3
		専業主婦(夫)	218	56.9	33.0	5.0	4.6	0.5	9.6
		その他	10	60.0	0.0	10.0	20.0	10.0	30.0

※:『ときどき・よくある』=「ときどきある」+「よくある」

[小学生保護者調査]

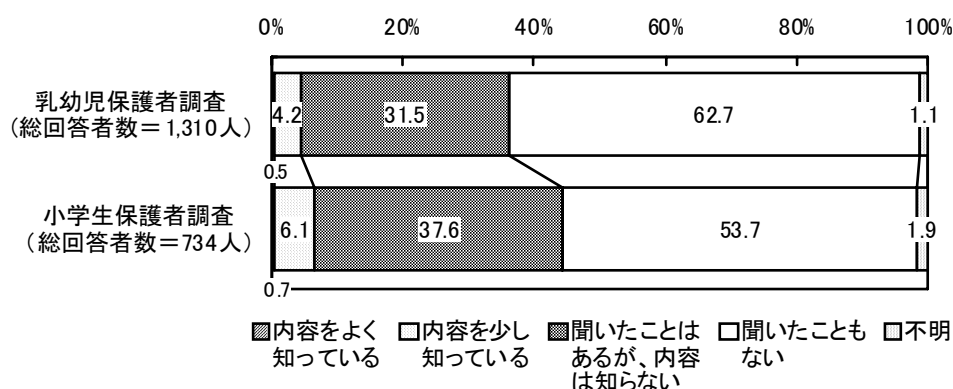
子育てに不安や孤独を感じるものが『ときどき・よくある』は、子育てに対する自信がもてないと感じる割合と同様に、子どもの学年が1・4年生、家族形態が母親と子ども世帯、両親の就労形態がひとり親家庭の場合において、それぞれ他に比べて高い割合となっている。

8. 墨田区の子育て支援サービス・環境

(1) 墨田区次世代育成支援行動計画の認知度(乳幼児:問37、小学生:問36)

墨田区では、平成 17 年 3 月に、子どもたちが健やかに生まれ育つための環境整備を図るため、「墨田区次世代育成支援行動計画」を策定しました。あなたは、この行動計画のことをどのくらい知っていますか。(1つに○)

図表Ⅱ-139 墨田区次世代育成支援行動計画の認知度(単数回答)



[乳幼児保護者調査]

乳幼児の保護者の墨田区次世代育成支援行動計画の認知度は、「聞いたこともない」が 62.7% を占める結果となった。次いで、「聞いたことはあるが、内容は知らない」31.5%であり、「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」を合わせた『内容を知っている』は 4.7%と 5%を下回った。

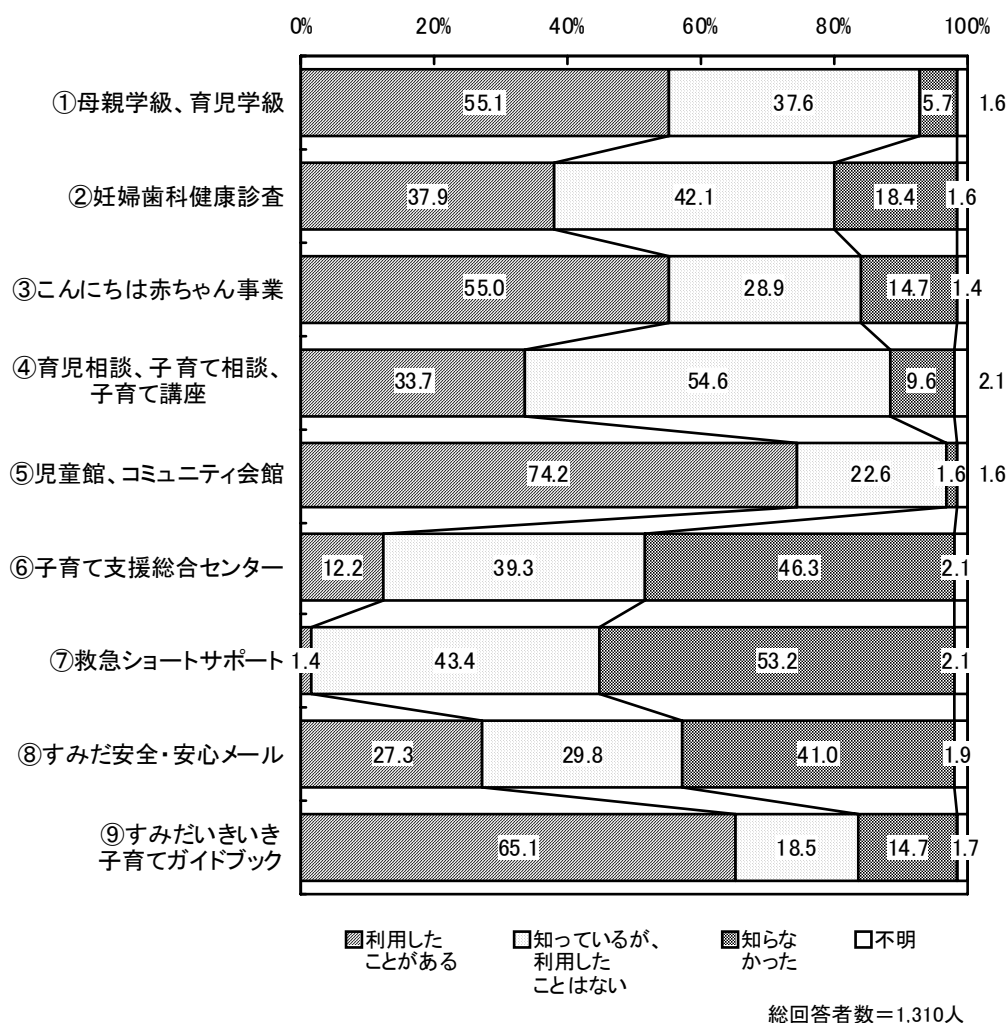
[小学生保護者調査]

小学生の保護者の墨田区次世代育成支援行動計画の認知度は、「聞いたこともない」が 53.7% となっている。「聞いたことはあるが、内容は知らない」は 37.6%、「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」を合わせた『内容を知っている』は 6.8%であり、乳幼児保護者調査結果に比べると、聞いたことがある・内容を知っている割合が高くなっている。

(2)子育て支援サービス等の認知・利用状況と利用意向(乳幼児:問38、小学生:問37)

下記のサービス等について、A:認知・利用状況、B:今後の利用意向をうかがいます。
①～⑦のサービスごとに、A・Bそれぞれについてあてはまるもの1つに○をしてください。

図表Ⅱ-140 子育て支援サービス等の認知・利用状況(各単数回答)

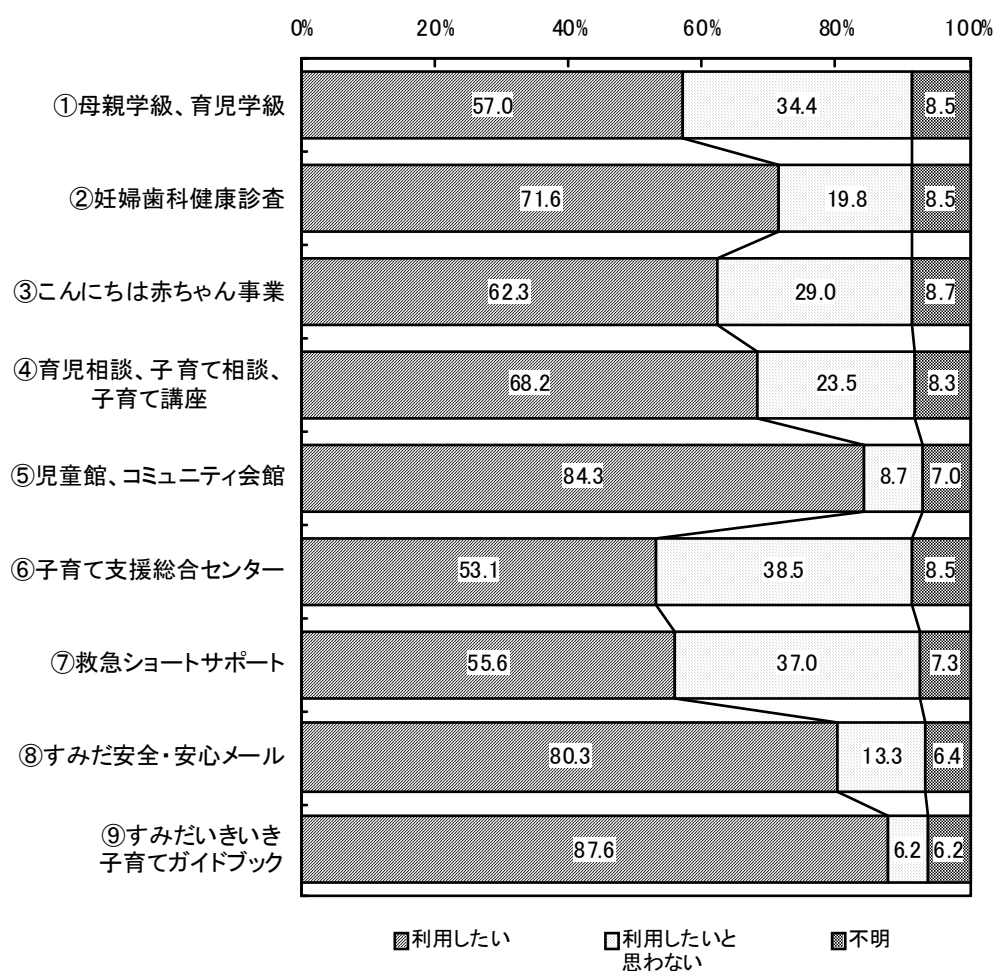


〔乳幼児保護者調査〕

乳幼児の保護者の子育て支援サービス等の認知・利用状況について、「利用したことがある」割合は、“⑤児童館、コミュニティ会館”7割台、“⑨すみだいきいき子育てガイドブック”6割台、“①母親学級、育児学級”“③こんにちは赤ちゃん事業”各5割台、“②妊婦歯科健康診査”“④育児相談、子育て相談、子育て講座”各3割台の順に高い。反対に、もっとも割合が低いのは“⑦救急ショートサポート”1.4%、次いで“⑥子育て支援総合センター”12.2%となっている。

「知らなかった」割合に注目すると、“⑦救急ショートサポート”が5割台、“⑥子育て支援総合センター”“⑧すみだ安全・安心メール”が4割台であり、これらは認知度が低いサービスとなっている。

図表Ⅱ-141 子育て支援サービス等の利用意向(各単数回答)

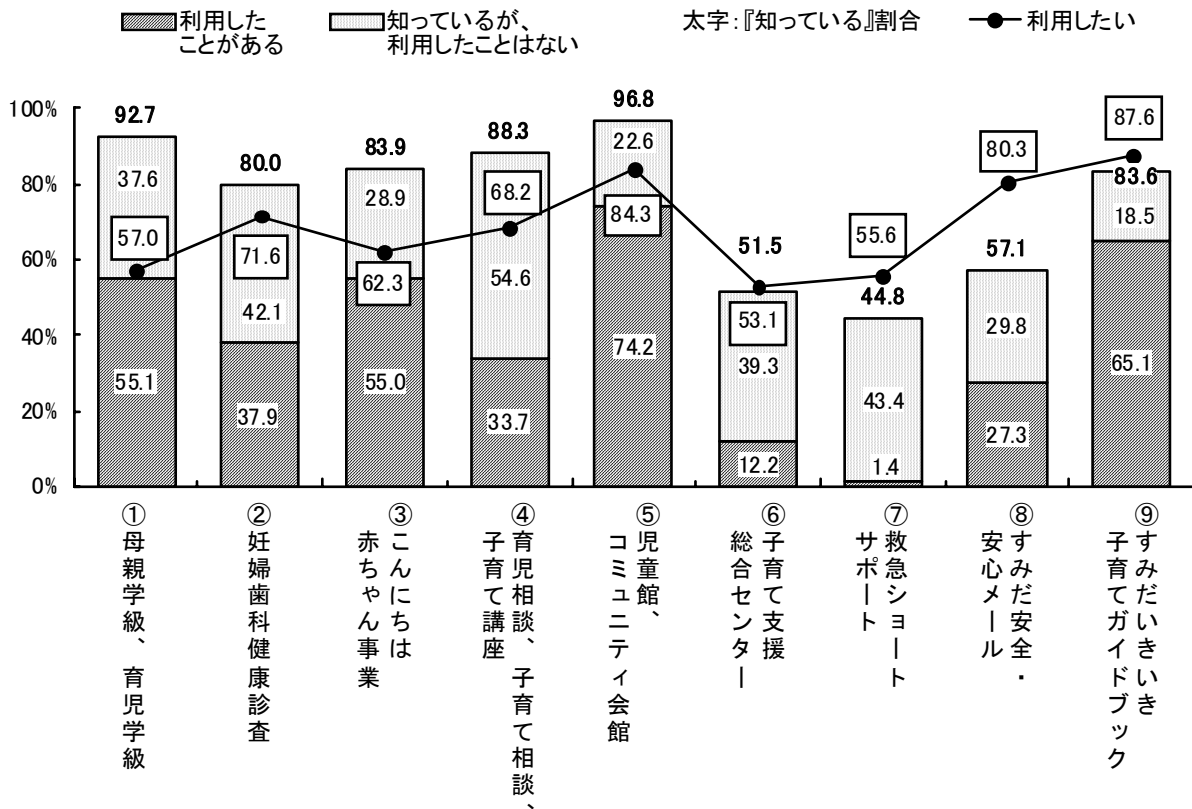


総回答者数=1,310人

[乳幼児保護者調査]

乳幼児の保護者の子育て支援サービス等の利用意向をみると、「利用したい」割合は、“⑨すみだいきいき子育てガイドブック”“⑤児童館、コミュニティ会館”“⑧すみだ安全・安心メール”が8割台、“②妊婦歯科健康診査”が7割台、“④育児相談、子育て相談、子育て講座”“③こんにちは赤ちゃん事業”が6割台となっている。また、認知度が相対的に低い“⑦救急ショートサポート”“⑥子育て支援総合センター”についても、それぞれ5割台が「利用したい」と回答している。

図表Ⅱ-142 子育て支援サービス等の認知・利用状況と利用意向の比較



※:『知っている』=「利用したことがある」+「知っているが、利用したことはない」

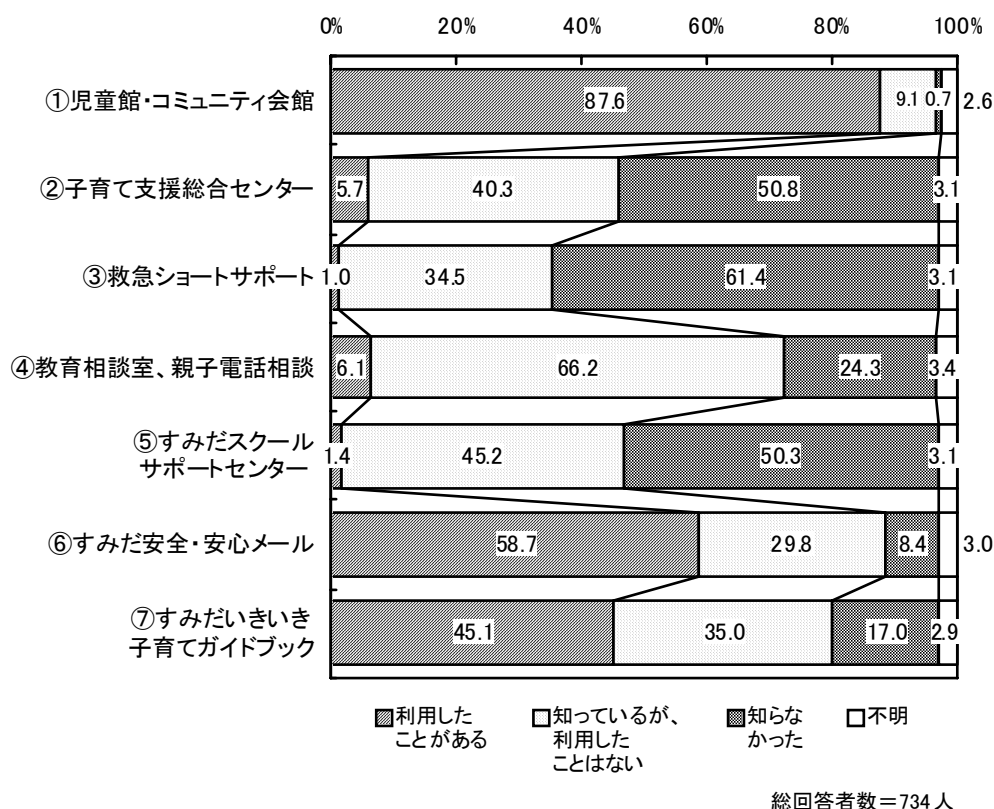
〔 乳幼児保護者調査 〕

乳幼児の保護者の子育て支援サービス等の認知・利用状況と利用意向を比較すると、“⑧すみだ安全・安心メール”は、認知度（『知っている』割合）が6割弱、利用率（「利用したことがある」割合）が3割弱にとどまっている一方で、利用意向（「利用したい」割合）が約8割と、他に比べて認知度と利用意向との差が大きい。

“⑦救急ショートサポート”“⑥子育て支援総合センター”は、認知度が5割前後と他のサービスに比べて低く、また、利用意向が利用率を大きく上回っているサービスである。

“④育児相談、子育て相談、子育て講座”“②妊婦歯科健康診査”は、認知度は8割を超えるものの利用率は3割台にとどまっており、利用意向が利用率を大きく上回っているサービスである。

図表Ⅱ-143 子育て支援サービス等の利用状況(各単数回答)



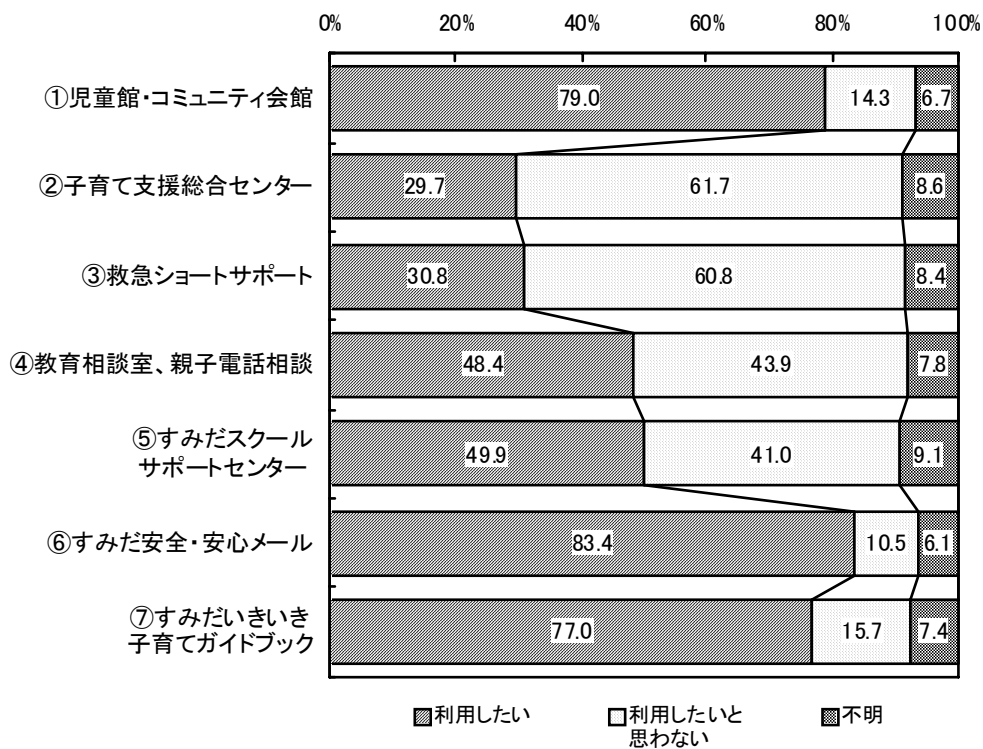
[小学生保護者調査]

小学生の保護者の子育て支援サービス等の認知・利用状況について、「利用したことがある」割合は、“①児童館、コミュニティ会館” 8 割台、“⑥すみだ安全・安心メール” 5 割台、“⑦すみだいきいき子育てガイドブック” 4 割台の順に高い。

一方、“③救急ショートサポート” は 6 割台、“②子育て支援総合センター” “⑤すみだスクールサポートセンター” は約 5 割が「知らなかった」と回答しており、認知度が低いサービスとなっている。

“④教育相談室、親子電話相談” は「利用したことがある」割合は 6.1%と 1 割を下回るものの、「知っているが、利用したことはない」を合わせた『知っている』は 72.3%であり、「知らなかった」は 2 割台となっている。

図表Ⅱ-144 子育て支援サービス等の利用意向(各単数回答)

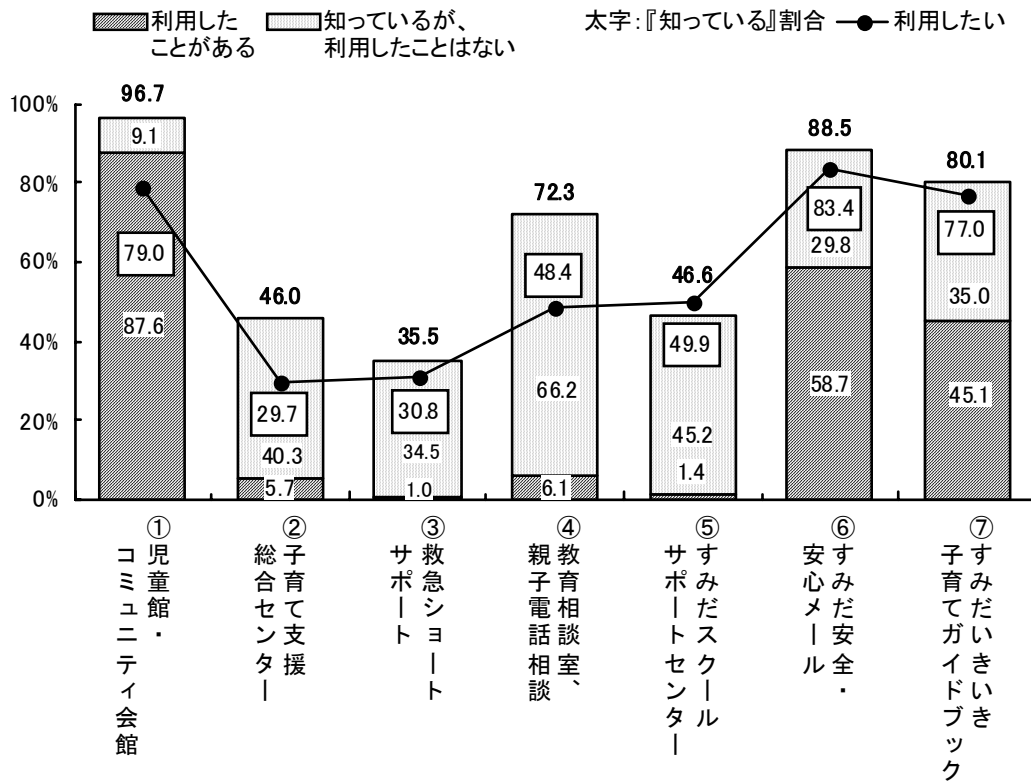


総回答者数=734人

[小学生保護者調査]

小学生の保護者の子育て支援サービス等の利用意向をみると、「利用したい」割合は、“⑥すみだ安全・安心メール”が8割台、“①児童館、コミュニティ会館”“⑦すみだいきいき子育てガイドブック”が7割台、“⑤すみだスクールサポートセンター”“④教育相談室、親子電話相談”が4割台、“③救急ショートサポート”“②子育て支援総合センター”が約3割となっている。

図表Ⅱ-145 子育て支援サービス等の認知・利用状況と利用意向の比較



※:『知っている』=「利用したことがある」+「知っているが、利用したことはない」

[小学生保護者調査]

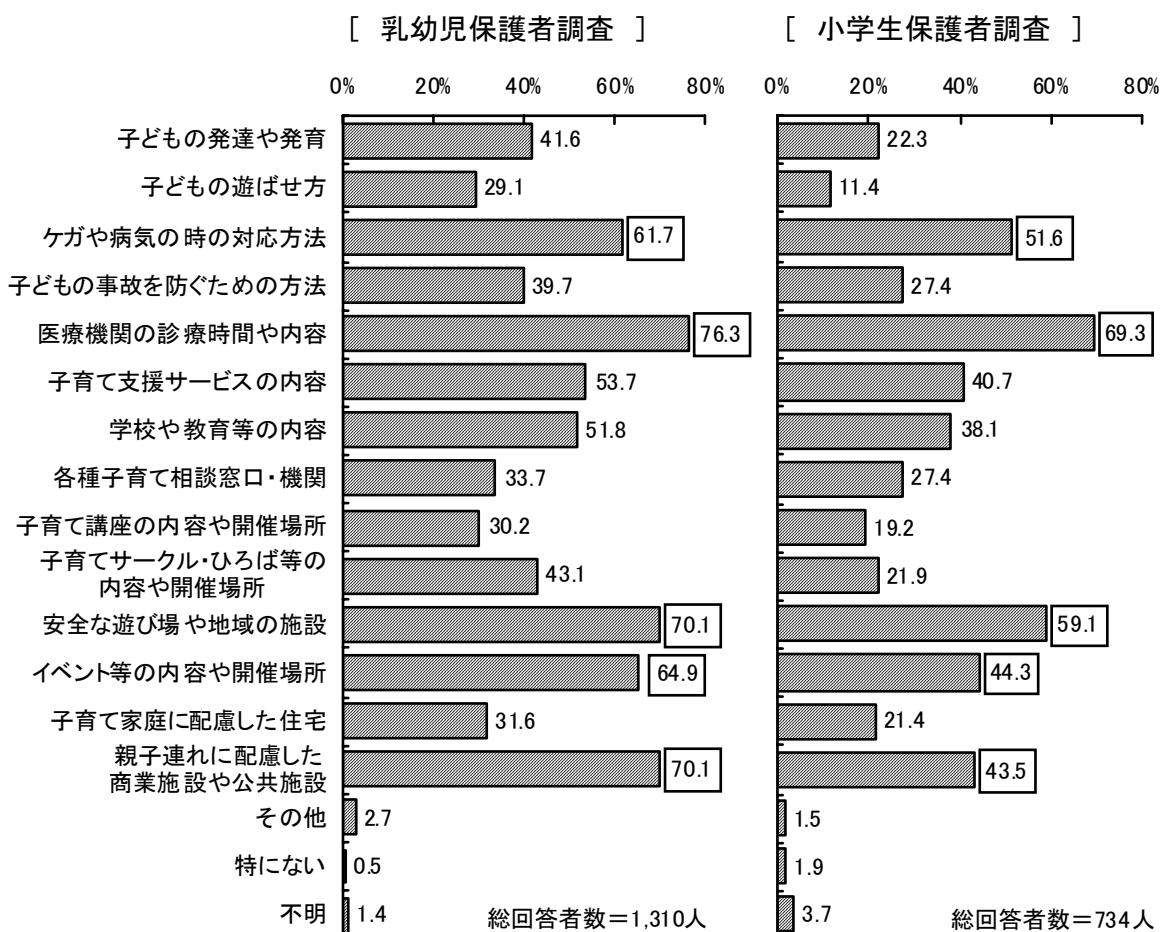
小学生の保護者の子育て支援サービス等の認知・利用状況と利用意向を比較すると、“⑤すみだスクールサポートセンター”は、認知度（『知っている』割合）が5割を下回っており、また、利用意向（「利用したい」割合）が約5割であるのに対して利用率（「利用したことがある」割合）は1.4%と、利用意向が利用率を大きく上回っている。

“④教育相談室、親子電話相談”は、認知度は7割台であるものの利用率が1割以下、利用意向が5割弱と、利用意向が利用率を大きく上回っているサービスである。

(3)子育てに役立つ情報(乳幼児:問39、小学生:問38)

あなたは、どのようなことに関する情報があれば、子育てに役に立つと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-146 子育てに役立つ情報(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位5位の値

[乳幼児保護者調査]

乳幼児の保護者の子育てに役立つ情報は、「医療機関の診療時間や内容」「安全な遊び場や地域の施設」「親子連れに配慮した商業施設や公共施設」が上位3位であり、これらはいずれも7割以上があげた項目である。次いで、「イベント等の内容や開催場所」「ケガや病気の時の対応方法」が6割台で続いている。

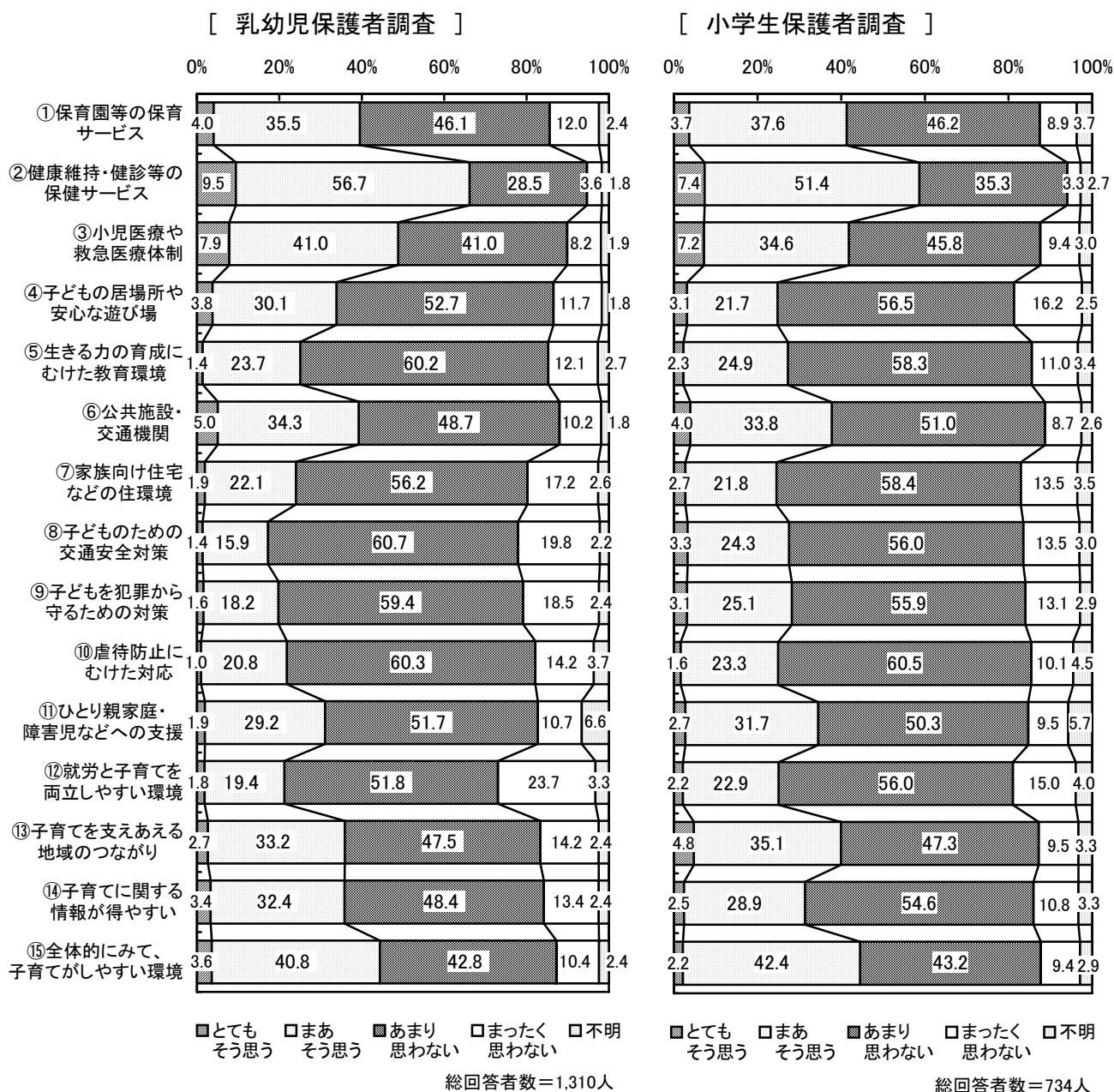
[小学生保護者調査]

小学生の保護者の子育てに役立つ情報は、「医療機関の診療時間や内容」69.3%がもっとも高く、次いで、「安全な遊び場や地域の施設」「ケガや病気の時の対応方法」が5割台、「イベント等の内容や開催場所」「親子連れに配慮した商業施設や公共施設」「子育て支援サービスの内容」が4割台で続いている。

(4) 墨田区の子育て環境に対する評価(乳幼児:問40、小学生:問39)

あなたは、乳幼児期(小学生)のお子さんを育てていく上で、墨田区の環境をどのように感じていますか。(①～⑮について、それぞれ1つに○)

図表Ⅱ-147 墨田区の子育て環境に対する評価(各単数回答)



図表Ⅱ-148 墨田区の子育て環境に対する評価－『思う』割合

	乳幼児保護者調査			小学生保護者調査		
	とても思う	まあ思う	『思う』	とても思う	まあ思う	『思う』
①保育園等の保育サービス	4.0	35.5	39.5	3.7	37.6	41.3
②健康維持・健診等の保健サービス	9.5	56.7	66.2	7.4	51.4	58.8
③小児医療や救急医療体制	7.9	41.0	48.9	7.2	34.6	41.8
④子どもの居場所や安心な遊び場	3.8	30.1	33.9	3.1	21.7	24.8
⑤生きる力の育成にむけた教育環境	1.4	23.7	25.1	2.3	24.9	27.2
⑥公共施設・交通機関	5.0	34.3	39.3	4.0	33.8	37.8
⑦家族向け住宅などの住環境	1.9	22.1	24.0	2.7	21.8	24.5
⑧子どものための交通安全対策	1.4	15.9	17.3	3.3	24.3	27.6
⑨子どもを犯罪から守るための対策	1.6	18.2	19.8	3.1	25.1	28.2
⑩虐待防止にむけた対応	1.0	20.8	21.8	1.6	23.3	24.9
⑪ひとり親家庭・障害児などへの支援	1.9	29.2	31.1	2.7	31.7	34.4
⑫就労と子育てを両立しやすい環境	1.8	19.4	21.2	2.2	22.9	25.1
⑬子育てを支えあえる地域のつながり	2.7	33.2	35.9	4.8	35.1	39.9
⑭子育てに関する情報が得やすい	3.4	32.4	35.8	2.5	28.9	31.4
⑮全体的にみて、子育てがしやすい環境	3.6	40.8	44.4	2.2	42.4	44.6

※：単位は％

※：『思う』＝「とても思う」＋「まあ思う」

図表Ⅱ-149 墨田区の子育て環境に対する評価－『思う』割合の上位5位

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
乳幼児保護者調査	②健康維持・健診等の保健サービス	③小児医療や救急医療体制	①保育園等の保育サービス	⑥公共施設・交通機関	⑬子育てを支えあえる地域のつながり
小学生保護者調査	②健康維持・健診等の保健サービス	③小児医療や救急医療体制	①保育園等の保育サービス	⑬子育てを支えあえる地域のつながり	⑥公共施設・交通機関

※：“⑮全体的にみて、子育てがしやすい環境”を除く順位

図表Ⅱ-150 墨田区の子育て環境に対する評価－『思う』割合の下位 5 位

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
乳幼児保護者調査	⑧子どものための交通安全対策	⑨子どもを犯罪から守るための対策	⑫就労と子育てを両立しやすい環境	⑩虐待防止にむけた対応	⑦家族向け住宅などの住環境
小学生保護者調査	⑦家族向け住宅などの住環境	④子どもの居場所や安心な遊び場	⑩虐待防止にむけた対応	⑫就労と子育てを両立しやすい環境	⑤生きる力の育成にむけた教育環境

〔 乳幼児保護者調査 〕

乳幼児の保護者における墨田区の子育て環境の評価について、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『思う』割合が高い上位 5 項目は、“②健康維持・健診等の保健サービス”“③小児医療や救急医療体制”“①保育園等の保育サービス”“⑥公共施設・交通機関”“⑬子育てを支えあえる地域のつながり”であり、これらは相対的には評価の高い項目となっている。

反対に、『思う』割合が低い下位 5 位は、“⑧子どものための交通安全対策”“⑨子どもを犯罪から守るための対策”“⑫就労と子育てを両立しやすい環境”“⑩虐待防止にむけた対応”“⑦家族向け住宅などの住環境”であり、これらの項目は、『思う』割合は 1～2 割台にとどまっている。

子育て環境に対する全体的な評価については、44.4%が『思う』、53.2%が『思わない』（「あまり思わない」と「まったく思わない」を合わせた割合）と回答している。

〔 小学生保護者調査 〕

小学生の保護者における墨田区の子育て環境の評価について、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『思う』割合が高い上位 5 項目は、“②健康維持・健診等の保健サービス”“③小児医療や救急医療体制”“①保育園等の保育サービス”“⑬子育てを支えあえる地域のつながり”“⑥公共施設・交通機関”であり、乳幼児保護者調査とほぼ同様の結果となっている。

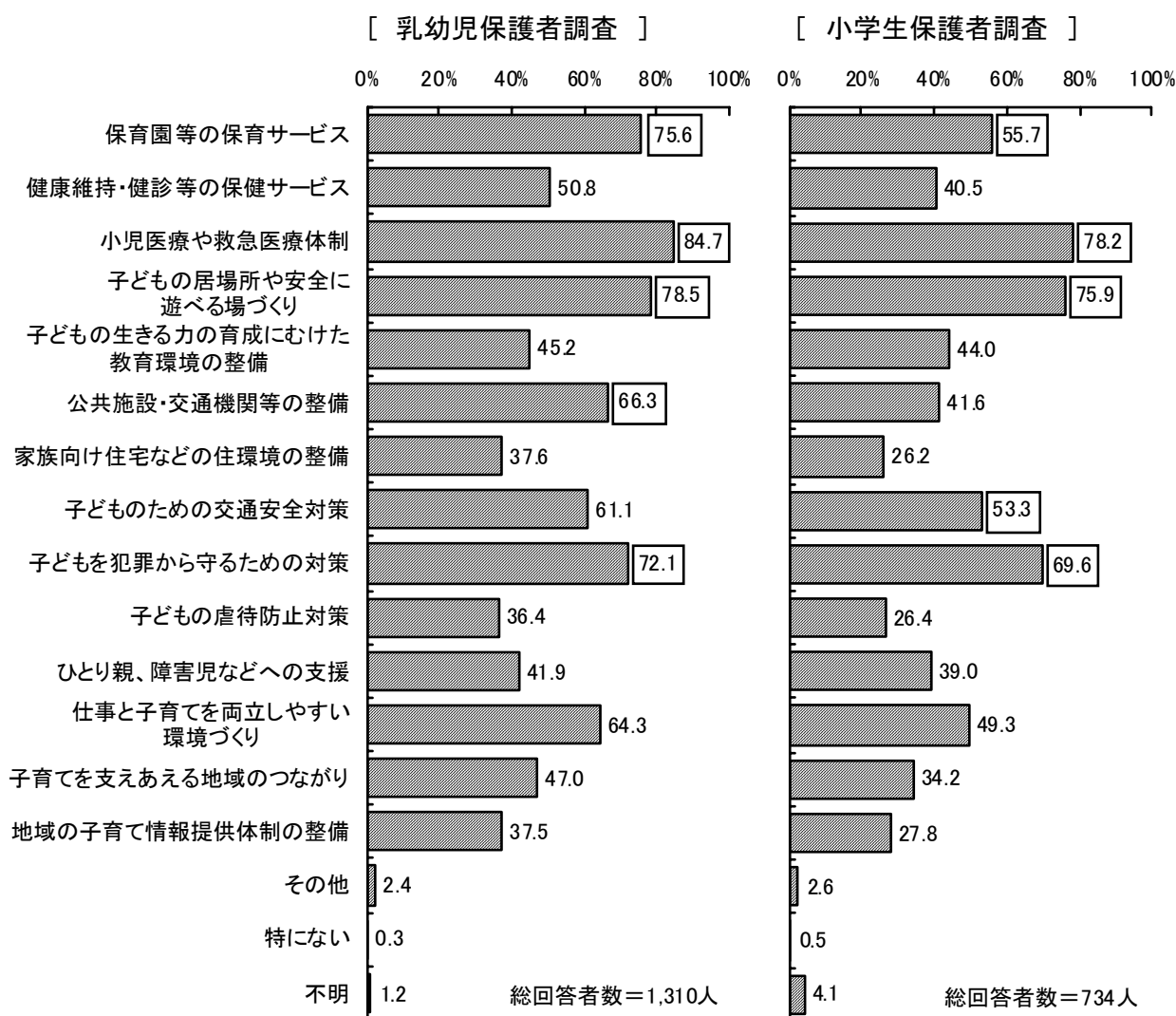
反対に、『思う』割合が低い下位 5 位は、“⑦家族向け住宅などの住環境”“④子どもの居場所や安全な遊び場”“⑩虐待防止にむけた対応”“⑫就労と子育てを両立しやすい環境”“⑤生きる力の育成にむけた教育環境”であり、これらの項目は、『思う』割合はいずれも 2 割台にとどまっている。

子育て環境に対する全体的な評価については、44.6%が『思う』、52.6%が『思わない』（「あまり思わない」と「まったく思わない」を合わせた割合）と回答している。

(5) 充実すべき子育て支援策(乳幼児:問41、小学生:問40)

安心して子育てができ、子どもがのびのびと育つことのできる環境づくりのために、行政や企業、地域において、ぜひ充実していくべきだと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-151 充実すべき子育て支援策(複数回答)



※: [] 囲みは、各調査の上位5位の値

図表Ⅱ-152 充実すべき子育て支援策の上位5位

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
乳幼児保護者調査	小児医療や救急医療体制	子どもの居場所や安全に遊べる場づくり	保育園等の保育サービス	子どもを犯罪から守るための対策	公共施設・交通機関等の整備
小学生保護者調査	小児医療や救急医療体制	子どもの居場所や安全に遊べる場づくり	子どもを犯罪から守るための対策	保育園等の保育サービス	子どものための交通安全対策

〔 乳幼児保護者調査 〕

乳幼児の保護者が充実すべきと考える墨田区の子育て支援策の上位5位は、「小児医療や救急医療体制」84.7%、「子どもの居場所や安全に遊べる場づくり」78.5%、「保育園等の保育サービス」75.6%、「子どもを犯罪から守るための対策」72.1%、「公共施設・交通機関等の整備」66.3%となっている。

〔 小学生保護者調査 〕

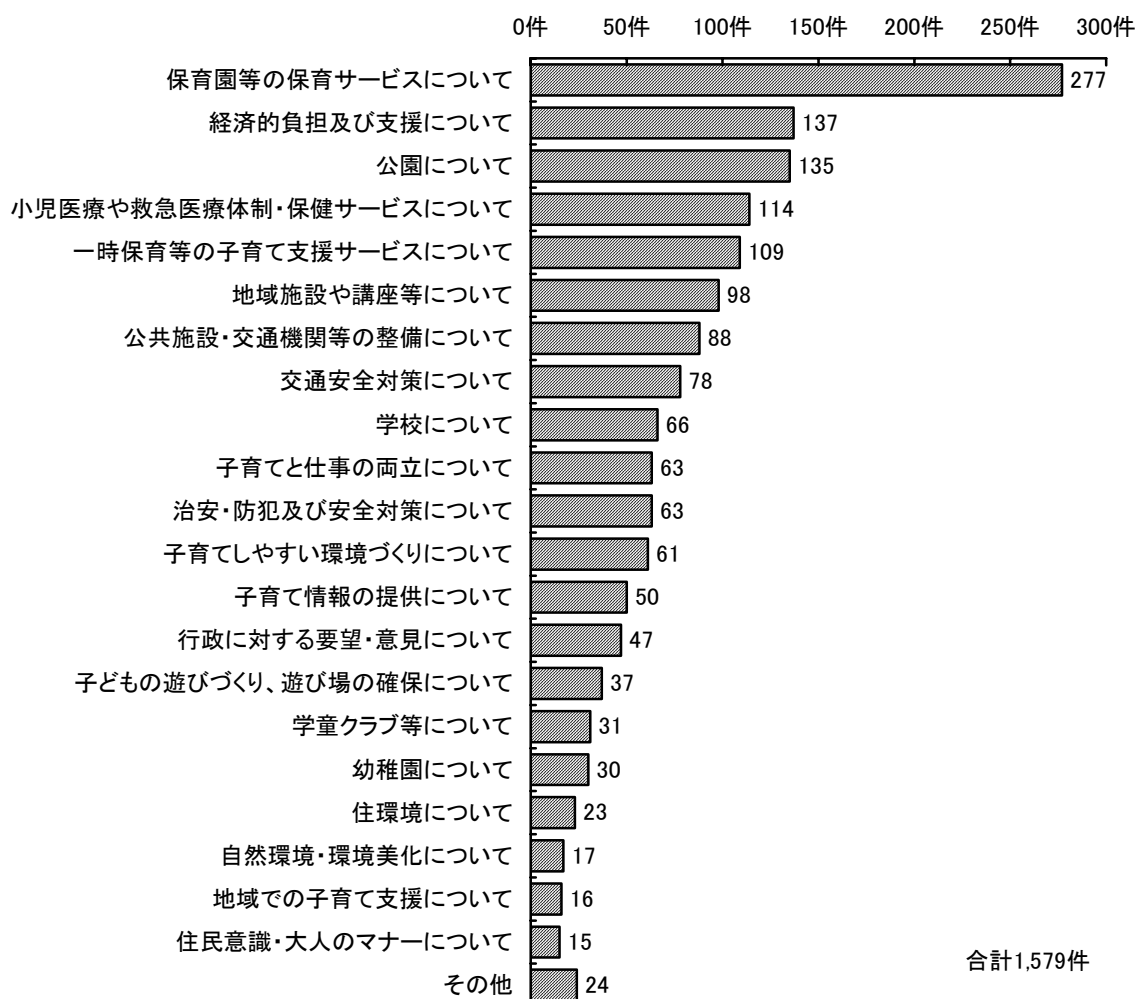
小学生の保護者が充実すべきと考える墨田区の子育て支援策の上位5位は、「小児医療や救急医療体制」78.2%、「子どもの居場所や安全に遊べる場づくり」75.9%、「子どもを犯罪から守るための対策」69.6%、「保育園等の保育サービス」55.7%、「子どものための交通安全対策」53.3%となっている。

9. 自由回答

安心して子どもを生み育て、子どもが健やかに育つことができる墨田区となるために、行政や地域、企業などに対してのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

(1) 乳幼児保護者の意見・要望

図表Ⅱ-153 乳幼児保護者の自由意見



以下は、乳幼児の保護者が記入した自由回答の抜粋である。

■ 保育園等の保育サービスについて(277 件)

① 保育園の増設について(138 件)

- 保育園を増やしてほしい。
- 保育園に入園するのに、本当に大変だった。正社員でなくても入園しやすいように定員枠をもっと増やしてほしい。
- 保育園の需要が多いにも関わらず、倍率が高く入園が難しい状況である。延長保育も含めて保育園を増やしてほしい。
- 保育施設（病児保育や一時保育を含む）の拡充を希望する。
- マンション建設が目立つが、保育園・幼稚園・学校や病院等の数が対応できていくのか心配。
- 認可保育園でなければ経済的にもきついのので、公立の園を充実させてほしい。

②保育園の設備サービス内容の充実について(50 件)

- 障害児への対応機関が、他区に比べて少ないと思う。もっと充実してほしい。
- 保育施設をもっと整備するべきである。特に防犯が不安である。
- 保育士の質の向上を図ってほしい。
- 幼稚園と保育園が一緒になっている施設を増やしてほしい。
- 保育園は、学習面、生活指導にも力を入れてほしい。

③保育園の入園選考について(39 件)

- 希望の保育園に入れるようになると良い。
- フルタイムで働いていないと保育所に入りにくい状況を改善してほしい。
- 育児休業取得者について、保育園入園予約制度を作してほしい。
- 保育園入園の際の判断基準を明確にするべきだと思う。親の在職証明と入園申込書の書類判断で、その家族の何がわかるのか。
- 多子家庭は優先的に保育園に入園できるようにしてほしい。

④延長保育等、保育園の弾力的な利用について(20 件)

- 延長保育を実施されている園の割合が非常に少ない。
- 夜間・休日保育を行う区立保育園を作してほしい。休日働いている親はたくさんいる。
- 様々な勤務形態があると思うので、保育時間はフレキシブルな対応をしてほしい。

⑤0 歳児保育・病後児保育等について(17 件)

- 生後 6 か月未満でも預かってもらえる保育園を増やしてほしい。
- 病後児保育について、自宅にサポートの方が来てくれることに抵抗がある。預かってくれる場所を作してほしい。
- 墨田区内の病院で病児・病後児保育を実施してほしい。

⑥保育園等の民営化について(13 件)

- 区立保育園の民営化をやめてほしい。
- アウトソーシングばかりせず、行政で責任を持ってサービス等を行ってほしい。
- 公立保育園の民営化は、育児支援と逆行している。

■経済的負担及び支援について(137 件)

- 18 歳になるまで児童手当があると助かる。
- 子ども 3 人以上は、収入に関わらず支援金が出るべきだと思う。
- 小学校・中学校・高校の入学時にお祝い金があると良い。
- インフルエンザの予防接種など、予防医療費の補助又は無料にしてほしい。
- 母子家庭の負担を少なくしてほしい。

■公園について(135 件)

- 交通公園を作って自由に自転車を乗り回せる広場がほしい。
- わんぱく天国のように、地域の方の目が届き、子どもが安心して遊べる公園が少ないので、増えればよいと思う。
- 公園の整備をお願いしたい。公園の数は多いが、環境が悪いところが多い。
- 子どもが安全に遊べる遊具の整った公園を設置してほしい。

- 公園が暗く、汚いところが多い。

■小児医療や救急医療体制・保健サービスについて(114 件)

- 2 人目を出産する場合に、上の子どもと一緒に入院できるところがあると良いと思う。
- 夜間の病院はとても対応が冷たい。すごく不安になる。
- 休日診療所を増やしてほしい。
- 小児科医の不足。待ち時間が長く、対応が遅れて具合が悪化した。
- 産科が少なすぎる。
- 保健センターでの子どもの検診、検査の待ち時間が苦痛である。小さい子どもをみているのだから、それに対応した設備や広場があっても良いと思う。
- 保健センターの乳幼児健診は、子どもが眠くならない午前中に行う努力をしてほしい。
- 保健センターの乳幼児健診は手際が悪く、「サービス」という言葉からかけ離れた対応ばかりである。

■一時保育等の子育て支援サービスについて(109 件)

- 育児相談を気軽にできるようにしてほしい。
- 子どもの一時預かりやホームヘルプサービスなどの利用料金を低額にして、いろいろな事情の方も利用できるようにしてほしい。
- 我が家には障害児がいるが、墨田区には障害児に対する施設や手当てが少ないと実感している。特に障害児の緊急一時保育ショートステイに対するサービスが他区と比較しての少ないと思う。
- ファミリーサポートやショートステイなど、もっと気軽に利用できるように宣伝してほしい。
- 買物、美容院、病院等の時、一時的に預かってくれる場が商店街などにあれば、親も助かり、その商店街を利用する人も増えると思う。

■地域施設や講座等について(98 件)

- 児童館によって内容がかなり違うように感じる。情報交換などをしてもらえるといいと思う。
- 子育てひろばのように気軽に室内で子どもを遊ばせられる場所をもっと増やしてほしい。
- 運動する場所（体育館・プール・公園など）が他区に比べて少なすぎる。学校の設備や教室が充実していない。
- 外部から講師を招いて、子育てのセミナーなどを開いてほしい。
- オムツ替え、授乳などを行えるスペースを備えた気軽に立ち寄れるコミュニティカフェのようなところがあったらよい。
- 赤ちゃんが生まれる前の母親学級は充実しているが、生まれた後の教室は少ない。子育ての講座、講演等を増やしてほしい。

■公共施設・交通機関等の整備について(88 件)

- 駅のトイレに授乳室やオムツ替えシートが欲しい。
- 区の公共施設や主な病院などを巡回連絡するコミュニティバスの整備。
- 区内の交通機関で苦勞している。特にバス停や駅はベビーカーに対しての配慮が弱く苦勞する。
- 駅近辺の自転車置場を便利にしてほしい。
- 公共施設のバリアフリー化。

■交通安全対策について(78 件)

- 歩道の整備は、車、自転車、歩行者全てにとって安全を確保するために必要だと感じる。
- 道路がとても狭く危ない。自転車が多すぎるので、自転車専用道路を作してほしい。

- 子どもが安全に歩ける道がない。大通り以外は歩道がないので危険である。
- 自転車の乗り方教室など、子どものための交通安全対策を行ってほしい。

■学校について(66 件)

- 幼稚園、小学校などの施設の老朽化や校庭の狭さを改善してほしい。
- 学校のレベルの違いがもっと少なくなるように教育水準を上げてほしい。
- 子どもたちが職業体験などをできたら良いと思う。
- 学校の先生の人数を増やし、一人の負担を減らし、子どもに目が向けられるようにしてほしい。
- 公立小中学校について、他区のように特色豊かな個性的な学校を作ってほしい。

■子育てと仕事の両立について(63 件)

- 会社内に保育施設を設置すれば、住みやすく働きやすく子育てしやすくなると思う。
- 企業は、父親が育児参加できるような就労体制を作るべきである。
- パートで働くにも、やはり子どもがいると不利な面があるので、企業の協力は必須だと思う。
- 子育てと仕事との両立は大変だと思う。企業の理解と本人の努力が必要だと思う。そのサポートを行政が行ってくれれば、両社ともうまくいくと思う。
- 子育て支援制度が母親を中心として整備されている面が多いが、それでは本質的な改善とはならないのではないかと感じる。男女ともに労働時間の短縮等を行う必要があるのではないかと。

■治安・防犯及び安全対策について(63 件)

- 子どもの安全パトロールの強化を地域、保護者がもっと積極的に行っていく必要があると思う。
- 不審者が時々出るので、防犯カメラをつけてほしい。
- 防犯パトロールを常時してほしい。
- 「子ども 110 番」の看板をもっと目立つようにしてほしい。
- 街灯を増やしてほしい。

■子育てしやすい環境づくりについて(61 件)

- こうした不景気の世の中にこそ、人と人々が共に協力し合い、お互いを思いやる心が大切だと思う。
- 少子化といわれても、産み育てる環境が整わないことには、安心して育てていくことができない。子どもはたくさん欲しいが、今の社会では無理と思う子育て世代が多いと思う。
- 子どもが生まれるまでは不便を感じなかったが、子どもが生まれてからは住みづらいと感じる。
- 妊婦のときのサポートが足りないと思う。バス、電車など、おなかが目立たないときの方が体はつらいのに、人々の意識・関心が薄いので非協力的である。
- 共働きが増える中、子どもを産んでも預けて働けない、働けないから産まないという悪循環をなくしてほしい。

■子育て情報の提供について(50 件)

- 赤ちゃん専用の店、ベビー用品を置いてある売り場に情報誌などを置いてほしい。
- 育児に関する相談施設があっても、利用方法等がわからない。
- 区の子育て支援サービスは充実していると思うが、その情報があまり広まっていないように感じる。
- 区ホームページが読みづらく区民に優しくないという印象がある。もう少しわかりやすく伝えてほしい。
- 子育て支援総合センターをはじめ、各種施設はあるようだが、それぞれが「子育て」の何を「支援」するのか具体的な内容がわかりにくい。広報を強化する必要があると感じる。

■行政に対する要望・意見について(47 件)

- 子育てが一段落してからのフルタイム勤務を希望している方が多いが、就職は難しいようである。この点を打開する墨田区としての画期的な対策案を期待する。
- ハンディキャップのある子どもが、墨田区内でしっかりとした支援や教育を受け、将来的に区内で仕事を見つけ、独立できるような一貫した政策をお願いしたい。
- 墨田区は子育て支援が他区に比べ、とても遅れていると言う声を聞く。子育てに関する事業にもっと力を入れていただきたい。
- 実際に苦勞をしている人の立場になって考えてほしい。保護者の意見を最優先にするべきである。
- 皆が「墨田区に住みたい」と思えるような区にしてほしい。

■子どもの遊びづくり、遊び場の確保について(37 件)

- 子どもが屋外でのびのび遊べる場所が少なすぎると思う。
- 統廃合により使わなくなった学校で屋内遊び場を作ったらどうか。
- 子育てひろばは乳児向けなので、幼児が遊べる場所がない。自然に触れられる場所がほしい。
- 思いっきり走り回れる芝生ひろばがあるとうれしい。
- 親子で使えるスポーツ施設があると良い。

■学童クラブ等について(31 件)

- 小学4年生以降は放課後の居場所がない。
- 学童保育施設を各学校に設置してほしい。
- 放課後こどもスクールを多くの学校で実施してほしい。
- 学童クラブが近くにないため、小学校入学後の子どもの居場所が心配である。
- 学校に入ってから障害児への支援を充実してほしい。

■幼稚園について(30 件)

- 私立保育園の入園料、保育料の補助を増やすか、区立幼稚園を3年制にして充実を図ってほしい。
- 区立幼稚園を3年保育にしてほしい。
- 幼稚園の夏休み、冬休み、春休みの時の子どもの遊び場に困っている。保育園のように1年間保育をやってほしい。
- 幼稚園は保育時間が短いので、延長保育を導入してほしい。

■住環境について(23 件)

- 子育てしやすい住環境の整備をお願いしたい。
- 出産前から、ファミリー向けの住宅に優先的に入居できるようにしてほしい。
- マンション建設が多く日当たりが悪くなる。建築基準を厳しくしてほしい。
- 都営、区営住宅に入りやすくしてほしい。

■自然環境・環境美化について(17 件)

- アトピー、喘息の子どもが多いと思うので、空気や水などの環境を良くしてほしい。
- 環境の美化。ごみのポイ捨てや落書き、放置自転車などを皆でなくしていけるような社会にしたい。
- 町全体に緑が少なく、景観がきれいではない。

■地域での子育て支援について(16 件)

- 地域の高齢者と触れ合う場を作してほしい。
- 地域性か、お年を召した方から声かけしてくれることが多く、励みになり、ありがたいと思う。
- 核家族が多く、地域、近所の方と付き合う機会がないので、地域全体で子どもを見守れる区になってほしい。そのためにいろいろな活動を計画してほしい。

■住民意識・大人のマナーについて(15 件)

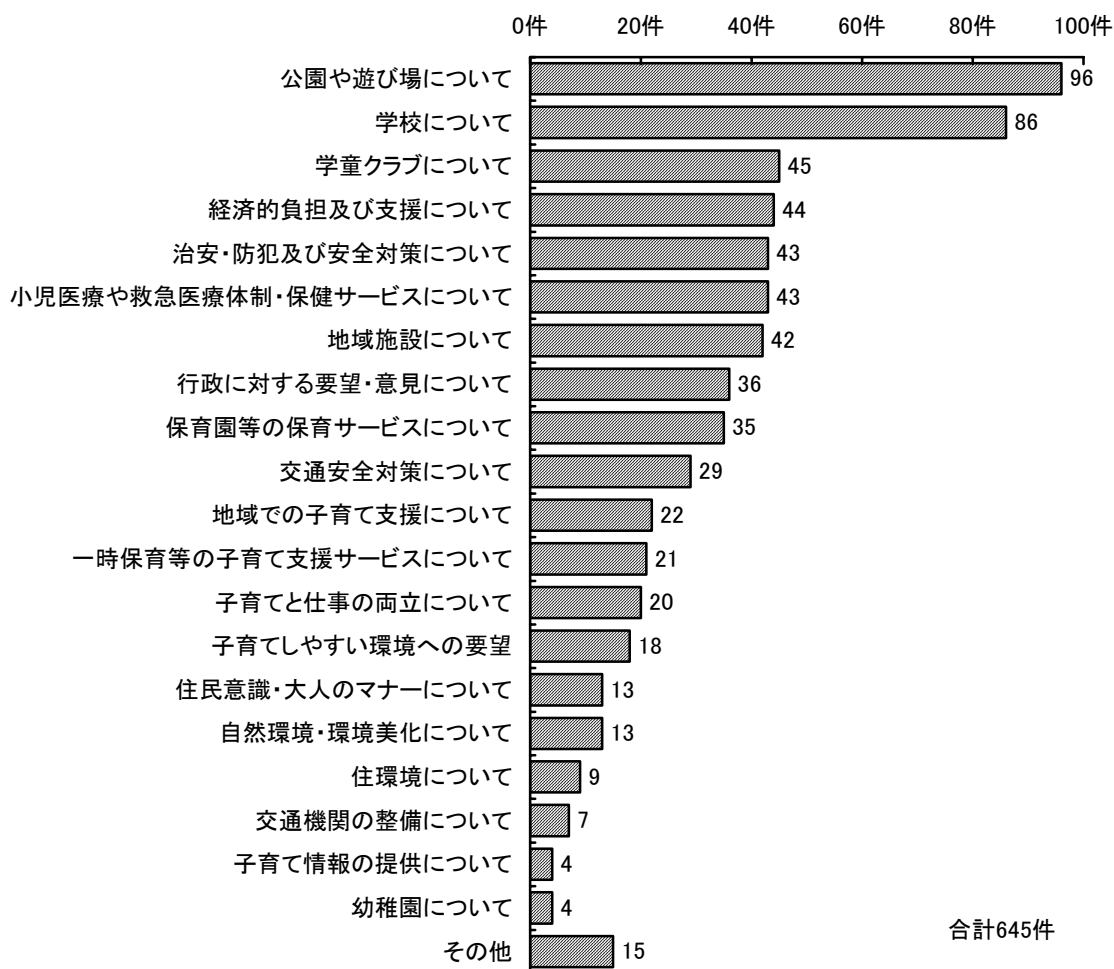
- 歩きながらタバコを吸う人が多い。子どもにとって大変危険なので、罰金を取るなどの取締り対策を強化してほしい。
- 行政や地域だけでなく、子どもを育てる親自身の意識を変えていくことも大切だと思う。
- 自転車のマナーが悪い。

■その他(24 件)

- 子育て中の親の意見を聞くことはすばらしい。調査するだけにとどまらず、ぜひ政策に反映させてほしい。
- 子どもたちが成長するにつれて、墨田区が素敵な町になってくれたらと思う。

(2)小学生保護者の意見・要望

図表Ⅱ-154 小学生保護者の自由意見



以下は、小学生の保護者が記入した自由回答の抜粋である。

■公園や遊び場について(96 件)

- 公園の遊具が老朽化していて、しかも汚い。
- 親水公園など、夜は暗くて通るのに不安がある。もう少し環境を良くしてほしい。
- 公園の整備、きれいで楽しめる環境づくりをしてほしい。あまりにも汚い。
- 子どもが安心して遊べる公園が少なすぎる。
- 子どもが遊びに行きたいと思う遊び場、広場を作してほしい。
- 明るく楽しいイメージの公園づくりをお願いしたい。

■学校について(86 件)

- 学校選択制のために、地域の子どものつながりがプツリと切れていることが目立つ。意味のあることだったのか疑問に思う。
- 2学期制は日本の四季になじまない。長期の休み前後のメリハリがなく、子どもの中での学期ごとの整理のつけ方がはっきりしないようである。3学期制に戻してほしい。
- 公立学校の充実を希望する。少人数学級にするなど児童に目が届くようにしてほしい。
- 発達障害について取り上げてほしい。周囲の理解がなくては育てられない問題だと思う。
- 同じ区の中で、小・中学校共に学力の差、校舎の差がありすぎる。先生方の意識にも違いがあるよ

うに思う。

■学童クラブについて(45 件)

- 長時間実施してほしい。土曜日利用の必要性も高いと思う。
- 放課後に小学校高学年の子どもも利用できる学び、スポーツ、趣味などの場が学校の施設内にあると良い。
- 小学6年生まで利用できるようにしてほしい。夏休みなどの長期休暇の際に小学4年生が一日中1人でいるのは不安がある。

■経済的負担及び支援について(44 件)

- 父子家庭にも母子家庭と同様の支援を望む。
- 子育てに関する助成金が他区に比べ、少ないと思う。
- インフルエンザ予防接種への助成をしてほしい。
- ひとり親（母親）への金銭的援助をもっと充実してほしい。

■治安・防犯及び安全対策について(43 件)

- すみだ安全・安心メールを利用しているが、情報が遅い。発生から早い時間で提供するように改善してほしい。
- 子どもを犯罪から守るために、下校時等定期的にパトロールを実施してほしい。
- 暗く細い道などに街灯を増やしてほしい。公園に暗い死角ができないようにしてほしい。

■小児医療や救急医療体制・保健サービスについて(43 件)

- ケガや事故等の救急医療体制を強化してほしい。
- 産婦人科や小児科の医療体制をもっと充実してほしい。
- 休日の小児医療機関を充実してほしい。
- 救急医療体制など、いざというときに、どこに電話すれば対応してくれるのか、又子育てにおいてのサービス等の体制を考えてほしい。

■地域施設について(42 件)

- 子どもと一緒に参加できるイベントがたくさんあると良い。また、開催の情報が学校からの手紙であるとわかりやすい。
- お年寄りから子どもたちが共に楽しめ、お互いを助け合えるような共有施設があると良い。
- 区営のスポーツセンターを充実してほしい。
- コミュニティセンターの充実、活性化をしてほしい。

■行政に対する要望・意見について(36 件)

- 行政が何をしているのか伝わってこない。問題がおきてから解決するまでに時間がかかりすぎる。末端まで伝える手段を検討してほしい。
- 街づくりにおいて、新しいことを取り入れるのではなく、昔からの伝統、地域性を生かして共存することを常に視野に入れてほしい。
- もっと子育て家庭に優しい行政を求める。
- 観光のまち「すみだ」を考えるのであれば、子どもたちに挨拶等を習慣づけるような戦略も必要だと思う。

■保育園等の保育サービスについて(35 件)

- 出生率を上げるためにも、保育園の拡充が必要だと思う。
- 公立保育園は備品が古く子どもがかawaiiそうである。
- 保育園や学童クラブを利用しやすいように施設を増やしてほしい。
- 障害を持った子どもに専門の保育所があるとよい。

■交通安全対策について(29 件)

- 安心して歩ける道路を整備してほしい。
- 歩道と車道を区切ってほしい。
- 自転車レーン（エリア）を作してほしい。

■地域での子育て支援について(22 件)

- 学校と企業とでボランティア活動、体験を取り入れたり、高齢者とのふれあい、コミュニケーションを取る事業を実施することにより、人への優しさや相手への思いやりを養えると思う。
- 区、学校、各種団体、警察や病院等のつながりやサポート体制を強化すると良いと思う。
- 行政と地域が一体となった社会全体で子どもを育てるという意識の向上を図る。

■一時保育等の子育て支援サービスについて(21 件)

- 母親が孤独にならない体制を作ることが大切である。親身になってくれる人がいると悩みが軽減されると思う。
- 朝が早い仕事や日曜日に仕事がある場合、子どもを預かってくれるところがなく困った。
- 障害児への支援を拡充してほしい。区に療育を受けるところが無い。

■子育てと仕事の両立について(20 件)

- 父親の就労時間を短くし、もっと早くか定期帰宅できるような社会を作っていないと、母親がどんどん孤立する。
- 子育て中のワークシェアリング等、職場での理解と一時的な仕事軽減が必要である。
- 共働きで子育てをするためには、企業の理解が必要である。育児休業等の制度を充実してほしい。

■子育てしやすい環境への要望(18 件)

- ひとり親が増えてきている中で、相談や対応を増やしたほうが良い。
- 障害児に対する支援がまったくといってよいほど無い。
- 子どもの安全がしっかりと確保でき、子育て支援が充実すれば、子どもを産みたいという人が増えると思う。
- 若い人が住みやすいまちづくりを。

■住民意識・大人のマナーについて(13 件)

- 子どもを育てる親にも自覚が必要だと思う。

■自然環境・環境美化について(13 件)

- もっと自然を増やしてほしい。
- 墨田区は緑が少なく空気が汚いと思う。緑を増やしたほうが良いと思う。

■住環境について(9 件)

- 地域全体で子どもを守る住環境となるようワンルームマンションに対して規制をしたほうが良いと思う。ますます地域のつながりがなくなると思う。

■交通機関の整備について(7 件)

- バリアフリーな環境を整えてほしい。
- 区内循環バスを検討してほしい。
- 駅周辺の自転車置き場の整備。

■子育て情報の提供について(4 件)

- 利用できるサービスについて、問い合わせないとわからない。
- 新しい計画が策定されても区報などでは目にする機会がないこともあるので、学校からプリントなどでもらえるとよい。

■幼稚園について(4 件)

- 3 年制の区立幼稚園の設置。
- 保育園に対して幼稚園の数が少ない。

■その他(15 件)

- 墨田区に住んでいるが、良くなってきているという実感が無い。実感できるものがほしい。
- アンケートがどのように反映されるのか楽しみである。住みよく、安全で子どもをのびのびと育てられる墨田区になるように。

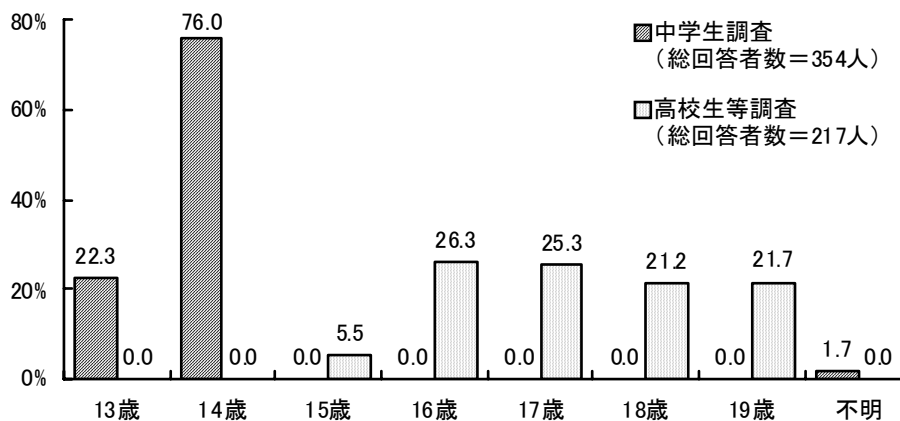
III. 調査結果報告③
－青少年の生活等に関する調査－

1. 基本属性

(1) 回答者の年齢(問1)

あなたは、平成21年1月1日現在、何歳ですか。(1つに○)

図表Ⅲ-1 回答者の年齢(単数回答)



[中学生調査・高校生等調査]

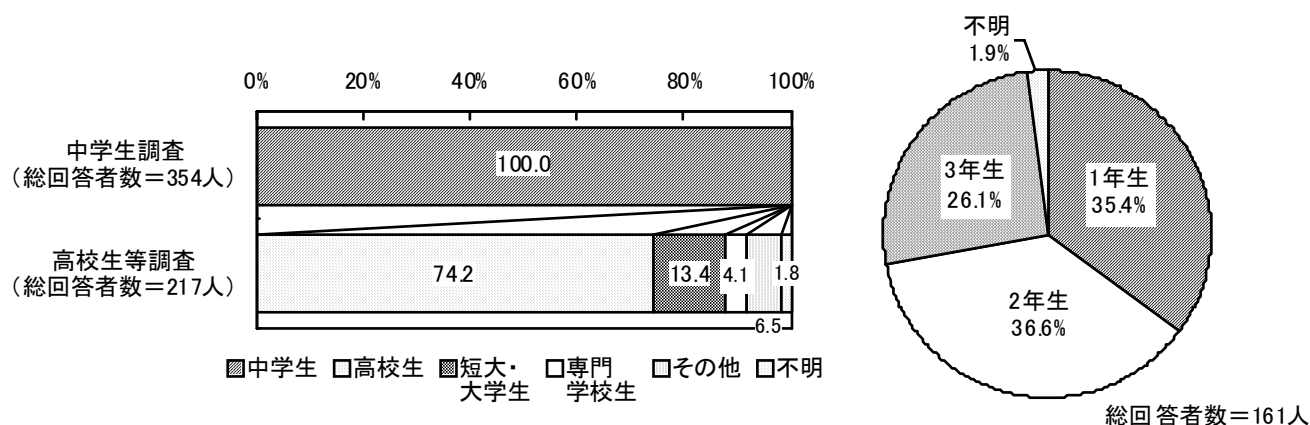
青少年の生活等に関する調査のうち、中学生調査回答者の年齢は、「14歳」が76.0%、「13歳」が22.3%となっている。

高校生等調査回答者の年齢は、「16歳」26.3%、「17歳」25.3%、「19歳」21.7%、「18歳」21.2%の順であり、それぞれ2割台を占める。

(2)回答者の就学状況(問2)

あなたは、次の中のどれにあてはまりますか。(1つに○)
 高校生は()に学年を書き入れてください。

図表Ⅲ-2 回答者の就学状況(単数回答)・高校生の学年(単数回答)



[中学生調査]

中学生調査回答者の就学状況は、全員が中学生（中学2年生）である。

[高校生等調査]

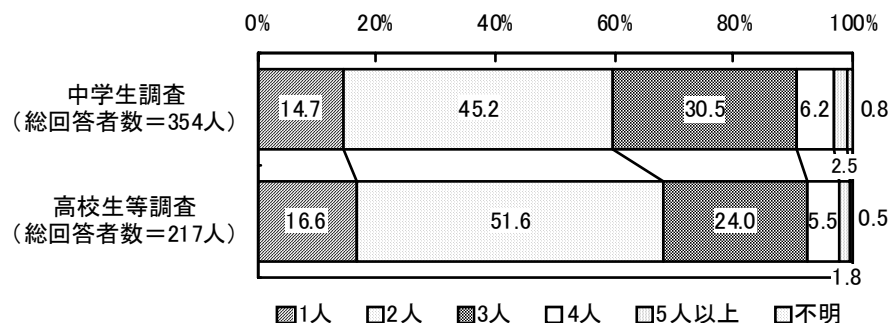
高校生等調査回答者の就学状況は、74.2%と約4人に3人が「高校生」である。次いで、「短大・大学生」が13.4%、「専門学校生」4.1%の順となっている。

また、高校生の学年は、「2年生」が36.6%、「1年生」が35.4%、「3年生」が26.1%となっている。

(3) 兄弟姉妹の人数(問3)

あなたを入れて、兄弟姉妹は何人ですか。(1つに○)

図表Ⅲ-3 兄弟姉妹の人数(単数回答)



[中学生調査]

中学生調査回答者の兄弟姉妹は、「2人」が45.2%、次いで「3人」30.5%であり、これらを合わせた、兄弟姉妹が『2～3人』いる割合が75.7%を占める。また、14.7%と1割台は、「1人(自分だけ)」となっている。

[高校生等調査]

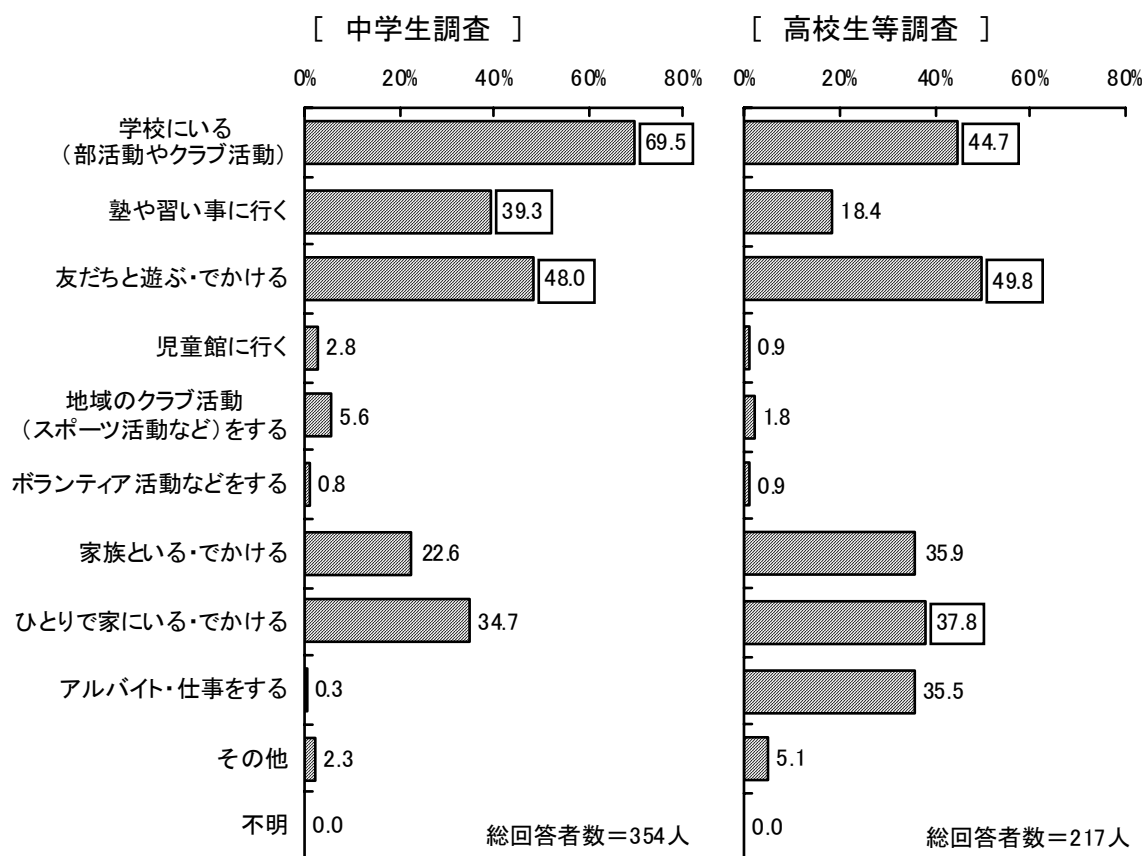
高校生等調査回答者の兄弟姉妹は、51.6%と過半数が「2人」であり、次いで「3人」24.0%となっている。「1人(自分だけ)」は16.6%であり、中学生調査回答者より高い割合となっている。

2. ふだんのすごし方

(1) 平日の放課後のすごし方(問4)

あなたは、月曜日から金曜日の放課後(学生でない人は夕方から夜にかけて)、どんなことをすることが多いですか。(あてはまるもの3つまでに○)

図表Ⅲ-4 平日の放課後のすごし方(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位3位の値

[中学生調査]

中学生の平日の放課後の過ごし方は、「学校にいる(部活動やクラブ活動)」69.5%がもっとも高く、これに、「友だちと遊ぶ・でかける」48.0%、「塾や習い事に行く」39.3%と続く。次いで、34.7%が「ひとりで家にいる・でかける」と回答している。

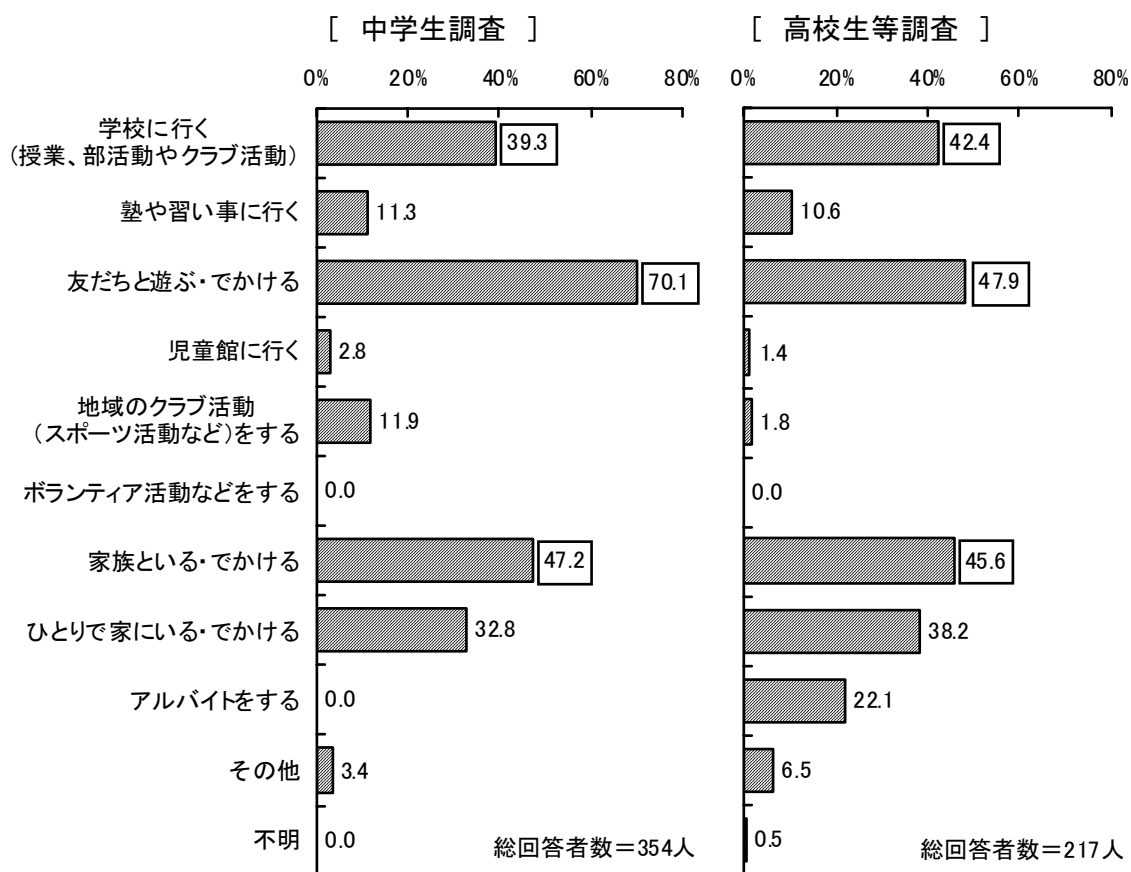
[高校生等調査]

高校生等の平日の放課後の過ごし方は、「友だちと遊ぶ・でかける」49.8%、「学校にいる(部活動やクラブ活動)」44.7%、「ひとりで家にいる・でかける」37.8%の順となっている。また、高校生等においては35.5%と3割台が「アルバイト・仕事をする」と回答している。

(2)土曜日の昼間の過ごし方(問5)

あなたは、土曜日の昼間(仕事をしている人はお休みの日の昼間)、どんなことをすることが多いですか。(あてはまるもの3つまでに○)

図表Ⅲ-5 土曜日の昼間の過ごし方(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位3位の値

[中学生調査]

中学生の土曜日の昼間の過ごし方は、70.1%が「友達と遊ぶ・でかける」と回答しており、次いで、「家族といる・出かける」47.2%、「学校に行く(授業、部活動やクラブ活動)」39.3%、「ひとりで家にいる・でかける」32.8%の順となっている。

また、1割強が「地域のクラブ活動(スポーツ活動など)をする」と回答している。

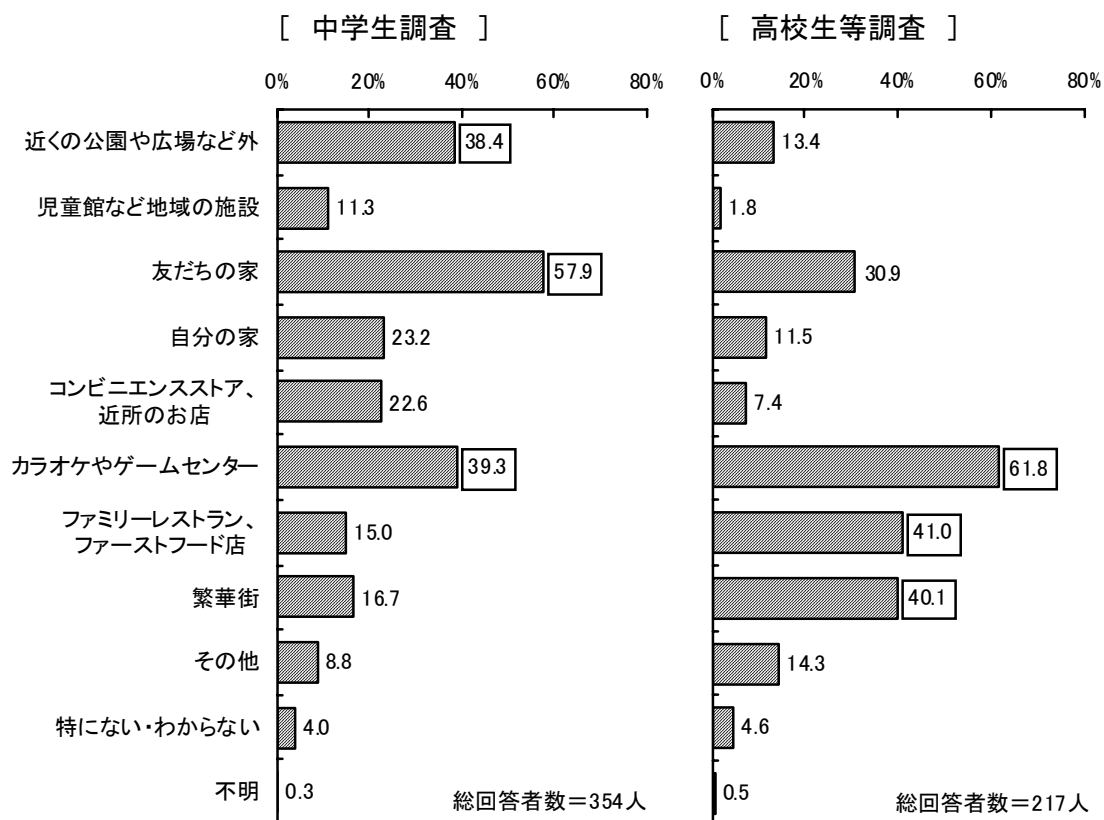
[高校生等調査]

高校生等の土曜日の昼間の過ごし方は、「友達と遊ぶ・でかける」47.9%、「家族といる・でかける」45.6%、「学校に行く(授業、部活動やクラブ活動)」42.4%の順であり、これらはそれぞれ4割台からあげられている。次いで、「ひとりで家にいる・でかける」38.2%、「アルバイトをする」22.1%が続いている。

(3) 友だちとのでかけ先(問6)

あなたが、友だちと遊んだり、でかけるところはどこが多いですか。(あてはまるもの3つまでに○)

図表Ⅲ-6 友だちとのでかけ先(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位3位の値

[中学生調査]

中学生の友だちとのでかけ先は、「友だちの家」57.9%がもっとも高い割合であるのに次いで、「カラオケやゲームセンター」が39.3%と約4割からあげられている。次いで、「近くの公園や広場など外」38.4%、「自分の家」23.2%、「コンビニエンスストア、近所のお店」22.6%が続いている。

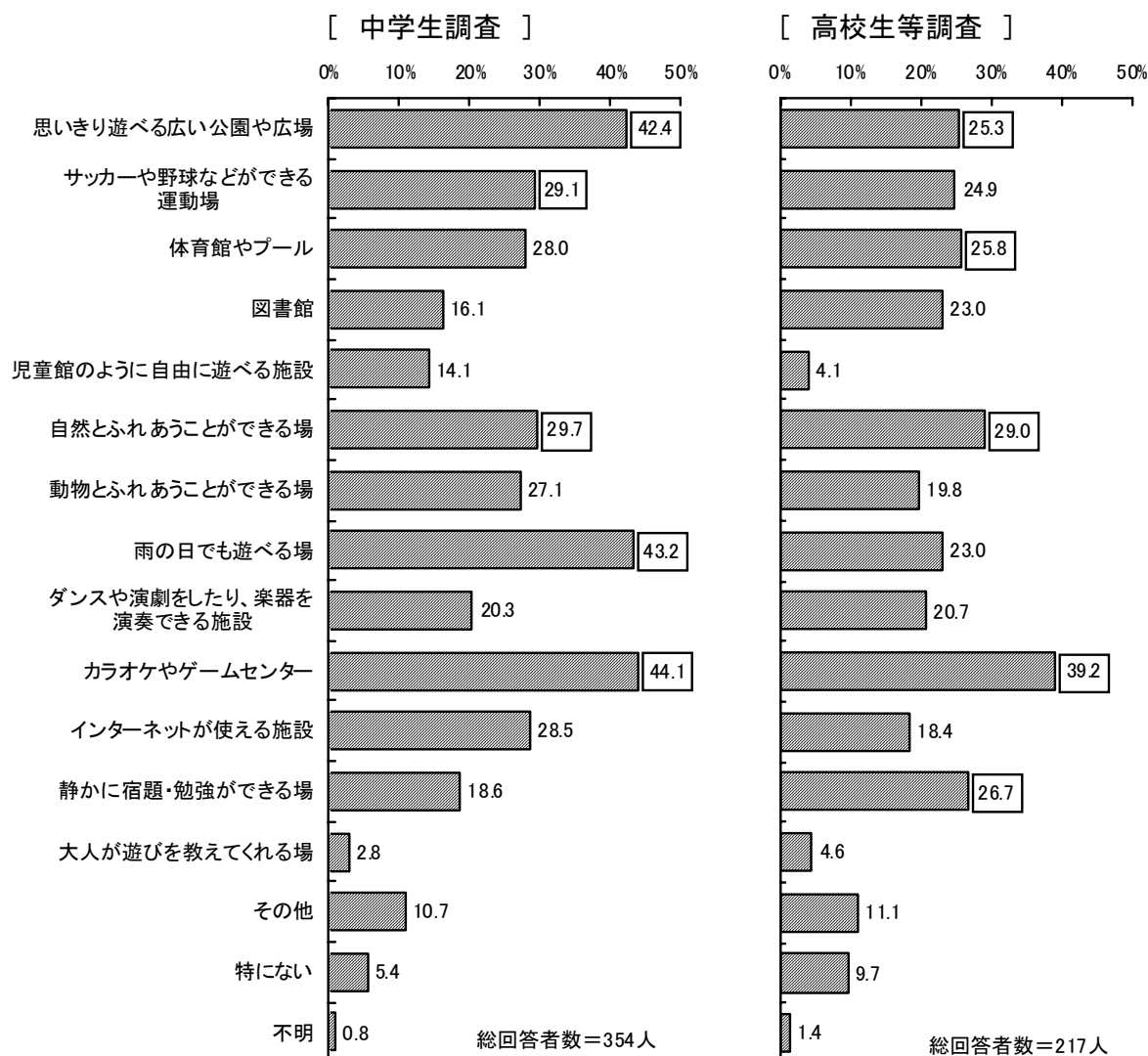
[高校生等調査]

高校生等の友だちとのでかけ先は、「カラオケやゲームセンター」がもっとも高く、61.8%と6割強があげている。次いで、「ファミリーレストラン、ファーストフード店」「繁華街」がそれぞれ4割台が続いており、「友だちの家」は3割台、「近くの公園や広場など外」は1割台であった。

(4)遊び場・施設に対する要望(問7)

あなたが近くにあったらいい、と思う遊び場や施設は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ-7 遊び場・施設に対する要望(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位5位の値

[中学生調査・高校生等調査]

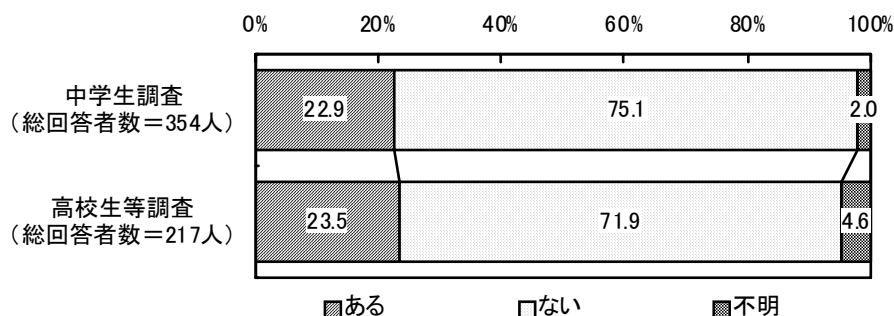
中学生が近くにあったらよいと思う遊び場・施設は、「カラオケやゲームセンター」44.1%、「雨の日でも遊べる場」43.2%、「思いきり遊べる広い公園や広場」42.4%が上位3位となっている。次いで、「自然とふれあうことができる場」「サッカーや野球などができる運動場」が2割台で続いている。

高校生等においても、「カラオケやゲームセンター」がもっとも高い39.2%、次いで、「自然とふれあうことができる場」29.0%、「静かに宿題・勉強ができる場」26.7%の順となっている。

(5) まちで危険な目にあった・あいそうになった経験(問8)

あなたは、まちの中で危険な目にあったこと、またはあいそうになったことがありますか。
(1つに○)

図表Ⅲ-8 まちで危険な目にあった・あいそうになった経験(単数回答)



[中学生調査・高校生等調査]

まちで危険な目にあった・あいそうになった経験が「ある」割合は、中学生・高校生等とも2割台となっている。

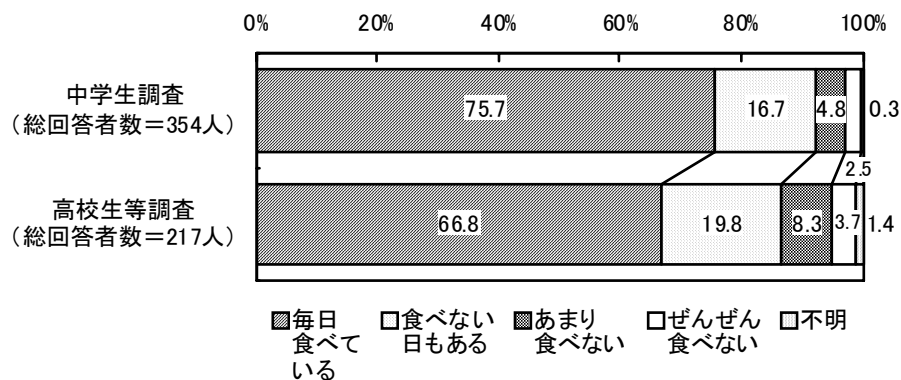
具体的な経験としては、以下の内容があげられている。

	中学生調査	高校生等調査
不審な人・変質者等から声をかけられた	25 件	15 件
不審な人・変質者等から追いかけられた・つけまわされた	23 件	8 件
からまれた・おどされた・ケンカを売られた・お金をとられた(そうになった)	8 件	8 件
痴漢・露出狂にあった	6 件	6 件
車・バイクにひかれそうになった	6 件	4 件
その他	17 件	5 件

(6)朝食の摂取状況(問9)

あなたは、毎日朝ごはんを食べていますか。(1つに○)

図表Ⅲ-9 朝食の摂取状況(単数回答)



[中学生調査]

中学生の朝食の摂取状況は、「毎日食べている」が75.7%を占める。「あまり食べない」は4.8%、「ぜんぜん食べない」は2.5%であった。

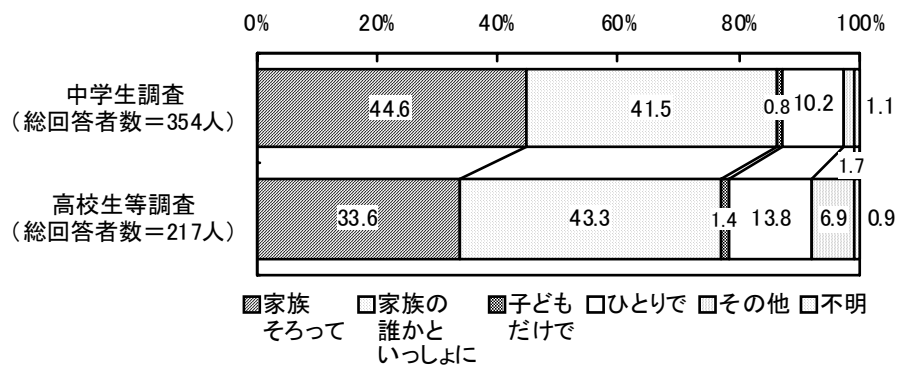
[高校生等調査]

高校生等の朝食の摂取状況は、「毎日食べている」は66.8%であり、中学生に比べて毎日食べていない人の割合が高くなる。「あまり食べない」8.3%、「ぜんぜん食べない」3.7%を合わせた割合は1割を超える。

(7)夕食のとり方(問10)

あなたは、夕ごはんをどのように食べることが多いですか。(1つに○)

図表Ⅲ-10 夕食のとり方(単数回答)



[中学生調査]

中学生の夕食のとり方は、「家族そろって」44.6%がもっとも高く、次いで、「家族の誰かといっしょに」41.5%となっている。一方で、10.2%と約1割が「ひとりで」食べていると回答している。

[高校生等調査]

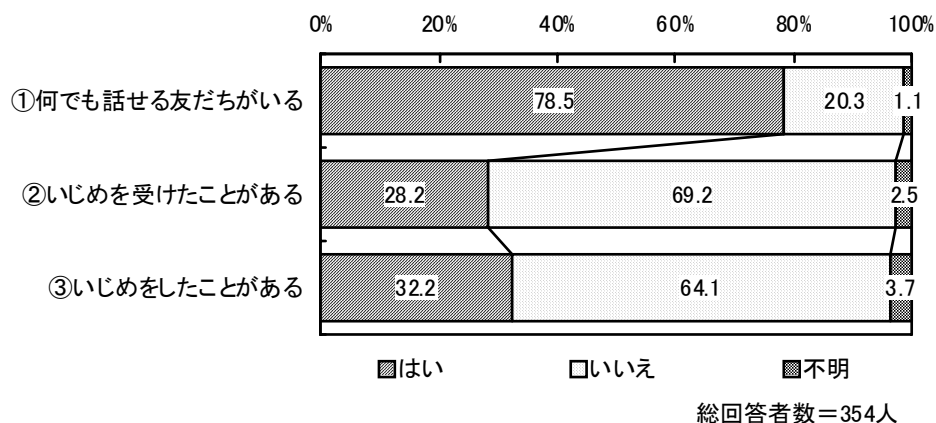
高校生等の夕食のとり方は、「家族の誰かといっしょに」43.3%がもっとも高く、「家族そろって」は3割台となっている。また、「ひとりで」は13.8%を占め、中学生に比べて高い割合となっている。

3. 友だちとのつきあいについて

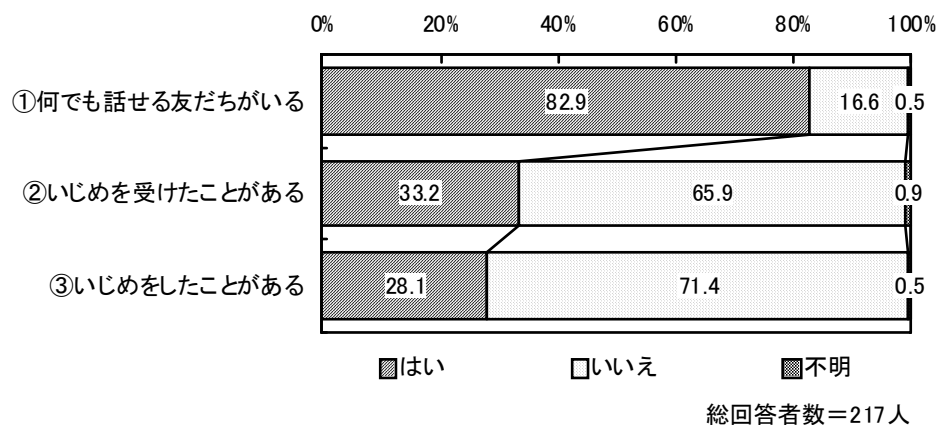
(1) 友だち関係(問11)

最近の友だちとのつきあいについて質問します。①～③それぞれについて、「はい」「いいえ」のどちらか近いほうの番号1つに○をしてください。

図表Ⅲ-11 友だち関係(各単数回答) [中学生調査]



図表Ⅲ-12 友だち関係(各単数回答) [高校生等調査]



[中学生調査]

中学生の友だちとの関係をみると、“①何でも話せる友だちがいる”割合は78.5%、“②いじめを受けたことがある”は28.2%、“③いじめをしたことがある”は32.2%となっている。

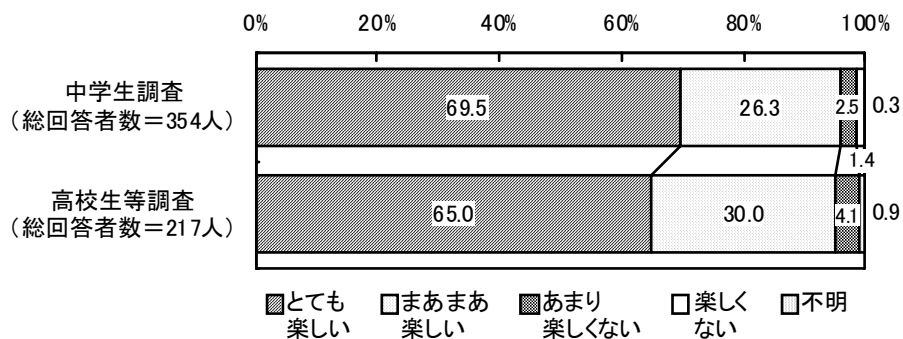
[高校生等調査]

高校生等の友だちとの関係をみると、“①何でも話せる友だちがいる”は82.9%、“②いじめを受けたことがある”は33.2%、“③いじめをしたことがある”は28.1%となっている。

(2) 友だちづきあいの評価(問12)

あなたは、友だちといっしょにいて楽しいですか。(1つに○)

図表Ⅲ-13 友だちづきあいの評価(単数回答)



[中学生調査]

中学生の友だちづきあいに関する評価は、「とても楽しい」69.5%、「まあまあ楽しい」26.3%の順であり、これらを合わせた95.8%が『楽しい』と回答している。

[高校生等調査]

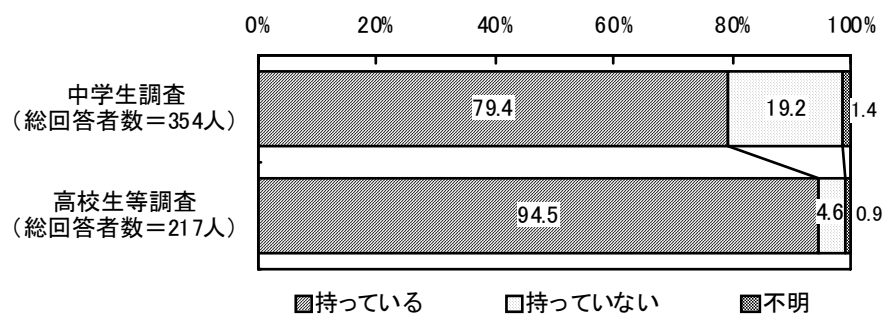
高校生等の友だちづきあいに関する評価をみると、「とても楽しい」が65.0%、「まあまあ楽しい」が30.0%であり、これらを合わせた95.0%が『楽しい』と回答している。

(3) 携帯電話やPHSの所持と利用状況(問13～問13-2)

① 携帯電話やPHSの所持状況

あなたは、携帯電話やPHSを持っていますか。(1つに○)

図表Ⅲ-14 携帯電話やPHSの所持状況(単数回答)



[中学生調査]

中学生のうち、携帯電話やPHSを「持っている」割合は約8割となっている。

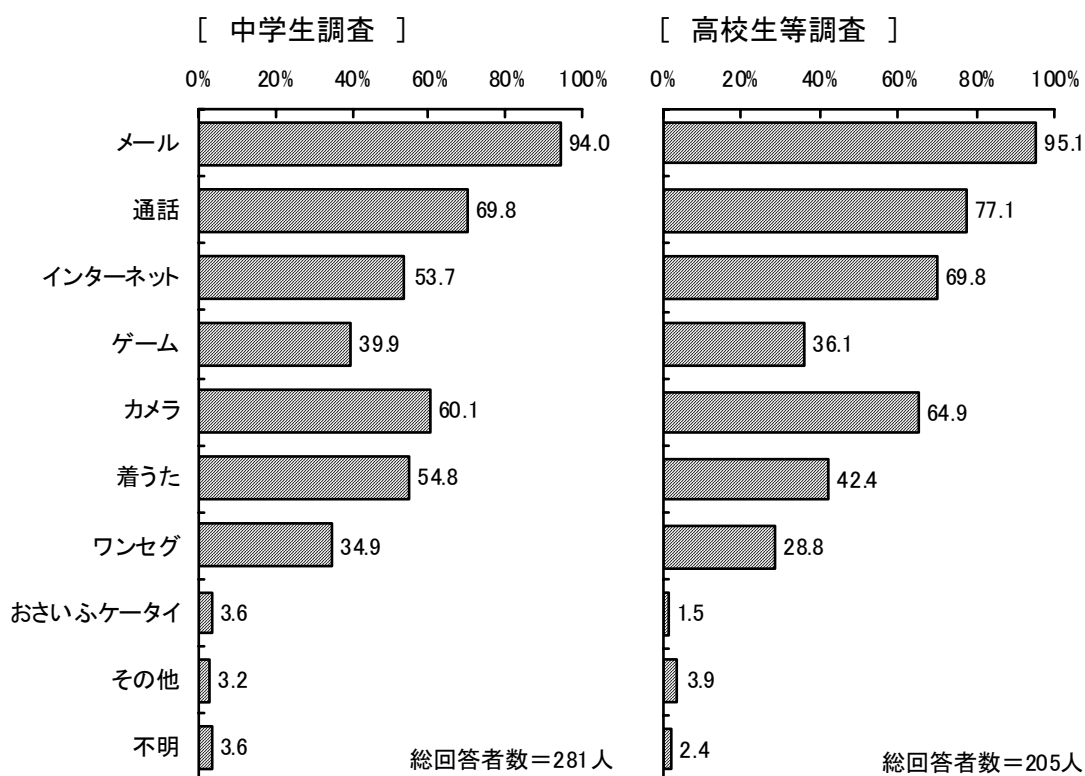
[高校生等調査]

高校生等で、携帯電話やPHSを「持っている」割合は9割を超える。

②利用状況

携帯電話やPHSで、①使っている機能すべてに○をしてください。
 1～4 については、○をした機能ごとに、②平日の1日のだいたいの使用時間を記入し、③平日使っている時間帯すべてに○をしてください。

図表Ⅲ-15 ①使っている機能(複数回答)



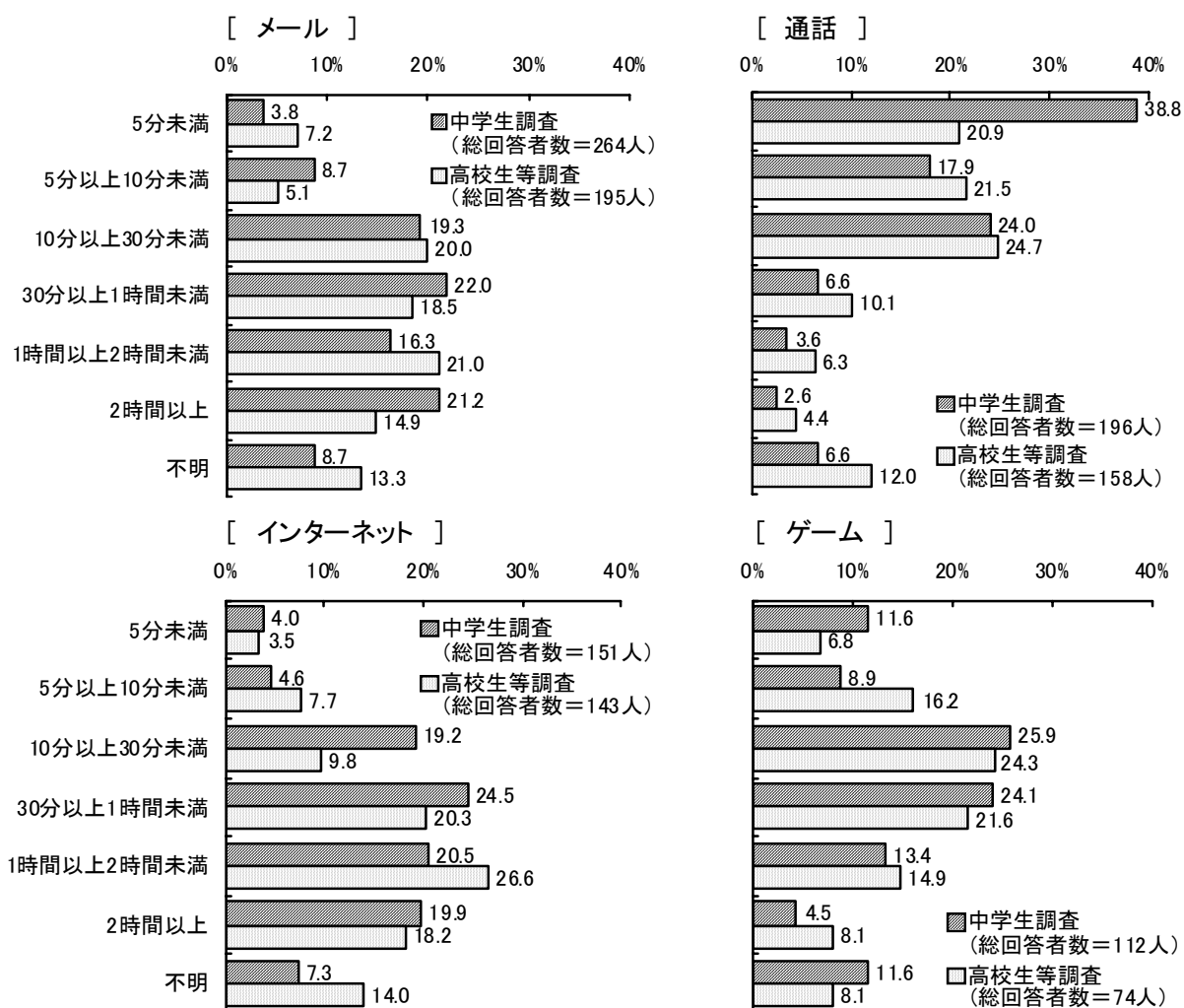
[中学生調査]

携帯電話やPHSを持っている中学生が使っている機能としては、「メール」94.0%に次いで、「通話」69.8%、「カメラ」60.1%、「着うた」54.8%、「インターネット」53.7%の順となっている。

[高校生等調査]

携帯電話やPHSを持っている高校生等が使っている機能は、「メール」95.1%、「通話」77.1%、「インターネット」69.8%、「カメラ」64.9%、「着うた」42.4%の順となっている。

図表Ⅲ-16 ②平日1日の使用時間(各単数回答)



図表Ⅲ-17 ②平日1日の平均使用時間

	メール	通話	インターネット	ゲーム
中学生調査	70.0 分	13.3 分	62.7 分	31.2 分
高校生等調査	61.7 分	20.7 分	69.6 分	35.6 分

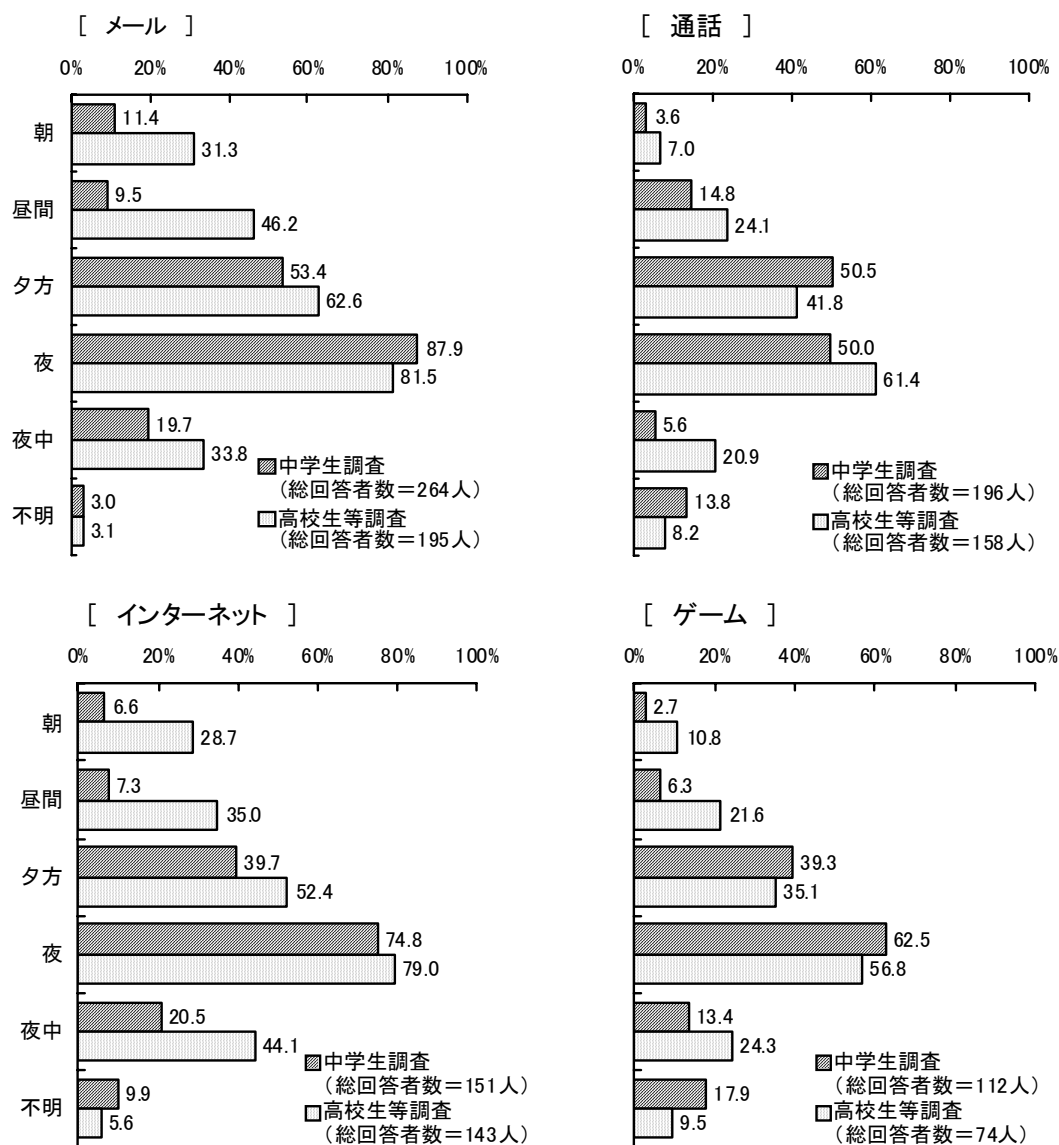
[中学生調査]

携帯電話やPHSを持っている中学生の、平日1日の使用時間をみると、メール、インターネットは「30分以上1時間未満」、通話は「5分未満」、ゲームは「10分以上30分未満」が、それぞれもっとも高い割合を占める。平均使用時間は、メールは70.0分、通話は13.3分、インターネットは62.7分、ゲームは31.2分となっている。

[高校生等調査]

携帯電話やPHSを持っている高校生等の、平日1日の使用時間をみると、メール、インターネットは「1時間以上2時間未満」、通話、ゲームは「10分以上30分未満」が、それぞれもっとも高い。平均使用時間は、メールは61.7分、通話は20.7分、インターネットは69.6分、ゲームは35.6分となっている。

図表Ⅲ-18 ③平日の使用時間帯(各単数回答)



[中学生調査]

携帯電話やPHSを持っている中学生の、平日の使用時間帯をみると、いずれの機能も「夜」「夕方」の割合が高く、この時間帯の使用が中心であるものの、メール、インターネットに関しては、それぞれ約2割が「夜中」にしていると回答している。また、「昼間」に使用している割合をみると、メールが約1割、通話が1割台となっている。

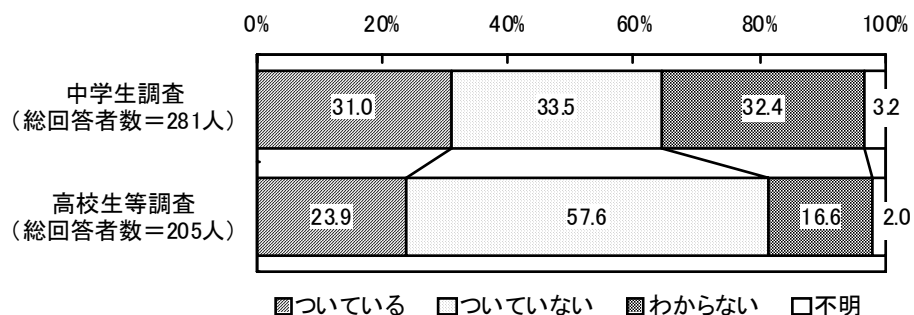
[高校生等調査]

携帯電話やPHSを持っている高校生等の、平日の使用時間帯をみると、中学生同様、いずれの機能も「夜」「夕方」の使用が中心である。また、高校生等においては、「昼間」に使用している割合が、メールは4割台、インターネットは3割台、通話及びゲームは2割台となっている。「夜中」についても、インターネットは4割台、メールは3割台、通話及びゲームは2割台が使用していると回答している。

③フィルタリングサービス・使いすぎ防止機能の有無

携帯電話に、フィルタリングサービスまたは使いすぎ防止機能はついていますか。(1つに○)

図表Ⅲ-19 フィルタリングサービス・使いすぎ防止機能の有無(単数回答)



[中学生調査]

フィルタリングサービス・使いすぎ防止機能が「ついている」割合は、中学生では31.0%となっている。「ついていない」は33.5%であり、32.4%が「わからない」と回答している。

[高校生等調査]

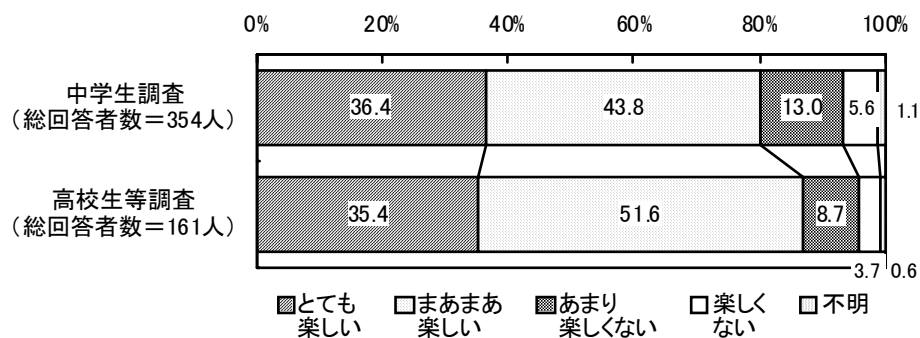
高校生等では「ついている」は23.9%であり、「ついていない」が57.6%と過半数を占める。また、「わからない」が16.6%となっている。

4. 学校生活について

(1) 学校生活の評価(問14)

学校生活は楽しいですか。(1つに○)

図表Ⅲ-20 学校生活の評価(単数回答)



[中学生調査]

中学生の学校生活の評価は、「まあまあ楽しい」が43.8%、「とても楽しい」が36.4%であり、これらを合わせた約8割が『楽しい』と回答している。一方で、「あまり楽しくない」が1割台を占め、これに「楽しくない」5.6%を合わせた『楽しくない』は18.6%と2割近い。

[高校生等調査]

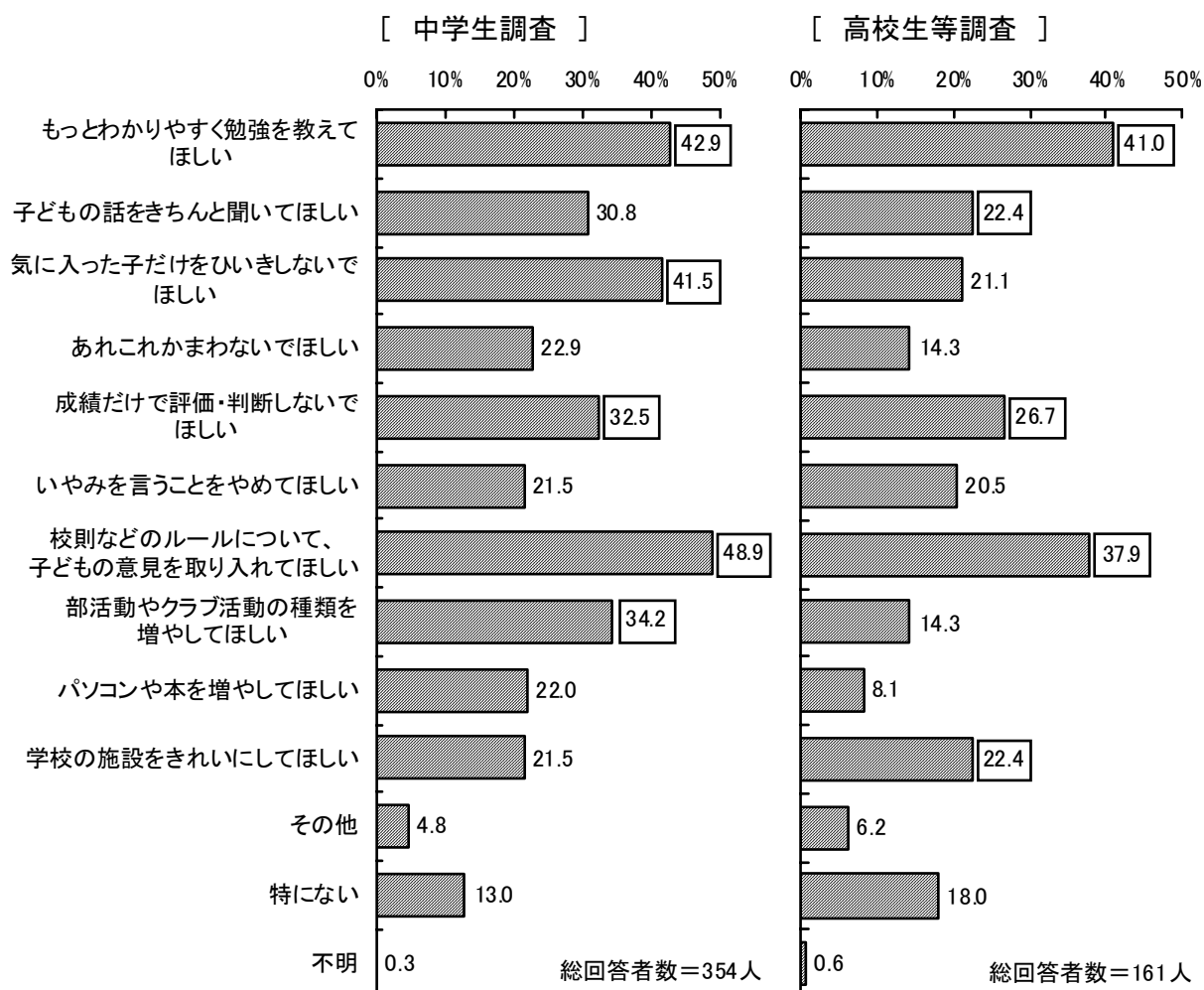
高校生の学校生活の評価は、「まあまあ楽しい」が51.6%と過半数を占める。次いで、「とても楽しい」35.4%であり、『楽しい』は87.0%となっている。

(2)先生や学校に対する要望(問15)

あなたは、学校の先生や学校に対して、どのような要望がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ-21 先生や学校に対する要望(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位5位の値

[中学生調査・高校生等調査]

先生や学校に対する要望をみると、中学生、高校生とも「校則などのルールについて、子どもの意見を取り入れてほしい」「もっとわかりやすく勉強を教えてほしい」が要望の上位2位である。

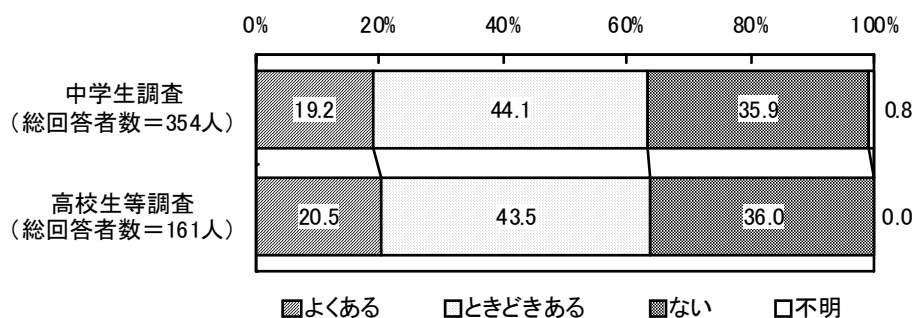
また、中学生は高校生に比べると、「気に入った子だけをひいきしないでほしい」「部活動やクラブ活動の種類を増やしてほしい」に対する要望が高くなっている。

(3)学校に行きたくないと思った経験と理由(問16・問16-1)

①学校に行きたくないと思った経験

あなたは、この1年の間に、病気でないのに学校に行きたくないと思ったことがありますか。
(1つに○)

図表Ⅲ-22 学校に行きたくないと思った経験(単数回答)



[中学生調査]

中学生の学校に行きたくないと思った経験をみると、「よくある」19.2%、「ときどきある」44.1%であり、これらを合わせた63.3%が、学校に行きたくないと思った経験が『ある』と回答している。

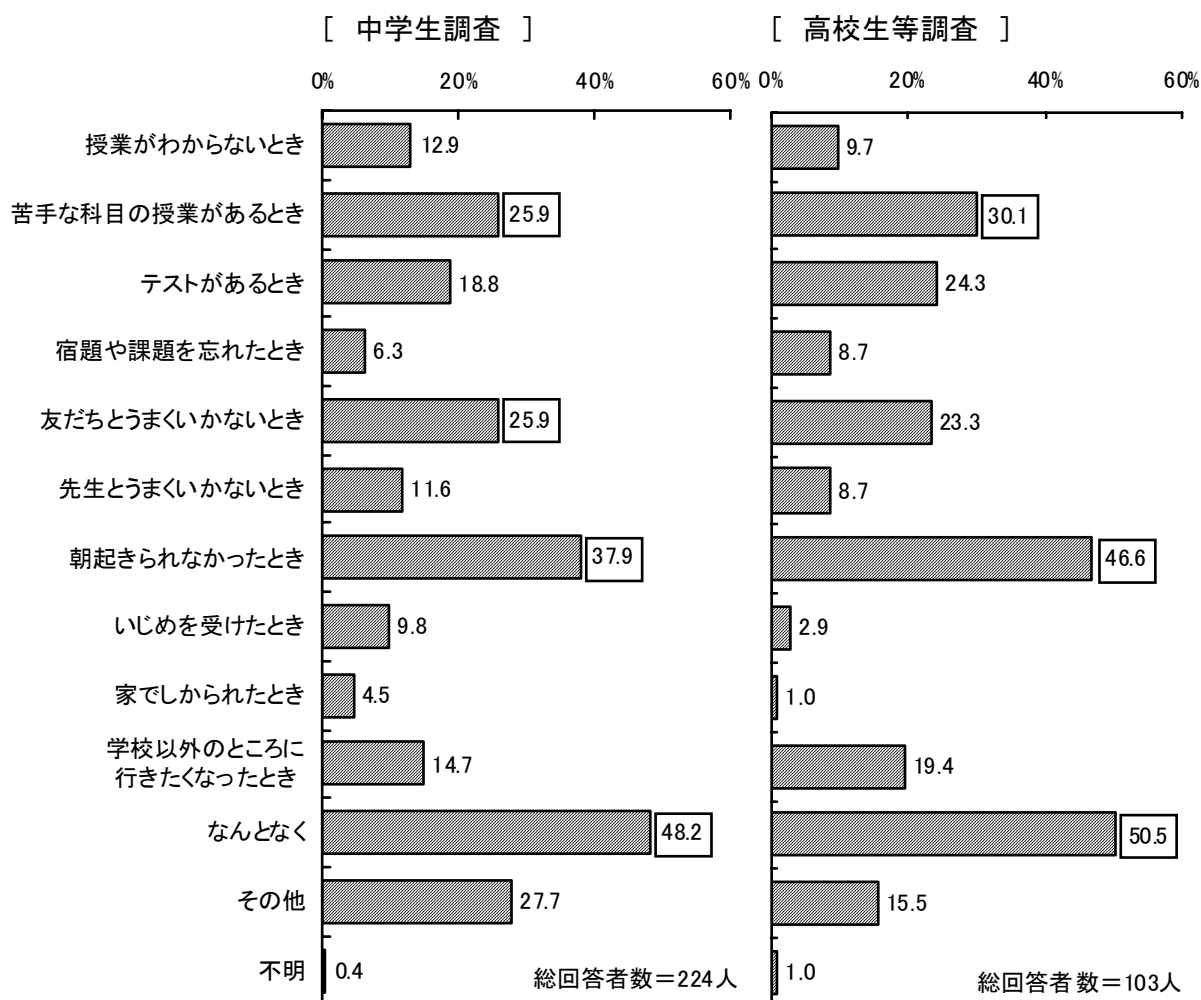
[高校生等調査]

高校生が学校に行きたくないと思った経験については、「よくある」20.5%、「ときどきある」43.5%であり、学校に行きたくないと思った経験が『ある』割合は64.0%となっている。

②学校に行きたくない理由

「1. よくある」「2. ときどきある」に○をした人に質問します。学校に行きたくないと思うのは、どんなときですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ-23 学校に行きたくない理由(複数回答)



※: [] 囲みは、各調査の上位3位の値(「その他」を除く)

[中学生調査]

中学生の学校に行きたくないと思う理由としては、「なんとなく」「朝起きられなかったとき」「苦手な科目の授業があるとき」「友だちとうまくいかないとき」が上位3位にあげられている。

「その他」は、「めんどくさいとき」「だるいとき」「眠たいとき」などとなっている。

[高校生等調査]

高校生においても、「なんとなく」「朝起きられなかったとき」「苦手な科目の授業があるとき」が、学校に行きたくないと思う理由の上位3位にあげられている。

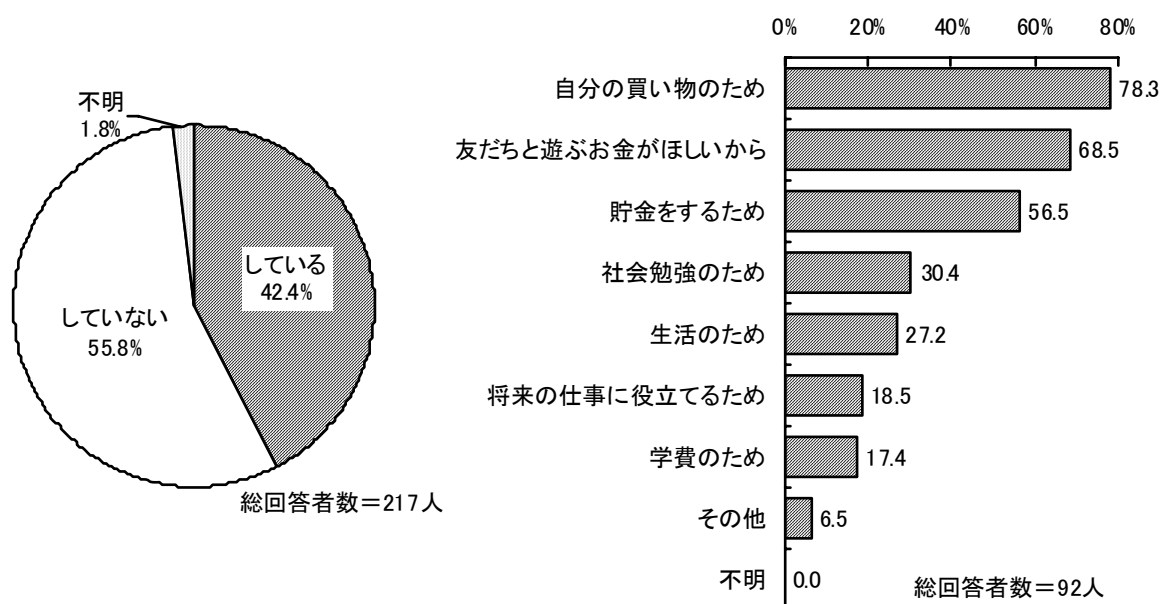
「その他」は、「疲れているとき」「眠たいとき」などとなっている。

5. アルバイトや仕事について

(1) アルバイトや仕事の状況と仕事をする理由(問17・問17-1)

あなたは現在、アルバイトまたは仕事をしていますか。(1つに○)
 「1. している」に○をした人に質問します。アルバイトまたは仕事をしているのはなぜですか。
 (あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ-24 アルバイトや仕事の状況(単数回答)・アルバイトをしている理由(複数回答)



[高校生等調査]

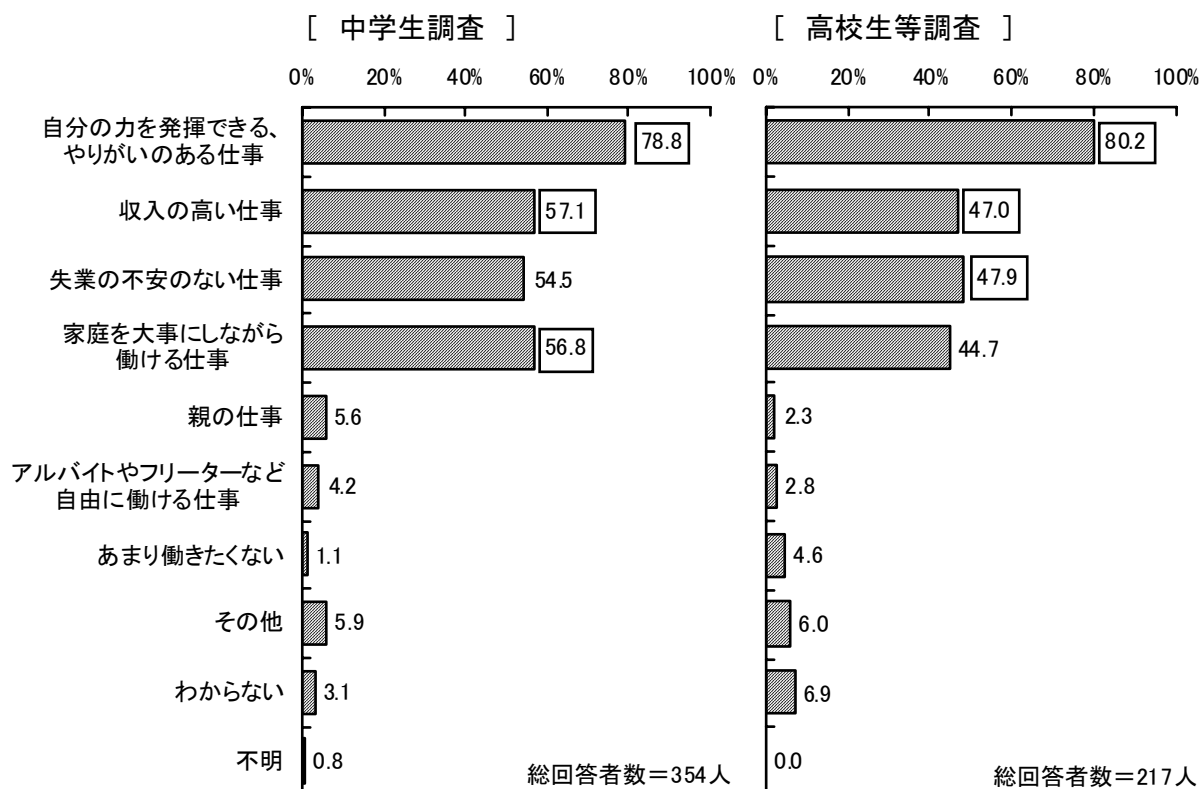
高校生等でアルバイトや仕事を「している」人の割合は42.4%となっている。

アルバイトや仕事をしている理由としては、「自分の買い物のため」78.3%、「友だちと遊ぶお金がほしいから」68.5%に次いで、「貯金をするため」が56.5%と半数強からあげられている。

(2) 将来つきたい仕事(問18)

あなたは、将来どんな仕事につきたいですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ-25 将来つきたい仕事(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位3位の値

[中学生調査]

中学生が将来つきたい仕事は、「自分の力を発揮できる、やりがいのある仕事」78.8%に次いで、「収入の高い仕事」57.1%、「家庭を大事にしながら働ける仕事」56.8%の順に割合が高くなっている。

[高校生等調査]

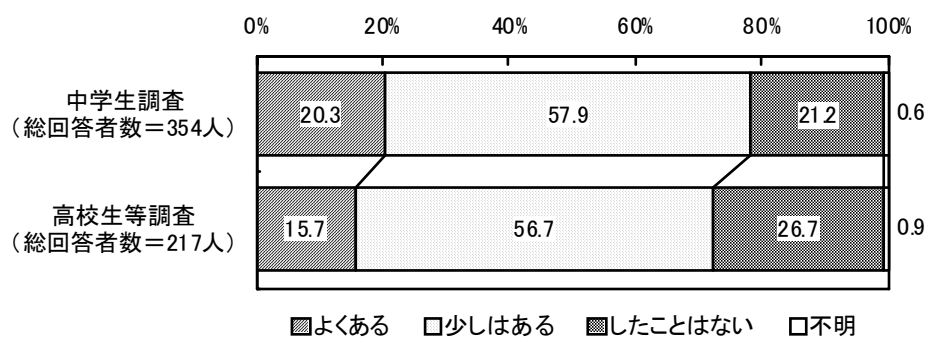
高校生等が将来つきたい仕事は、「自分の力を発揮できる、やりがいのある仕事」80.2%に次いで、「失業の不安のない仕事」47.9%が第2位、「収入の高い仕事」47.0%が第3位にあげられている。

6. 地域での活動について

(1) 赤ちゃんを世話した経験(問19)

あなたは、赤ちゃんをだっこしたり、面倒をみたことがありますか。(1つに○)

図表Ⅲ-26 赤ちゃんを世話した経験(単数回答)



[中学生調査]

中学生の赤ちゃんの世話をした経験をみると、「よくある」20.3%、「少しはある」57.9%を合わせた78.2%が『経験がある』と回答している。「したことはない」は21.2%であった。

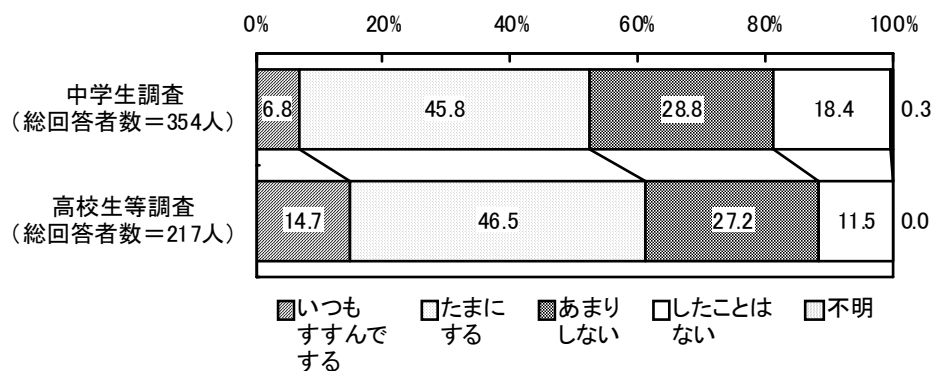
[高校生等調査]

高校生等の赤ちゃんの世話をした経験については、「よくある」15.7%、「少しはある」56.7%であり、これらを合わせた『経験がある』割合は72.4%となっている。「したことはない」は26.7%であり、中学生に比べると、赤ちゃんの世話をした『経験がある』人の割合は低くなっている。

(2) 高齢者等を手助けした経験(問20)

あなたは、まちでおとしよりや体の不自由な人が困っているのを見かけた時に、何かお手伝い(たとえば、手を引く、乗り物で席をゆずる、車いすを持ち上げるなど)をしたことがありますか。
(1つに○)

図表Ⅲ-27 高齢者等を手助けした経験(単数回答)



[中学生調査]

中学生の高齢者等を手助けした経験をみると、「いつもすすんでする」は6.8%、「たまにする」は45.8%であり、これらを合わせた52.6%、半数強が『する』と回答している。

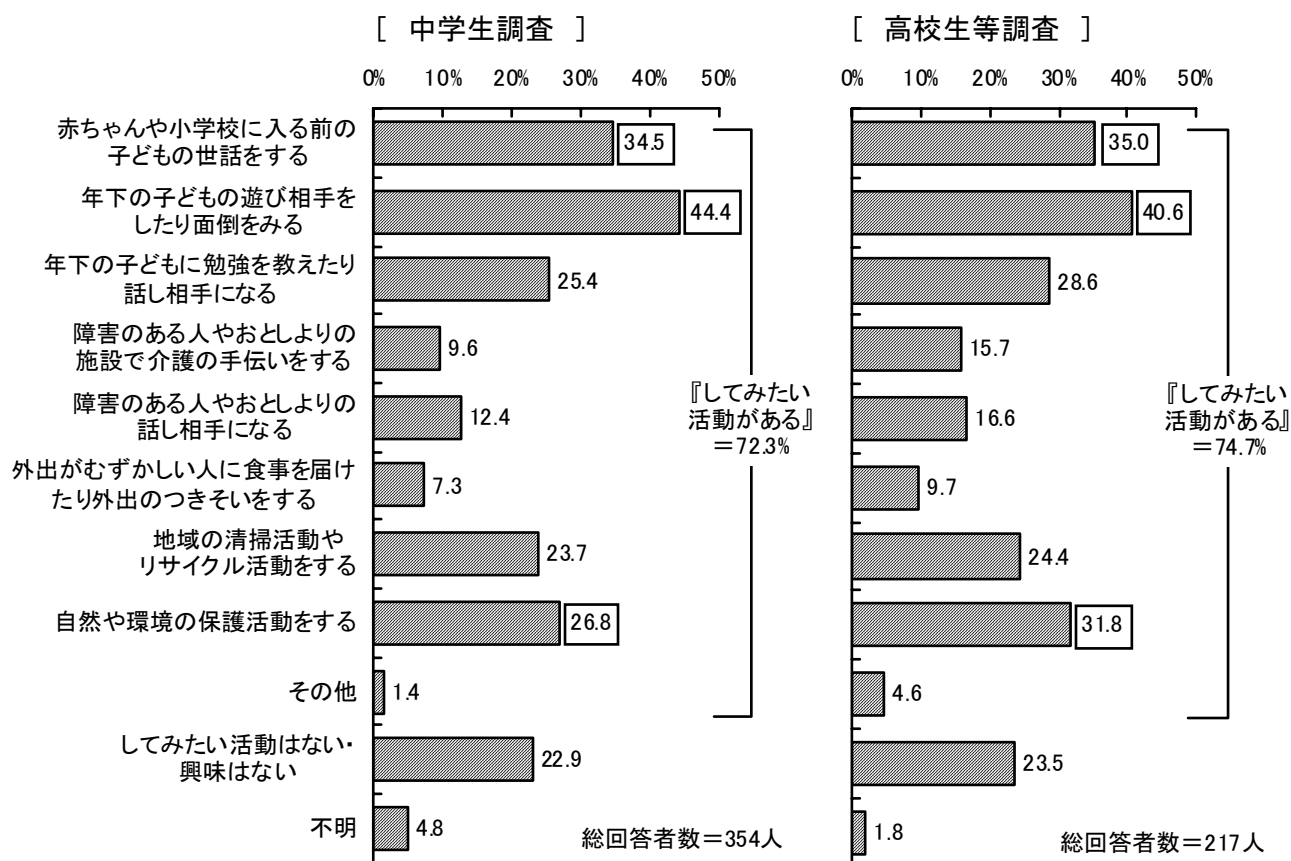
[高校生等調査]

高校生等の高齢者等を手助けした経験をみると、「いつもすすんでする」が14.7%と1割を超え、「たまにする」46.5%を合わせた『する』割合は61.2%であり、中学生に比べて、高い割合となっている。

(3)地域活動・ボランティア活動意向(問21)

あなたは、次のような地域活動・ボランティア活動をしてみたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ-28 地域活動・ボランティア活動意向(複数回答)



※: [] 囲みは、各調査の上位3位の値

[中学生調査・高校生等調査]

地域活動・ボランティア活動意向をみると、中学生の72.3%、高校生等の74.7%が、『してみたい活動がある』(100%から「してみたい活動はない・興味はない」と「不明」を除いた割合)と回答している。

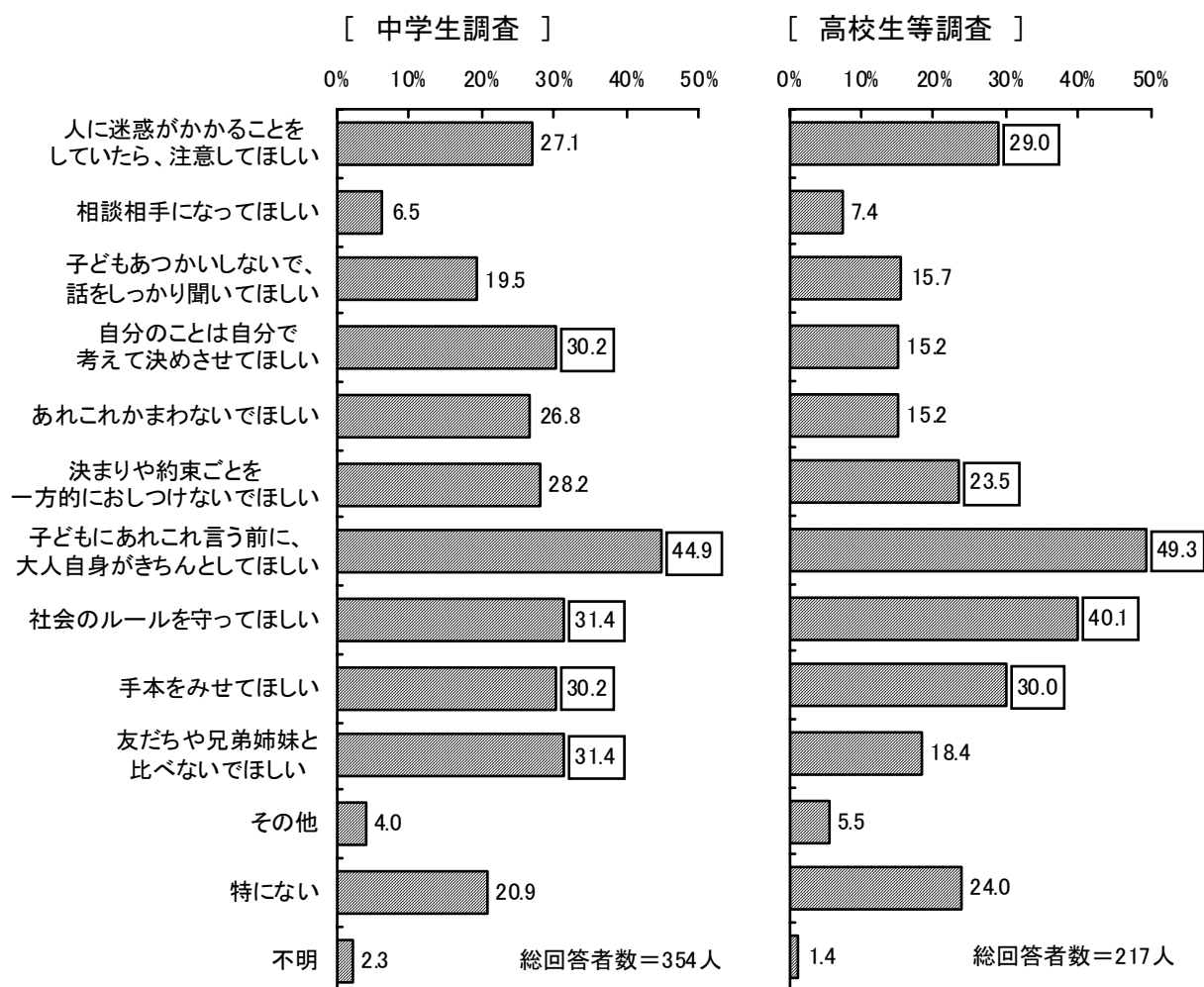
してみたい活動の上位は、中学生・高校生等ともに、「年下の子どもの遊び相手をしたり面倒をみる」「赤ちゃんや小学校に入る前の子どもの世話をする」「自然や環境の保護活動をする」が上位3位となっている。

(4)近所や地域の大人に対する要望(問22)

あなたは、近所や地域の大人に対して、どのような要望がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ-29 近所や地域の大人に対する要望(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位5位の値

[中学生調査]

中学生の近所や地域の大人に対する要望は、「子どもにあれこれ言う前に、大人自身がきちんとしてほしい」44.9%が第1位となっている。次いで、「社会のルールを守ってほしい」「友だちや兄弟姉妹と比べないでほしい」が同率で続いている。

[高校生等調査]

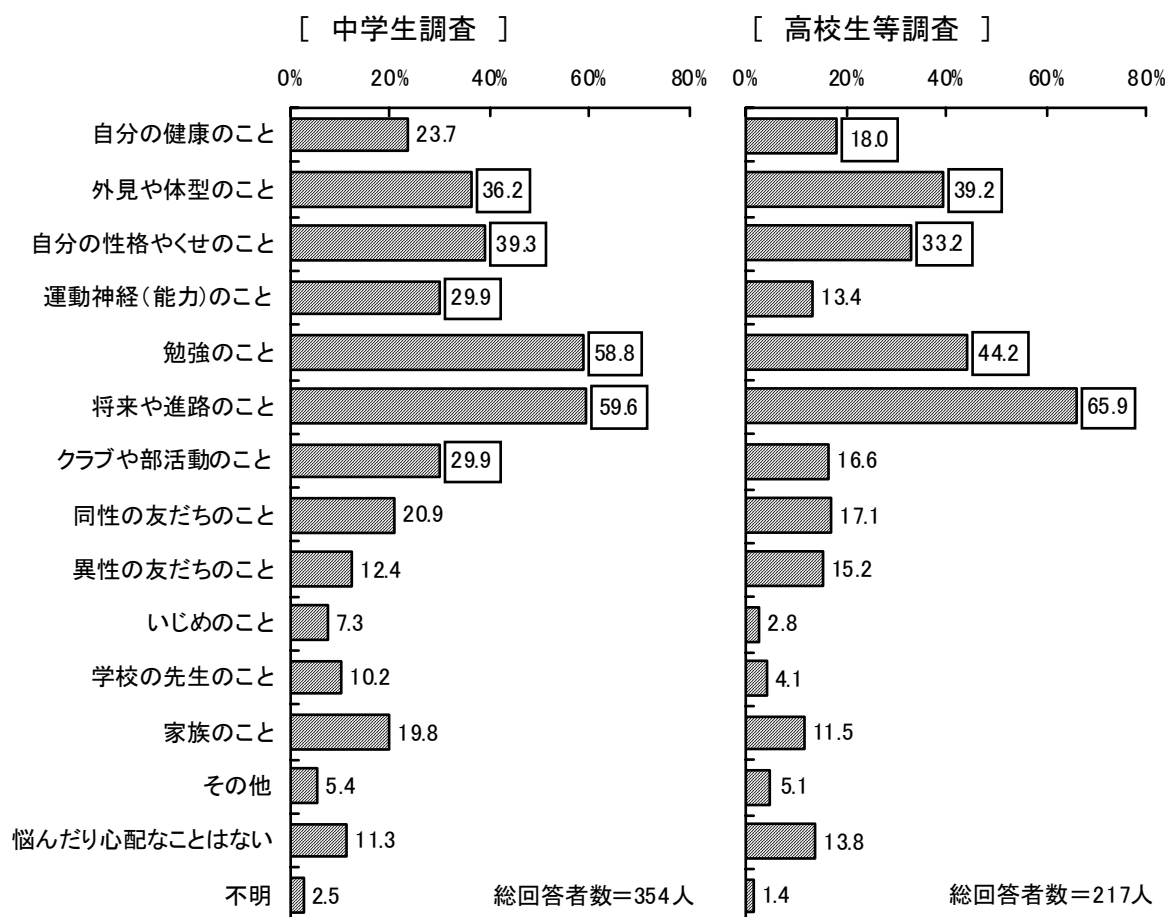
高校生等の近所や地域の大人に対する要望は、中学生と同様に「子どもにあれこれ言う前に、大人自身がきちんとしてほしい」が49.3%で第1位となっている。次いで、「社会のルールを守ってほしい」「手本をみせてほしい」の順で続いている。

7. 不安や悩みについて

(1) 不安や悩みの内容(問23)

あなたが、悩んだり心配しているのは、どのようなことについてですか。悩んでいることすべてに○をしてください。

図表Ⅲ-30 不安や悩みの内容(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位5位の値

[中学生調査]

中学生の不安や悩みの内容としては、「将来や進路のこと」「勉強のこと」がそれぞれ5割台からあげられている。次いで、「自分の性格やくせのこと」「外見や体型のこと」「運動神経(能力)のこと」「クラブや部活動のこと」の順となっている。

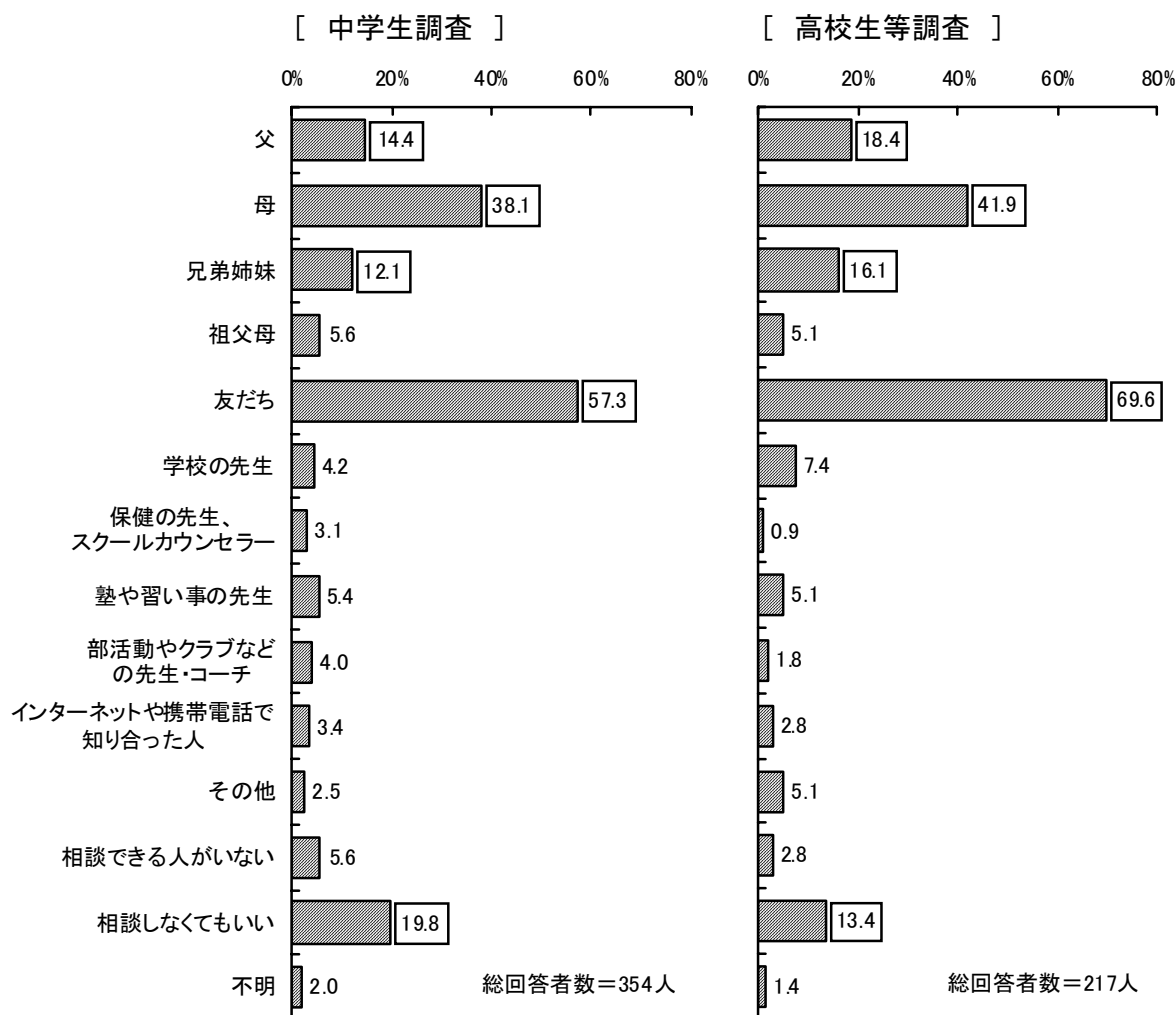
[高校生等調査]

高校生等の不安や悩みの内容としては、「将来や進路のこと」が65.9%と、他を大きく上回って高い。次いで、「勉強のこと」が4割台、「外見や体型のこと」「自分の性格やくせのこと」が3割台からあげられている。

(2) 悩みや心配ごとの相談先(問24)

あなたは、悩みや心配ごとを誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ-31 悩みや心配ごとの相談先(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位5位の値

[中学生調査]

中学生の悩みや心配ごとの相談先の第1位は「友だち」57.3%となっている。次いで、「母」38.1%、「父」14.4%、「兄弟姉妹」12.1%と、家族が続いている。「相談できる人がいない」は5.6%、「相談しなくてもいい」は19.8%であった。

[高校生等調査]

高校生等の悩みや心配ごとの相談先の第1位は、中学生同様「友だち」であり、69.6%と約7割があげている。次いで、「母」41.9%、「父」18.4%、「兄弟姉妹」16.1%の順となっている。「相談できる人がいない」は2.8%、「相談しなくてもいい」は13.4%であった。

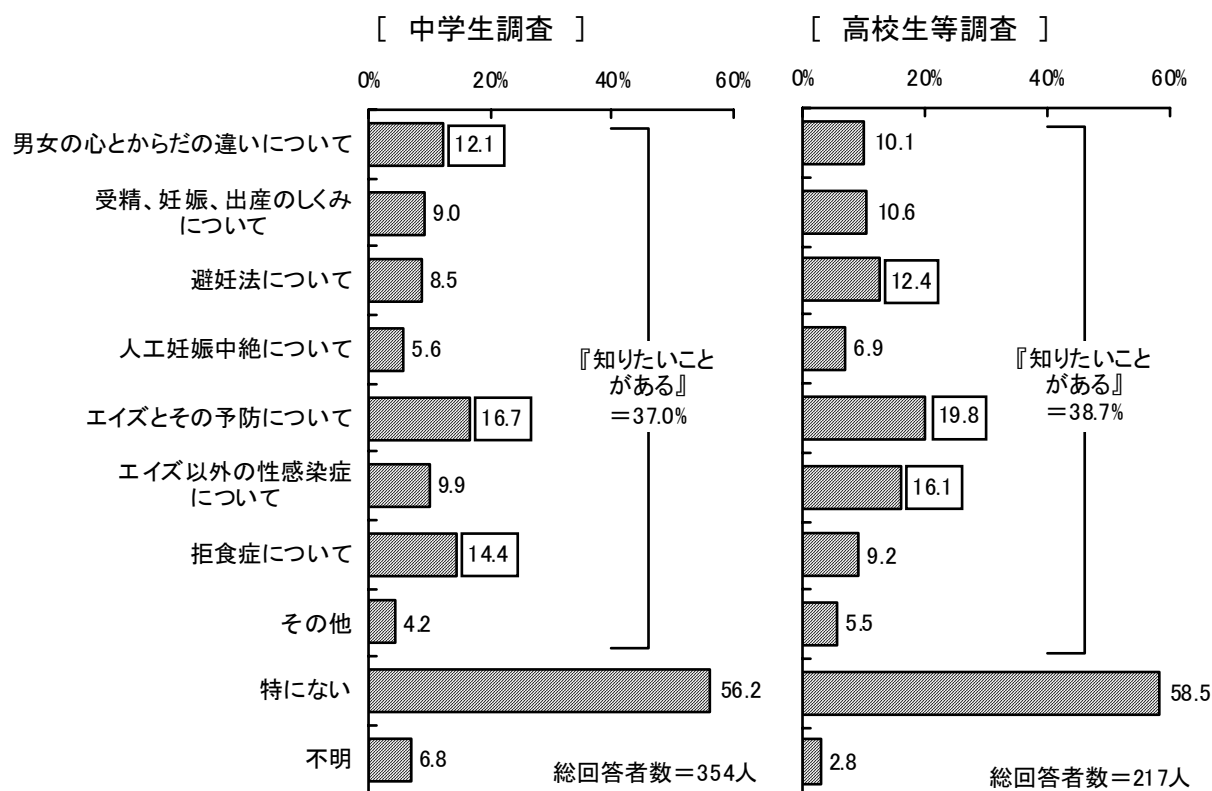
8. 健康やからだについて

(1) からだについて知りたいこと(問25)

からだに関することについて、あなたが知りたいと思うことはなんですか。

(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ-32 からだについて知りたいこと(複数回答)



※: [] 囲みは、各調査の上位3位の値

[中学生調査]

中学生がからだについて知りたいことをみると、37.0%が『知りたいことがある』(100%から「特にない」と「不明」を除いた割合)と回答している。

具体的には、「エイズとその予防について」16.7%、「拒食症について」14.4%、「男女の心とからだの違いについて」12.1%の順に割合が高い。

[高校生等調査]

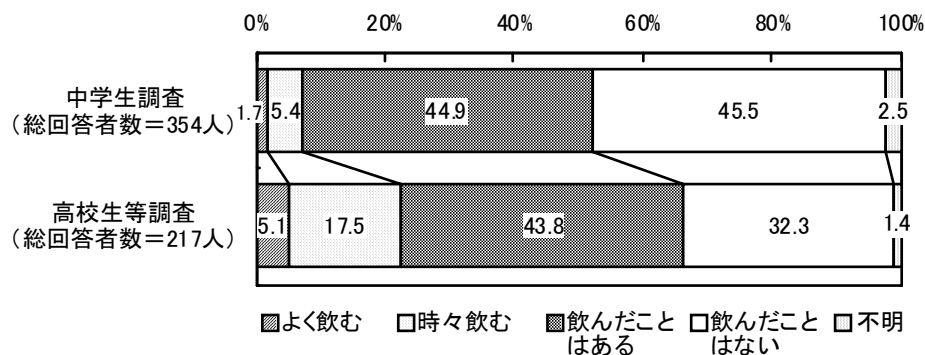
高校生等がからだについて知りたいことをみると、『知りたいことがある』割合は38.7%となっている。

具体的には、「エイズとその予防について」19.8%に次いで、「エイズ以外の性感染症について」16.1%、「避妊法について」12.4%の順となっている。

(2) 飲酒経験(問26)

あなたは、お酒を飲んだことはありますか。(1つに○)

図表Ⅲ-33 飲酒経験(単数回答)



[中学生調査]

中学生の飲酒経験をみると、「飲んだことはない」は45.5%であり、52.0%と半数強が『飲んだことがある』(100%から「飲んだことはない」と「不明」を除いた割合)と回答している。

飲酒頻度としては、「飲んだことはある」程度とする回答が44.9%を占めるものの、「時々飲む」が5.4%、「よく飲む」が1.7%となっている。

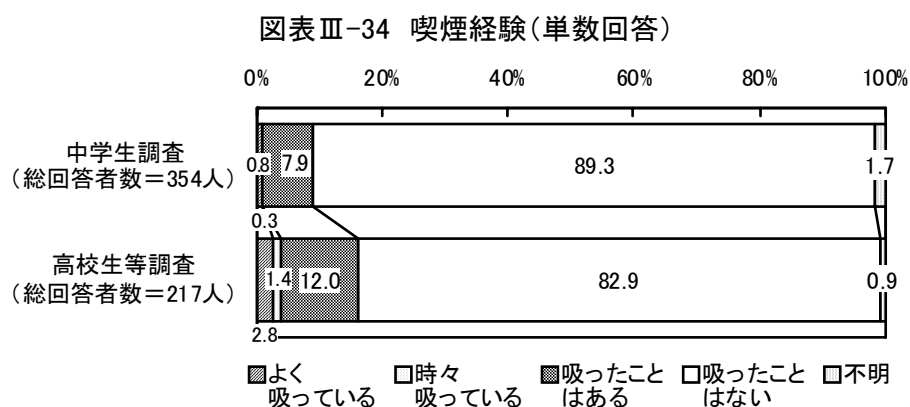
[高校生等調査]

高校生等の飲酒経験をみると、「飲んだことはない」は32.3%であり、『飲んだことがある』が66.3%を占める。

飲酒頻度としては、「飲んだことはある」が43.8%、「時々飲む」が17.5%、「よく飲む」が5.1%となっている。

(3)喫煙経験(問27)

あなたは、タバコを吸ったことがありますか。(1つに○)



[中学生調査]

中学生の喫煙経験をみると、「吸ったことはない」は89.3%と約9割である一方、9.0%が『吸ったことがある』(100%から「吸ったことはない」と「不明」を除いた割合)と回答している。

喫煙頻度としては、「吸ったことはある」が7.9%、「よく吸っている」0.8%、「時々吸っている」0.3%となっている。

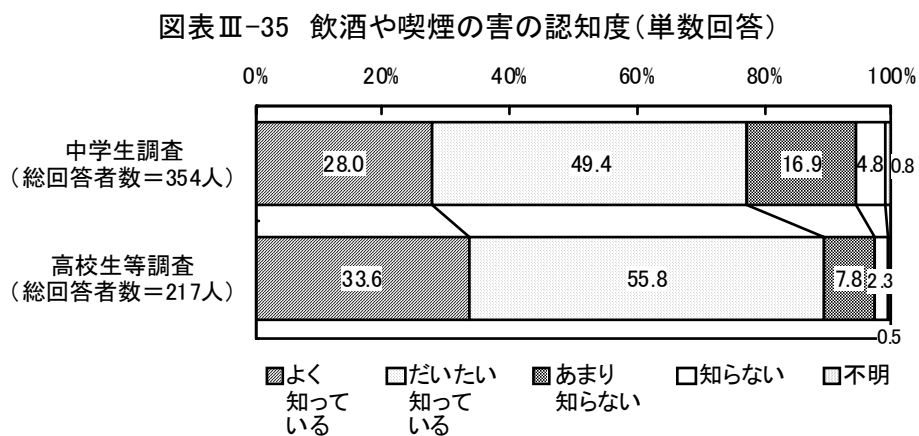
[高校生等調査]

高校生等の喫煙経験をみると、「吸ったことはない」は82.9%であり、16.2%が『吸ったことがある』と回答している。

喫煙頻度は、「吸ったことはある」が12.0%、「よく吸っている」2.8%、「時々吸っている」1.4%となっている。

(4) 飲酒や喫煙の害の認知度(問28)

あなたは、お酒やタバコが身体に及ぼす害について、どのくらい知っていますか。(1つに○)



[中学生調査]

中学生の飲酒や喫煙の害の認知度をみると、「よく知っている」28.0%、「だいたい知っている」49.4%となっており、これらを合わせた77.4%が『知っている』と回答している。

[高校生等調査]

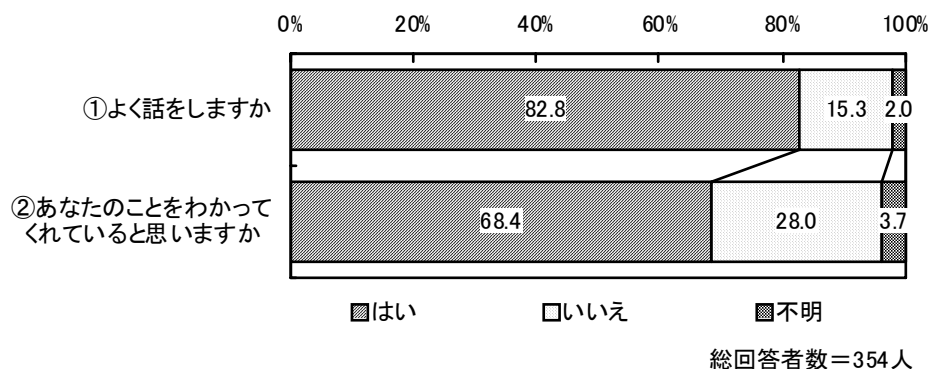
高校生等の飲酒や喫煙の害の認知度をみると、「よく知っている」33.6%、「だいたい知っている」55.8%であり、これらを合わせた89.4%、約9割が『知っている』と回答している。

9. 家族について

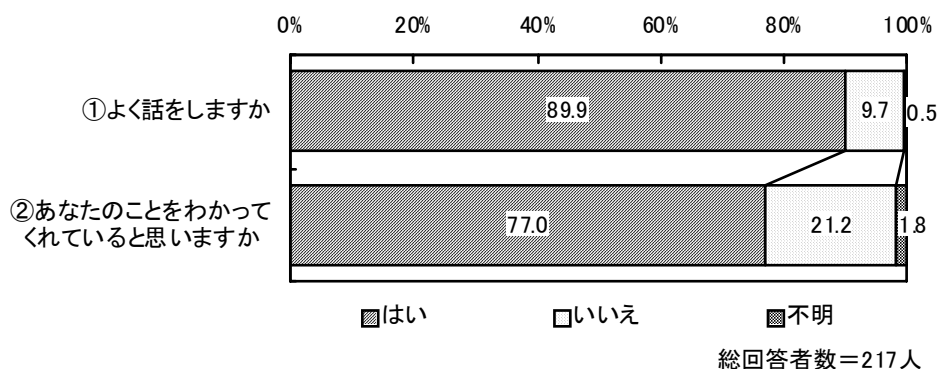
(1) 家族との関係(問29)

両親などの家族の人について質問します。①・②それぞれについて、「はい」「いいえ」のどちらか近いほうの番号1つに○をしてください。

図表Ⅲ-36 家族との関係(各単数回答) [中学生調査]



図表Ⅲ-37 家族との関係(各単数回答) [高校生等調査]



[中学生調査]

中学生は家族との関係について、“①よく話をしますか”という質問に対しては82.8%、“②あなたのことをわかってくれていると思いますか”に対しては68.4%が「はい」と回答している。

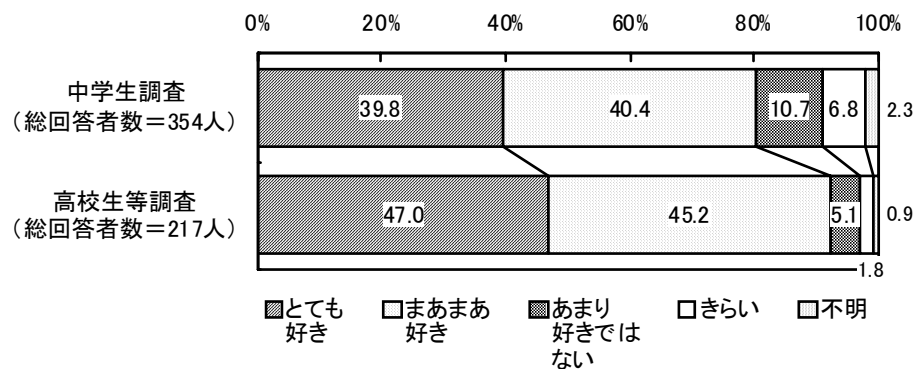
[高校生等調査]

高校生等においては、“①よく話をしますか”という質問に対しては89.9%、“②あなたのことをわかってくれていると思いますか”に対しては77.0%が「はい」と回答している。①・②とも、中学生に比べて「はい」と回答した人の割合が高くなっている。

(2) 家族に対する評価(問30)

あなたは、あなたの家族が好きですか。(1つに○)

図表Ⅲ-38 家族に対する評価(単数回答)



[中学生調査]

中学生の家族に対する評価は、「とても好き」39.8%、「まあまあ好き」40.4%となっており、これらを合わせた80.2%、約8割が『好き』と回答している。一方で、「あまり好きではない」は10.7%と約1割を占め、「きらい」6.8%を合わせた『好きではない』とする回答は17.5%となっている。

[高校生等調査]

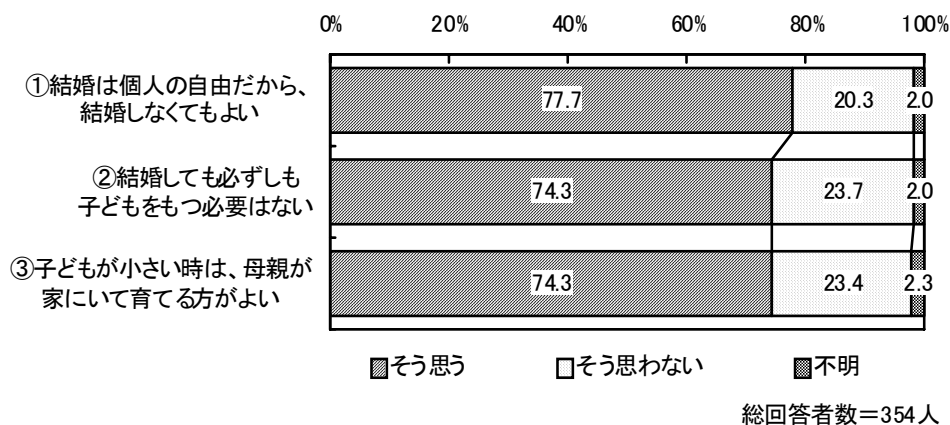
高校生等の家族に対する評価は、「とても好き」47.0%、「まあまあ好き」45.2%となっており、これらを合わせた92.2%が『好き』と回答している。『好きではない』は6.9%であった。

10. 結婚・子育てについて

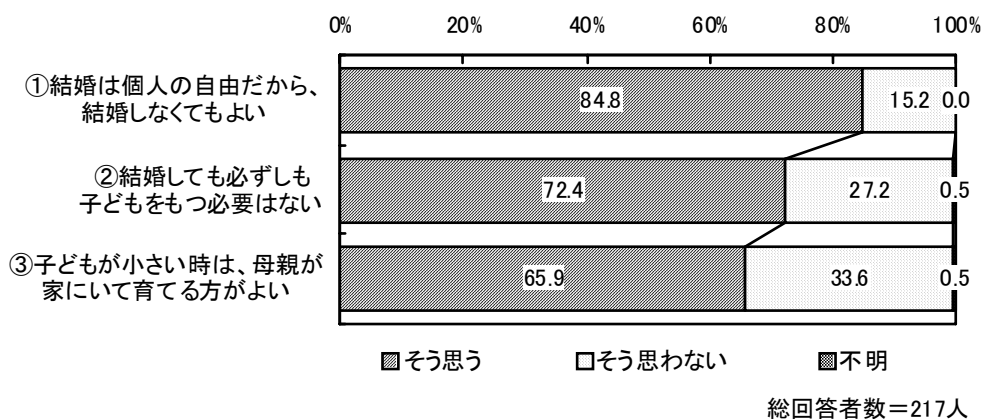
(1) 結婚・子育て観(問31)

結婚や子育てに関する考え方について質問します。①～③それぞれについて、「そう思う」「そう思わない」のどちらか近いほうの番号1つに○をしてください。

図表Ⅲ-39 結婚・子育て観(各単数回答) [中学生調査]



図表Ⅲ-40 結婚・子育て観(各単数回答) [高校生等調査]



[中学生調査]

中学生においては、“①結婚は個人の自由だから、結婚しなくてもよい”という考え方については77.7%、“②結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない”及び“③子どもが小さい時は、母親が家にいて育てる方がよい”については各74.3%が、「そう思う」と回答している。

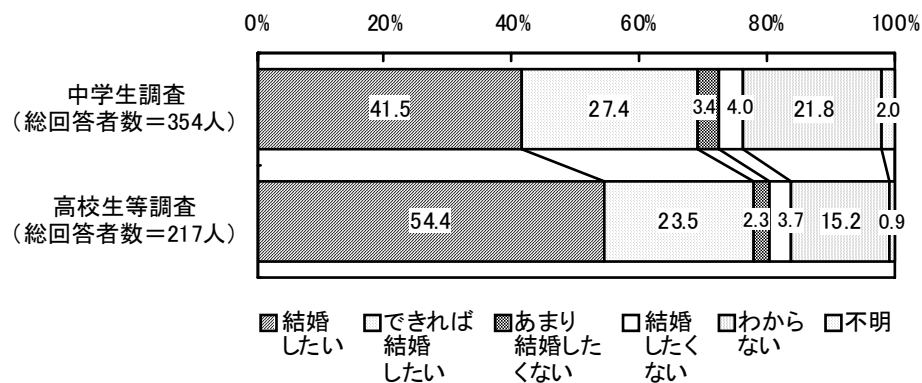
[高校生等調査]

高校生等においては、“①結婚は個人の自由だから、結婚しなくてもよい”という考え方については84.8%、“②結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない”については72.4%、“③子どもが小さい時は、母親が家にいて育てる方がよい”については65.9%が、「そう思う」と回答している。高校生等は中学生に比べて、“③子どもが小さい時は、母親が家にいて育てる方がよい”と考えている割合が低くなっている。

(2)結婚についての希望(問32)

あなたは、将来結婚したいですか。(1つに○)

図表Ⅲ-41 結婚についての希望(単数回答)



[中学生調査]

中学生の結婚についての希望は、「結婚したい」41.5%、「できれば結婚したい」27.4%の順であり、これらを合わせた68.9%が『結婚したい』と回答している。

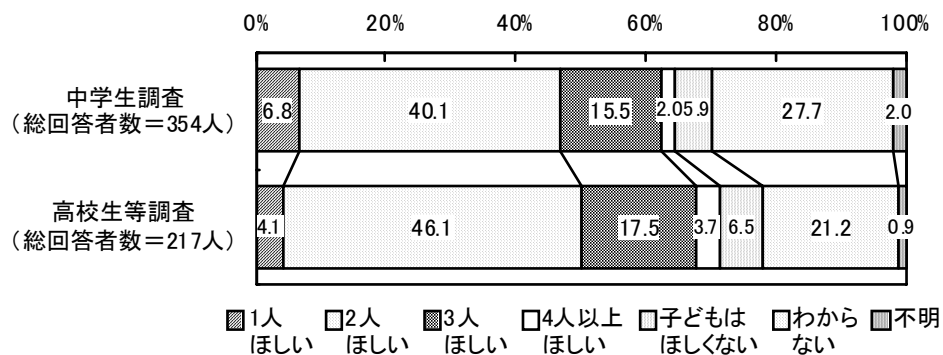
[高校生等調査]

高校生等の結婚についての希望は、「結婚したい」が54.4%と過半数を占めており、「できれば結婚したい」23.5%を合わせると、77.9%が『結婚したい』と回答している。

(3) 将来ほしい子どもの人数(問33)

あなたは、将来、子どもをほしいですか。(1つに○)

図表Ⅲ-42 将来ほしい子どもの人数(単数回答)



[中学生調査]

中学生が将来ほしい子どもの人数は、「2人ほしい」40.1%、「3人ほしい」15.5%、「1人ほしい」6.8%の順となっている。「子どもはほしくない」は5.9%であった。

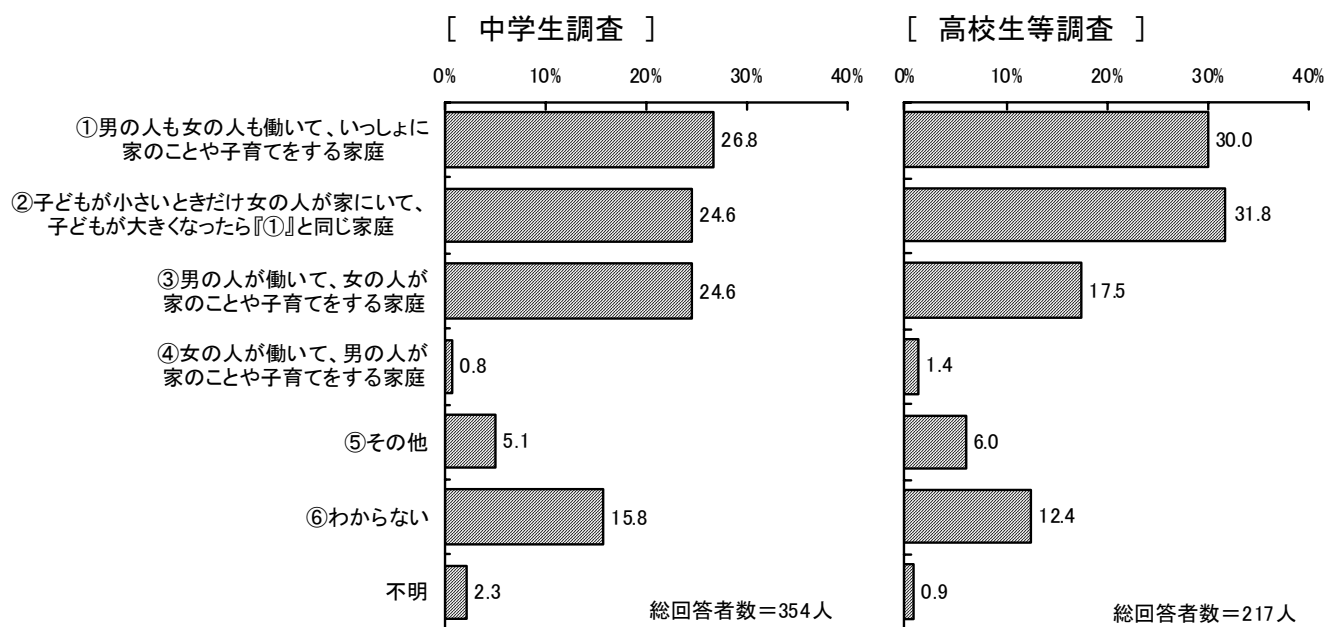
[高校生等調査]

高校生等が将来ほしい子どもの人数は、「2人ほしい」が46.1%を占め、次いで、「3人ほしい」17.5%、「1人ほしい」4.1%の順であり、中学生に比べて、2人以上ほしいとの回答割合が高くなっている。「子どもはほしくない」は6.5%であった。

(4) 将来つくりたい家庭像(問34)

あなたは将来家庭をつくるとしたら、どんな家庭をつくりたいと思いますか。次の中から一番近い考え1つに○をしてください。

図表Ⅲ-43 将来つくりたい家庭像(単数回答)



[中学生調査]

中学生が将来つくりたい家庭像の第1位は、「①男の人も女の人も働いて、いっしょに家のことや子育てをする家庭」26.8%となっている。次いで、「②子どもが小さいときだけ女の人が家にいて、子どもが大きくなったら『①』と同じ家庭」「③男の人が働いて、女の人が家のことや子育てをする家庭」が各24.6%で続いている。

[高校生等調査]

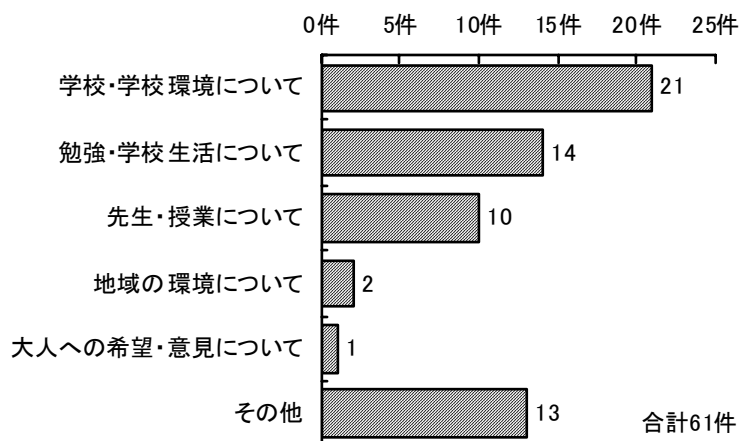
高校生等が将来つくりたい家庭像の第1位は、「②子どもが小さいときだけ女の人が家にいて、子どもが大きくなったら『①』と同じ家庭」31.8%である。次いで、「①男の人も女の人も働いて、いっしょに家のことや子育てをする家庭」30.0%、「③男の人が働いて、女の人が家のことや子育てをする家庭」が17.5%の順となっている。

1 1. 自由回答

ふだんの生活のことや学校のことなど、要望や意見がありましたら、自由にご記入ください。

(1) 中学生の意見・要望

図表Ⅲ-44 中学生の自由意見



以下は、中学生が記入した自由回答の抜粋である。

■学校・学校環境について(21 件)

- 家が学校から遠い人は自転車通学させてほしい。
- 校庭、体育館を広くしてほしい。

■勉強・学校生活について(14 件)

- 中学生の意見を教育委員会やPTAなどにきちんと発言できる場を定期的に設けてほしい。
- あまり勉強、勉強と言わないでほしい。

■先生・授業について(10 件)

- 選択授業・少人数コースの教科を増やしてほしい。
- 先生たちは細かいことにうるさい。

■地域の環境について(2 件)

- みんなが遊べる広場が欲しい。

■大人への希望・意見について(1 件)

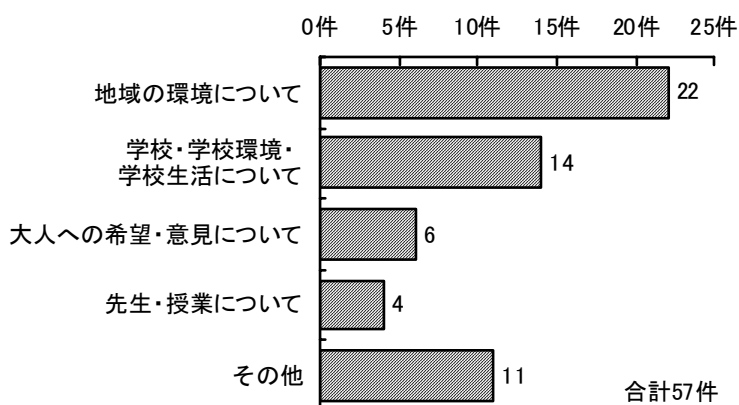
- 今の子どもたちがどんどん悪くなっているのは、ルールを守れない大人のせいだと思う。

■その他(13 件)

- 差別をやめてほしい。
- 自由が欲しい。

(2) 高校生等の意見・要望

図表Ⅲ-45 高校生等の自由意見



以下は、高校生等が記入した自由回答の抜粋である。

■地域の環境について(22 件)

- 近所付き合いが少ないので不安になる。
- ごみ・タバコのポイ捨て禁止や罰金制度を設けて自然環境を守る姿勢を見せてほしい。
- 体を動かして遊べる場所があると良い。
- 防犯をしっかりとしてほしい。
- 建物ばかり増やすのではなく、緑や自然を多く残し、ゆったりと子育てができる環境を作してほしい。

■学校・学校環境・学校生活について(14 件)

- 私立の授業料が安くなるとよい。
- 小・中学校に携帯電話を持ち込み禁止にすることを支持する。

■大人への希望・意見について(6 件)

- 「今の子はなっていない」と言われるが、手本となる大人にも責任はあると思う。
- 生活の中で大人のマナーの悪さがとても多いと思う。

■先生・授業について(4 件)

- 大学で勉強が始めやすいような授業内容にしてほしい。
- 良い先生を増やしたほうが良い。

■その他(11 件)

- 人を全てわかったように見透かすのはやめてほしい。
- 今の社会問題をどうにかしてほしい。

IV. 調查結果報告④

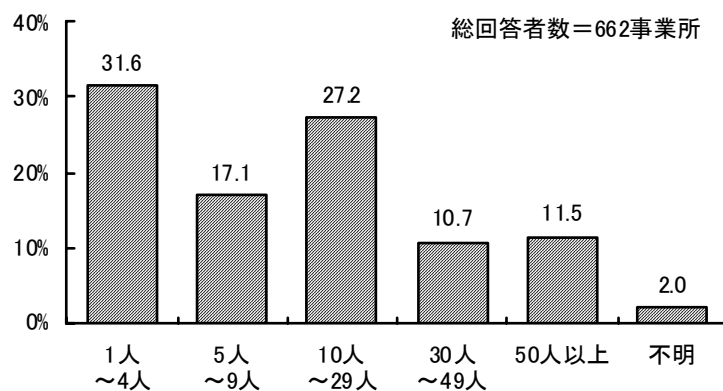
－区内事業所調査－

1. 基本属性

(1) 事業所の従業員数(問1)

貴事業所で常時雇用する従業員数は何人ですか(パートを含む)。(1つに○)

図表Ⅳ-1 事業所の従業員数(単数回答)

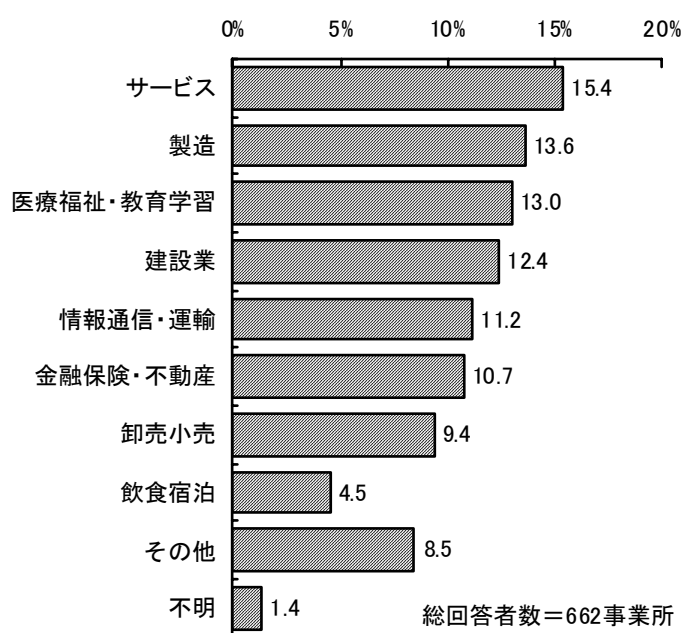


事業所の従業員数は、「1人～4人」がもっとも高く 31.6%と3割強を占める。次いで「10人～29人」27.2%、「5人～9人」17.1%、「50人以上」11.5%、「30人～49人」10.7%となっている。

(2) 事業所の業種区分(問2)

貴事業所の業種区分は、次のうちどれに該当しますか。(1つに○)

図表Ⅳ-2 事業所の業種区分(単数回答)

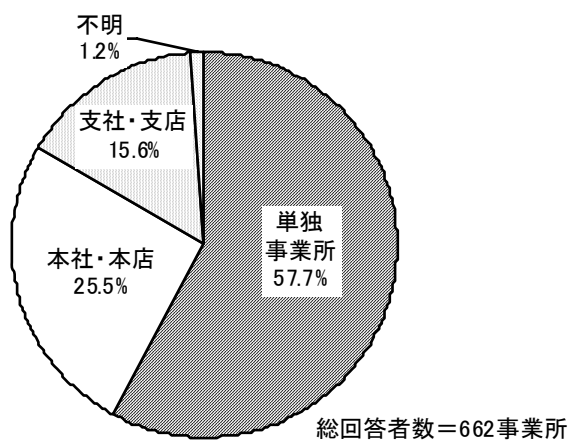


事業所の業種区分は、「サービス」15.4%、「製造」13.6%、「医療福祉・教育学習」13.0%、「建設業」12.4%の順となっている。

(3)事業所の性格(問3)

貴事業所の性格は、次のうちどれに該当しますか。(1つに○)

図表IV-3 事業所の性格(単数回答)

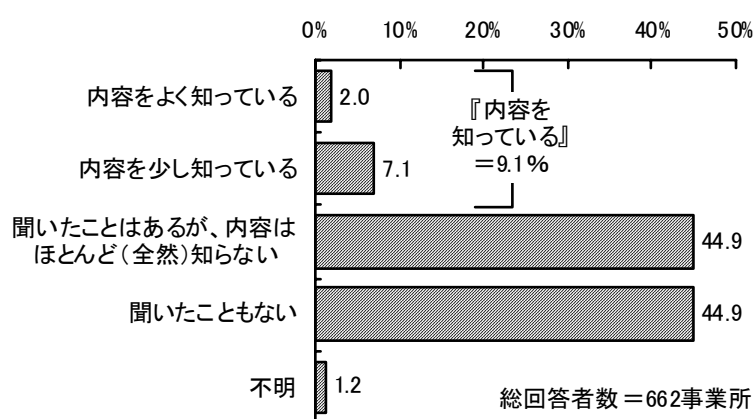


事業所の性格は、「単独事業所」が57.7%と6割近く、「本社・本店」25.5%、「支社・支店」15.6%となっている。

(4) 墨田区次世代育成支援行動計画の認知度(問4)

墨田区では、平成 17 年 3 月に、子どもたちが健やかに生まれ育つための環境整備を図るため、「墨田区次世代育成支援行動計画」を策定しました。この行動計画のことをどのくらい知っていますか。(1つに○)

図表Ⅳ-4 墨田区次世代育成支援行動計画の認知度(単数回答)



墨田区次世代育成支援行動計画の認知度は、「聞いたことはあるが、内容はほとんど(全然)知らない」「聞いたこともない」が各 44.9%であり、これらで 89.8%と約 9 割を占める。「内容をよく知っている」2.0%、「内容を少し知っている」7.1%を合わせた『内容を知っている』は 9.1%、約 1 割であった。

図表Ⅳ-5 墨田区次世代育成支援行動計画の認知度

		総回答者数(事業所)	内容をよく知っている	内容を少し知っている	聞いたことはあるが、内容はほとんど(全然)知らない	聞いたこともない	不明	『内容を知っている』
全 体		662	2.0	7.1	44.9	44.9	1.2	9.1
事業所の従業員数別	1人～4人	209	1.9	6.2	44.0	45.9	1.9	8.1
	5人～9人	113	0.0	7.1	45.1	47.8	0.0	7.1
	10人～29人	180	1.7	3.3	52.8	40.6	1.7	5.0
	30人～49人	71	2.8	12.7	32.4	52.1	0.0	15.5
	50人以上	76	5.3	14.5	39.5	40.8	0.0	19.8

※:『内容を知っている』=「内容をよく知っている」+「内容を少し知っている」

従業員数別にみると、『内容を知っている』割合は、29人以下の事業所では1割を下回るが、30人～49人の事業所では1割台、50人以上の事業所では約2割となっている。

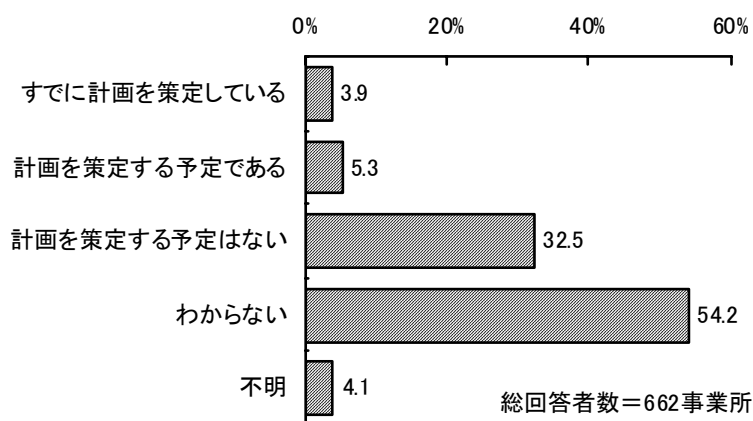
(5)一般事業主行動計画の策定状況(問5)

平成 23 年 4 月 1 日から、企業が次世代育成支援をすすめるために策定する「一般事業主行動計画」の策定・届出の義務づけ範囲が、従業員 301 人以上企業から、従業員 101 人以上企業に拡大され、従業員 100 人以下の企業は努力義務となります。

貴事業所の「一般事業主行動計画」の策定状況は、次のうちどれにあてはまりますか。

(1つに○)

図表Ⅳ-6 一般事業主行動計画の策定状況(単数回答)



一般事業主行動計画の策定については、「計画を策定する予定はない」が 32.5%を占める。

「すでに計画を策定している」は 3.9%、「計画を策定する予定である」は 5.3%となっている。

図表Ⅳ-7 一般事業主行動計画の策定状況

		総回答者数(事業所)	すでに計画を策定している	計画を策定する予定である	計画を策定する予定はない	わからない	不明
全 体		662	3.9	5.3	32.5	54.2	4.1
事業所の従業員数別	1人～4人	209	0.0	2.4	37.3	54.5	5.7
	5人～9人	113	0.9	5.3	38.1	51.3	4.4
	10人～29人	180	6.7	4.4	31.7	55.0	2.2
	30人～49人	71	2.8	9.9	28.2	56.3	2.8
	50人以上	76	14.5	11.8	13.2	57.9	2.6

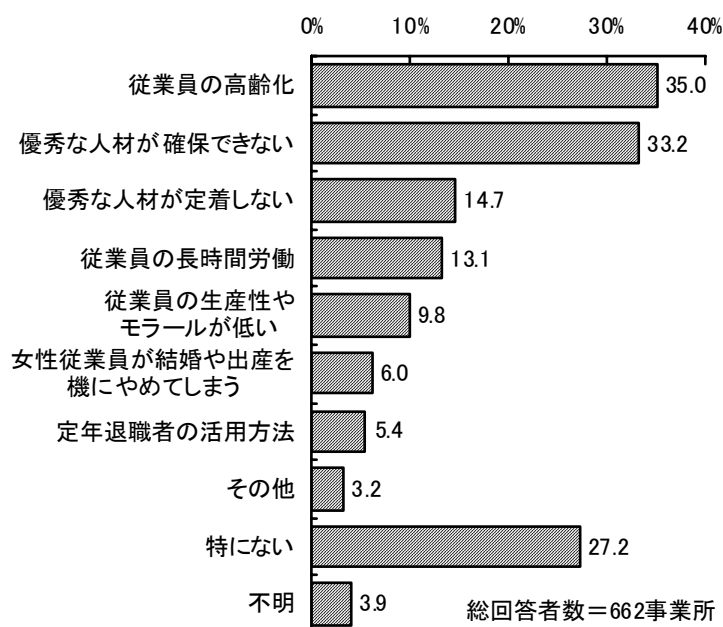
従業員数別にみると、50人以上の事業所では「すでに計画を策定している」が 14.5%、「計画を策定する予定である」が 11.8%となっているが、49人以下の事業所では「すでに計画を策定している」「計画を策定する予定である」とも、1割を下回っている。

(6) 労務管理上の悩み(問6)

貴事業所では、日ごろ労務管理上どのようなことに悩んでいますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

図表Ⅳ-8 労務管理上の悩み(複数回答)



労務管理上の悩みをみると、「従業員の高齢化」35.0%がもっとも高く、次いで「優秀な人材が確保できない」33.2%、「優秀な人材が定着しない」14.7%が上位3位にあげられている。

図表Ⅳ-9 労務管理上の悩み

		総回答者数(事業所)	従業員の 高齢化	優秀な 人材が 確保で き ない	優秀な 人材が 定着し ない	従業員の 長時間 労働	従業員の 生産性や モラルが 低い	女性従業員 が結婚や 出産を機 にやめて しまう	定年退職 者の活用 方法	その他	特にな い	不明
全 体		662	35.0	33.2	14.7	13.1	9.8	6.0	5.4	3.2	27.2	3.9
事業所の従業員数別	1人～4人	209	28.2	18.2	11.5	6.7	5.3	4.8	4.3	2.9	44.0	4.3
	5人～9人	113	37.2	35.4	17.7	6.2	9.7	6.2	5.3	2.7	25.7	2.7
	10人～29人	180	39.4	46.1	15.0	14.4	13.3	6.1	5.0	1.7	16.7	3.9
	30人～49人	71	36.6	50.7	16.9	26.8	19.7	9.9	8.5	4.2	8.5	1.4
	50人以上	76	43.4	30.3	18.4	27.6	6.6	6.6	7.9	6.6	19.7	3.9

従業員数別にみると、1人～4人の事業所では「特にない」が4割台を占める。5人～9人及び50人以上の事業所では「従業員の高齢化」、10人～49人の事業所では「優秀な人材が確保できない」が、それぞれもっとも割合の高い悩みとなっている。

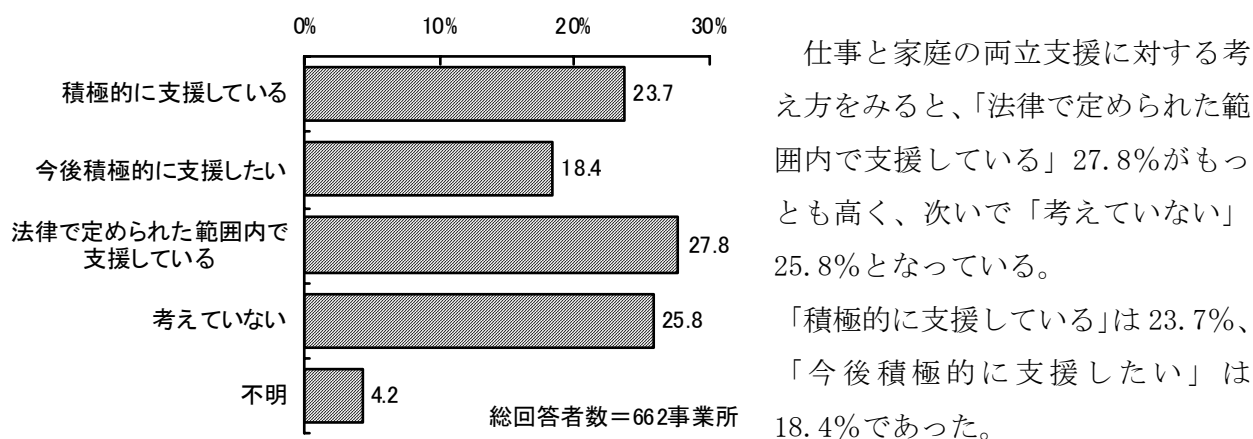
2. 仕事と家庭の両立支援について

(1) 仕事と家庭の両立支援と対応(問7～問7-2)

① 仕事と家庭の両立支援に対する考え方

貴事業所の仕事と家庭の両立支援に対する考え方について、該当するもの1つに○をしてください。

図表Ⅳ-10 仕事と家庭の両立支援に対する考え方(単数回答)



図表Ⅳ-11 仕事と家庭の両立支援に対する考え方

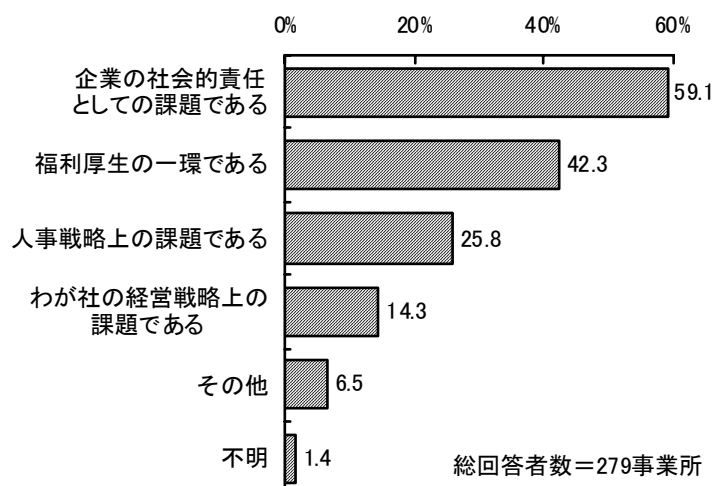
		総回答者数(事業所)	積極的に支援している	今後積極的に支援したい	法律で定められた範囲内で支援している	考えていない	不明
全 体		662	23.7	18.4	27.8	25.8	4.2
事業所の従業員数別	1人～4人	209	16.3	17.2	15.3	44.0	7.2
	5人～9人	113	25.7	15.0	23.9	31.9	3.5
	10人～29人	180	27.2	17.8	36.1	15.6	3.3
	30人～49人	71	33.8	19.7	38.0	7.0	1.4
	50人以上	76	26.3	26.3	43.4	3.9	0.0

従業員数別にみると、9人以下の事業所では「考えていない」がもっとも高い割合を占める。10人以上の事業所では「法律で定められた範囲で支援している」がもっとも高く、10～49人の事業所では3割台、50人以上の事業所では4割台を占める。

②積極的に支援している・したい理由

問 7 で「1」または「2」と答えた方にお聞きます。積極的に支援している・積極的に支援したいのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ-12 積極的に支援している・したい理由(複数回答)



仕事と家庭の両立を「積極的に支援している」「今後積極的に支援したい」と回答した事業所にその理由をたずねた。結果、「企業の社会的責任としての課題である」がもっとも高く、59.1%と約6割があげている。次いで、「福利厚生の一環である」42.3%、「人事戦略上の課題である」25.8%、「わが社の経営戦略上の課題である」14.3%の順となっている。

図表Ⅳ-13 積極的に支援している・したい理由

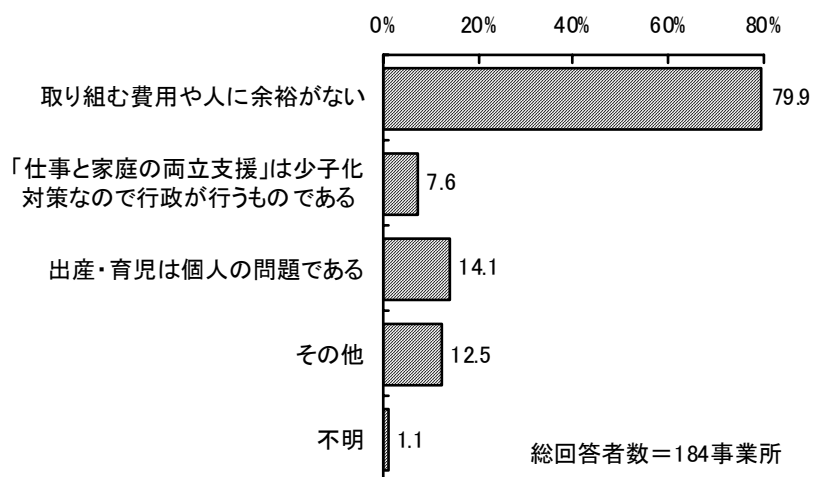
		総回答者数(事業所)	企業の社会的責任としての課題である	福利厚生の一環である	人事戦略上の課題である	わが社の経営戦略上の課題である	その他	不明
全 体		279	59.1	42.3	25.8	14.3	6.5	1.4
事業所の従業員数別	1人～4人	70	48.6	38.6	10.0	11.4	12.9	1.4
	5人～9人	46	52.2	45.7	23.9	17.4	4.3	2.2
	10人～29人	81	66.7	45.7	30.9	11.1	2.5	2.5
	30人～49人	38	63.2	36.8	28.9	13.2	10.5	0.0
	50人以上	40	65.0	47.5	45.0	25.0	0.0	0.0

従業員数別にみると、いずれの規模の事業所においても理由の第1位は「企業の社会的責任としての課題である」であるが、10人以上の事業所では6割台があげており、9人以下の事業所に比べて高い割合となっている。

③定められた範囲内で支援している理由

問 7 で「3」と答えた方にお聞きます。定められた範囲内で支援しているのは、なぜですか。
(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ-14 定められた範囲内で支援している理由(複数回答)



仕事と家庭の両立を「法律で定められた範囲内で支援している」と回答した事業所にその理由をたずねた。結果、79.9%と約 8 割が「取り組む費用や人に余裕がない」と回答している。次いで、「出産・育児は個人の問題である」14.1%が続いている。「その他」では、「対象者がいない」「法律に定められた範囲で問題ない」「アイデアが浮かばない」などがあげられている。

図表Ⅳ-15 定められた範囲内で支援している理由

		総回答者数(事業所)	取り組む費用や人に余裕がない	「仕事と家庭の両立支援」は少子化対策なので行政が行うものである	出産・育児は個人の問題である	その他	不明
全 体		184	79.9	7.6	14.1	12.5	1.1
事業所の従業員数別	1 人～4 人	32	84.4	9.4	9.4	9.4	0.0
	5 人～9 人	27	85.2	7.4	7.4	18.5	0.0
	10 人～29 人	65	81.5	6.2	16.9	9.2	0.0
	30 人～49 人	27	74.1	3.7	18.5	18.5	3.7
	50 人以上	33	72.7	12.1	15.2	12.1	3.0

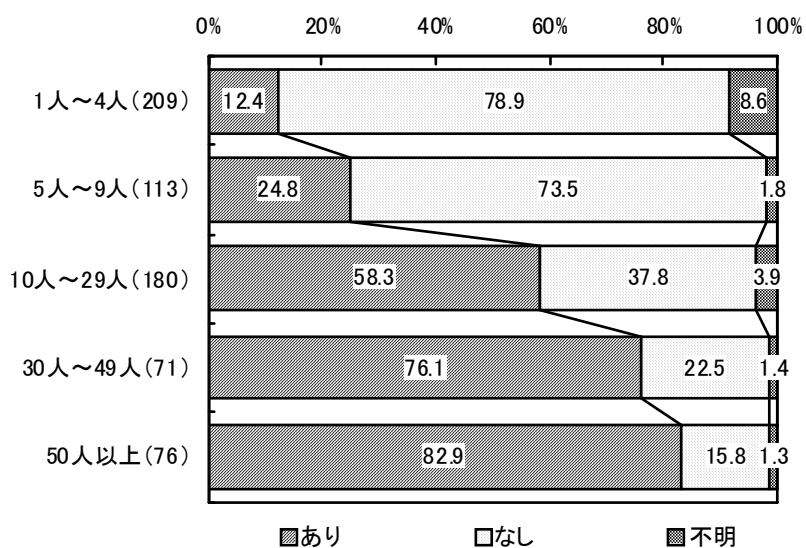
従業員数別にみると、29 人以下の事業所では 8 割台が「取り組む費用や人に余裕がない」を理由にあげている。

(2) 育児休業制度の実施状況と取得状況(問8～問8-2)

① 育児休業制度の実施状況

育児休業制度は取り入れていますか。(1つに○)

図表Ⅳ-16 育児休業制度の実施状況(単数回答)



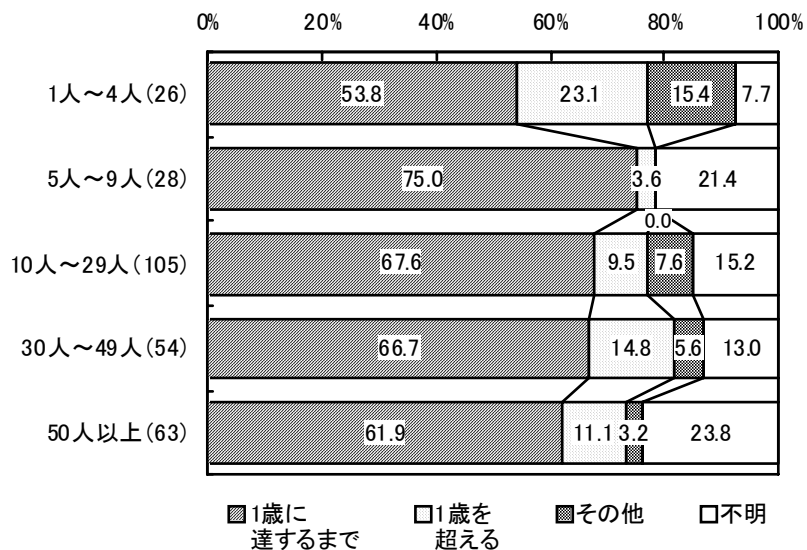
※:()は回答事業所数

育児休業制度を取り入れているかどうかをみると、「あり」は1人～4人の事業所では1割台、5人～9人の事業所では2割台となっている。10人以上の事業所では「あり」が半数を超え、10人～29人の事業所では6割弱、30人～49人の事業所では7割台、50人以上の事業所では8割台となっている。

②育児休業の対象となる子どもの上限年齢

対象となる子どもの上限年齢はいくつですか。(1つに○)

図表Ⅳ-17 育児休業の対象となる子どもの上限年齢(単数回答)



※:()は回答事業所数

図表Ⅳ-18 「1歳を超える」場合の上限年齢

	総回答者数	平均年齢	最高年齢	最低年齢
1人～4人	5事業所	4.8歳	6.0歳	2.0歳
5人～9人	0事業所	—	—	—
10人～29人	10事業所	2.7歳	6.0歳	1.5歳
30人～49人	7事業所	2.1歳	3.0歳	1.5歳
50人以上	6事業所	2.3歳	3.0歳	1.5歳

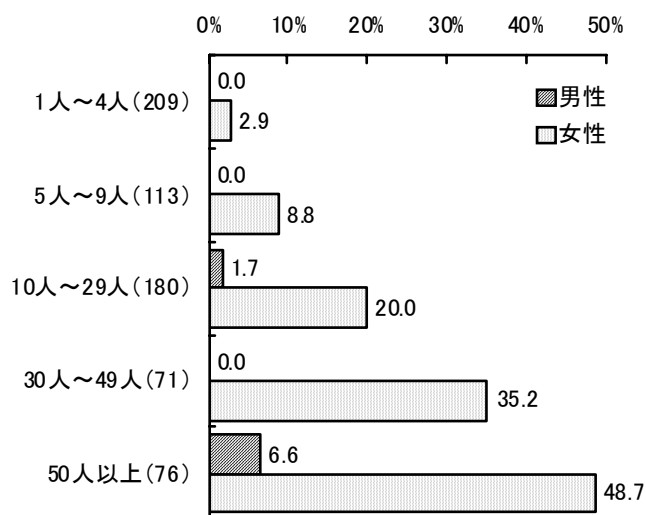
育児休業制度の実施について「あり」と回答した事業所に、育児休業の対象となる子どもの上限年齢をたずねた。

「1歳を超える」上限年齢を設定していると回答した事業所の割合は、1人～4人の事業所で2割台、5人～29人の事業所では1割以下、30人以上の事業所では1割台となっている。

③育児休業の取得状況

過去3年間に、育児休業を取得した従業員はいますか。(1つに○)

図表Ⅳ-19 育児休業を取得した従業員が「いる」割合



※:()は回答事業所数

図表Ⅳ-20 育児休業取得従業員数

	男性				女性			
	総回答者数	平均人数	最大人数	最小人数	総回答者数	平均人数	最大人数	最小人数
1人～4人	0事業所	－	－	－	6事業所	1.2人	2人	1人
5人～9人	0事業所	－	－	－	9事業所	1.4人	2人	1人
10人～29人	3事業所	1.0人	1人	1人	35事業所	1.5人	5人	1人
30人～49人	0事業所	－	－	－	24事業所	4.4人	60人	1人
50人以上	5事業所	1.8人	3人	1人	34事業所	8.7人	82人	1人

育児休業を取得した男性従業員がいる事業所はほとんどなく、10人～29人の事業所で1.7%、50人以上の事業所で6.6%となっている。

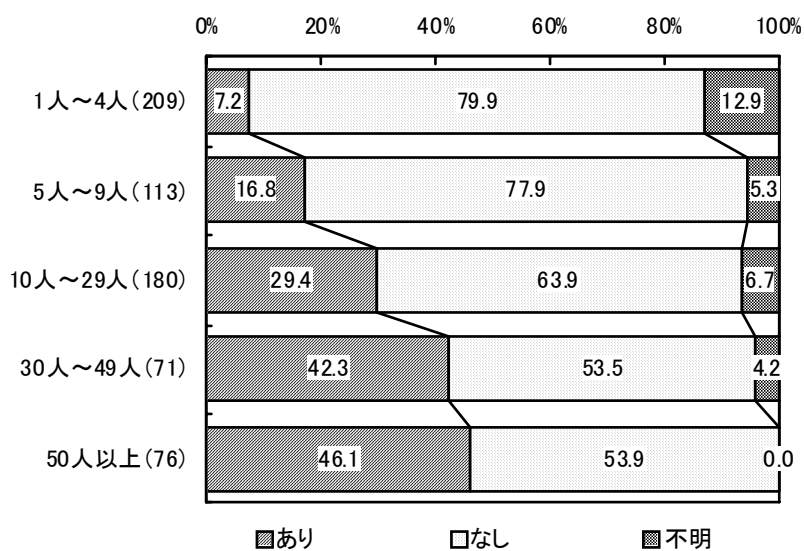
育児休業を取得した女性従業員がいる事業所は、従業員数が多くなるほど割合も高くなる。9人以下の事業所では1割以下、10人～29人の事業所では2割、30人～49人の事業所では3割台、50人以上の事業所では5割弱となっている。

(3) 看護休暇制度の実施状況と取得状況(問9～問9-3)

① 看護休暇制度の実施状況

子どもの看護休暇制度は取り入れていますか。(1つに○)

図表Ⅳ-21 看護休暇制度の実施状況(単数回答)



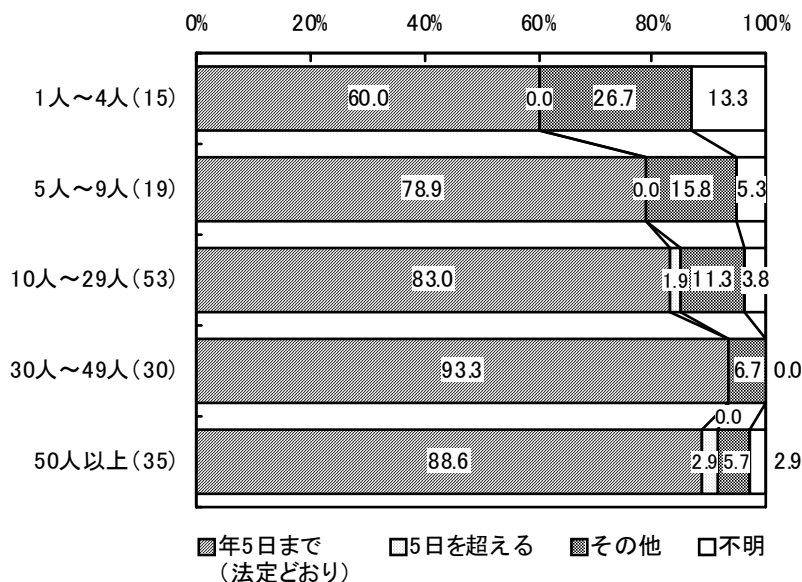
※:()は回答事業所数

看護休暇制度を取り入れているかどうかを事業所の従業員数別にみると、「あり」は1人～4人の事業所では1割以下、5人～9人の事業所では1割台となっている。10人～29人の事業所では約3割、30人以上の事業所においても4割台と、半数以下である。

②看護休暇の取得可能日数

看護休暇の取得可能日数は何日ですか。(1つに○)

図表IV-22 看護休暇の取得可能日数(単数回答)



※:()は回答事業所数

図表IV-23 「5日を超える」場合の取得可能日数

	総回答者数	平均日数
1人～4人	0事業所	-
5人～9人	0事業所	-
10人～29人	1事業所	90.0日
30人～49人	0事業所	-
50人以上	1事業所	180.0日

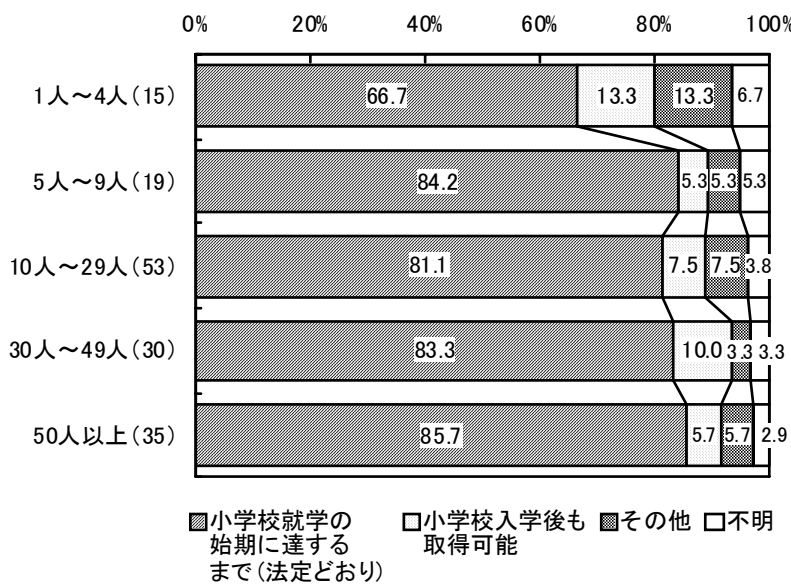
看護休暇制度の実施について「あり」と回答した事業所に、看護休暇の取得可能日数をたずねた。

「5日を超える」日数を設定していると回答した事業所はほとんどなく、10人～29人の事業所で1.9%、50人以上の事業所で2.9%となっている。「その他」では、「子どもが快復するまで」「状況に応じて」「仕事に支障をきたさない程度まで」などがあげられている。

③看護休暇の対象となる子どもの上限年齢

対象となる子どもの年齢は何歳までですか。(1つに○)

図表Ⅳ-24 看護休暇の対象となる子どもの上限年齢(単数回答)



※:()は回答事業所数

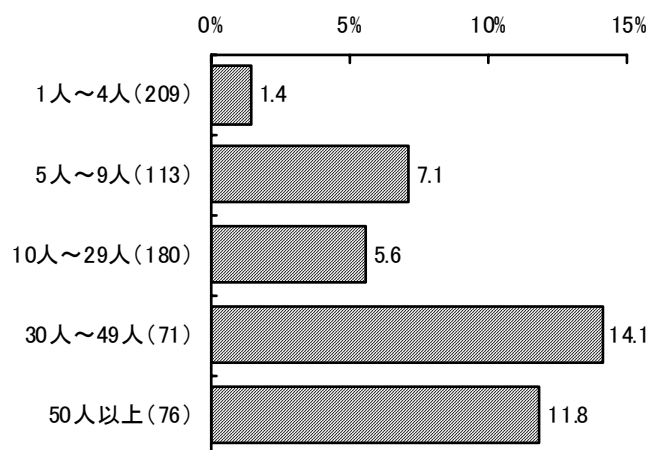
看護休暇制度の実施について「あり」と回答した事業所に、看護休暇の対象となる子どもの上限年齢をたずねた。

「小学校入学後も取得可能」と回答した事業所の割合は、1人～4人及び30人～49人の事業所で1割台、それ以外の規模の事業所では1割を下回っている。

④看護休暇の取得状況

過去 3 年間に、看護休暇を取得した従業員はいますか。(1つに○)

図表Ⅳ-25 看護休暇を取得した従業員が「いる」割合



※:()は回答事業所数

図表Ⅳ-26 看護休暇の取得従業員数

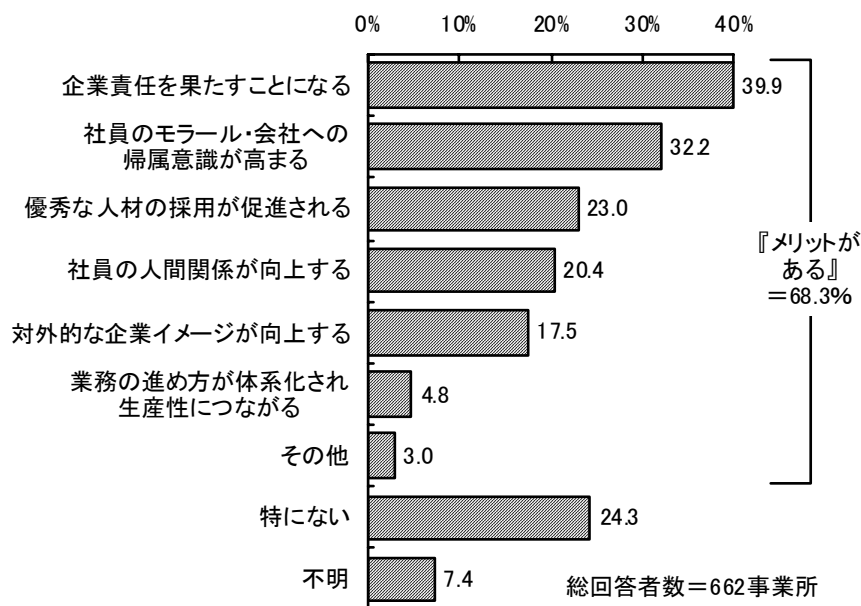
	総回答者数	平均人数	最大人数	最小人数
1人～4人	3事業所	1.7人	2人	1人
5人～9人	7事業所	1.3人	2人	1人
10人～29人	8事業所	1.6人	4人	1人
30人～49人	10事業所	1.4人	3人	1人
50人以上	8事業所	7.6人	31人	1人

看護休暇を取得した従業員がいる事業所は、29人以下の事業所では1割以下、30人以上の事業所では1割台となっている。

(4) 育児休業や看護休暇によるメリット(問10)

従業員が育児休業や看護休暇をとることで、貴事業所が得られると思うメリットは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ-27 育児休業や看護休暇によるメリット(複数回答)



育児休業や看護休暇による事業所側のメリットについて、「特にない」は24.3%であり、68.3%が『メリットがある』(100%から「特にない」と「不明」を除いた割合)と回答している。

具体的なメリットとしては、「企業責任を果たすことになる」「社員のモラル・会社への帰属意識が高まる」が3割台、「優秀な人材の採用が促進される」「社員の人間関係が向上する」が2割台からあげられている。

図表Ⅳ-28 育児休業や看護休暇によるメリット

		総回答者数(事業所)	企業責任を果たすことになる	社員のモラル・会社への帰属意識が高まる	優秀な人材の採用が促進される	社員の人間関係が向上する	対外的な企業イメージが向上する	業務の進め方が体系化され生産性につながる	その他	特にない	不明	『メリットがある』
全 体		662	39.9	32.2	23.0	20.4	17.5	4.8	3.0	24.3	7.4	68.3
事業所の従業員数別	1人～4人	209	25.4	21.1	17.2	19.1	12.9	3.3	2.9	35.4	13.4	51.2
	5人～9人	113	42.5	25.7	21.2	23.0	16.8	1.8	4.4	27.4	5.3	67.3
	10人～29人	180	47.8	39.4	24.4	22.2	17.2	6.7	2.8	21.7	3.9	74.4
	30人～49人	71	40.8	40.8	28.2	18.3	25.4	5.6	4.2	11.3	1.4	87.3
	50人以上	76	59.2	52.6	34.2	21.1	27.6	9.2	1.3	6.6	1.3	92.1

※:『メリットがある』=100%-「特にない」-「不明」

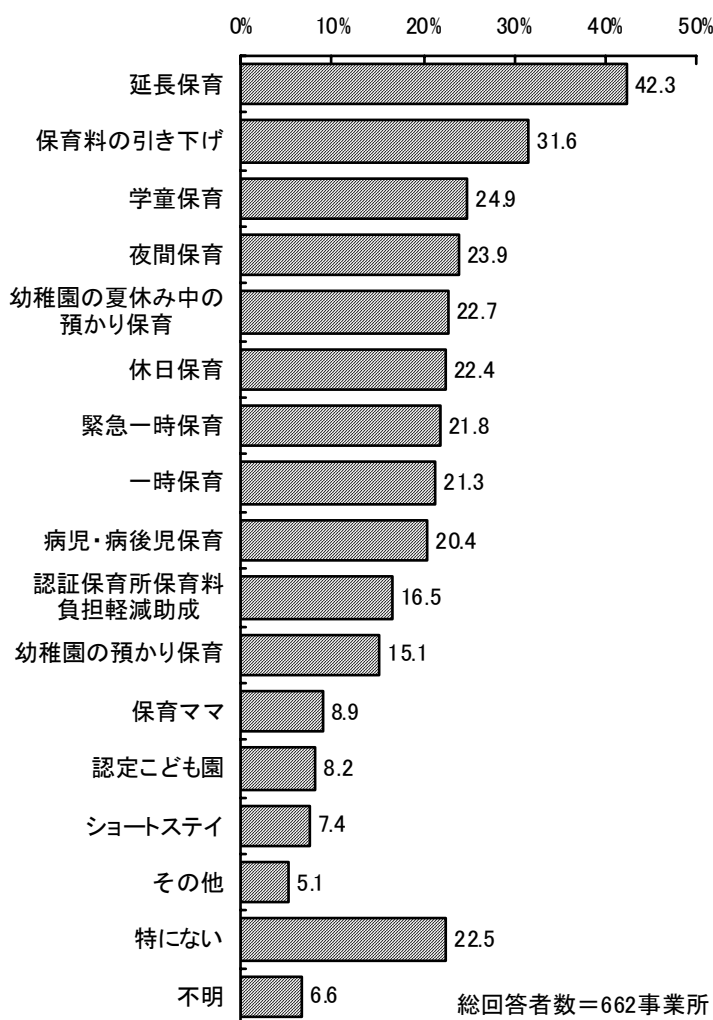
従業員数別にみると、『メリットがある』と回答した割合は従業員数が多くなるほど高く、1人～4人の事業所の5割強に対し、50人以上の事業所では9割を超える。

「企業責任を果たすことになる」は、5人～49人の事業所の4割台、50人以上の事業所では約6割があげている。また、「社員のモラル・会社への帰属意識が高まる」「優秀な人材の採用が促進される」「対外的な企業イメージが向上する」は、従業員数が多くなるほど割合も高くなっている。

(5) 拡充が必要と思う区の保育サービス等(問11)

現在、墨田区が行っている保育サービス等で拡充が必要だと思うものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ-29 拡充が必要と思う区の保育サービス等(複数回答)



墨田区で拡充が必要と思う保育サービスとしては、「延長保育」42.3%、「保育料の引き下げ」31.6%、「学童保育」24.9%、「夜間保育」23.9%、「幼稚園の夏休み中の預かり保育」22.7%が上位5位にあげられている。

図表Ⅳ-30 拡充が必要と思う区の保育サービス等

		総回答者数(事業所)	延長保育	保育料の引き下げ	学童保育	夜間保育	幼稚園の夏休み中の預かり保育	休日保育	緊急一時保育	一時保育	病児・病後児保育
全 体		662	42.3	31.6	24.9	23.9	22.7	22.4	21.8	21.3	20.4
事業所の従業員数別	1人～4人	209	39.2	28.7	26.8	21.1	21.1	20.1	23.4	23.4	19.6
	5人～9人	113	41.6	34.5	20.4	22.1	18.6	20.4	15.9	17.7	23.9
	10人～29人	180	35.6	28.9	22.8	21.1	20.6	22.8	21.7	15.6	17.2
	30人～49人	71	53.5	31.0	32.4	26.8	28.2	21.1	26.8	23.9	21.1
	50人以上	76	55.3	38.2	26.3	38.2	35.5	31.6	21.1	30.3	23.7

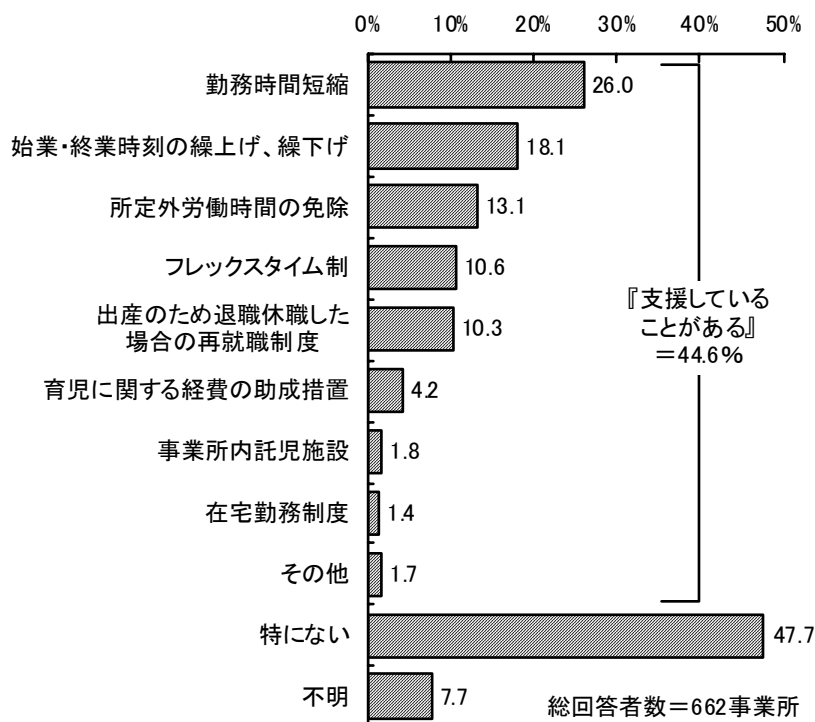
		総回答者数(事業所)	認定保育所保育料負担軽減助成	幼稚園の預かり保育	保育ママ	認定こども園	ショートステイ	その他	特にない	不明
全 体		662	16.5	15.1	8.9	8.2	7.4	5.1	22.5	6.6
事業所の従業員数別	1人～4人	209	17.2	16.7	10.5	10.5	13.4	3.8	22.0	10.0
	5人～9人	113	13.3	10.6	9.7	5.3	4.4	7.1	23.0	5.3
	10人～29人	180	16.7	12.8	3.9	6.7	2.2	7.2	23.9	4.4
	30人～49人	71	16.9	18.3	11.3	8.5	7.0	1.4	25.4	5.6
	50人以上	76	18.4	21.1	11.8	10.5	9.2	5.3	17.1	5.3

従業員数別にみると、いずれの規模の事業所においても「延長保育」の割合がもっとも高く、特に30人以上の事業所では5割台があげている。

(6)仕事と生活の両立のため取り組んでいる支援(問12)

貴事業所で仕事と生活の両立(ワーク・ライフ・バランス)支援のため、育児休業制度及び子どもの看護休暇制度以外に、取り組んでいるものを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ-31 仕事と生活の両立のため取り組んでいる支援(複数回答)



仕事と生活の両立(ワーク・ライフ・バランス)支援のために事業所が取り組んでいる支援をみると、「特にない」が47.7%を占め、『支援していることがある』(100%から「特にない」と「不明」を除いた割合)は44.6%と半数以下である。

具体的にみると、「勤務時間短縮」に取り組んでいる事業所が2割台、「始業・終業時刻の繰上げ、繰下げ」「所定外労働時間の免除」「フレックスタイム制」「出産のため退職休職した場合の再就職制度」が1割台となっている。

図表Ⅳ-32 仕事と生活の両立のため取り組んでいる支援

		総回答者数(事業所)	勤務時間短縮	始業・終業時刻の繰上げ、繰下げ	所定外労働時間の免除	フレックスタイム制	出産のため退職・休職した場合の再就職制度	育児に関する経費の助成措置	事業所内託児施設	在宅勤務制度	その他	特にない	『支援していることがある』
	全 体	662	26.0	18.1	13.1	10.6	10.3	4.2	1.8	1.4	1.7	47.7	44.6
事業所の従業員数別	1人～4人	209	15.3	11.5	4.3	5.7	6.2	4.3	1.4	1.9	1.0	59.8	26.3
	5人～9人	113	23.0	14.2	7.1	10.6	8.0	4.4	1.8	1.8	0.0	55.8	37.1
	10人～29人	180	29.4	21.1	16.1	12.2	14.4	1.7	0.6	1.7	1.1	42.2	54.5
	30人～49人	71	40.8	26.8	25.4	12.7	9.9	4.2	1.4	0.0	4.2	38.0	60.6
	50人以上	76	40.8	28.9	28.9	19.7	14.5	7.9	3.9	0.0	5.3	25.0	72.4

※:「不明」は掲載を省略

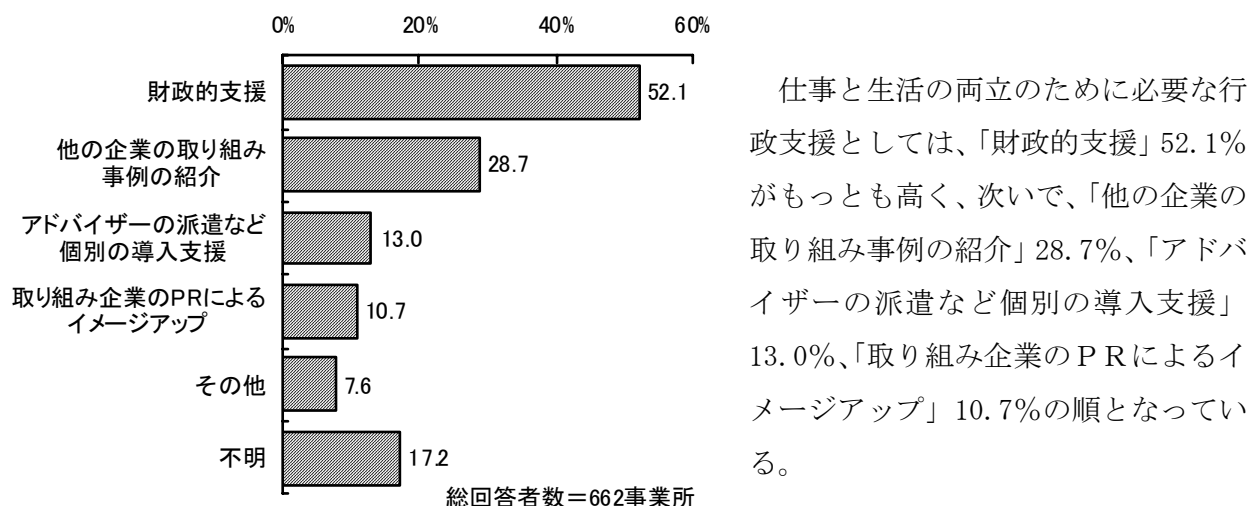
※:『支援していることがある』=100%-「特にない」-「不明」

従業員数別にみると、『支援していることがある』割合は従業員数が多くなるほど高く、1人～4人の事業所の2割台から、50人以上の事業所では7割台となっている。30人以上の事業所では、「勤務時間短縮」を約4割、「始業・終業時刻の繰上げ、繰り下げ」「所定外労働時間の免除」を2割台が取り組んでいると回答している。

(7)仕事と生活の両立のために必要な行政支援(問13)

仕事と生活の両立(ワーク・ライフ・バランス)に取り組むためには、行政からどのような支援があれば、よいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ-33 仕事と生活の両立のために必要な行政支援(複数回答)



図表Ⅳ-34 仕事と生活の両立のために必要な行政支援

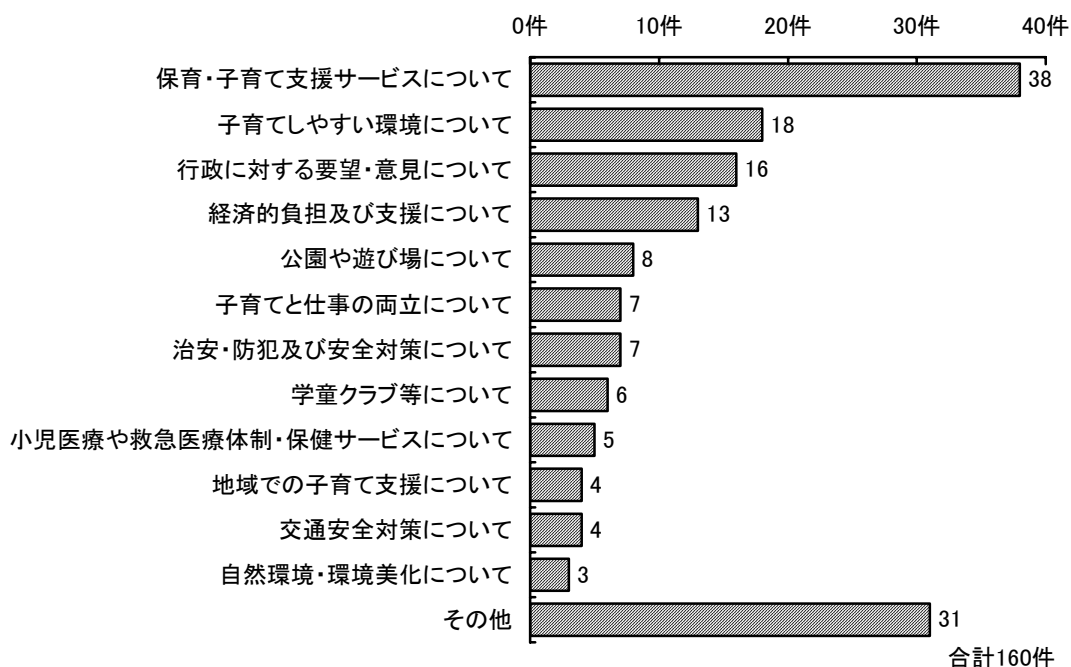
		総回答者数(事業所)	財政的支援	他の企業の取り組み事例の紹介	アドバイザーの派遣など個別の導入支援	取り組み企業のPRによるイメージアップ	その他	不明
全 体		662	52.1	28.7	13.0	10.7	7.6	17.2
事業所の従業員数別	1人～4人	209	53.6	22.0	11.0	9.1	5.7	22.0
	5人～9人	113	54.9	23.0	12.4	8.8	8.8	17.7
	10人～29人	180	48.9	30.0	13.3	12.2	8.9	14.4
	30人～49人	71	50.7	46.5	12.7	8.5	5.6	11.3
	50人以上	76	56.6	38.2	18.4	18.4	9.2	10.5

従業員数別にみると、いずれの規模の事業所においても「財政的支援」が要望の第1位となっている。

3. 自由意見

安心して子どもを生み育て、子どもが健やかに育つことができる墨田区となるために、墨田区に対してのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

図表Ⅳ-35 子育てに関する墨田区に対する要望・意見



以下は、事業所が記入した自由回答の抜粋である。

■保育・子育て支援サービスについて(38 件)

- 保育士の確保と環境の維持。
- 保育園の待機児童をなくすこと。
- 0歳児から入所できる保育所が少なく育児休暇が長くなっているので困っている。
- 待機児童が0に近づくよう質の良い保育園等の増設を希望する。親が安心して預けられる保育所があつてこそ安心して働くことが可能になると思う。
- 病児・病後児・障害児の一時預かりサービスなど、子どもがどんな状態でも預かるサービスでないとサービスにならないのではないかと思います。このようなサービスは民間では不可能なので行政が行うべきである。

■子育てしやすい環境について(18 件)

- 子どもがいたら自動的に保育所に入ることができ、負担の助成等も厚く、親の相談に乗るところがあればよいと思う。
- これからは子どもが何人いても夫婦で働ける制度が必要だと思う。
- 医療の充実、保育園の充実、福祉の充実をすれば安心して子どもを産み育てられ、良い墨田区になると思う。
- 子どもの育成も必要だが独身男女が多い。結婚できる環境作り、子どもを増やす、家族の子育て育成などの全般的な対策を行政が提案して欲しい。

■行政に対する要望・意見について(16 件)

- 地域住民の声を良く聞いて欲しい。
- 行政の対応が遅い。PR も不十分である。
- 他の区民が墨田区に住みたくなるような画期的な政策を望む。50 年先、100 年先を考えて税金を使ってもらいたい。

■経済的負担及び支援について(13 件)

- 子どもにかかる費用を軽減させるために助成金等を増やす。
- 出産費用を負担する。

■公園や遊び場について(8 件)

- 統廃合後の校舎跡を競技用施設や遊び場として開放してほしい。
- 子どもたちが安心して遊べる公園、緑地を増やしてほしい。

■子育てと仕事の両立について(7 件)

- 女性が再就職できるような制度の充実を図ることが必要だと思う。
- ワークライフバランスに取り組むためには、まず区民が安心して仕事と家庭の両立ができることが求められる。そのためには保育事業を充実させ、女性も安心して就業できる体制を作ると良いと思う。
- 雇い主側に負担がかかりすぎるので、税金等の免除が必要。

■治安・防犯及び安全対策について(7 件)

- 子どもが安心して遊ぶため、公園公衆トイレ等のパトロールを充実してほしい。
- 防犯カメラ等を設置してほしい。

■学童クラブ等について(6 件)

- 土曜も仕事がある親のために学童クラブ・保育園の充実が必要である。
- 障害児を持つ親が安心して働けるような援助を考えてほしい。
- 小学 4 年生の一学期まで、夏休みは参加できる、などのようにしてほしい。

■小児医療や救急医療体制・保健サービスについて(5 件)

- 緊急時に受け入れてくれる病院を確保してほしい。
- 出産後 1 年間、月 2 回程度、保育士又は保健師の家庭訪問があると良い。

■地域での子育て支援について(4 件)

- マンション住民が地域デビューできる仕掛け、定年になった男性の活躍、手作り地域新聞など隣近所の顔が見える助け合いの再構築。

■交通安全対策について(4 件)

- 学校で自転車講習をしてほしい。
- 子どもや歩行者の事故につながる放置自転車の取り締まりをしてほしい。

■自然環境・環境美化について(3 件)

- 他区に比べ緑が少ない。

■その他(31 件)

- 経済状況が変化している今、生産向上に向けられていた視線を内面に向ける良いチャンスだと思う。
- 若い人が定住できるような対策があるとよい。